

H24-B8-22

設置許可申請書案

記事

196. 56~197. 16cm
・割れ目が少なく、短柱状を呈する。

設置許可申請書
(平成27年11月)

195. 56~197. 16m
・割れ目が少なく、短柱状を呈する。

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

195. 56~197. 16m
・割れ目が少なく、短柱状を呈する。

委託報告書
(平成30年)

標 尺	標 高	深 度	柱 状	岩 色	硬 度	割 割 れれ 目目 のの 状状 態態	風 化 化 質	記 事	コア採取 位置 (一) 最大コア長 mm R Q D [%]
(m)	(m)	(m)	図	調	軟	状	化		
				灰		IIa	142	195.56~197.16m コアは崩壊で腐食である。断面は割れ目及び凹部露出している。	0
						IIa			(1)
						IIa	143	195.54m 幅70mmの貫通孔4箇所である。貫通孔を伸す。	(2)
				灰掘		Ca	144	197.16~198.54m 全体に黄色を帯びる。	(3)
						Ca			(11)
				掘灰		Ca	145	198.67~200.10m 縦に新鮮であるが、割れ目沿いに腐食している。	(12)
						IIa			(13)
						IIa	146	200.51~200.55m 経緯60°の放射状の腐食と剥離である。放射状の腐食である。	(14)
				黄灰		IIa			(15)
						IIa			(16)

審査資料
(平成30年11月30日)

195.56~197.16m
・割れ目が少なく、短柱状を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

142 195.56~197.16m
・割れ目が少なく、短柱状を呈する。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
142	変更なし	変更なし	・硬軟や割れ目の発達を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・割れ目の発達については、“コア形状”欄に基づき短柱状と記載。 ・硬軟については、岩級区分で示しているため追記せず。	変更なし
143	—	—	・変質粘土脈を記載。 ・鉱物の晶出を記載。	・粘土を挟在するが、幅狭く、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。 ・鉱物の晶出の記載については、補足的なものであるため追記せず。	—
144	—	—	・色調を記載。	・色調については、補足的なものであるため追記せず。	—
145	—	—	・割れ目の発達を記載。	・割れ目沿いの細片化しているが、掘削時の機械割れと判断して追記せず。	—
146	—	—	・変質粘土脈を記載。	・粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから追記せず。	—

H24-B8-22

[illegible]

記事	申請書案⇒ 申請書 (H27.11)	申請書 (H27.11)⇒ 審査資料 (H29.12.22)	審査資料 (H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
147	変更なし	変更なし	・割れ目の発達の程度を記載。	審査資料 (H29.12.22)と同様 ・割れ目の発達の程度については、“コア形状”欄に基づき短柱状と記載。	変更なし
148	—	—	・割れ目について記載(割れ目沿いの鉱物の晶出)。	・割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため追記せず。	—
149	変更なし	変更なし	・割れ目の発達の程度を記載。	審査資料 (H29.12.22)と同様 ・割れ目の発達の程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。	変更なし
150～155	—	—	・割れ目の発達の程度を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの細片化、細粒化、鉱物の晶出)。 ・硬軟を記載。 ・色調を記載。	・比較的硬質な区間であり、一部割れ目沿いに細片化するが、挟在物の連続性に乏しく周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。 ・色調については、補足的なものであるため追記せず。 ・硬軟については、岩級区分で示しているため追記せず。	—
156	変更なし	変更なし	・割れ目の発達の程度を記載。	審査資料 (H29.12.22)と同様 ・割れ目の発達の程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。	変更なし

H24-B8-22

設置許可申請書案

事記

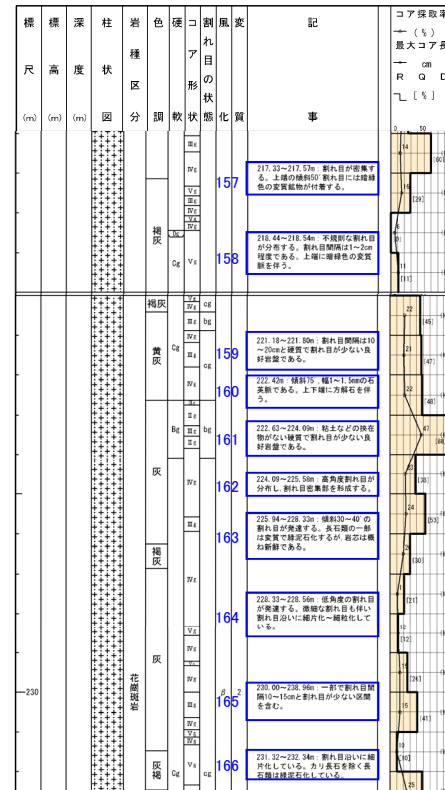
設置許可申請書
(平成27年11月)

事記

審査資料
(平成29年12月22日)

事 記

委託報告書
(平成30年)



審査資料
(平成30年11月30日)

事記

審査資料
(令和2年2月7日)

事記

164	228. 33~228. 56m ・割れ目が多く、短柱状～角礫状を呈する。	164	228. 33~228. 56m ・割れ目が多く、短柱状～角礫状を呈する。	164	228. 33~228. 56m ・割れ目が多く、短柱状～角礫状を呈する。
-----	--	-----	--	-----	--

164	228.33~228.56m ・割れ目が多く、短柱状～角礫状を呈する。	164	228.33~228.56m ・割れ目が多く、短柱状～角礫状を呈する。
-----	--	-----	--

記事	申請書案⇒ 申請書 (H27.11)	申請書 (H27.11) ⇒ 審査資料 (H29.12.22)	審査資料 (H29.12.22) ⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30) ⇒ 審査資料 (R2.2.7)
157～163	—	—	・割れ目の発達度を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの細片化、鉱物の晶出、変質脈)。 ・石英脈を記載。 ・硬軟を記載。 ・長石の変質を記載。	・割れ目の発達度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため追記せず。 ・鉱物脈、変質脈については、補足的なものであるため追記せず。 ・一部割れ目沿いで、細片化や変質脈の挟が見られるが、いずれも周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。 ・硬軟については、岩級区分で示しているため追記せず。 ・長石の変質については、補足的なものであるため追記せず。	—
164	変更なし	変更なし	・割れ目の発達度を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの細片化、細粒化)。	審査資料 (H29.12.22)と同様 ・割れ目の発達度については、“コア形状”欄に基づき短柱状～角礫状と記載。	変更なし
165	—	—	・割れ目の発達度を記載。	・割れ目の発達度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
166	—	—	・割れ目について記載(割れ目沿いの細片化)。 ・長石の緑泥石化を記載。	・割れ目の発達度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・長石の緑泥石化については、変質に関する補足的なものであるため追記せず。	—

H24-B8-22

設置許可申請書案

事 記

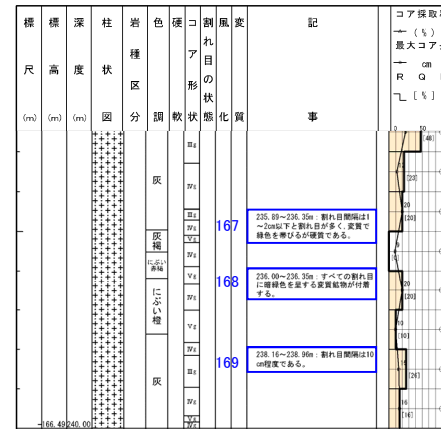
設置許可申請書
(平成27年11月)

事記

審査資料
(平成29年12月22日)

事 記

委託報告書
(平成30年)



審査資料
(平成30年11月30日)

事 記

審査資料
(令和2年2月7日)

事記

238. 16~238. 96m
・割れ目が少なく、柱状を呈する。

238. 16~238. 96mm
・割れ目が少なく、柱状を呈する。

169 238.16~238.96m
・割れ目が少なく、柱状を呈する。

169 238.16~238.96mm
・割れ目が少なく、柱状を呈する。

169 238.16~238.96m
・割れ目が少なく、柱状を呈する。

記事	申請書案⇒ 申請書 (H27.11)	申請書 (H27.11)⇒ 審査資料 (H29.12.22)	審査資料 (H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
167	—	—	・硬軟や割れ目の発達を記載。	・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
168	—	—	・割れ目について記載(割れ目沿いの変質鉱物付着)。	・割れ目沿いの鉱物晶出については、補足的なものであるため追記せず。	—
169	変更なし	変更なし	・割れ目の発達を記載。	審査資料 (H29.12.22)と同様 ・割れ目の発達については、“コア形状”欄に基づき柱状と記載。	変更なし

H20-①-9

余白

委託報告書
(平成20年)

標	標	深	柱	岩	色	硬	割	風	記
尺	高	度	状	種	区	コ	ア	目	事
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	態	化
29.12	0.35	0.35	腐植土	黒粘	土				1
29.65	1.00	1.00	腐植土	黒粘	土				2
			腐植土	黒粘	土				3
			腐植土	黒粘	土				4

設置許可申請書案

記	事
1	0.00～0.35m ・腐植土である。
2	0.35～1.00m ・腐植質砂である。
3	1.00～5.74m ・礫混じりシルト質砂である。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記	事
1	0.00～0.35m ・腐植土である。
2	0.35～1.00m ・腐植質砂である。
3	1.00～5.74m ・礫混じりシルト質砂である。

審査資料
(平成29年12月22日)

記	事
1	0.00～0.35m ・有機質土である。
2	0.35～1.00m ・腐植質砂である。
3	1.00～5.74m ・礫混じりシルト質砂である。

審査資料
(平成30年11月30日)

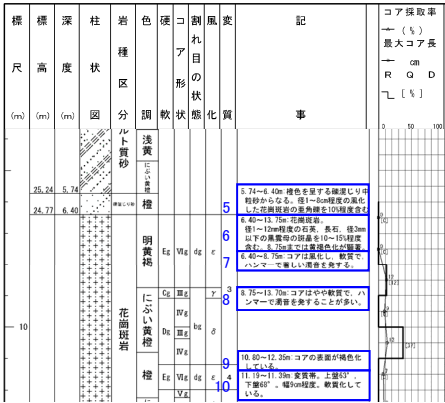
記	事
1	0.00～0.35m ・有機質土である。
2	0.35～1.00m ・腐植質砂である。
3	1.00～5.74m ・礫混じりシルト質砂である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記	事
1	0.00～0.35m ・有機質土である。
2	0.35～1.00m ・腐植質砂である。
3	1.00～5.74m ・礫混じりシルト質砂である。

記事	報告書⇒申請書案	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
1	・柱状図に合わせて腐植土と記載。	変更なし	・表現の見直し(腐植土⇒有機質土)。	変更なし	変更なし
2	・柱状図に合わせて腐植質砂と記載。 ・礫については、区間を構成する主体的な粒子ではないため削除。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
3, 4	・柱状図に合わせて礫混じりシルト質砂と記載。 ・シルトの含有量及び礫については、区間を構成する主体的な粒子ではないため削除。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書案

記事
5 5.74～6.40m ・礫混じり砂である。
6 6.40～13.75m ・花崗斑岩である。
7 6.40～8.75m ・強風化しており、軟質である。 ・土砂状を呈する。
10 11.19～11.39m ・変質し、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は63°、下端境界の傾斜は68°である。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事
5 5.74～6.40m ・礫混じり砂である。
6 6.40～13.75m ・花崗斑岩である。
7 6.40～8.75m ・強風化しており、軟質である。 ・土砂状を呈する。
10 11.19～11.39m ・変質し、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は63°、下端境界の傾斜は68°である。

審査資料
(平成29年12月22日)

記事
5 5.74～6.40m ・礫混じり砂である。
6 6.40～13.75m ・花崗斑岩である。
7 6.40～8.75m ・強風化しており、軟質である。 ・土砂状を呈する。
●11.19～11.73m(D-4破砕帯) ・破砕部である。 ・橙色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN21° E70° Wである。

審査資料
(平成30年11月30日)

記事
5 5.74～6.40m ・礫混じり砂である。
6 6.40～13.75m ・花崗斑岩である。
7 6.40～8.75m ・強風化しており、軟質である。 ・土砂状を呈する。
●11.19～11.73m(D-4破砕帯) ・破砕部である。 ・橙色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN21° E70° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記事
5 5.74～6.40m ・礫混じり砂である。
6 6.40～13.75m ・花崗斑岩である。
7 6.40～8.75m ・強風化しており、軟質である。 ・土砂状を呈する。
●11.19～11.73m(D-4破砕帯) ・破砕部である。 ・橙色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN21° E70° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。

記事	報告書⇒申請書案	申請書案⇒申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒審査資料(R2.2.7)
5	・柱状図に合わせて礫混じり砂と記載。 ・礫については、区間を構成する主体的な粒子ではないため削除。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
6	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
7	・“コア形状”欄に基づき土砂状と記載。 ・ハンマー打診による硬軟については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
8	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—	—
9	・色調については、補足的なものであるため削除。	—	—	—	—
10	・幅の記載については、区間長を記載しているため削除。	変更なし	・再観察により破砕部と認定。破砕部への見直しの詳細については別途説明(補足説明資料4 補足4-21頁)。 ・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。	・カタクレーサイト中に挟在するフィルム状の細粒物質のうち、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟在するもの(断層ガウジ)として扱い、フィルム状の粘土を追記。	変更なし

委託報告書
(平成20年)

標	深	柱	色	硬	割	変	記	コア採取率
尺	高度	状	種	軟	れ	質		最大コア長
(m)	(m)	図	分	調	形状	化	事	コ
								10
								11
								12
								13
								14
								15
								16
								17
								18
								19
								20
								21

19.48, 13.70

19.50, 14.37

19.50, 14.37

16.62, 17.70

13.70-15.30m 節理に沿って褐色色を呈することが多い。

15.30-16.00m 節理のミランガが发育する。

15.70-16.48m コアは硬質～やや硬質の褐色色を呈する。表面の粗粒は3-5mm程度。上位の節理面には0.5-1.0mm程度の粗粒が認められる。

16.48-17.43m 節理に沿って褐色色を呈する。表面の粗粒は3-5mm程度。上位の粗粒とほぼ同等の粗粒が認められる。

17.43-18.00m コアは硬質～やや硬質の褐色色を呈する。表面の粗粒は3-5mm程度。上位の粗粒とほぼ同等の粗粒が認められる。

18.00-18.70m 変質帯。上部約10cm程度は硬質で、粗粒は5mm程度。下部は軟質の粗粒が发育している。

17.70-18.70m 変質帯。上部約10cm程度は硬質で、粗粒は5mm程度。下部は軟質の粗粒が发育している。

18.70-19.50m 変質帯。上部約10cm程度は硬質で、粗粒は5mm程度。下部は軟質の粗粒が发育している。

19.50-20.00m 変質帯。上部約10cm程度は硬質で、粗粒は5mm程度。下部は軟質の粗粒が发育している。

20.00-20.50m 変質帯。上部約10cm程度は硬質で、粗粒は5mm程度。下部は軟質の粗粒が发育している。

20.50-21.00m 変質帯。上部約10cm程度は硬質で、粗粒は5mm程度。下部は軟質の粗粒が发育している。

21.00-21.50m 変質帯。上部約10cm程度は硬質で、粗粒は5mm程度。下部は軟質の粗粒が发育している。

設置許可申請書案

記 事	
13	13. 70~14. 91m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片→短柱状を思わせる。
14	13. 76~17. 73m ・アラナイトである。 ・上端境界に、幅10~15mm程度の石英脈を挟む。
15	14. 37~14. 95m ・石英斑岩である。 ・上端境界に、幅5~8mm程度の石英脈を挟む。
A	14. 56~17. 73m アラナイトである。
18	17. 73~34. 60m ・花崗岩である。
21	・上端境界は漸移的である。
18	18. 71~18. 71m ・変質している。
19	・灰色色の粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は60°。下端境界の傾斜は54°である。
20	20. 44~20. 71m ・変質している。
20	・灰色色で、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は23°。下端境界の傾斜は64°である。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

13. 70~14. 91m
硬質であるが、割れ目が多く、岩片→煙状
状を呈する。

14. 75~17. 73m
アブライトである。
上端境界線に、朝10~15mm程度の石英脈を挟む

15. 14. 37~14. 55m
花崗岩である。
上端境界線に、朝5~8mm程度の石英脈を挟む

16. 14. 55~17. 73m
アブライトである。

17. 73~34. 60m
花崗岩である。
上端境界線は漸移的である。

18. 17~18. 71m
変質している。
灰黄色の粘土が眼目状に分布する。
上端境界線の傾斜は60°、下端境界線の傾斜は
54°である。

20. 24~20. 71m
変質している。
灰黄色の粘土が軟化している。
上端境界線の傾斜は29°、下端境界線の傾斜は
64°である。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

13. 70~14. 91m
 3 ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片→短
 柱を呈する。
 13. 75~17. 73m
 4 ・アラバイトである。
 ・上端境界に、幅10~15mm程度の石英英灰を挟
 む。
 14. 37~14. 55m
 5 ・花崗閃斑である。
 14. 55~17. 73m
 6 ・幅3~5mm程度の石英英灰を挟む。
 15. 99~17. 73m
 7 ・アラバイトである。
 8. 77~34. 60m
 9 ・花崗閃斑である。
 18. 71~18. 77m
 ・変質している。
 ・反変色の斑上が綱目状に分布する。
 20. 44~20. 71m
 19 ・変質している。
 0 ・反変色を呈し、軟質化している。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事

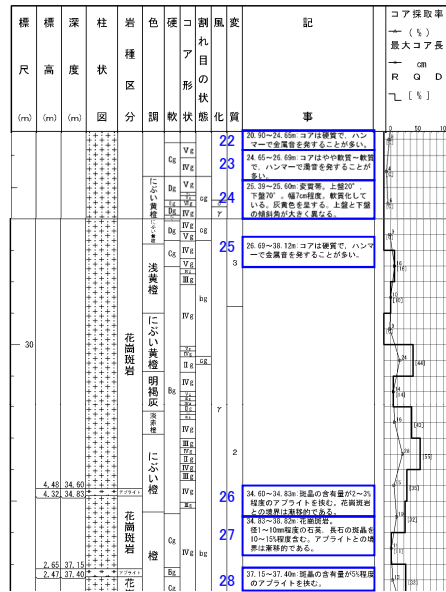
3. 73.70~14.91m
・硬質であるが、割れ目が多く、岩片・短柱を呈する。
4. 73.75~17.73m
・アラバイトである。
・土壌境界に、幅10~15mm程度の石英脈を挟む。
5. 14.37~14.55m
・花崗斑岩である。
6. 土壌境界に、幅5~8mm程度の石英脈を挟む。
7. 14.55~17.73m
・アラバイトである。
8. 77.73~84.60m
・花崗斑岩である。
9. 78.71~18.77m
・変質している。
・灰黄色の粘土が網目状に分布する。
10. 20.44~20.77m
・変質している。
・灰黄色を呈し、軟質化している。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事	
13	13. 70~14. 91m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。
14	13. 75~17. 73m ・アブライトである。 ・土壌境界に、幅10～15mm程度の石英脈を挟む。
15	14. 37~14. 55m ・花崗斑岩である。 ・土壌境界に、幅5～8mm程度の石英脈を挟む。
A	14. 55~17. 73m アブライトである。
18	17. 73~34. 60m ・花崗斑岩である。
21	18. 71~18. 77m ・炭質している。 ・灰黄色の粘土が網目状に分布する。
20	20. 44~20. 71m ・炭質している。 ・灰黄色を呈し、軟質化している。

記事	報告書⇒申請書案	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
11	・色調については、補足的なものであるため削除。	—	—	—	—
12	・マンガンについては、補足的なものであるため削除。	—	—	—	—
13	・13.70～16.49m区間は全体に硬質であるが、その中で特に硬質な13.70～14.91m区間について記載。 ・“コア形状”欄に基づき割れ目の発達度を記載。 ・ハンマー打診による硬軟については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
14	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
15	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
A	・柱状図に合わせてアブライと記載。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
16	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—	—
17	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-196頁)。	—	—	—	—
18, 21	・柱状図に合わせて花崗斑岩と記載。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
19	・幅の記載については、区間長を記載しているため削除。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
20	・幅の記載については、区間長を記載しているため削除。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書案

記 事
22 20.90~24.65m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 ・変質している。 ・灰黄色を呈し、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は70°である。
24 25.39~25.60m ・変質している。 ・灰黄色を呈し、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は70°である。
25 27.52~35.40m ・硬質である。 ・割れ目が少なく、主として柱状を呈する。
26 34.60~34.83m ・アブライトである。 ・上端境界は漸移的である。
27 34.83~37.15m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。
28 37.15~37.40m ・アブライトである。 ・上端境界は漸移的である。
29 37.40~38.82m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事
22 20.90~24.65m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 ・変質している。 ・灰黄色を呈し、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は70°である。
24 25.39~25.60m ・変質している。 ・灰黄色を呈し、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は70°である。
25 27.52~35.40m ・硬質である。 ・割れ目が少なく、主として柱状を呈する。
26 34.60~34.83m ・アブライトである。 ・上端境界は漸移的である。
27 34.83~37.15m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。
28 37.15~37.40m ・アブライトである。 ・上端境界は漸移的である。
29 37.40~38.82m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
22 20.90~24.65m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 ・変質している。 ・灰黄色を呈し、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は70°である。
24 25.39~25.60m ・変質している。 ・灰黄色を呈し、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は70°である。
25 27.52~35.40m ・硬質である。 ・割れ目が少なく、主として柱状を呈する。
26 34.60~34.83m ・アブライトである。 ・上端境界は漸移的である。
27 34.83~37.15m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。
28 37.15~37.40m ・アブライトである。 ・上端境界は漸移的である。
29 37.40~38.82m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。

審査資料
(平成30年11月30日)

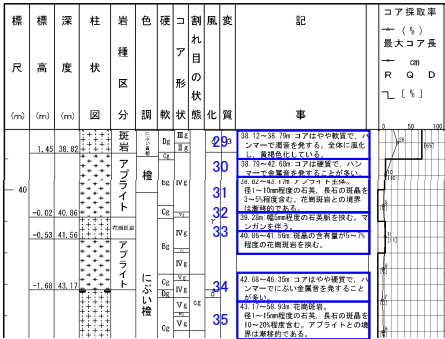
記 事
22 20.90~24.65m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 ・変質している。 ・灰黄色を呈し、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は70°である。
24 25.39~25.60m ・変質している。 ・灰黄色を呈し、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は70°である。
25 27.52~35.40m ・硬質である。 ・割れ目が少なく、主として柱状を呈する。
26 34.60~34.83m ・アブライトである。 ・上端境界は漸移的である。
27 34.83~37.15m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。
28 37.15~37.40m ・アブライトである。 ・上端境界は漸移的である。
29 37.40~38.82m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
22 20.90~24.65m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 ・変質している。 ・灰黄色を呈し、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は70°である。
24 25.39~25.60m ・変質している。 ・灰黄色を呈し、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は70°である。
25 27.52~35.40m ・硬質である。 ・割れ目が少なく、主として柱状を呈する。
26 34.60~34.83m ・アブライトである。 ・上端境界は漸移的である。
27 34.83~37.15m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。
28 37.15~37.40m ・アブライトである。 ・上端境界は漸移的である。
29 37.40~38.82m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。

記事	報告書⇒申請書案	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
22	・“コア形状”欄に基づき割れ目の発達程度を記載。 ・ハンマー打診による硬軟については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
23	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—	—
24	・幅の記載については、区間長を記載していることから削除。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
25	・Cm'級及びCh'級の良好な岩盤からなる区間のうち、特に硬質な区間について記載。 ・ハンマー打診による硬軟については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
B	・RQDのピークを伴うCh'級区間について、“コア形状”欄に基づき割れ目の発達程度を記載。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
26	・柱状図に合わせてアブライトと記載。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
27	・柱状図に合わせてアブライトを挟在する花崗斑岩とその深度区間を分割して記載。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
28	・柱状図に合わせてアブライトと記載。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・上端境界の明瞭さについては、記事No.27に基づき記載。	変更なし	・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書案

記事
31 38. 82～40. 86m ・アブライトである。 ・上端境界は漸移的である。
30 39. 02～42. 68m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。
33 40. 86～41. 56m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。
31 41. 56～43. 17m ・アブライトである。 ・上端境界は漸移的である。
35 43. 17～58. 93m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事
31 38. 82～40. 86m ・アブライトである。 ・上端境界は漸移的である。
30 39. 02～42. 68m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。
33 40. 86～41. 56m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。
31 41. 56～43. 17m ・アブライトである。 ・上端境界は漸移的である。
35 43. 17～58. 93m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。

審査資料
(平成29年12月22日)

記事
31 38. 82～40. 86m ・アブライトである。
30 39. 02～42. 68m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。
33 40. 86～41. 56m ・花崗斑岩である。
31 41. 56～43. 17m ・アブライトである。
35 43. 17～58. 93m ・花崗斑岩である。

審査資料
(平成30年11月30日)

記事
31 38. 82～40. 86m ・アブライトである。
30 39. 02～42. 68m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。
33 40. 86～41. 56m ・花崗斑岩である。
31 41. 56～43. 17m ・アブライトである。
35 43. 17～58. 93m ・花崗斑岩である。

審査資料
(令和2年2月7日)

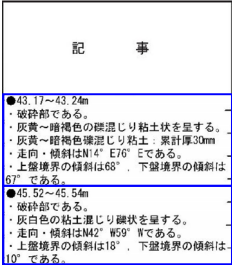
記事
31 38. 82～40. 86m ・アブライトである。
30 39. 02～42. 68m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。
33 40. 86～41. 56m ・花崗斑岩である。
31 41. 56～43. 17m ・アブライトである。
35 43. 17～58. 93m ・花崗斑岩である。

記事	報告書⇒申請書案	申請書案⇒申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒審査資料(R2.2.7)
29	・硬軟や割れ目の発達については、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—	—
30	・Cm' 級の良好な岩盤からなる区間のうち、特に硬質な区間について記載。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
31	・柱状図に合わせてアブライトと記載。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
32	・石英脈及びマンガンについては、補足的なものであるため削除。	—	—	—	—
33	・柱状図に合わせて花崗斑岩と記載。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
34	・当該区間中には破砕帯を複数含み、破砕帯区間とその他の区間で硬軟が異なるためまとめ書きを削除。	—	—	—	—
35	・柱状図に合わせて花崗斑岩と記載。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

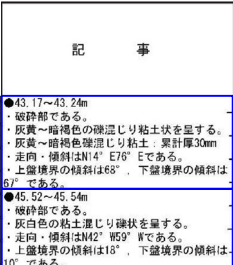
委託報告書
(平成20年)



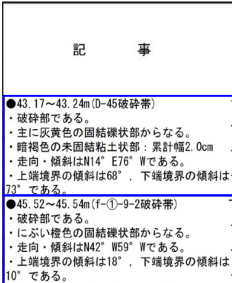
設置許可申請書案



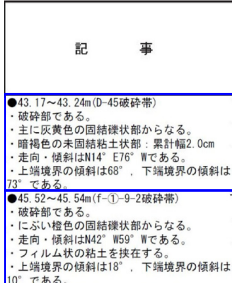
設置許可申請書
(平成27年11月)



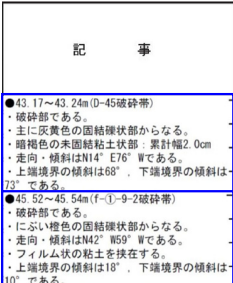
審査資料
(平成29年12月22日)



審査資料
(平成30年11月30日)

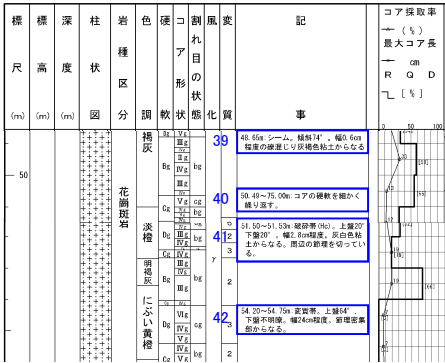


審査資料
(令和2年2月7日)

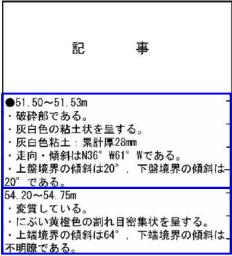


記事	報告書⇒申請書案	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R22.7)
36	・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。	変更なし	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・上記再観察による下端境界の見かけの傾斜の見直しを反映。 ・誤記修正 (N14° E76° E→N14° E76° W)。	変更なし	変更なし
37	・性状について、報告書では破砕区分の記号で示していたが、観察による粒度を示すこととし、粘土混じり礫状と記載。 ・にぶい橙色と書くべきところを誤って灰白色と記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・幅の記載については、区間長を記載しているため削除。 ・原岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・“周辺の節理を切っている”との記載については、補足的なものであるため削除。	変更なし	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。	・カタクレーサイト中に挟在するフィルム状の細粒物質のうち、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟在するもの(断層ガウジ)として扱い、フィルム状の粘土を追記。	変更なし
38	・まとめ書きの記載は削除。	—	—	—	—

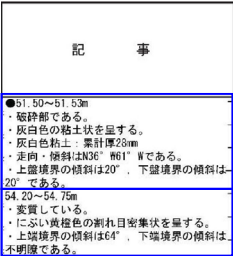
委託報告書
(平成20年)



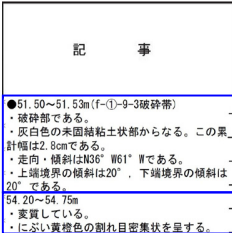
設置許可申請書案



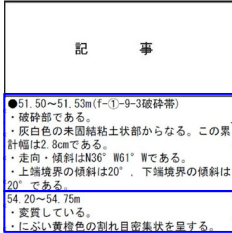
設置許可申請書
(平成27年11月)



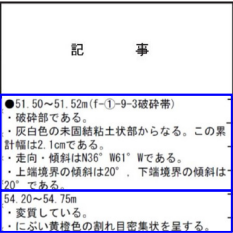
審査資料
(平成29年12月22日)



審査資料
(平成30年11月30日)



審査資料
(令和2年2月7日)



記事	報告書⇒申請書案	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
39	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-197頁)。	—	—	—	—
40	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—	—
41	・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・“周辺の節理を切っている”との記載については、補足的なものであるため削除。	変更なし	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。	変更なし	・誤記修正(51.53m⇒51.52m、2.8cm⇒2.1cm、審査会合(R1.10.11)にて説明済み)。
42	・幅の記載については、区間長を記載していることから削除。 ・“色調”欄に基づきにぶい黄橙と記載。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)

[illegible]

設置許可申請書案

記 事

56. 43~56. 68m
・寛置している。
・灰白色粘土が網目状に分布する。
・上境界の傾斜は20°、下境界の傾斜は24°である。

56. 93~59. 25m
・ベグマタイトである。

59. 25~60. 20
・アブライトである。

60. 20~75. 00m
・花崗斑岩である。
・上境界は漸移的である。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

- 56. 43~56. 68m
- ・ 寛置している。
- ・ 灰白色粘土が網目状に分布する。
- ・ 上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は24°である。
- 58. 93~59. 25m
- ・ ベグマタイトである。
- 59. 25~60. 20
- ・ アブライトである。
- 60. 20~75. 00m
- ・ 花崗斑岩である。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事	
43	56.43~56.68m ・賣買している。 ・反白島根本が綱目状に分布する。
44	58.93~59.25m ・ベグマタイトである。
45	59.25~60.20m ・アブライトである。
47	60.20~75.00m ・花崗所産である。

審査資料
(平成30年11月30日)

	記 事
43	56.43~56.60m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
44	58.93~59.25m ・ペグマタイトである。
45	59.25~60.20m ・アブライトである。
47	60.20~75.00m ・花崗斑岩である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事	
43	56. 43~56. 68m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
44	58. 93~59. 25m ・ベグマタイトである。
45	59. 25~60. 20m ・アブライトである。
47	60. 20~75. 00m ・花崗斑岩である。

記事	報告書⇒申請書案	申請書案⇒ 申請書 (H27.11)	申請書 (H27.11)⇒ 審査資料 (H29.12.22)	審査資料 (H29.12.22)⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
43	・幅の記載については、区間長を記載していることから削除。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
44	・柱状図に合わせてペグマタイトと記載。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
45	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
46	・シルト状を呈するが、連続性に乏しく、周辺の岩盤に劣化が認められないことから削除。	－	－	－	－
47	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

H20-①-9

委託報告書
(平成20年)

[illegible]

設置許可申請書案

記 事	
52. 01—62. 25m	・ 灰白色の粘土が網目状に分布する。 ・ 上境界の傾斜は55°、下境界の傾斜は30°である。
65. 69—66. 11m	・ 灰白色の粘土が網目状に分布する。 ・ 上境界の傾斜は55°、下境界の傾斜は30°である。
66. 55—66. 68m	・ 灰白色の粘土が網目状に分布する。 ・ 上境界の傾斜は33°、下境界の傾斜は30°である。
67. 68—67. 76m	・ 灰白色の粘土が網目状に分布する。 ・ 上境界の傾斜は77°、下境界の傾斜は75°である。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事	
62. 01 ~ 62. 75m	
・変質している。	
・灰白色の粘土が網目状に分布する。	
・上層境界の傾斜は25°、下層境界の傾斜は30°である。	
65. 69 ~ 66. 11m	
・変質している。	
・灰白色の粘土が網目状に分布する。	
・上層境界の傾斜は67°、下層境界の傾斜は80°である。	
66. 55 ~ 66. 68m	
・変質している。	
・灰白色粘土が網目状に分布する。	
・上層境界の傾斜は23°、下層境界の傾斜は30°である。	
67. 68 ~ 67. 76m	
・変質している。	
・微細な割れ目が分布する。	
・上層境界の傾斜は77°、下層境界の傾斜は75°である。	

審査資料
(平成29年12月22日)

	記 事
48	62.01~62.25m ・変質している。 ・灰色の粘土が網目状に分布する。
49	65.69~66.11m ・変質している。 ・灰色の粘土が網目状に分布している。
50	66.55~66.88m ・変質している。 ・灰色粘土が網目状に分布する。
51	67.68~67.76m ・変質している。 ・密着した裂れ目が見分ちる。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事	
62. 01 ~ 62. 25m	変質している。
63. 灰白色の粘土が網目状に分布する。	
64. 55 ~ 66. 11m	変質している。
65. 灰白色の粘土が網目状に分布している。	
66. 55 ~ 68. 03m	変質している。
67. 灰白色粘土が網目状に分布する。	
68. 67 ~ 68. 76m	変質している。
69. 微細な割れ目が分布する。	

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事	
48	62. 01 ~62. 25m ・変質している。 ・灰白色の粘土が網目状に分布する。
49	65. 89 ~66. 11m ・変質している。 ・灰白色の粘土が網目状に分布している。
50	66. 55 ~66. 68m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
51	67. 68 ~67. 76m ・変質している。 ・微細な割れ目が分布する。

記事	報告書⇒申請書案	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
48	・幅の記載については、区間長を記載していることから削除。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
49	・幅の記載については、区間長を記載していることから削除。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
50	・幅の記載については、区間長を記載していることから削除。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
51	・幅の記載については、区間長を記載していることから削除。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
52	・マンガンについては、補足的なものであるため削除。	－	－	－	－

委託報告書
(平成20年)

標 尺	標 高 度	深 度	柱 状	岩 種	色	硬 さ	割 ア イ 目	風 化 状 態	記 事	コア採取率 → (%)	最大コア長 → cm	R Q D	↓ [%]
(m)	(m)	(m)	円	分	調	軟	状	態	質	2	10	100	
									53				
									54				

設置許可申請書案

記 事
71.43～71.58m ・変質している。 ・明黄褐色を呈し、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は6°、下端境界の傾斜は7°である。
72.58～72.80m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は56°、下端境界の傾斜は38°である。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事
71.43～71.58m ・変質している。 ・明黄褐色を呈し、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は6°、下端境界の傾斜は7°である。
72.58～72.80m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は56°、下端境界の傾斜は38°である。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
●71.43～71.48m(f-4-5破砕帯) ・破砕部である。 ・明黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN80° W69° Nである。 ・走向・傾斜はN80° W69° Nである。 ・下端境界の傾斜は72°である。
72.58～72.80m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事
●71.43～71.48m(f-4-5破砕帯) ・破砕部である。 ・明黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN80° W69° Nである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・下端境界の傾斜は72°である。
72.58～72.80m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
●71.43～71.48m(f-4-5破砕帯) ・破砕部である。 ・明黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN80° W69° Nである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・下端境界の傾斜は72°である。
72.58～72.80m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。

記事	報告書⇒申請書案	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
53	・幅の記載については、区間長を記載していることから削除。 ・“上盤と下盤の走向傾斜が大きく異なる”との記載については、補足的なものであるため削除。	変更なし	・再観察により破砕部と認定。破砕部への見直しの詳細については別途説明(補足説明資料4 補足4-22頁)。 ・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。	・カタクレーサイト中に挟在するフィルム状の細粒物質のうち、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟在するもの(断層ガウジ)として扱い、フィルム状の粘土を追記。	変更なし
54	・幅の記載については、区間長を記載していることから削除。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)

標 尺	標 高 度	深 状	柱 種 区	色 調	硬 コ ア	割 れ 目 の 形	風 化 状 態	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]
(m)	(m)	(m)	固	明 褐 灰	β	細 粒 状	3	73.39～73.62m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は17°である。	3 10 100
-24.58	75.00			灰 白	β	細 粒 状	4	73.91～74.25m(破砕帯) ・破砕部である。 ・暗褐色の粘土状～灰白色の粘土混じり礫状を呈する。 ・暗灰色粘土：累計厚29mm ・走向・傾斜はN9° W64° Wである。 ・上盤境界の傾斜は3°、下盤境界の傾斜は70°である。	40

設置許可申請書案

記 事
73.39～73.62m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は17°である。
73.91～74.25m(破砕帯) ・破砕部である。 ・暗褐色の粘土状～灰白色の粘土混じり礫状を呈する。 ・暗灰色粘土：累計厚29mm ・走向・傾斜はN9° W64° Wである。 ・上盤境界の傾斜は3°、下盤境界の傾斜は70°である。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事
73.39～73.62m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は17°である。
73.91～74.25m(破砕帯) ・破砕部である。 ・暗褐色の粘土状～灰白色の粘土混じり礫状を呈する。 ・暗灰色粘土：累計厚29mm ・走向・傾斜はN9° W64° Wである。 ・上盤境界の傾斜は3°、下盤境界の傾斜は70°である。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
73.39～73.62m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
73.91～74.25m(破砕帯) ・破砕部である。 ・主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計厚0.5cm ・走向・傾斜はN9° W64° Wである。 ・上端境界の傾斜は3°、下端境界の傾斜は69°である。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事
73.39～73.62m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
73.91～74.25m(破砕帯) ・破砕部である。 ・主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計厚0.5cm ・走向・傾斜はN9° W64° Wである。 ・上端境界の傾斜は3°、下端境界の傾斜は69°である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
73.39～73.62m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
73.91～74.25m(破砕帯) ・破砕部である。 ・主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計厚0.5cm ・走向・傾斜はN9° W64° Wである。 ・上端境界の傾斜は3°、下端境界の傾斜は69°である。

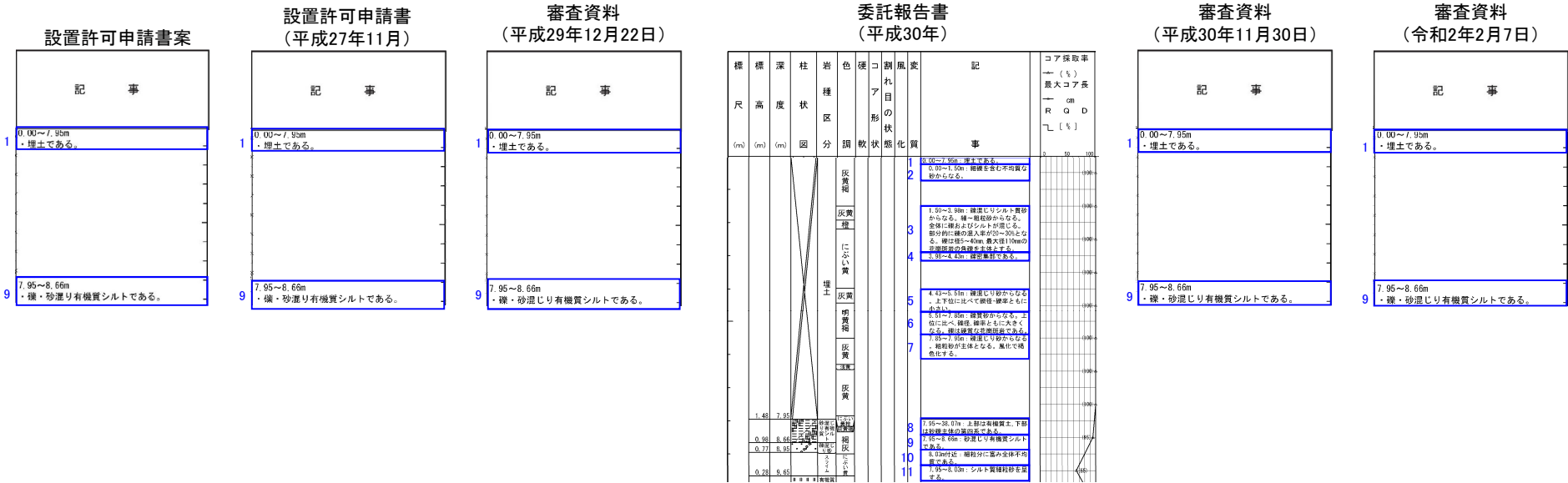
記事	報告書⇒申請書案	申請書案⇒申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒審査資料(R2.2.7)
55	・幅の記載については、区間長を記載していることから削除。 ・上下端境界の傾斜の違いについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
56	・破砕帯名を記載。 ・破砕幅の記載については、区間長を記載しているため削除。 ・性状について、報告書では破砕区分の記号で示していたが、観察による粒度を示すこととし、粘土状～粘土混じり礫状と記載。 ・原岩組織の残留の程度の記載については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・誤記修正(73.91～74.25m→73.91～74.75m)。 ・“幅29cm程度”との記載を粘土の幅と勘違いし、単位も誤って、“暗灰色粘土：累計厚29mm”と記載。 ・“粘土が網目状に分布する”との記載については、粘土混じり礫状に含めて示しているため削除。 ・“上盤と下盤で傾斜角が大きく異なる”との記載については、補足的なものであるため削除。	変更なし	・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・上記再観察による下端境界の見かけの傾斜の見直しを反映。	変更なし	変更なし

余白

H24-B11-1

余白

H24-B11-1



記事	申請書案⇒ 申請書 (H27.11)	申請書 (H27.11)⇒ 審査資料 (H29.12.22)	審査資料 (H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
1	変更なし	変更なし	・埋土の区間深度を記載。	審査資料 (H29.12.22)と同様 ・報告書と差異なし。	変更なし
2～7	—	—	・埋土区間の細分を記載。	・埋土区間については、元々の地質の状態を示すものではないため、細分に関する記載は追記せず。	—
8	—	—	・堆積物区間について土質構成や年代を一括記載。	・堆積物区間については、柱状図に対応した層相毎に記載することとしており、土質構成や年代に関するまとめ書きは追記せず。	—
9～11	変更なし	変更なし	・砂混じり有機質シルトの区間深度とその細分を記載。	審査資料 (H29.12.22)と同様 ・柱状図に対応した層相名を記載することとしているため、区間の細分については追記せず。	変更なし

H24-B11-1

設置許可申請書案

記事	
12	8.66~8.95m ・硬選り砂である。
14	9.65~10.03m ・有機質土である。
15	10.03~11.37m ・硬選り砂である。
17	11.37~12.20m ・硬選り有機質砂である。
19	12.20~13.60m ・有機質土である。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事	
2	8.06~8.95m
3	- 礫混り砂である。
4	9.05~10.03m
5	- 有機質土である。
6	10.03~11.37m
7	- 礫混り砂である。
8	11.37~12.20m
9	- 礫混り有機質砂である。
10	12.20~13.60m
11	- 有機質土である。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事	
12	8. 66～8. 95m ・ 礫混じり砂である。
14	9. 65～10. 03m ・ 有機質土である。
15	10. 03～11. 37m ・ 礫混じり砂である。
17	11. 37～12. 20m ・ 礫混じり有機質砂である。
19	12. 20～13. 60m ・ 有機質土である。

委託報告書
(平成30年)

標	深	柱	色	硬	割	風	記	コア採取 位置 (%)
尺	高	度	種	種	れ	化		
			状	目	の	状		
			因	調	軟	基	事	
(m)	(m)	(m)	分	調	軟	基		
-10	0.61	10.30	土質	土質	土質	土質	12	0.50~0.60 硬質より軟質である。 硬質部が見える。軟質部の土は 細くばらばらである。
			土質	土質	土質	土質	13	0.60~0.70 硬質より軟質である。 硬質部が見える。軟質部の土は 細くばらばらである。
			土質	土質	土質	土質	14	0.70~0.80 硬質より軟質である。 硬質部が見える。軟質部の土は 細くばらばらである。
-0.94	11.37		土質	土質	土質	土質	15	0.80~0.90 硬質より軟質である。 硬質部が見える。軟質部の土は 細くばらばらである。
			土質	土質	土質	土質	16	0.90~1.00 硬質より軟質である。 硬質部が見える。軟質部の土は 細くばらばらである。
-1.53	12.70		土質	土質	土質	土質	17	1.00~1.10 硬質より軟質である。 硬質部が見える。軟質部の土は 細くばらばらである。
			土質	土質	土質	土質	18	1.10~1.20 硬質より軟質である。 硬質部が見える。軟質部の土は 細くばらばらである。
			土質	土質	土質	土質	19	1.20~1.30 硬質より軟質である。 硬質部が見える。軟質部の土は 細くばらばらである。
-2.52	13.66		土質	土質	土質	土質	20	1.30~1.40 硬質より軟質である。 硬質部が見える。軟質部の土は 細くばらばらである。

審査資料
(平成30年11月30日)

	事 記
12	8.66~8.95m ・礫混じり砂である。
14	9.65~10.03m ・有機質土である。
15	10.03~11.37m ・礫混じり砂である。
17	11.37~12.20m ・礫混じり有機質砂である。
19	12.20~13.60m ・有機質土である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記事	
12	8.66~8.95m ・裸混じり砂である。 9.65~10.03m ・有機質土である。
14	10.03~11.37m ・裸混じり砂である。
17	11.37~12.20m ・裸混じり有機質砂である。
19	12.20~13.60m ・有機質土である。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
12	変更なし	変更なし	・礫混じり砂の区間深度とその構成粒子を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・柱状図に対応した層相名を記載することとしているため、 構成粒子については追記せず。	変更なし
13	—	—	・スライムの区間深度を記載。	・スライム区間については、岩種区分に記載しているため 追記せず。	—
14	変更なし	変更なし	・有機質土の区間深度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様	変更なし
15,16	変更なし	変更なし	・礫混じり砂の区間深度とその構成粒子、細分を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・柱状図に対応した層相名を記載することとしているため、 構成粒子、細分については追記せず。	変更なし
17,18	変更なし	変更なし	・礫混じり有機質砂の区間深度とその細分を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・柱状図に対応した層相名を記載することとしているため、 細分については追記せず。	変更なし
19,20	変更なし	変更なし	・有機質土の区間深度とその構成粒子、細分を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・柱状図に対応した層相名を記載することとしているため、 構成粒子、細分については追記せず。	変更なし

H24-B11-1

設置許可申請書案

記 事	
21	13. 60~16. 53m ・有機質土混り砂である。
24	16. 53~17. 90m ・有機質土である。
26	17. 90~18. 06m ・細砂・シルト質砂である。
27	18. 06~18. 26m ・有機質シルトである。
28	18. 28~23. 15m ・微細り砂である。

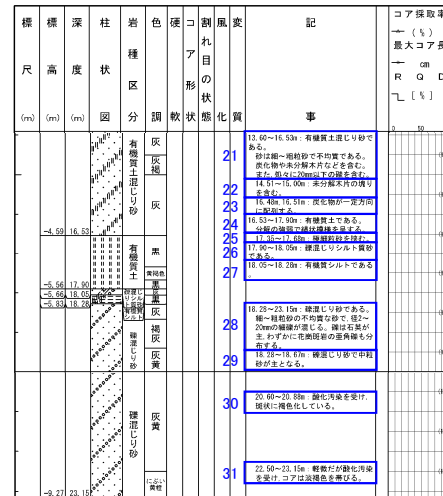
設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事	
1	13. 60～16. 53m ・有機質土混り砂である。
4	16. 53～17. 90m ・有機質土である。
6	17. 90～18. 05m ・細砂混りシルト質砂である。
7	18. 05～18. 28m ・有機質シルトである。
8	18. 28～23. 15m ・礫混り砂である。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事	
21	13.60~16.53m ・有機質土混じり砂である。
24	16.53~17.90m ・有機質土である。
26	17.90~18.05m ・総厚僅かにシルト質砂である。
27	18.05~18.25m ・有機質シルトである。
28	18.28~23.15m ・黒混じり砂である。

委託報告書
(平成30年)



審査資料
(平成30年11月30日)

記 事	
21	13.60~16.53m ・有機質土混じり砂である。
24	16.53~17.90m ・有機質土である。
26	17.90~18.05m ・細砂混じりシルト質砂である。
27	18.05~18.28m ・有機質シルトである。
28	18.28~23.15m ・礫混じり砂である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事	
21	13.60～16.53m ・有機質土混じり砂である。
24	16.53～17.90m ・有機質土である。
26	17.90～18.05m ・細砂並にリシルト質砂である。
27	18.05～18.28m ・有機質シルトである。
28	18.28～23.15m ・微混じり砂である。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
21～23	変更なし	変更なし	・有機質土混じり砂の区間深度とその構成粒子、細分を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・柱状図に対応した層相名を記載することとしているため、構成粒子、細分については追記せず。	変更なし
24.25	変更なし	変更なし	・有機質土の区間深度とその構成粒子、細分を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・柱状図に対応した層相名を記載することとしているため、構成粒子、細分については追記せず。	変更なし
26	変更なし	変更なし	・表現の見直し(細礫混じり→礫混じり)。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・表現の見直し(礫混じり→細礫混じり)。	変更なし
27	変更なし	変更なし	・有機質シルトの区間深度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・報告書と差異なし。	変更なし
28～31	変更なし	変更なし	・礫混じり砂の区間深度とその構成粒子、細分を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・柱状図に対応した層相名を記載することとしているため、構成粒子、細分については追記せず。	変更なし

H24-B11-1

設置許可申請書案						設置許可申請書 (平成27年11月)						審査資料 (平成29年12月22日)						委託報告書 (平成30年)						審査資料 (平成30年11月30日)						審査資料 (令和2年2月7日)					
設置許可申請書案						設置許可申請書						審査資料						委託報告書						審査資料						審査資料					
記 事						記 事						記 事						標 高 柱 岩 色 割 風 変 記 尺 高 度 状 区 分 間 軟 状 化 質 事						記 事						記 事					
23. 15～25. 00m ・ 礫質砂である。						23. 15～25. 00m ・ 礫質砂である。						23. 15～25. 00m ・ 礫質砂である。						23. 15～25. 00m 礫質砂である。 径2～5mmの礫と2.5mm以下の径 20～50mmの礫を含有。礫率は30%程 度である。基質はシルトを含む礫 →底粒砂で構成される。						23. 15～25. 00m 礫質砂である。 径2～5mmの礫と2.5mm以下の径 20～50mmの礫を含有。礫率は30%程 度である。基質はシルトを含む礫 →底粒砂で構成される。						23. 15～25. 00m ・ 礫質砂である。					
25. 00m～25. 78m ・ 砂礫である。						25. 00m～25. 78m ・ 砂礫である。						25. 00～25. 78m ・ 砂礫である。						25. 00～25. 78m 砂礫である。 径2～5mmの礫と2.5mm以下の径 20～50mmの礫を含有。礫率は50～60 %である。基質はシルト→底粒砂で構成さ れる。25. 45m以下は有砂分 を含まない。						25. 00～25. 78m 砂礫である。 径2～5mmの礫と2.5mm以下の径 20～50mmの礫を含有。礫率は50～60 %である。基質はシルト→底粒砂で構成さ れる。25. 45m以下は有砂分 を含まない。						25. 00～25. 78m ・ 砂礫である。					
25. 00～29. 53m ・ 玉石混じり砂礫である。 ・ 径10～100mmのアブライト、花崗斑岩の垂 角～亜円礫を含む。						25. 00～29. 53m ・ 玉石混じり砂礫である。 ・ 径10～100mmのアブライト、花崗斑岩の垂 角～亜円礫を含む。						25. 78～29. 53m ・ 玉石混じり砂礫である。 ・ 径10～100mmのアブライト、花崗斑岩の垂 角～亜円礫を含む。						25. 78～29. 53m 玉石混じり砂礫である。 径10～100mmのアブライト、花崗斑 岩の垂角～亜円礫を5～6%含 む。基質はシルト→底粒砂を含有 する質の砂礫である。						25. 78～29. 53m 玉石混じり砂礫である。 径10～100mmのアブライト、花崗斑 岩の垂角～亜円礫を5～6%含 む。基質はシルト→底粒砂を含有 する質の砂礫である。						25. 78～29. 53m ・ 玉石混じり砂礫である。 ・ 径10～100mmのアブライト、花崗斑岩の垂 角～亜円礫を含む。					
29. 53～30. 29m ・ シルト混じり砂である。						29. 53～30. 29m ・ シルト混じり砂である。						29. 53～30. 29m ・ シルト混じり砂である。						29. 53～30. 29m シルト混じり砂礫である。 径10～100mmの礫と2.5mm以下の径 20～50mmの礫を含有。礫率は50～60 %である。基質はシルト→底粒砂を含有 する質の砂礫である。						29. 53～30. 29m ・ シルト混じり砂である。						29. 53～30. 29m ・ シルト混じり砂である。					
30. 29～38. 07m ・ 玉石混じり砂礫である。 ・ 径10～100mmのアブライト、花崗斑岩の垂 角～亜円礫を含む。						30. 29～38. 07m ・ 玉石混じり砂礫である。 ・ 径10～100mmのアブライト、花崗斑岩の垂 角～亜円礫を含む。						30. 29～38. 07m ・ 玉石混じり砂礫である。 ・ 径10～100mmのアブライト、花崗斑岩の垂 角～亜円礫を含む。						30. 29～38. 07m 玉石混じり砂礫である。 径10～100mm(最大300mm)の垂角～ 亜円礫が主で、基質はシルトの混じ り込む質の砂礫となる。礫率の約 50%程度である。						30. 29～38. 07m 玉石混じり砂礫である。 径10～100mm(最大300mm)の垂角～ 亜円礫が主で、基質はシルトの混じ り込む質の砂礫となる。礫率の約 50%程度である。						30. 29～38. 07m ・ 玉石混じり砂礫である。 ・ 径10～100mmのアブライト、花崗斑岩の垂 角～亜円礫を含む。					
32						32						32						32						32						32					
33						33						33						33						33						33					
34						34						34						34						34						34					
36						36						36						36						36						36					
37						37						37						37						37						37					
40						40						40						40						40						40					

H24-B11-1

設置許可申請書案		設置許可申請書 (平成27年11月)		審査資料 (平成29年12月22日)		委託報告書 (平成30年)		審査資料 (平成30年11月30日)		審査資料 (令和2年2月7日)		
記 事		記 事		記 事		標 尺 深 柱 岩 色 硬 コ 割 風 変 記 高 度 状 区 分 調 軟 状 態 化 質 事		記 事		記 事		
41	35. 72～36. 70m ・花崗斑岩の礫である。	41	35. 72～36. 70m ・花崗斑岩の礫である。	41	35. 72～36. 70m ・花崗斑岩の礫である。	18. 16 35. 72	玉 石 混 じ り 砂 礫	35. 72～36. 70m ・花崗斑岩である。	41	35. 72～36. 70m ・花崗斑岩の礫である。	41	35. 72～36. 70m ・花崗斑岩の礫である。
	60.61.63.64.65.66		60.61.63.64.65.66		60.61.63.64.65.66							60.61.63.64.65.66
43	38. 07～125. 11m ・アブライトが主体である。 ・所々にペグマタイトを挟む。	43	38. 07～125. 11m ・アブライトが主体である。 ・所々にペグマタイトを挟む。	43	38. 07～125. 11m ・アブライトが主体である。 ・所々にペグマタイトを挟む。	19. 32 38. 07	粗 面 質 結 晶 質 岩	38. 07～125. 20m ・アブライトである。 ・斑晶はごく少量で微細な石英、長石を含む。	43	38. 07～125. 11m ・アブライトが主体である。 ・所々にペグマタイトを挟む。	43	38. 07～125. 11m ・アブライトが主体である。 ・所々にペグマタイトを挟む。
	38. 07～40. 45m ・風化して軟質化している。		38. 07～40. 45m ・風化して軟質化している。		38. 07～40. 45m ・風化して軟質化している。							38. 07～40. 45m ・風化して軟質化している。
44	38. 30m ・傾斜15°、幅5mmの石英脈を挟む。	44	38. 30m ・傾斜15°、幅5mmの石英脈を挟む。	44	38. 30m ・傾斜15°、幅5mmの石英脈を挟む。	38. 30m	粗 面 質 結 晶 質 岩	38. 30m ・傾斜15°、幅5mmの石英脈を挟む。	44	38. 30m ・傾斜15°、幅5mmの石英脈を挟む。	44	38. 30m ・傾斜15°、幅5mmの石英脈を挟む。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
41	変更なし	変更なし	・花崗斑岩礫の区間深度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・報告書と差異なし。	変更なし
42	変更なし	変更なし	・アブライトの区間深度、斑晶の種類を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・一般的な岩相であり、斑晶の種類については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため追記せず。 ・記事No.60,61,63,64,65,66に基づき、ペグマタイトの挟在を追記。	変更なし
43	変更なし	変更なし	・風化の程度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・風化の程度については、岩級区分で表示しているため追記せず。	変更なし
44	変更なし	変更なし	・石英脈の挟在を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・報告書と差異なし。	変更なし
45	－	－	・割れ目の発達を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの風化)。	・割れ目の発達、風化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・割れ目沿いの風化の程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。	－

H24-B11-1

設置許可申請書案

記 事	
48	<p>42. 34m ・傾斜50°の割れ目に、幅2～6mの流入粘土を挟む。</p>
49	<p>42. 34m ・傾斜45°の割れ目に、幅3～4mの流入粘土を挟む。</p>
50	<p>●45. 57～45. 64m ・液状部である。 ・右側に正断層セスである。 ・両側の砂岩は粘土状～灰白～黄褐色のシルト質砂岩である。 ・両側の砂岩は粘土質・集厚17mm ・傾斜・傾斜はN6° W44° である。 ・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は57° である。</p>

設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事	
48	<p>42. 34m ・ 傾斜50° の割れ目に、幅2～6mmの流入粘土を挟む。</p>
49	<p>42. 34m ・ 傾斜45° の割れ目に、幅3～4mmの流入粘土を挟む。</p>
50	<p>● 45. 57～45. 64m ・ 破砕帯である。 ・ 本ずね正断層セリスである。 ・ 両側の砂混り粘土状・灰白～黄褐色のシルト質砂を挟む。 ・ 両側の砂混り粘土土：累計厚7mm ・ 走向・傾斜は概し「NE45° 東」である。 ・ 上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は57° である。</p>

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事	
	・傾斜50°の割れ目に、幅2～6mmの流入粘土を挟む。
48	42.34m
49	・傾斜45°の割れ目に、幅3～4mmの流入粘土を挟む。
	④5.58～45.63m (f-b11-1-1破砕帯)
	・破砕帯である。
	・オゾルセンスである。
50	・灰白色の未固脆粘土状からなる。この層の厚さ約2.5cmである。
	・走向・傾斜はN45°E、傾斜は57°である。

委託報告書
(平成30年)

[illegible]

審査資料
(平成30年11月30日)

	記	事
48	42. 34m ・傾斜5°の割れ目に、幅2～6mmの流入粘土を挟む。	
49	42. 34m ・傾斜4°の割れ目に、幅3～4mmの流入粘土を挟む。	
50	●45. 58～46. 63m (f-b11-1破砕帯) ・破砕帯である。 ・芝刈センスである。 ・灰色色の未固結粘土部からなる。この東端は幅12. 5cmである。 ・走向・傾斜はN ₃₀ 45° Wである。 ・上境界の傾斜は35°。下境界の傾斜は57°である。	

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事	
48	42~43m ● 傾斜50°の割れ目に、幅2～6mmの流入粘土を挟む。
49	42~43m ● 傾斜45°の割れ目に、幅3～4mmの流入粘土を挟む。
50	● 43m～45.63m(=b1-l-1破砕帯) ● 破砕部である。 ● 芝草セシである。 ● 灰白色の未固結土状部からなる。この累計厚は2.5cmである。 ● 走向・傾斜はN89° W45° である。 ● 上部境界の傾斜は55°、下部境界の傾斜は57°である。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
46	—	—	・硬軟や割れ目の発達を記載。	・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
47	—	—	・石英の晶出を記載。	・割れ目沿いの鉱物晶出については、補足的なものであるため追記せず。	—
48	変更なし	変更なし	・割れ目について記載(割れ目沿いに流入粘土)。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・報告書と差異なし。	変更なし
49	変更なし (誤記)深度について、42.64mと書くべきところを誤って42.34mと記載。	変更なし	・割れ目について記載(割れ目沿いに流入粘土)。 ・誤記修正(42.34m→42.64m)。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・正しい深度の反映漏れ(42.64m→42.34m)。	変更なし
50	変更なし	・誤記修正(45.57～45.64m→45.58～45.63m)。 ・破砕帯名を記載。 ・誤記修正(左ずれ正断層センサー左ずれセンス)。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。	・破砕幅を記載。 ・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため追記せず。	変更なし

H24-B11-1

設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)	委託報告書 (平成30年)	審査資料 (平成30年11月30日)	審査資料 (令和2年2月7日)
<div>記事</div> <div>49.78~49.84m ・変質している。 ・灰白～黒褐色の砂質シルト状を呈する。 ・上端境界の傾斜は77°、下端境界の傾斜は75°である。</div>	<div>記事</div> <div>49.78~49.84m ・変質している。 ・灰白～黒褐色の砂質シルト状を呈する。 ・上端境界の傾斜は77°、下端境界の傾斜は75°である。</div>	<div>記事</div> <div>49.78~49.84m ・変質している。 ・灰白～黒褐色の砂質シルト状を呈する。</div>	<div>標高 (m)</div> <div>50</div> <div>深さ (m)</div> <div>50</div> <div>柱状</div> <div>岩種</div> <div>色</div> <div>硬軟</div> <div>割れ目の状況</div> <div>風化</div> <div>記</div> <div>51 49.77~49.80m 割れ目沿いにマンガンおよび白色の鉱物が分布する。 52 49.80~49.81m 割れ目傾斜は20cmで風化変質の影響が少なく、一部で割れ目に充填される。 53 49.81~49.86m 硬軟であるが割れ目沿いには割れ目がある。割れ目沿いに風化している。 54 49.86~49.88m 硬軟で割れ目と割れ目の風化で黒褐色化している。 55 49.78~49.84m 傾斜70° (幅5~20cm) 灰白色の粘土を挟む。軟質で傾斜で容易に剥離し、マンガンを含む。 56 50.00~50.50m 硬軟である。傾斜70°の割れ目に灰白色の粘土を挟む。割れ目沿いに傾斜70°の風化、マンガン濃集帯が分布する。</div>	<div>記事</div> <div>49.78~49.84m ・変質している。 ・灰白～黒褐色の砂質シルト状を呈する。</div>	<div>記事</div> <div>49.78~49.84m ・変質している。 ・灰白～黒褐色の砂質シルト状を呈する。</div>

記事	申請書案⇒ 申請書 (H27.11)	申請書 (H27.11)⇒ 審査資料 (H29.12.22)	審査資料 (H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
51	—	—	・割れ目の発達程度を記載。 ・割れ目について記載 (割れ目沿いのマンガン、鉱物の晶出)。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・割れ目沿いのマンガン、鉱物晶出については、補足的なものであるため追記せず。	—
52	—	—	・硬軟や割れ目の発達程度を記載。	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
53	—	—	・硬軟を記載。 ・割れ目について記載 (割れ目沿いの風化)。	・硬軟の程度については、岩級区分で示しているため追記せず。 ・割れ目沿いの風化については、補足的なものであるため追記せず。	—
54	—	—	・硬軟を記載。 ・色調を記載。	・硬軟については、岩級区分で示しているため追記せず。 ・色調については、補足的なものであるため追記せず。	—
55	変更なし	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	・マンガン、粘土の挟在を記載。	審査資料 (H29.12.22) と同様 ・粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。 マンガンについては、補足的なものであるため追記せず。	変更なし
56	—	—	・硬軟を記載。 ・割れ目について記載 (割れ目沿いに風化、マンガン、粘土の挟在)。	・硬軟については、岩級区分で示しているため追記せず。 ・粘土を挟在するが、直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。 ・割れ目沿いの風化、マンガンについては、補足的なものであるため追記せず。	—

H24-B11-1

設置許可申請書案

記事

95.28~95.82m
・ベグマタイトである。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審査資料
(平成29年12月22日)

60 55.28~55.82m
・ベグマタイトである

委託報告書
(平成30年)

標 尺	標 高	深 度	柱 状	岩 色	硬 度	割 れ 目	風 化	記 事	コア採取 位置 （凡例） 最大コア 位置 凡例
(m)	(m)	(m)	図	調	軟	状	質		
				明地灰				50.70~51.64m 砂質硬質である。厚さ10mm以内の硬質の風化、褐色部が分布する。	
								52.55m 緑色の包有物である。厚さ10mm 程度、10×10mmの円筒状である。	
-51.99, 55.29								54.14~54.20m 上層の緑砂50mm厚さ以下、厚さ10mm、半固形の粘土層に1分換位が分布する。	
-52.37, 55.58				セグメント				55.28~55.92m ベグマタイトである。厚さ10mmの厚さ、長方形になる。	

審査資料
(平成30年11月30日)

記事

60 55.28~55.82m
・ペグマタイトである。

審査資料
(令和2年2月7日)

記事

記事	申請書案⇒ 申請書 (H27.11)	申請書 (H27.11) ⇒ 審査資料 (H29.12.22)	審査資料 (H29.12.22) ⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30) ⇒ 審査資料 (R2.2.7)
57	—	—	・硬軟を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いに風化、変色)。	・割れ目沿いの風化、変色については、補足的なものであるため追記せず。 ・硬軟の程度については、岩級区分で示しているため追記せず。	—
58	—	—	・包有物について記載。	・包有物については、補足的なものであるため追記せず。	—
59	—	—	・半固結の粘土混じり角礫状の区間を記載。	・粘土混じり角礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し追記せず。	—
60	変更なし	変更なし	・ベグマタイトの区間深度、斑晶の種類、粒径を記載。	審査資料 (H29.12.22) と同様 ・ベグマタイトの一般的な特徴を有しており、斑晶の種類、粒径については追記せず。	変更なし

H24-B11-1

設置許可申請書案

	記 事
63	57.50~58.52m ・ベグマタイトである。 ・上端境界の傾斜は70°である。
65	59.43~59.76m ・ベグマタイトである。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事	
63	57.50～58.52m ・ベグマタイトである。 ・上端境界の傾斜は70°である。
65	59.43～59.76m ・ベグマタイトである。

審査資料
(平成29年12月22日)

	記 事
63	57.50~58.52m ・ベグマタイトである。 ・上端境界の傾斜は70°である。
65	59.43~59.76m ・ベグマタイトである。

委託報告書
(平成30年)

[illegible]

審査資料
(平成30年11月30日)

	事 記
63	57.50~58.52m ・ベグマタイトである。 ・上端境界の傾斜は70°である。
65	59.43~59.76m ・ベグマタイトである。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事	
63	57.50~58.52m ・ベグマタイトである。 ・上端境界の傾斜は70°である。
65	59.43~59.76m ・ベグマタイトである。

記事	申請書案⇒ 申請書 (H27.11)	申請書 (H27.11)⇒ 審査資料 (H29.12.22)	審査資料 (H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
61.62	—	—	・アブライトの区間深度、斑晶、境界傾斜を記載。	・上位のペグマタイトを挟在物として記事No.42と統合しているため追記せず。	—
63	変更なし	変更なし	・ペグマタイトの区間深度、斑晶の種類、粒径を記載。 ・割れ目の発達を程度を記載。	審査資料 (H29.12.22)と同様 ・ペグマタイトの一般的な特徴を有しており、斑晶の種類、粒径については追記せず。 ・記事No.62に基づき境界傾斜を追記。	変更なし
64	—	—	・アブライトの区間深度、斑晶及び石基を記載。	・ペグマタイトを挟在物としてNo.42と統合しているため追記せず。	—
65	変更なし	変更なし	・ペグマタイト区間の石基及び斑晶の種類、粒径等を記載。	審査資料 (H29.12.22)と同様 ・ペグマタイトの一般的な特徴を有しており、斑晶の種類、粒径については追記せず。	変更なし
66	—	—	・アブライトの区間深度を記載。	・ペグマタイトを挟在物としてNo.42と統合しているため追記せず。	—

H24-B11-1

設置許可申請書案																																																																																															
設置許可申請書																																																																																															
設置許可申請書 (平成27年11月)																																																																																															
審査資料																																																																																															
審査資料 (平成29年12月22日)																																																																																															
委託報告書																																																																																															
委託報告書 (平成30年)																																																																																															
審査資料																																																																																															
審査資料 (平成30年11月30日)																																																																																															
審査資料																																																																																															
審査資料 (令和2年2月7日)																																																																																															
記事																																																																																															
67 5 70	60. 18～60. 60m ・変質している。 ・淡黄色の砂泥じり粘土状～灰白色のシルト・粘土質砂状～淡黄色～にぶい橙色のシルト泥じり砂礫状を呈する。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は50°である。	67 5 70	60. 18～60. 60m ・変質している。 ・淡黄色の砂泥じり粘土状～灰白色のシルト・粘土質砂状～淡黄色～にぶい橙色のシルト泥じり砂礫状を呈する。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は50°である。	67 5 70	●60. 36～60. 60m (D-39破砕帯) ・破砕帯である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・褐色の未固結粘土状部：累計幅0. 9cm ・走向・傾斜はN8° E84° Wである。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は50°である。																																																																																										
<table><tr><th>標</th><th>深</th><th>柱</th><th>岩</th><th>色</th><th>硬</th><th>割</th><th>風</th><th>記</th><th>コア採取率</th></tr><tr><th>尺</th><th>高</th><th>状</th><th>種</th><th>区</th><th>調</th><th>軟</th><th>化</th><th>事</th><th>→</th></tr><tr><th>(m)</th><th>(m)</th><th>(m)</th><th>図</th><th>分</th><th>軟</th><th>状</th><th>質</th><th></th><th>(%)</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>最大コア長</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>→</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>cm</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>R Q D</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>↓</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>(%)</td></tr></table>						標	深	柱	岩	色	硬	割	風	記	コア採取率	尺	高	状	種	区	調	軟	化	事	→	(m)	(m)	(m)	図	分	軟	状	質		(%)										最大コア長										→										cm										R Q D										↓										(%)
標	深	柱	岩	色	硬	割	風	記	コア採取率																																																																																						
尺	高	状	種	区	調	軟	化	事	→																																																																																						
(m)	(m)	(m)	図	分	軟	状	質		(%)																																																																																						
									最大コア長																																																																																						
									→																																																																																						
									cm																																																																																						
									R Q D																																																																																						
									↓																																																																																						
									(%)																																																																																						
67 5 70	●60. 36～60. 60m (D-39破砕帯) ・破砕帯である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・褐色の未固結粘土状部：累計幅0. 9cm ・走向・傾斜はN8° E84° Wである。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は50°である。	67 5 70	●60. 36～60. 60m (D-39破砕帯) ・破砕帯である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・褐色の未固結粘土状部：累計幅0. 9cm ・走向・傾斜はN8° E84° Wである。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は50°である。	67 5 70	●60. 36～60. 60m (D-39破砕帯) ・破砕帯である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・褐色の未固結粘土状部：累計幅0. 9cm ・走向・傾斜はN8° E84° Wである。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は50°である。																																																																																										

H24-B11-1

設置許可申請書案		設置許可申請書 (平成27年11月)		審査資料 (平成29年12月22日)		委託報告書 (平成30年)		審査資料 (平成30年11月30日)		審査資料 (令和2年2月7日)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
記 事		記 事		記 事		<table><tr><th>標尺</th><th>標高</th><th>深 度</th><th>柱 状</th><th>岩 種</th><th>色 調</th><th>硬 軟</th><th>割 裂 目 状 態</th><th>風 化 質</th><th>記 事</th><th>コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D → [%]</th></tr><tr><td>(m)</td><td>(m)</td><td>(m)</td><td>図</td><td>分</td><td>調</td><td>軟</td><td>状</td><td>態</td><td>質</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		標尺	標高	深 度	柱 状	岩 種	色 調	硬 軟	割 裂 目 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D → [%]	(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	態	質																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
標尺	標高	深 度	柱 状	岩 種	色 調	硬 軟	割 裂 目 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D → [%]																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	態	質																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					

H24-B11-1

設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)	委託報告書 (平成30年)	審査資料 (平成30年11月30日)	審査資料 (令和2年2月7日)
<div>記事</div> <div>72.39～72.63m ・変質している。 ・淡黄褐色のシルト混じり砂礫状を呈する。 ・上端境界の傾斜は53°、下端境界の傾斜は60°である。</div> <div>73.51～74.70m ・硬質で割れ目が少なく、長柱状を呈する。</div> <div>76.68～77.80m ・割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。</div>	<div>記事</div> <div>72.39～72.63m ・変質している。 ・淡黄褐色のシルト混じり砂礫状を呈する。 ・上端境界の傾斜は53°、下端境界の傾斜は60°である。</div> <div>73.51～74.70m ・硬質で割れ目が少なく、長柱状を呈する。</div> <div>76.68～77.80m ・割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。</div>	<div>記事</div> <div>72.39～72.63m ・変質している。 ・淡黄褐色のシルト混じり砂礫状を呈する。</div> <div>73.51～74.70m ・硬質で割れ目が少なく、長柱状を呈する。</div> <div>76.68～77.80m ・割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。</div>	<div>標尺</div> <div>標高</div> <div>深度</div> <div>柱状</div> <div>岩種</div> <div>色</div> <div>硬軟</div> <div>割れ目の形状</div> <div>風化</div> <div>記事</div> <div>コア採取率 →(%) 最大コア長 →cm R Q D 「」[%]</div> <div>71.69～72.72m 割れ目沿いの風化で上部部により硬質化している。</div> <div>72.51～72.53m 上層の傾斜50°下層の傾斜45°、傾20mの角礫混じり砂質シルト状を呈する。</div> <div>73.51～74.70m 割れ目が少なく硬質・硬質である。</div> <div>74.98m 割れ目沿いに傾20mにむきより風化・酸化帯が分布する。</div> <div>75.43～75.65m 割れ目が多く細粒・細粒化している。</div> <div>76.68～77.80m 割れ目が多く、風化も濃み一部細粒化している。</div>	<div>記事</div> <div>72.39～72.63m ・変質している。 ・淡黄褐色のシルト混じり砂礫状を呈する。</div> <div>73.51～74.70m ・硬質で割れ目が少なく、長柱状を呈する。</div> <div>76.68～77.80m ・割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。</div>	<div>記事</div> <div>72.39～72.63m ・変質している。 ・淡黄褐色のシルト混じり砂礫状を呈する。</div> <div>73.51～74.70m ・硬質で割れ目が少なく、長柱状を呈する。</div> <div>76.68～77.80m ・割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。</div>

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
A	変更なし (誤記)報告書に該当する記載なし。	・変質している区間の境界の見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。	・誤記修正(記事と整合する観察結果が認められないことから、記事を削除)。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・記事削除の反映漏れ。	変更なし
82	—	—	・割れ目について記載(割れ目沿いの風化)。 ・硬軟を記載。	・硬軟の程度については、岩級区分で示しているため追記せず。 ・割れ目沿いの風化については、補足的なものであるため追記せず。	—
83	—	—	・角礫混じり砂質シルト状の区間を記載。	・角礫混じり砂質シルト状を呈するが、内部にせん断構造が認められず、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—
84	変更なし	変更なし	・硬軟や割れ目の発達の程度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・“コア形状”欄に基づき長柱状と記載。	変更なし
85	—	—	・割れ目について記載(割れ目沿いの風化・酸化)。	・割れ目沿いの風化、酸化については、補足的なものであるため追記せず。	—
86	—	—	・割れ目の発達の程度を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの細粒、細片化)。	・割れ目沿いで細粒、細片化するが、掘削時の機械割れと判断し追記せず。	—
87	変更なし	変更なし	・割れ目の発達の程度を記載。 ・風化の程度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・割れ目の発達の程度については、“コア形状”欄に基づき岩片～短柱状と記載。 ・風化の程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため追記せず。	変更なし

H24-B11-1

設置許可申請書案

記事
80.74~83.23m
・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。

設置許可申請書
(平成27年11月)

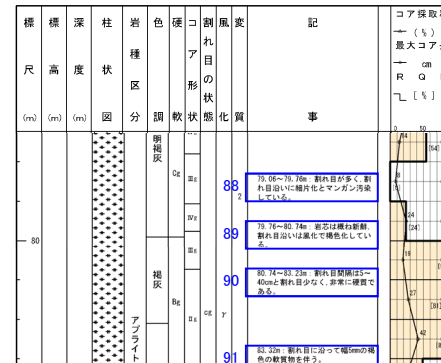
記事

90 80.74~83.23m
・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

委託報告書
(平成30年)



審査資料
(平成30年11月30日)

80.74~83.23m
・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

90	<p style="text-align: center;">記 事</p> <p>80. 74~83. 23m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。</p>
----	--

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
88	—	—	・割れ目の発達を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの細片化、マンガン汚染)。	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・割れ目沿いで細片化するが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。 ・割れ目沿いのマンガン汚染については、補足的なものであるため追記せず。	—
89	—	—	・割れ目について記載(割れ目沿いの風化)。	・風化の程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため追記せず。	—
90	変更なし	変更なし	・硬軟や割れ目の発達を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・硬軟の程度については、岩級区分で示しているため追記せず。 ・“コア形状”欄に基づき柱状と追記。	変更なし
91	—	—	・割れ目について記載(割れ目沿いの軟質物の挟在)。	・割れ目沿いに軟質物を伴うが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—

H24-B11-1

設置許可申請書案

	記 事
93	83. 95m ・傾斜45°, 幅5mmの石英脈を挟む。
96	87. 52~88. 93m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

93 83.85m
・傾斜45°、幅5mmの石英脈を挟む。

96 87.52~88.93m
・割れ目が多く、岩片状を呈する。

審査資料
(平成29年12月22日)

	記 事
93	83.85m ・傾斜45°, 幅5mmの石英脈を挟む。
96	87.52~88.93m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。

委託報告書
(平成30年)

[illegible]

審査資料
(平成30年11月30日)

	記 事
93	83.85m ・傾斜45°, 幅5mmの石英脈を挟む。
96	87.52~88.93m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

	記事
93	83.05m ・傾斜45°、幅5mmの石英脈を挟む。
96	87.52~88.93m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
92	—	—	・割れ目について記載(割れ目沿いの細片化)。	・割れ目沿いで細片化するが、掘削時の機械割れと判断し追記せず。	—
93	変更なし	変更なし	・石英脈を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・報告書と差異なし。	変更なし
94	—	—	・割れ目について記載(割れ目沿いの細粒～細片化、粘土の挟在)。	・割れ目沿いで細片化し粘土を挟在するが、粘土は直線性や連続性に乏しいことから追記せず。	—
95	—	—	・割れ目について記載(割れ目沿いの細片～細粒化)。	・割れ目沿いで細片～細粒化するが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—
96	変更なし	変更なし	・角礫状の区間を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・“コア形状”欄に基づき岩片状と記載。	変更なし
97	—	—	・粘土の挟在を記載。	・粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—

H24-B11-1

設置許可申請書案

記事

●88.93～88.97m (D-5破砕帯)
・破砕部である。
・右ずれ正断層センスである。
・淡黄色の砂礫混りシルト・粘土状を呈する。
・上盤境界の傾斜は53°、下盤境界の傾斜は50°である。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

●88.93～88.97m (D-5破砕帯)
・破砕部である。
・右ずれ正断層センスである。
・淡黄色の砂礫混りシルト・粘土状を呈する。
・上盤境界の傾斜は53°、下盤境界の傾斜は50°である。

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

●88.93～88.97m (D-5破砕帯)
・破砕部である。
・右ずれ正断層センスである。
・主に淡黄色の固結礫状部からなる。
・淡黄色の未固結粘土状部・累計幅0.3cm
・走向・傾斜はN4° E81° Wである。
・上盤境界の傾斜は53°、下盤境界の傾斜は50°である。

委託報告書
(平成30年)

記事

●88.93～88.97m (D-5破砕帯)
・破砕部である。
・右ずれ正断層センスである。
・主に淡黄色の固結礫状部からなる。
・淡黄色の未固結粘土状部・累計幅0.3cm
・走向・傾斜はN4° E81° Wである。
・上盤境界の傾斜は53°、下盤境界の傾斜は50°である。

審査資料
(平成30年11月30日)

記事

●88.93～88.97m (D-5破砕帯)
・破砕部である。
・右ずれ正断層センスである。
・主に淡黄色の固結礫状部からなる。
・淡黄色の未固結粘土状部・累計幅0.3cm
・走向・傾斜はN4° E81° Wである。
・上盤境界の傾斜は53°、下盤境界の傾斜は50°である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記事

●88.93～88.97m (D-5破砕帯)
・破砕部である。
・右ずれ正断層センスである。
・主に淡黄色の固結礫状部からなる。
・淡黄色の未固結粘土状部・累計幅0.3cm
・走向・傾斜はN4° E81° Wである。
・上盤境界の傾斜は53°、下盤境界の傾斜は50°である。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
98～100	変更なし	・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(カタクレーサイト)を判断。その後、薄片観察の結果に基づき、断層ガウジを認定。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については、審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・石英細礫については、補足的なものであるため追記せず。	変更なし
101	—	—	・割れ目について記載(細粒分の挟在)。	・割れ目沿いで細粒分を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—

H24-B11-1

設置許可申請書案			設置許可申請書 (平成27年11月)			審査資料 (平成29年12月22日)			委託報告書 (平成30年)			審査資料 (平成30年11月30日)			審査資料 (令和2年2月7日)						
記 事			記 事			記 事			標 標 深 柱 岩 色 硬 コ 割 風 変 尺 高 度 状 種 区 調 軟 状 態 化 質 (m) (m) (m) 図 分 調 軟 状 態 化 質			記 事			記 事						
104	94. 97～95. 45m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。		104	94. 97～95. 45m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。		104	94. 97～95. 45m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。		コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D 「 % 」	102 103 104 105 106	93. 64～93. 80m 種別7の割れ目 沿いに、幅1. 5m程度の粘土を挟 在する。 94. 18m 94. 34m 割れ目沿いに、幅1 m程度の褐色の粘土を挟在する。 94. 97～95. 45m 割れ目が変質する 95. 87～96. 05m 変質で軟化してい る。95. 52m以下は一部で粒組織が 発達する。 96. 80m 陸科42 層1～5mの灰白 色のシルトを挟在する。	104	94. 97～95. 45m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。		104	94. 97～95. 45m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。					
	95. 87～96. 05m ・変質して軟質化している。 ・割れ目が多く、岩片状を呈する。			95. 87～96. 05m ・変質して軟質化している。 ・割れ目が多く、岩片状を呈する。			95. 87～96. 05m ・変質して軟質化している。 ・割れ目が多く、岩片状を呈する。						95. 87～96. 05m ・変質して軟質化している。 ・割れ目が多く、岩片状を呈する。								
105			105			105						105									

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
102	—	—	・割れ目について記載(粘土の挟在)。	・一部に粘土を挟在するが、直線性や連続性に乏しく、周 囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—
103	—	—	・割れ目について記載(粘土の挟在)。	・粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないこ とから追記せず。	—
104	変更なし	変更なし	・割れ目の発達を程度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・“コア形状”欄に基づき岩片状と追記。	変更なし
105	変更なし	変更なし	・変質に伴う軟化を記載。 ・原岩組織の残留の程度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・“コア形状”欄に基づき岩片状と記載。 ・原岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関す る補足的なものであるため追記せず。	変更なし
106	—	—	・シルトの挟在を記載。	・シルトを挟在するが、幅狭く、周囲の岩盤に劣化が認め られないことから追記せず。	—

H24-B11-1

設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)	委託報告書 (平成30年)	審査資料 (平成30年11月30日)	審査資料 (令和2年2月7日)
設置許可申請書案	設置許可申請書	審査資料	委託報告書	審査資料	審査資料
記事	記事	記事	記事	記事	記事
107 5 109 111	●97.87～99.00m ・破砕部である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・黄褐色の粘土～硬泥じり粘土状～灰白色の硬泥じりシルト質砂状～砂礫状を呈する。 ・黄褐色粘土～硬泥じり粘土；累計厚33mm ・走向・傾斜はN4° E72° Wである。 ・上端境界の傾斜は50°，下端境界の傾斜は60°である。 99.64～100.46m ・傾斜45° 程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。	●97.87～99.00m ・破砕部である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・主に浅黄褐色の固結礫状部からなる。 ・黄褐色の未固結粘土状部；累計幅2.5cm ・走向・傾斜はN4° E72° Wである。 ・上端境界の傾斜は50°，下端境界の傾斜は60°である。 99.64～100.46m ・傾斜45° 程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。	●97.87～99.00m ・破砕部である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・主に浅黄褐色の固結礫状部からなる。 ・黄褐色の未固結粘土状部；累計幅2.5cm ・走向・傾斜はN4° E72° Wである。 ・上端境界の傾斜は50°，下端境界の傾斜は60°である。 99.64～100.46m ・傾斜45° 程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。	●97.87～99.00m ・破砕部である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・主に浅黄褐色の固結礫状部からなる。 ・黄褐色の未固結粘土状部；累計幅2.5cm ・走向・傾斜はN4° E72° Wである。 ・上端境界の傾斜は50°，下端境界の傾斜は60°である。 99.64～100.46m ・傾斜45° 程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。	●97.87～99.00m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に浅黄褐色の固結礫状部からなる。 ・黄褐色の未固結粘土状部；累計幅2.5cm ・走向・傾斜はN4° E72° Wである。 ・上端境界の傾斜は50°，下端境界の傾斜は60°である。 99.64～100.46m ・傾斜45° 程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
107～109	変更なし	・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。 ・上端境界の見かけ傾斜として、50°と書くべきところを誤って48°と記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・下端に粘土を伴うとの記載については、粘土が不明瞭であり、固結礫状部に含めているため追記せず。 ・上端境界の見かけ傾斜は誤記のため反映せず。	・誤記修正(左ずれ正断層センス→正断層センス、審査会合(R1.10.11)にて説明済み)。
110	—	—	・割れ目について記載(割れ目沿いの細粒～細片化)。	・割れ目沿いで細粒～細片化するが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—
111	変更なし (誤記)深度について、99.94mと書くべきところを誤って99.64mと記載。	変更なし	・割れ目の発達程度を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの細粒化)。 ・誤記修正(99.64m→99.94m)。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき岩片状と記載。 ・割れ目沿いの細粒化の記載については、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。 ・正しい深度の反映漏れ(99.94m→99.64m)。	変更なし

H24-B11-1

設置許可申請書案		設置許可申請書 (平成27年11月)		審査資料 (平成29年12月22日)		委託報告書 (平成30年)		審査資料 (平成30年11月30日)		審査資料 (令和2年2月7日)	
	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事
113	103.32～104.86m ・縦方向の連続する割れ目と、これに斜交する割れ目が分布する。	113	103.32～104.86m ・縦方向の連続する割れ目と、これに斜交する割れ目が分布する。	113	103.32～104.86m ・縦方向の連続する割れ目と、これに斜交する割れ目が分布する。	113	103.32～104.86m ・縦方向の連続する割れ目と、これに斜交する割れ目が分布する。	113	103.32～104.86m ・縦方向の連続する割れ目と、これに斜交する割れ目が分布する。	113	103.32～104.86m ・縦方向の連続する割れ目と、これに斜交する割れ目が分布する。
116 S 118	●108.59～108.91m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる ・灰白色の砂礫質シルト・粘土～砂質シルト・粘土状～にぶい黄褐色のシルト・粘土混じり砂礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN16° E82° Eである。 ・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は52°である。	116 S 118	●108.59～108.91m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる ・灰白色の砂礫質シルト・粘土～砂質シルト・粘土状～にぶい黄褐色のシルト・粘土混じり砂礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN16° E82° Eである。 ・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は52°である。	116 S 118	108.59～108.91m ・変質している。 ・灰白色の砂礫質シルト・粘土～砂質シルト・粘土状～にぶい黄褐色のシルト・粘土混じり砂礫状を呈する。	116 S 118	108.59～108.91m ・変質している。 ・灰白色の砂礫質シルト・粘土～砂質シルト・粘土状～にぶい黄褐色のシルト・粘土混じり砂礫状を呈する。	116 S 118	108.59～108.91m ・変質している。 ・灰白色の砂礫質シルト・粘土～砂質シルト・粘土状～にぶい黄褐色のシルト・粘土混じり砂礫状を呈する。	116 S 118	108.59～108.91m ・変質している。 ・灰白色の砂礫質シルト・粘土～砂質シルト・粘土状～にぶい黄褐色のシルト・粘土混じり砂礫状を呈する。
121 B	●109.66～109.73m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる ・灰白色の粘土質砂状～粘土混じり砂礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN3° N87° Wである。 ・上盤境界の傾斜は60°、下盤境界の傾斜は50°である。	121 B	●109.66～109.73m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる ・灰白色の粘土質砂状～粘土混じり砂礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN3° N87° Wである。 ・上盤境界の傾斜は60°、下盤境界の傾斜は50°である。	121 B	109.66～109.73m ・変質している。 ・灰白色の粘土質砂状～粘土混じり砂礫状を呈する。	121 B	109.66～109.73m ・変質している。 ・灰白色の粘土質砂状～粘土混じり砂礫状を呈する。	121 B	109.66～109.73m ・変質している。 ・灰白色の粘土質砂状～粘土混じり砂礫状を呈する。	121 B	109.66～109.73m ・変質している。 ・灰白色の粘土質砂状～粘土混じり砂礫状を呈する。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(H30.11.30)
112	—	—	・風化の程度を記載。	・風化については、岩級区分に含めて表示しているため追記せず。	—
113	変更なし	変更なし	・割れ目の発達を程度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・報告書と差異なし。	変更なし
114	—	—	・割れ目について記載(マンガン塊の挟在)。	・割れ目沿いのマンガン塊の挟在については、補足的なものであるため追記せず。	—
115	—	—	・風化の程度を記載。	・風化については、岩級区分に含めて表示しているため追記せず。	—
116～119	変更なし	・再観察により変質部と認定。変質部への見直しの詳細については別途説明(補足説明資料4 補足4～7頁)。	・変質部区間を性状毎に深度を分けて記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・変質している区間を一括記載。	変更なし
120	—	—	・角礫状の区間を記載。	・角礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し追記せず。	—
121,B	変更なし	・再観察により変質部と認定。変質部への見直しの詳細については別途説明(補足説明資料4 補足4～8頁)。	・粘土混じり角礫状の区間を記載。 ・109.66～109.73mと書くべきところを誤って109.66～109.72mと記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・区間下端の深度については、誤記のため反映せず。	変更なし

H24-B11-1

設置許可申請書案		設置許可申請書 (平成27年11月)		審査資料 (平成29年12月22日)		委託報告書 (平成30年)		審査資料 (平成30年11月30日)		審査資料 (令和2年2月7日)																																								
記 事		記 事		記 事		記 事		記 事		記 事																																								
123	113.03~114.20m ・硬質で割れ目は少なく、柱状を呈する。	123	113.03~114.20m ・硬質で割れ目は少なく、柱状を呈する。	123	113.03~114.20m ・硬質で割れ目は少なく、柱状を呈する。	<table><tr><th>標尺</th><th>標高</th><th>深 度</th><th>岩 種</th><th>色</th><th>硬 度</th><th>割れ目 の形状</th><th>風 化</th><th>記 事</th><th>コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D └ (%)</th></tr><tr><th>(m)</th><th>(m)</th><th>(m)</th><th>図 分</th><th>調</th><th>軟 状</th><th>化 質</th><th></th><th></th><th></th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	標尺	標高	深 度	岩 種	色	硬 度	割れ目 の形状	風 化	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D └ (%)	(m)	(m)	(m)	図 分	調	軟 状	化 質																								123	113.03~114.20m ・硬質で割れ目は少なく、柱状を呈する。	123	113.03~114.20m ・硬質で割れ目は少なく、柱状を呈する。
標尺	標高	深 度	岩 種	色	硬 度		割れ目 の形状	風 化	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D └ (%)																																								
(m)	(m)	(m)	図 分	調	軟 状		化 質																																											
126	116.53~117.61m ・硬質で割れ目は少なく、長柱状を呈する。	126	116.53~117.61m ・硬質で割れ目は少なく、長柱状を呈する。	126	116.53~117.61m ・硬質で割れ目は少なく、長柱状を呈する。	122	111.12~111.41m 傾斜60~90°の割れ目と低角度の割れ目が相交し、割れ目沿いに細片化している。	126	116.53~117.61m ・硬質で割れ目は少なく、長柱状を呈する。	126	116.53~117.61m ・硬質で割れ目は少なく、長柱状を呈する。																																							
						123	113.03~114.20m 割れ目は少なく硬質である。																																											
						124	114.62~114.71m 下部の傾斜40°の砂礫状を呈する。																																											
						125	114.72~114.80m 傾斜90°の割れ目が密集し、割れ目沿いに細片化している。																																											
						126	116.53~117.61m 割れ目は少なく斜断・硬質である。																																											

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
122	—	—	・割れ目の発達程度を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの細片化)。	・割れ目沿いで細片化するが、掘削時の機械割れと判断し追記せず。	—
123	変更なし	変更なし	・硬軟や割れ目の発達程度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・“コア形状”欄に基づき柱状と記載。	変更なし
124,125	—	—	・砂礫状とその下位の割れ目の密集区間を記載。	・割れ目が密集し、一部で砂礫状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められず、砂礫状部の礫に定向配列も認められないことから追記せず。	—
126	変更なし	変更なし	・硬軟や割れ目の発達程度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・“コア形状”欄に基づき長柱状と記載。	変更なし

H24-B11-1

設置許可申請書案

記事

121.90～123.34m
・傾斜45°程度と70°程度の割れ目が交差して分布しており、岩片～短柱状を呈する。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

121.90～123.34m
・傾斜45°程度と70°程度の割れ目が交差して分布しており、岩片～短柱状を呈する。

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

121.90～123.34m
・傾斜45°程度と70°程度の割れ目が交差して分布しており、岩片～短柱状を呈する。

委託報告書
(平成30年)

標尺 標高 深 柱 岩 色 硬 割 風 記
寸 度 状 種 区 調 軟 状 化 質 事
(m) (m) (m) 図 分 調 軟 状 化 質

127
128
129
130
131

コア採取率
(%)
最大コア長
cm
R Q D
[%]

審査資料
(平成30年11月30日)

記事

121.90～123.34m
・傾斜45°程度と70°程度の割れ目が交差して分布しており、岩片～短柱状を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記事

121.90～123.34m
・傾斜45°程度と70°程度の割れ目が交差して分布しており、岩片～短柱状を呈する。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
127	—	—	・割れ目について記載(割れ目沿いの細片化、粘土混じりシルトの挟在)。	・割れ目沿いで細片化し粘土を挟在するが、開口部にスライムが充てんしたものと判断し追記せず。	—
128	—	—	・硬軟や割れ目の発達を記載。	・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
129	—	—	・割れ目について記載(割れ目沿いの軟化)。	・硬軟については、岩級区分で示しているため追記せず。	—
130	—	—	・色調を記載。	・色調については、補足的なものであるため追記せず。	—
131	変更なし	変更なし	・割れ目の発達を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの細片～細粒化)。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・割れ目沿いに細片～細粒化しているが、掘削時の機械割れと判断し追記せず。 ・“コア形状”欄に基づき岩片～短柱状と追記。	変更なし

H24-B11-1

設置許可申請書案			設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)	委託報告書 (平成30年)	審査資料 (平成30年11月30日)	審査資料 (令和2年2月7日)
記 事			記 事	記 事	標 尺 高 度 状 況 区 分 岩 種 色 硬 割 風 変 記 れ 目 の 形 状 基 礎 化 質 事 コ ア 採 取 率 一 (%) 最 大 コ ア 長 一 cm R Q D 「 % 」	記 事	記 事
132	125.11～150.00m ・花崗斑岩である。	132	125.11～150.00m ・花崗斑岩である。	132	125.11～150.00m ・花崗斑岩である。	132	125.11～150.00m ・花崗斑岩である。
136	128.18～128.68m ・軟質化している。	136	128.18～128.68m ・軟質化している。	136	128.18～128.68m ・軟質化している。	136	128.18～128.68m ・軟質化している。
139	131.04～131.90m ・傾斜40°～50°程度の割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。	139	131.04～131.90m ・傾斜40°～50°程度の割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。	139	131.04～131.90m ・傾斜40°～50°程度の割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。	139	131.04～131.90m ・傾斜40°～50°程度の割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。
133	—	133	—	133	—	133	—
134	—	134	—	134	128.18～128.68m ・軟質化している。	134	128.18～128.68m ・軟質化している。
135	—	135	—	135	131.04～131.90m ・傾斜40°～50°程度の割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。	135	131.04～131.90m ・傾斜40°～50°程度の割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。
137	—	137	—	137	—	137	—
138	—	138	—	138	—	138	—
140	—	140	—	140	—	140	—
141	—	141	—	141	—	141	—

H24-B11-1

設置許可申請書案

	記 事
144	135.61~136.00m ・傾斜60°程度の割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。
145	137.68~139.20m ・傾斜45°~60°程度の割れ目と同じ傾斜の微細な割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事	
144	135.61~136.00m ・傾斜60°程度の割れ目が多く、岩片→短柱状を呈する。
145	137.68~139.20m ・傾斜45°~60°程度の割れ目と同じ傾斜の微細な割れ目が多く、岩片→短柱状を呈する。

審査資料
(平成29年12月22日)

	記 事
144	135. 61～136. 00m ・傾斜60° 程度の割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。
145	137. 68～139. 20m ・傾斜45° ～60° 程度の割れ目と同じ傾斜の微細な割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する

委託報告書
(平成30年)

標 尺	標 高	柱 状	色 澤	硬 度	割 削 性	風 化 状 況	記 事
(m)	(m)	図	調	軟	目 的	状 態	
			灰 埴	IIIa		142	132.0m・135.0m・140mのマーキングが保存する。土層に細粒の砂が混在し増加傾向とす。
			灰 埴	IIIa		143	134.0m・135.40m・割れ目が多く、一部で散在する。割れ目及び割れの周囲は軟弱である。砂質土は腐食に耐性である。
			灰 埴	IIIa		144	135.61~136.00m: 割れ目・割度の割れ目が斜交し、割れ目深い層片状になっている。
			灰 埴	IIIa		145	137.0m・139.20m・140.0m・140.5mの目録の目録100cm・100cm・腐食傾向は目録斜交で分布する。割れ目深い層片状になっている。
			灰 埴	IIIa		146	139.60~139.80m: 腐食が変化し、赤色を帯びる。割れ目深い層片状になっている。
			灰 埴	IIIa		147	140.0m・140.90m・140.90m・140.90mの目録が斜交し、目録10~20m程度に腐食している。

審査資料
(平成30年11月30日)

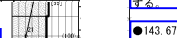
	記 事
144	135. 61~136. 00m ・傾斜60°程度の割れ目が多く、岩片~短柱状を量する。
145	137. 68~139. 20m ・傾斜45°~60°程度の割れ目と同じ傾斜で微細な割れ目が多く、岩片~短柱状を量する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事	
144	135.61~136.00m ・傾斜60° 程度の割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。
145	137.68~139.20m ・傾斜45° ~60° 程度の割れ目と同じ傾斜の微細な割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
142	—	—	・マンガンを記載。 ・細粒物質脈を記載。	・マンガンについては、補足的なものであるため追記せず。 ・一部に細粒物質脈が挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—
143	—	—	・割れ目の発達を程度を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの変色)。	・割れ目の発達を程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため追記せず。	—
144	変更なし	変更なし	・割れ目の発達を程度を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの細片化)。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・“コア形状”欄に基づき岩片～短柱状と記載。 ・割れ目沿いの細片化の記載については、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	変更なし
145	変更なし	変更なし	・割れ目の発達を程度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・“コア形状”欄に基づき岩片～短柱状と記載。 ・割れ目沿いの細片化の記載については、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	変更なし
146	—	—	・色調を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの細粒化)。	・割れ目沿いで細粒化するが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—
147	—	—	・割れ目の発達を程度を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの細片化)。	・割れ目の発達を程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・割れ目沿いで細片化するが、掘削時の機械割れと判断し追記せず。	—

H24-B11-1

設置許可申請書案		設置許可申請書 (平成27年11月)		審査資料 (平成29年12月22日)		委託報告書 (平成30年)		審査資料 (平成30年11月30日)		審査資料 (令和2年2月7日)	
記 事		記 事		記 事		標 尺 高 度 状 種 区 分 調 査 軟 状 態 化 質 事		記 事		記 事	
148	141.35～143.15m ・硬質で割れ目が少なく、主として柱状を呈する。	148	141.35～143.15m ・硬質で割れ目が少なく、主として柱状を呈する。	148	141.35～143.15m ・硬質で割れ目が少なく、主として柱状を呈する。	148		148	141.35～143.15m ・硬質で割れ目が少なく、主として柱状を呈する。	148	141.35～143.15m ・硬質で割れ目が少なく、主として柱状を呈する。
	143.67～143.77m ・変質している。 ・褐灰色の粘土混じり角礫状～角礫状を呈する。		143.67～143.77m ・変質している。 ・褐灰色の粘土混じり角礫状～角礫状を呈する。		143.67～143.77m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN80° E87° Eである。						
149	145.35～146.11m ・傾斜45° 程度の割れ目が主体で、柱状を呈する。	149	145.35～146.11m ・傾斜45° 程度の割れ目が主体で、柱状を呈する。	149	145.35～146.11m ・傾斜45° 程度の割れ目が主体で、柱状を呈する。	149	149	149	149	149	149
151	145.35～146.11m ・傾斜45° 程度の割れ目が主体で、柱状を呈する。	151	145.35～146.11m ・傾斜45° 程度の割れ目が主体で、柱状を呈する。	151	145.35～146.11m ・傾斜45° 程度の割れ目が主体で、柱状を呈する。	151	151	151	151	151	151

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
148	変更なし	変更なし	・硬軟や割れ目の発達を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの風化、褐色化)。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき柱状と追記。 ・割れ目沿いの風化、変色については、補足的なものであるため追記せず。	変更なし
149	変更なし	・再観察により破砕部と認定。破砕部への見直しの詳細については別途説明(補足説明資料4 補足4-24頁)。 ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。	・破砕幅を記載。 ・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。	変更なし
150	—	—	・変質を伴う劣化を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの細粒物質の挟在)。	・劣化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部に細粒物質を挟在するが、系統的でなく連続性や直線性に乏しいことから追記せず。	—
151	変更なし	変更なし	・割れ目の発達程度を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの細粒物質の挟在)。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき柱状と記載。 ・細粒物質を挟在するが、幅狭く、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	変更なし

H24-B11-1

設置許可申請書案

事 記

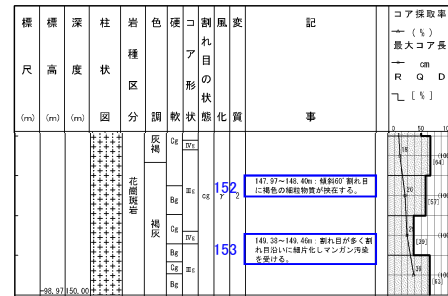
設置許可申請書
(平成27年11月)

事記

審査資料
(平成29年12月22日)

事記

委託報告書
(平成30年)



審査資料
(平成30年11月30日)

事 記

審査資料
(令和2年2月7日)

事記

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
152	—	—	・割れ目について記載(割れ目沿いの細粒物質の挟在)。	・割れ目沿いに白色の細粒物質を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—
153	—	—	・割れ目の発達程度を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの細片化、マンガン汚染)。	・割れ目の発達程度は、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いで細片化するが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。 ・割れ目沿いのマンガン汚染については、補足的なものであるため追記せず。	—

H24-B8-21

余白

H24-B8-21

設置許可申請書案

記事
1 0.00～3.00m ・埋土である。
8 3.00～3.84m ・砂礫である。 ・径5～30cmの硬質垂角～垂円礫を60～70%含む。
9 3.48～5.00m ・スライム。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事
1 0.00～3.00m ・埋土である。
8 3.00～3.84m ・砂礫である。 ・径5～30cmの硬質垂角～垂円礫を60～70%含む。
9 3.48～5.00m ・スライム。

審査資料
(平成29年12月22日)

記事
1 0.00～3.00m ・埋土である。
8 3.00～3.84m ・砂礫である。 ・径5～30cmの硬質垂角～垂円礫を60～70%含む。
9 3.48～5.00m ・スライム。
10 5.00～5.30m ・砂礫である。

委託報告書
(平成30年)

標尺	標高	深	柱状	岩	色	硬	割	風	変	記	コア採取率 →(%) 最大コア長 →cm R Q D ↓(%)
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	化	質	事	
										1 0.00～3.00m:埋土である。 2 3.00～3.12m:堆積物からなる、植物物が混入する。 3 3.12～3.48m:細粒～粗粒砂からなる、最大10mmの礫をまれに含む。 4 3.48～3.84m:有機物混じりシルト質砂からなる。細粒～粗粒砂からなる。粗粒～シルトが混入する。全粒に不均質である。 5 3.84～5.00m:細粒～粗粒砂からなる。 6 5.00～5.30m:シルト質砂からなる。 7 5.30～5.48m:細粒～粗粒砂からなる。 8 5.48～5.84m:細粒～粗粒砂からなる。 9 5.84～6.00m:スライムである。 10 6.00～6.30m:砂礫である。 シルトを多く含む中粒砂の礫混じりシルト質砂で構成されている。	

審査資料
(平成30年11月30日)

記事
1 0.00～3.00m ・埋土である。
8 3.00～3.84m ・砂礫である。 ・径5～30cmの硬質垂角～垂円礫を60～70%含む。
9 3.48～5.00m ・スライム。
10 5.00～5.30m ・砂礫である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記事
1 0.00～3.00m ・埋土である。
8 3.00～3.84m ・砂礫である。 ・径5～30cmの硬質垂角～垂円礫を60～70%含む。
9 3.48～5.00m ・スライム。
10 5.00～5.30m ・砂礫である。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
1～6	変更なし	変更なし	・埋土の区間深度とその細分を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・埋土区間については、元々の地質の状態を示すものではないため、区間の細分に関する記載は追記せず。	変更なし
7	—	—	・堆積物区間について土質構成や年代を一括記載。	・堆積物区間については、柱状図に対応した層相毎に記載することとしており、土質構成や年代に関するまとめ書きは追記せず。	—
8	変更なし	変更なし	・砂礫の区間深度とその構成粒子を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・基質については、当該区間を構成する目立つ粒子ではないため追記せず。	変更なし
9	変更なし	変更なし	・スライムの区間深度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・報告書と差異なし。	変更なし
10	—	・柱状図に合わせて砂礫と記載。	・砂礫の区間深度とその構成粒子を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・柱状図に対応した層相名を記載することとしているため、基質については追記せず。	変更なし

H24-B8-21

設置許可申請書案

	記 事
11	5.30～6.92m ・ 雑である。
13	6.92～10.30m ・ 概溜り砂である。 ・ シルを混入する不均質な砂が主体である
14	10.30～15.15m ・ 硬質砂である。

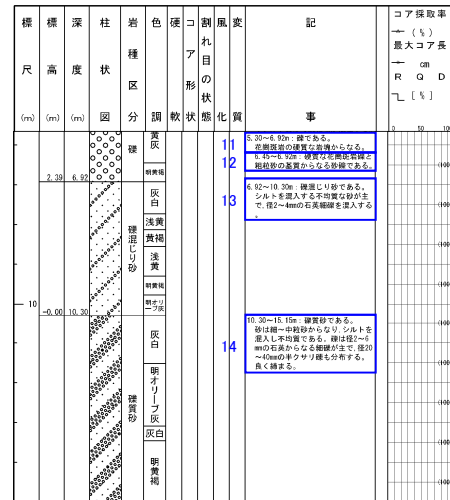
設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事	
1	5.30～6.92m ・裸である。
3	6.92～10.30m ・裸混り砂である。 ・シルトを混入する不均質な砂が主体である。
4	10.30～15.15m ・裸質砂である。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事	
11	5.30～6.92m ・裸である。
13	6.92～10.30m ・裸混じり砂である。 ・シルトを混入する不均質な砂が主体である。
14	10.30～15.15m ・裸質砂である。

委託報告書
(平成30年)



審査資料
(平成30年11月30日)

記 事	
11	5. 30～6. 92m ・ 礫である。
13	6. 92～10. 30m ・ 礫混じり砂である。 ・ シルトを混入する不均質な砂が主体である。
14	10. 30～15. 15m ・ 礫質砂である。

審査資料
(令和2年2月7日)

	記 事
11	5.30～6.92m ・礫である。
13	6.92～10.30m ・礫混じり砂である。 ・シルトを混入する不均質な砂が主体である
14	10.30～15.15m ・礫質砂である。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
11,12	変更なし	変更なし	・礫の区間深度とその細分、礫種を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・柱状図に対応した層相名を記載することとしているため、 礫種や区間の細分については追記せず。	変更なし
13	変更なし	変更なし	・礫混じり砂の区間深度とその構成粒子を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・礫については、当該区間を構成する主体的な粒子ではないため追記せず。	変更なし
14	変更なし	変更なし	・礫質砂の区間深度とその構成粒子を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・柱状図に対応した層相名を記載することとしているため、 礫種や粒度については追記せず。	変更なし

H24-B8-21

設置許可申請書案

記事	
15	15.15~17.00m 砂礫である。
16	17.00~17.48m スライム
17	17.48~17.78m 礫混り砂質シルトである。
18	17.78~18.46m 礫混りシルト質砂である。
19	18.46~19.00m シルトを多く含む不均質な砂で細礫が混在する。
20	19.46~19.73m 有機質砂である。
21	19.73~22.00m 礫質砂である。
22	22.00~22.63m 有機物・礫混り砂である。
23	22.63~23.64m 礫質砂である。
24	23.64~24.25m 砂礫である。 ・径2~20mm垂角礫を含む。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

15. 15~17. 00m
・砂礫である。

17. 00~17. 48m
・スライム。

17. 48~17. 78m
・塊泥り砂質シルトである。

17. 78~19. 46m
・塊泥りシルト質砂である。
シルトを多く含む不均質な砂で細礫が混る

19. 46~19. 73m
・有機質砂である。

19. 73~22. 00m
・堆積砂である。

22. 00~22. 63m
・有機物・塊泥り砂である。

22. 63~23. 64m
・塊質砂である。

23. 64~24. 43m
・砂礫である。

24. 43~25. 00m
・砂礫・砂質シルトを多く含む

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事	
15	15.15~17.00m ・砂礫である。
16	17.00~17.48m ・スライム。
17	17.48~17.78m ・緑泥じり砂質シルトである。
19	17.78~19.40m ・緑泥じりシルト質砂である。 ・シルトを多く含む不均質な砂で緑泥が混 入する。
20	19.46~19.73m ・有機質砂である。
21	19.73~22.00m ・緑質砂である。
22	22.00~22.63m ・有機物・緑泥じり砂である。
23	22.63~23.64m ・緑質砂である。
24	23.64~24.43m ・砂礫である。 (砂?20%の黒色泥を含ま

委託報告書
(平成30年)

[illegible]

審査資料
(平成30年11月30日)

	記 事
15	15.15～17.00m ・砂礫である。
16	17.00～17.48m ・スライム。
17	17.48～17.78m ・礫混じり砂質シルトである。
19	17.78～19.46m ・礫混じりシルト質砂である。 ・シルトを多く含む不均質な砂で礫混じり。
20	19.46～19.73m ・有核質砂である。
21	19.73～22.00m ・礫質砂である。
22	22.00～22.63m ・有核物・礫混じり砂である。
23	22.63～23.64m ・礫質砂である。
24	23.64～24.43m ・砂礫である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事

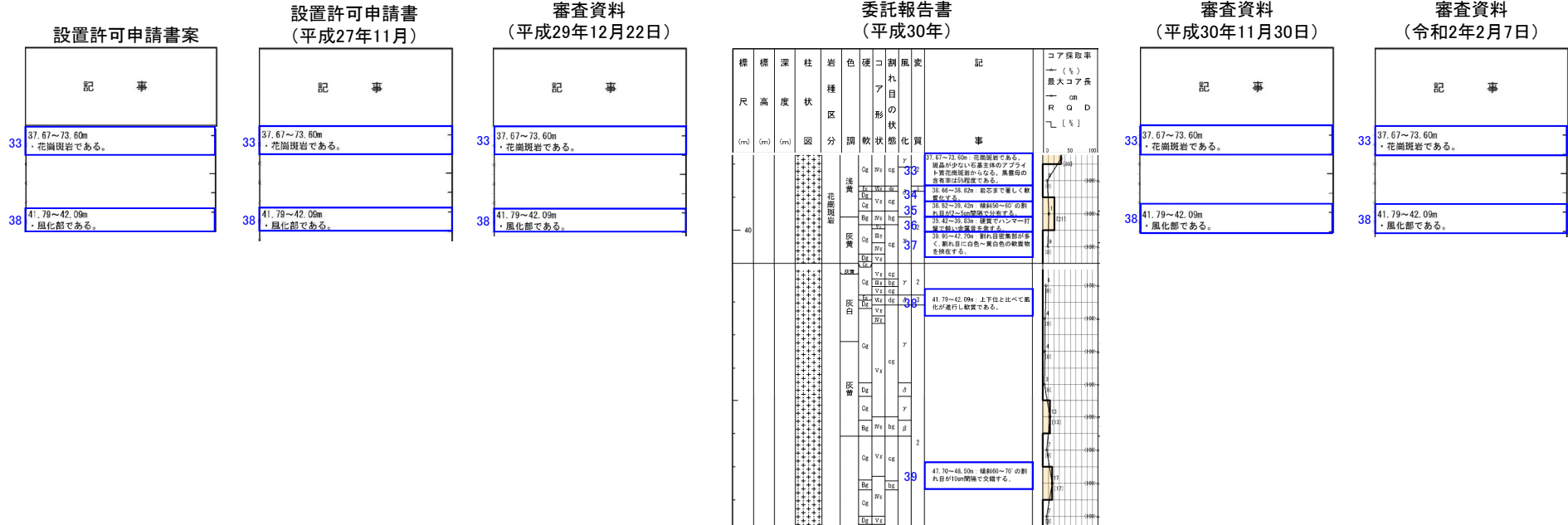
15. 15.15～17.00m
・砂礫である。
16. 17.00～17.48m
・スライム。
17. 17.48～17.78m
・礫混じり砂質シルトである。
19. 17.78～18.46m
・礫混じりシルト質砂である。
・シルトを多く含む不均質な砂で礫層が混じる。
20. 19.46～19.73m
・有機質砂である。
21. 19.73～22.06m
・礫質砂である。
22. 22.00～22.63m
・有機物・礫混じり砂である。
23. 22.63～23.64m
・礫質砂である。
24. 23.64～24.43m
・砂礫である。
・砂質・20m以上の基角礫を含まず。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
15	変更なし	変更なし	・砂礫の区間深度とその細分、構成粒子を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・柱状図に対応した層相名を記載することとしているため 礫種、粒度、区間の細分については追記せず。	変更なし
16	変更なし	変更なし	・スライムの区間深度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・報告書と差異なし。	変更なし
17,18	変更なし	変更なし	・礫混じり砂質シルトの区間深度とその細分を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・柱状図に対応した層相名を記載することとしているため 区間の細分については追記せず。	変更なし
19	変更なし	変更なし	・礫混じりシルト質砂の区間深度とその構成粒子、堆積構造を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・堆積構造については、コア写真で表示することとして追記せず。	変更なし
20	変更なし	変更なし	・有機質砂の区間深度とその構成粒子を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・柱状図に対応した層相名を記載することとしているため、 淘汰度については追記せず。	変更なし
21	変更なし	変更なし	・礫質砂の区間深度とその構成粒子を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・柱状図に対応した層相名を記載することとしているため、 礫種、粒度については追記せず。	変更なし
22	変更なし	変更なし	・有機質土混じり礫質砂の区間深度とその構成粒子、堆積構造を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・柱状図に対応した層相名を記載することとしているため、 淘汰度や堆積構造については追記せず。	変更なし
23	変更なし	変更なし	・礫質砂の区間深度とその細分を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・柱状図に対応した層相名を記載することとしているため、 区間の細分については追記せず。	変更なし
24	変更なし	変更なし	・砂礫の区間深度とその構成粒子を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・上部の礫質区間については、境界が不明瞭であるため 追記せず。	変更なし

設置許可申請書案			設置許可申請書 (平成27年11月)			審査資料 (平成29年12月22日)			委託報告書 (平成30年)			審査資料 (平成30年11月30日)			審査資料 (令和2年2月7日)		
記 事			記 事			記 事						記 事			記 事		
25	24.43~25.28m ・スライム。		25	24.43~25.28m ・スライム。		25	24.43~25.28m ・スライム。		25	24.43~25.28m: スライムである。		25	24.43~25.28m ・スライム。		25	24.43~25.28m ・スライム。	
26	25.28~26.51m ・礫混じり砂である。		26	25.28~26.51m ・礫混じり砂である。		26	25.28~26.51m ・礫混じり砂である。		26	25.28~26.51m: 礫混じり砂である。礫の分布は平均質である。25.40m以下は下層に比べ礫径、礫率とも大きい。		26	25.28~26.51m ・礫混じり砂である。		26	25.28~26.51m ・礫混じり砂である。	
27	26.51~37.67m ・砂礫である。		27	26.51~37.67m ・砂礫である。		27	26.51~37.67m ・砂礫である。		27	26.51~37.67m: 砂礫である。		27	26.51~37.67m ・砂礫である。		27	26.51~37.67m ・砂礫である。	

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
25	変更なし	変更なし	・スライムの区間深度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・報告書と差異なし。	変更なし
26	変更なし	変更なし	・礫混じり砂の区間深度とその細分を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・柱状図に対応した層相名を記載することとしているため 区間の細分については追記せず。	変更なし
27～32	変更なし	変更なし	・砂礫の区間深度とその細分を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・柱状図に対応した層相名を記載することとしているため 区間の細分については追記せず。	変更なし

H24-B8-21



記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
33	変更なし	変更なし	・花崗斑岩区間の石基及び斑晶の種類、粒径等を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため追記せず。	変更なし
34	—	—	・硬軟を記載。	・硬軟については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
35	—	—	・割れ目の発達の程度を記載。	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
36	—	—	・硬軟を記載。	・硬軟については、岩級区分で示しているため追記せず。	—
37	—	—	・割れ目の発達の程度を記載。 ・割れ目について記載(軟質物の挟在)。	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・割れ目に軟質物を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—
38	変更なし	変更なし	・硬軟の分布状況を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・“風化”欄に基づき風化部と記載。	変更なし
39	—	—	・割れ目の発達の程度を記載。	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—

H24-B8-21

設置許可申請書案

記事

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

委託報告書
(平成30年)

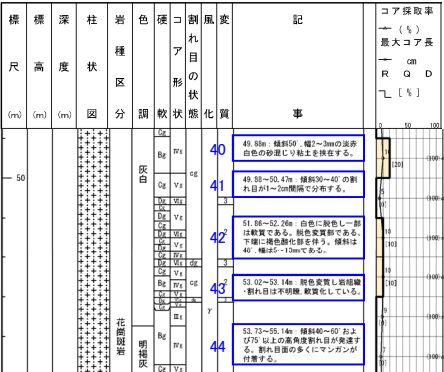
標尺	標高	深	柱	岩	色	硬	割	風	記	コア採取率
尺	度	状	種	区	調	軟	れ <td>化<td>事</td><td>(%)</td></td>	化 <td>事</td> <td>(%)</td>	事	(%)
(m)	(m)	(m)	図	分	軟	状	目	質		最大コア長
							の			cm
							形			R Q D
							状			[%]

審査資料
(平成30年11月30日)

記事

審査資料
(令和2年2月7日)

記事



記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
40	—	—	・割れ目について記載(砂混じり粘土の挟在)。	・粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—
41	—	—	・割れ目の発達程度を記載。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
42,43	—	—	・変質を伴う軟質化を記載。	・軟質化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—
44	—	—	・割れ目の発達程度を記載。 ・割れ目について記載(マンガン汚染)。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・マンガン汚染については、補足的なものであるため追記せず。	—

H24-B8-21

設置許可申請書案

事記

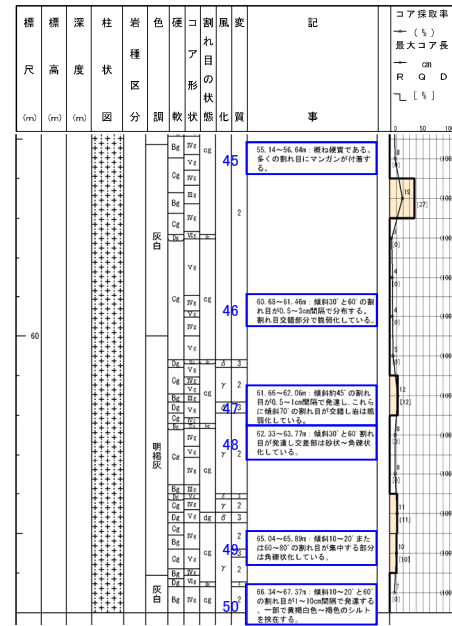
設置許可申請書
(平成27年11月)

事記

審査資料
(平成29年12月22日)

事 記

委託報告書
(平成30年)



審査資料
(平成30年11月30日)

事記

審査資料
(令和2年2月7日)

事記

50 66.34~67.37m
・割れ目が多く。角礫状を呈する。

50 66.34~67.37m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

50 66.34~67.37m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

50 66.34~67.37m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

50 66.34~67.37m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
45	—	—	・硬軟を記載。 ・割れ目について記載(マンガン汚染)。	・硬軟については、良好な岩盤からなる区間内における相対的なものであるため追記せず。 ・マンガン汚染については、補足的なものであるため追記せず。	—
46～49	—	—	・割れ目の発達や脆弱性の程度を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの砂状化)。	・割れ目の発達や脆弱性の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・一部で砂状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—
50	変更なし	変更なし	・割れ目の発達の程度を記載。 ・割れ目について記載(シルトの挟在)。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・割れ目の発達の程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。 ・割れ目にシルトを挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	変更なし

H24-B8-21

設置許可申請書案

	記 事
52	70.46~70.53m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
55	73.60~160.40m ・アブライトである。

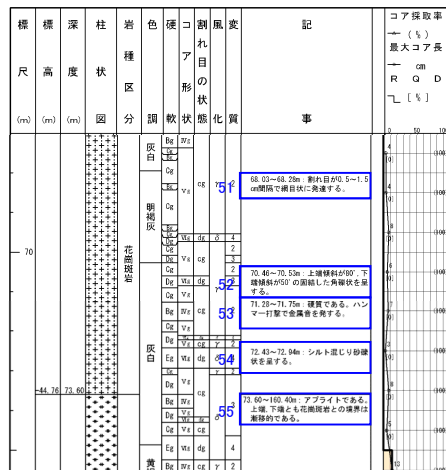
設置許可申請書
(平成27年11月)

	記 事
52	70.46~70.53m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
55	73.60~160.40m ・アブライトである。

審査資料
(平成29年12月22日)

	記 事
52	70.46~70.53m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
55	73.60~160.40m ・アブライトである。

委託報告書
(平成30年)



審査資料
(平成30年11月30日)

	記事
52	70.46～70.53m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
55	73.60～160.40m ・アブライトである。

審査資料
(令和2年2月7日)

	記 事
52	70.46~70.53m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
55	73.60~160.40m ・アブライトである。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
51	—	—	・割れ目の発達を記載。	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
52	変更なし	変更なし	・割れ目について記載(固結した角礫状)。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・境界の傾斜については、ばらつきがあるため追記せず。 ・劣化部の固結の程度については、ボーリング間で必ずしも統一的な記載ではないため追記せず。	変更なし
53	—	—	・硬軟を記載。	・硬軟については、岩級区分で示しているため追記せず。	—
54	—	—	・シルト混じり砂礫状の区間を記載。	・硬軟及び割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
55	変更なし	変更なし	・アブライトの区間深度、境界の明瞭さを記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・境界の明瞭さについては、補足的なものであるため追記せず。	変更なし

H24-B8-21

設置許可申請書案

記事

5675.56～76.01m
・割れ目が多く角礫状を呈する。
5776.01～77.36m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

5675.56～76.01m
・割れ目が多く角礫状を呈する。
5776.01～77.36m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

5675.56～76.01m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。
5776.01～77.36m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

委託報告書
(平成30年)

標	標	深	柱	岩	色	硬	割	風	記	コア採取率
尺	高	度	状	種	調	軟	れ	化	事	— (%)
(m)	(m)	(m)	図	分	軟	状	目	質		最大コア長
							の			— cm
							形			R Q D
							状			「 % 」

5675.56～76.01m 標5～10mの最角礫を占める礫状コアを呈する。
5776.01～77.36m 礫状コア中の割れ目が5～10cm間隔で発達する。一部で土砂化～細粒化している。
5877.36～77.88m 礫状コアと70の割れ目が5～10cm間隔で交錯する。コアは礫状で硬質である。
5978.01～78.33m 細粒硬質の砂・礫混じりシルト状を呈する。礫約5割T～13mmである。

審査資料
(平成30年11月30日)

記事

5675.56～76.01m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。
5776.01～77.36m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記事

5675.56～76.01m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。
5776.01～77.36m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
56	変更なし	変更なし	・砂礫状の区間を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・砂礫状については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。	変更なし
57	変更なし	変更なし	・割れ目の発達の程度を記載。 ・割れ目について記載(土砂化～細粒化)。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・割れ目の発達の程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。 ・部分的な土砂化～細粒化については、直線性に乏しく、同系統の劣化が認められないことから追記せず。	変更なし
58	—	—	・硬軟や割れ目の発達の程度を記載。	・硬軟や割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
59	—	—	・砂・礫混じりシルト状の区間を記載。	・砂・礫混じりシルト状を呈するが、周囲の岩壁に劣化が認められないことから追記せず。	—

設置許可申請書案					
設置許可申請書案					
記事					
60	●79.86～80.17m ・破砕部である。 ・黒褐色の砂混りシルト状～炭褐色の粘土質砂礫状を呈する。 ・黒褐色砂混りシルト：累計厚6mm ・走向・傾斜はN18° E89° Wである。 ・上盤境界の傾斜は53°、下盤境界の傾斜は30°である。 80.76～81.03m ・割れ目が多く角礫状を呈する。 81.03～82.37m ・割れ目間隔が広く、柱状を呈する。	60	●79.86～80.17m ・破砕部である。 ・黒褐色の砂混りシルト状～炭褐色の粘土質砂礫状を呈する。 ・黒褐色砂混りシルト：累計厚6mm ・走向・傾斜はN18° E89° Wである。 ・上盤境界の傾斜は53°、下盤境界の傾斜は30°である。 80.76～81.03m ・割れ目が多く角礫状を呈する。 81.03～82.37m ・割れ目間隔が広く、柱状を呈する。	60	●79.86～80.17m (f-b8-21-I破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に灰黄色の固結礫状部からなる。 ・淡赤白色の未固結粘土状部；累計幅0.9cm ・走向・傾斜はN18° E89° Wである。 ・上端境界の傾斜は53°、下端境界の傾斜は30°である。 80.76m ・割れ目が多く角礫状を呈する。 81.03～82.37m ・割れ目間隔が広く、柱状を呈する。
委託報告書 (平成30年)					
記事					
60	●79.86～80.17m (f-b8-21-I破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に灰黄色の固結礫状部からなる。 ・淡赤白色の未固結粘土状部；累計幅0.9cm ・走向・傾斜はN18° E89° Wである。 ・上端境界の傾斜は53°、下端境界の傾斜は30°である。 80.76m ・割れ目が多く角礫状を呈する。 81.03～82.37m ・割れ目間隔が広く、柱状を呈する。	60	●79.86～80.17m (f-b8-21-I破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に灰黄色の固結礫状部からなる。 ・淡赤白色の未固結粘土状部；累計幅0.9cm ・走向・傾斜はN18° E89° Wである。 ・上端境界の傾斜は53°、下端境界の傾斜は30°である。 80.76m ・割れ目が多く角礫状を呈する。 81.03～82.37m ・割れ目間隔が広く、柱状を呈する。	60	●79.86～80.17m (f-b8-21-I破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に灰黄色の固結礫状部からなる。 ・淡赤白色の未固結粘土状部；累計幅0.9cm ・走向・傾斜はN18° E89° Wである。 ・上端境界の傾斜は53°、下端境界の傾斜は30°である。 80.76m ・割れ目が多く角礫状を呈する。 81.03～82.37m ・割れ目間隔が広く、柱状を呈する。
審査資料 (令和2年2月7日)					
記事					
60	●79.86～80.17m (f-b8-21-I破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に灰黄色の固結礫状部からなる。 ・淡赤白色の未固結粘土状部；累計幅0.9cm ・走向・傾斜はN18° E89° Wである。 ・上端境界の傾斜は53°、下端境界の傾斜は30°である。 80.76m ・割れ目が多く角礫状を呈する。 81.03～82.37m ・割れ目間隔が広く、柱状を呈する。	60	●79.86～80.17m (f-b8-21-I破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に灰黄色の固結礫状部からなる。 ・淡赤白色の未固結粘土状部；累計幅0.9cm ・走向・傾斜はN18° E89° Wである。 ・上端境界の傾斜は53°、下端境界の傾斜は30°である。 80.76m ・割れ目が多く角礫状を呈する。 81.03～82.37m ・割れ目間隔が広く、柱状を呈する。	60	●79.86～80.17m (f-b8-21-I破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に灰黄色の固結礫状部からなる。 ・淡赤白色の未固結粘土状部；累計幅0.9cm ・走向・傾斜はN18° E89° Wである。 ・上端境界の傾斜は53°、下端境界の傾斜は30°である。 80.76m ・割れ目が多く角礫状を呈する。 81.03～82.37m ・割れ目間隔が広く、柱状を呈する。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
60～62	変更なし	・破砕帯名を記載。 ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。	変更なし
63	—	—	・割れ目の発達を程度を記載。	・割れ目の発達を程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
64	変更なし	(誤記)80.76～81.03mと書くべきところを誤って80.76mと記載。	・シルト混じり砂礫状の区間を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・シルト混じり砂礫状については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。	変更なし
65	変更なし	変更なし	・割れ目の発達を程度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・割れ目の発達を程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	変更なし
66	—	—	・割れ目の発達を程度を記載。	・割れ目の発達を程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—

H24-B8-21

設置許可申請書案

記事

●88. 67～88. 71m
・破砕部である。
・褐色の粘土状～黄白色の砂混りシルト状を呈する。
・褐色粘土：累計厚12mm
・走向・傾斜はN34° E89° NWである。
・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は38°である。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

●88. 67～88. 71m
・破砕部である。
・褐色の粘土状～黄白色の砂混りシルト状を呈する。
・褐色粘土：累計厚12mm
・走向・傾斜はN34° E89° NWである。
・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は38°である。

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

●88. 67～88. 71m(f-b8-21-2破砕帯)
・破砕部である。
・主に黄白色の固結礫状部からなる。
・褐色の未固結粘土状部：累計幅0. 2cm
・走向・傾斜はN41° E81° NWである。
・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は38°である。

委託報告書
(平成30年)

記事

●88. 67～88. 71m(f-b8-21-2破砕帯)
・破砕部である。
・主に黄白色の固結礫状部からなる。
・褐色の未固結粘土状部：累計幅0. 2cm
・走向・傾斜はN41° E81° NWである。
・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は38°である。

審査資料
(平成30年11月30日)

記事

●88. 67～88. 71m(f-b8-21-2破砕帯)
・破砕部である。
・主に黄白色の固結礫状部からなる。
・褐色の未固結粘土状部：累計幅0. 2cm
・走向・傾斜はN41° E81° NWである。
・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は38°である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記事

●88. 67～88. 71m(f-b8-21-2破砕帯)
・破砕部である。
・主に黄白色の固結礫状部からなる。
・褐色の未固結粘土状部：累計幅0. 2cm
・走向・傾斜はN41° E81° NWである。
・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は38°である。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
67	—	—	・割れ目の発達を記載。 ・割れ目について記載(一部土砂状)。	・割れ目については、掘削時の機械割れと判断し追記せず。 ・土砂状については、表層の細粒分が割れ目を充填したものと判断し削除。	—
68～70	変更なし	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・誤記修正(N34° E89° W→N41° E81° W)。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため追記せず。	変更なし
71	—	—	・シルト混じり砂礫状の区間を記載。	・砂礫状については、周囲の岩盤が劣化が認められないことから追記せず。	—

H24-B8-21

設置許可申請書案

●92.86~93.53m (D-5破砕帯)

- ・破砕帯である。
- ・石ずれ正断層センスである。
- ・にぶい黄橙～明褐色の粘土混り角礫状～灰白色の角礫状を呈する。
- ・走向・傾斜はN65°W2°Eである。
- ・下盤境界の傾斜は70°である。

設置許可申請書
(平成27年11月)

● 92. 86 ~ 93. 53m (D-5 破砕帯)
・ 破砕部である。
・ 右ずれ正断層センスである。
・ にぶい黄棕 ~ 明褐色の粘土混り角礫状 ~ 灰白色の角礫状を呈する。
・ 走向・傾斜は N65° W82° E である。
・ 下盤境界の傾斜は 70° である。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

- 92.86~93.53m (D-5破砕帯)
- ・ 破砕部である。
- ・ 右ずれ正断層センスである。
- ・ 主に褐灰色の固結粒状部からなる。
- ・ 褐色の未固結粘土状部：累計幅0.8cm
- ・ 走向・傾斜はN5°W2°である。
- ・ 下端境界の傾斜は10°である。

委託報告書
(平成30年)

標	標	深	柱	岩	色	硬	割	風	記		コア採取数 (%)
尺	高	度	状	種	区	分	れ	質			最大コア数
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	形	化	事		cm R Q L (%)
					硬 質 灰	74	2				3 50
					硬 質 灰	72					4
					硬 質 灰	73					4 W
					硬 質 灰	74					4 W
					硬 質 灰	74					(11)
					硬 質 灰	75					

審査資料
(平成30年11月30日)

72	記事
5	<p>● 92.86~93.53m (0-5破砕帯)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に褐灰色の固結礫状部からなる。 ・褐色の未固結粘土状部、累計幅0.8cm ・走向・傾斜はN5° W32° Eである。 ・下破砕帯の傾斜は70° である。

審査資料
(令和2年2月7日)

● 92.86 ~ 93.53m (D-5破砕帯)

- ・ 破砕部である。
- ・ 右ずれ正断層センスである。
- ・ 主に褐灰色の固結礫状部からなる。
- ・ 褐色の未固結粘土状部：累計幅0.8cm
- ・ 走向・傾斜はN5° W82° Eである。
- ・ 下端境界の傾斜は70° である。

記事	申請書案⇒ 申請書 (H27.11)	申請書 (H27.11) ⇒ 審査資料 (H29.12.22)	審査資料 (H29.12.22) ⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30) ⇒ 審査資料 (R2.2.7)
72～75	変更なし	<p>・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22) までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩 (断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト) を判断。その後、申請書提出から審査会合 (H29.12.22) までの間に薄片観察による断層岩区分を行ったが、肉眼観察による判断結果から変更は無い。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。</p> <p>・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。</p>	<p>・破砕幅を記載。</p> <p>・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。</p> <p>・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分 (固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ) を併記。</p> <p>・下端境界の見かけ傾斜について、70° と書くべきところを誤って75° と記載。</p>	<p>・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。</p> <p>・割れ目の密集部については、固結礫状部に含めているため追記せず。</p>	変更なし

H24-B8-21

設置許可申請書案

記 事

95.56~95.87m

76

- ・風化節である。
- ・割れ目が多く、角礫状を呈する。

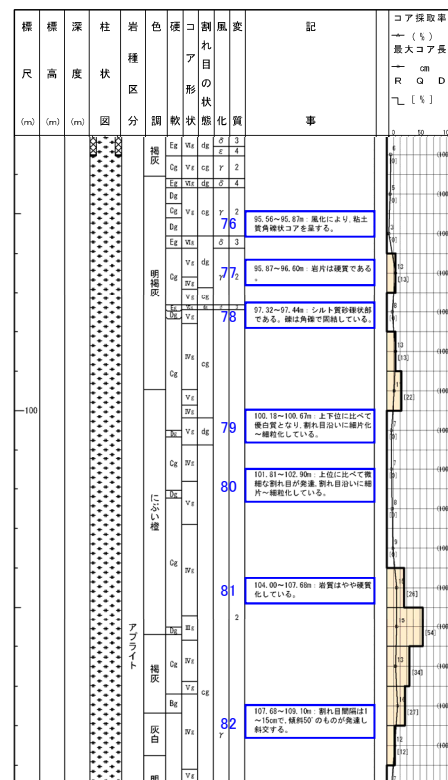
設置許可申請書
(平成27年11月)

76	<p>95, 56~95, 87m ・風化部である。 ・割れ目が多く、角礫状を呈する。</p>
----	---

審査資料
(平成29年12月22日)

95. 56~95. 87m
 ・風化部である。
 ・割れ目が多く、角礫状を呈する。

委託報告書
(平成30年)



審査資料
(平成30年11月30日)

76	<p>95.56~95.87m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風化部である。 ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
----	--

審査資料
(令和2年2月7日)

95.56~95.87m
 ・風化部である。
 ・割れ目が多く、角礫状を呈する。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
76	変更なし	変更なし	・粘土質角礫状の区間を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・“風化”欄に基づき風化部と記載。 ・粘土質については、当該区間内に不均質に含まれるものであるため追記せず。	変更なし
77	—	—	・硬軟を記載。	・硬軟については、岩級区分で示しているため追記せず。	—
78	—	—	・シルト質砂礫状の区間を記載。	・砂礫状を呈するが、直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—
79,80	—	—	・割れ目について記載(細片化～細粒化)。	・細片化～細粒化しているが、連続性や直線性に乏しいことから追記せず。	—
81	—	—	・硬軟を記載。	・硬軟については、岩級区分で示しているため追記せず。	—
82	—	—	・割れ目の発達を程度を記載。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—

設置許可申請書案

記事

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

委託報告書
(平成30年)

標高	標尺	深	柱	岩	色	硬	割	風	記	コア採取率
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	れ <td>化</td> <td>事</td> <td>(%)</td>	化	事	(%)
							目	質		最大コア長
							の			cm
							状			R Q D
							態			[%]
							化			
							真			

109.41~109.90m	割れ目傾度は少なく、割れ目沿いは概算な薄片状である。
110.84~112.00m	割れ目傾度は3~6m、割れ目沿いは粘土質が充填され褐色化している。
112.09~112.60m	断面な線方角の割れ目が分布するが、岩体は硬質である。
112.60~113.12m	割れ目沿いに褐色化している。傾斜45°、幅30cmである。
113.12~113.40m	断面な割れ目に白色の粘土質が充填している。
113.40~114.14m	断面な割れ目に割れ目が発達する。下地層は明瞭な傾斜45°である。

審査資料
(平成30年11月30日)

記事

審査資料
(令和2年2月7日)

記事

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
83	—	—	・割れ目の発達程度を記載。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
84	—	—	・割れ目の発達程度を記載。 ・褐色化について記載。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・色調については、補足的なものであるため追記せず。	—
85	—	—	・硬軟や割れ目の発達程度を記載。	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
86	—	—	・割れ目について記載(褐色化)。	・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため追記せず。	—
87	—	—	・割れ目について記載(粘土脈)。	・一部に粘土を挟在するが、系統的でなく、連続性や直線性に乏しいことから追記せず。	—
88	—	—	・割れ目の発達程度を記載。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—

H24-B8-21

設置許可申請書案

事 記

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

委託報告書
(平成30年)



審査資料
(平成30年11月30日)

事記

審査資料
(令和2年2月7日)

記事

記事	申請書案⇒ 申請書 (H27.11)	申請書 (H27.11)⇒ 審査資料 (H29.12.22)	審査資料 (H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
89	—	—	・割れ目について記載(褐色化)。	・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため追記せず。	—
90	—	—	・硬軟や割れ目の発達度を記載。	・硬軟や割れ目の発達度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
91	—	—	・軟質化、変質鉱物を記載。	・硬軟については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・鉱物の晶出については、補足的なものであるため追記せず。	—
92	—	—	・粘土の記載。	・一部で粘土を挟在するが、連続性や直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—

H24-B8-21

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
93.94	変更なし	変更なし	・割れ目の発達度を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの細片化)。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・割れ目の発達度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。 ・一部割れ目沿いで細片化しているが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	変更なし
95	—	—	・粘土の挟在を記載。	・割れ目に粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—
96	—	—	・割れ目について記載(割れ目沿いの粘土の挟在、褐色化)。	・割れ目に粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。 ・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため追記せず。	—
97	—	—	・褐色化を記載。	・色調については、補足的なものであるため追記せず。	—
98	—	—	・割れ目の発達度を記載。	・割れ目の発達度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
99	変更なし	変更なし	・角礫状の区間を記載。 ・割れ目について記載(粘土の挟在)。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・割れ目に挟在する粘土については、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	変更なし
100	—	—	・割れ目の発達度を記載。 ・割れ目について記載(粘土の挟在)。	・割れ目の発達度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・割れ目に粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから追記せず。	—

設置許可申請書案

記事

103

●131.03～131.14m
・破砕部である。
・灰黄褐色の粘土混り砂礫～粘土混り角礫状を呈する。
・走向・傾斜はN3° W84° Wである。
・上端境界の傾斜は62°、下端境界の傾斜は40°である。

104

131.28～131.88m
・割れ目が多く角礫状を呈する。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

103

●131.03～131.14m
・破砕部である。
・灰黄褐色の粘土混り砂礫～粘土混り角礫状を呈する。
・走向・傾斜はN3° W84° Wである。
・上端境界の傾斜は62°、下端境界の傾斜は40°である。

104

131.28～131.88m
・割れ目が多く角礫状を呈する。

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

103

●131.03～131.14m
・破砕部である。
・右ずれセシスである。
・灰黄褐色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN3° W84° Wである。
・上端境界の傾斜は62°、下端境界の傾斜は40°である。

104

131.28～131.88m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

委託報告書
(平成30年)

記事

101

129.03～129.05m 傾斜40～60°の
断層面が認められる。傾斜40°の
断層が形成し、傾斜40～60°の割れ目
に不規則な割れ目が散在する。

102

129.05～130.05m 上に述べた断
層が形成し、傾斜40～60°の割れ目
に不規則な割れ目が散在する。

103

●131.03～131.14m: 破砕部
破砕幅は、7mである。
粘土混り砂礫状を呈する。灰
黄褐色の固結した礫状部からな
る。上端境界の傾斜は62°、下
端境界の傾斜は40°である。

104

131.28～131.88m: 角礫状を呈する
断層面に傾斜40°の断層が形成している。

審査資料
(平成30年11月30日)

記事

103

●131.03～131.14m
・破砕部である。
・右ずれセシスである。
・灰黄褐色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN3° W84° Wである。
・上端境界の傾斜は62°、下端境界の傾斜は40°である。

104

131.28～131.88m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記事

103

●131.03～131.14m
・破砕部である。
・右ずれセシスである。
・灰黄褐色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN3° W84° Wである。
・上端境界の傾斜は62°、下端境界の傾斜は40°である。

104

131.28～131.88m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
101	—	—	・硬軟や割れ目の発達を記載。	・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
102	—	—	・割れ目の発達を記載。	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
103	変更なし	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位セシスを記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。	・破砕幅を記載。 ・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。	変更なし
104	変更なし	変更なし	・割れ目について記載(角礫状)。 ・網目状の破砕を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・網目状の破砕については、当該区間に系統的な網目がないことから追記せず。	変更なし

設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)	委託報告書 (平成30年)	審査資料 (平成30年11月30日)	審査資料 (令和2年2月7日)
記事	記事	記事	記事	記事	記事
105 S 107	105 S 107	105 S 107	105 S 107	105 S 107	105 S 107
●131.88～132.82m ・破砕部である。 ・暗褐色の粘土状～浅黄褐色～褐色の粘土混り角礫状を呈する。 ・暗褐色粘土：累計厚13mm ・走向・傾斜はN15° E80° Eである。 ・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は60°である。	●131.88～132.82m ・破砕部である。 ・暗褐色の粘土状～浅黄褐色～褐色の粘土混り角礫状を呈する。 ・暗褐色粘土：累計厚13mm ・走向・傾斜はN15° E80° Eである。 ・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は60°である。	●131.88～132.82m ・破砕部である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・暗褐色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は0.4cmである。 ・走向・傾斜はN1° E85° Wである。 ・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は60°である。	●131.88～132.82m ・破砕部である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・暗褐色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は0.4cmである。 ・走向・傾斜はN1° E85° Wである。 ・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は60°である。	●131.88～132.82m ・破砕部である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・主に褐色の固結礫状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅0.4cm ・走向・傾斜はN1° E85° Wである。 ・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は60°である。	●131.88～132.82m ・破砕部である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・主に褐色の固結礫状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅0.4cm ・走向・傾斜はN1° E85° Wである。 ・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は60°である。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
105～107	変更なし	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・誤記修正(N15° E80° E⇒N1° E85° W)	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。	・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・割れ目の密集部については、固結礫状部に含めているため追記せず。 ・上端にマンガンが濃集するとの記載については、補足的なものであるため追記せず。 ・上端のせん断面に粘土が分布するが、粘土の幅の膨縮が著しく、直線性に乏しいことから、固結礫状部に含めているため追記せず。 ・誤記修正(“主に褐色の固結礫状部からなる。”と記載。)	変更なし

H24-B8-21

設置許可申請書案

記 事	
108	●135, 30°～135, 52n° ・破砕部である。 ・灰褐～灰白色の粘土状～淡黄橙～灰白～淡黄褐色の粘土混り砂状を呈する。 ・灰褐～灰白色粘土。累計計15mm ・走向・傾斜は60° E88° である。 ・上盤境界の傾斜は60°、下盤境界の傾斜は60°である。
112	●137, 72°～138, 18n° ・破砕部である。 ・赤褐色の塊状～粒状粘土～灰白～淡黄色の粘土混り砂礫。上盤より下盤にかけて、 ・赤褐色塊状粘土。累計計30mm ・走向・傾斜は22° E78° である。 ・上盤境界の傾斜は20°、下盤境界の傾斜は65°である。

設置許可申請書
(平成27年11月)

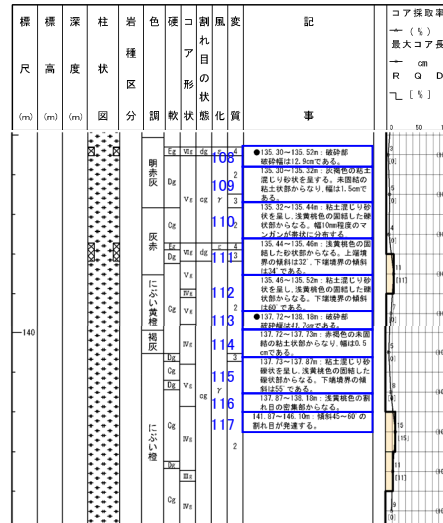
記 事	
108	●135.30~135.52m
●	・破砕部である。
●	・灰褐→灰白色の粘土状→淡黄橙→灰白→淡黄色の粘土状砂を呈する。
●	・灰褐→灰白色粘土。厚計約15mm
●	・赤褐色凝結した。厚計約5mm
●	・上盤境界の傾斜は60°、下盤境界の傾斜は60°である。
113	●137.72~138.18m
●	・破砕部である。
●	・赤褐色の凝結した粘土状→灰白→淡黄色の粘土状り砂→粘土状り角礫を呈する。
●	・赤褐色凝結した。厚計約30mm
●	・走向・斜傾はN22°Eである。
●	・上盤境界の傾斜は20°、下盤境界の傾斜は65°である。

審査資料
(平成29年12月22日)

● 135.30~135.52m
・破砕部である。
・左ずれセツスである。
・主に浅黄褐色の固結礫状部からなる。
・灰褐色の未固結粘土部・黒計幅1.5cm
・走向・傾斜はN58° E68°である。
・上端境界の傾斜は60°，下端境界の傾斜は60°である。

● 137.72~138.18m
・破砕部である。
・左ずれセツスである。
・主に浅黄褐色の固結礫状部からなる。
・灰褐色の未固結粘土部・黒計幅0.5cm
・走向・傾斜はN44° E74°である。
・上端境界の傾斜は20°，下端境界の傾斜は55°である。

委託報告書
(平成30年)



審査資料
(平成30年11月30日)

記 事	
108	● 135. 30 ~ 135. 52m 破砕部である。 左ずれセンスである。
112	● 主に黄褐色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 灰色色の未固結粘土部：累計幅 1.5cm 走向・傾斜は N58° E68° S である。 上端境界の傾斜は 60°，下端境界の傾斜は 60° である。
113	● 137. 72 ~ 138. 18m 破砕部である。 左ずれセンスである。
116	● 主に黄褐色の固結礫状部からなる。 赤褐色の未固結粘土部：累計幅 0.5cm 走向・傾斜は N47° E79° S である。 上端境界の傾斜は 20°，下端境界の傾斜は 55° である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事	
	<p>● 135. 30～135. 52m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・主に浅黄褐色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。</p> <p>・灰褐色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN58° E68° である。 ・上層境界の傾斜は60°、下層境界の傾斜は60°である。</p> <p>● 137. 72～138. 18m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・主に浅黄褐色の固結礫状部からなる。 ・赤褐色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・走向・傾斜はN41° E79° Wである。 ・上層境界の傾斜は20°、下層境界の傾斜は55°である。</p>

記事	申請書案⇒ 申請書 (H27.11)	申請書 (H27.11)⇒ 審査資料 (H29.12.22)	審査資料 (H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
108～112	変更なし	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22) までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩 (断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト) を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分 (固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ) を併記。	審査資料 (H29.12.22) と同様 ・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・破砕部の各性状間の見かけの傾斜については、補足的なものであるため追記せず。 ・“マンガンが帯状に分布する”との記載については、補足的なものであるため追記せず。	変更なし
113～116	変更なし	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22) までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩 (断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト) を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・誤記修正 (N22° E78° E→N4° E79° W)。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分 (固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ) を併記。	審査資料 (H29.12.22) と同様 ・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・割れ目の密集部については、固結礫状部に含めているため追記せず。 ・破砕部の各性状間の見かけの傾斜については、補足的なものであるため追記せず。	変更なし
117	—	—	・割れ目の発達程度を記載。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—

H24-B8-21

設置許可申請書案

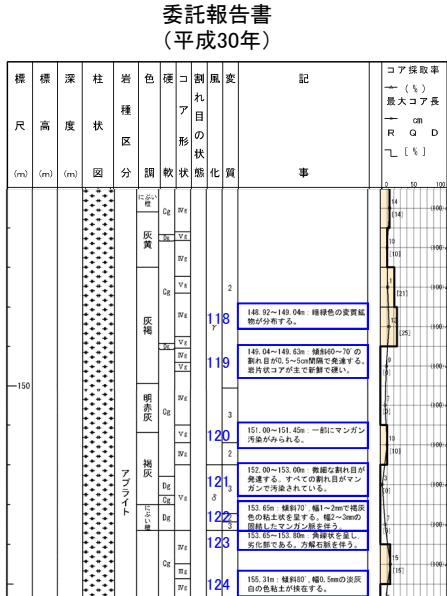
記事

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審査資料
(平成29年12月22日)

記事



審査資料
(平成30年11月30日)

記事

審査資料
(令和2年2月7日)

記事

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
118	—	—	・鉱物の晶出を記載。	・鉱物の晶出については、補足的なものであるため追記せず。	—
119	—	—	・硬軟や割れ目の発達程度を記載。	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
120	—	—	・マンガン汚染を記載。	・マンガン汚染については、補足的なものであるため追記せず。	—
121	—	—	・割れ目の発達程度を記載。 ・マンガン汚染を記載。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・マンガン汚染については、補足的なものであるため追記せず。	—
122,123	—	—	・割れ目の発達程度を記載。 ・粘土の挟在を記載。 ・方解石脈を記載。 ・マンガン脈を記載。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・割れ目に粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。 ・マンガン脈や方解石脈については、補足的なものであるため追記せず。	—
124	—	—	・割れ目について記載(粘土の挟在)。	・割れ目に粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—

設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)	委託報告書 (平成30年)	審査資料 (平成30年11月30日)	審査資料 (令和2年2月7日)
記事	記事	記事	記事	記事	記事
129 160.40～240.00m ・花崗斑岩である。	129 160.40～240.00m ・花崗斑岩である。	129 160.40～240.00m ・花崗斑岩である。		129 160.40～240.00m ・花崗斑岩である。	129 160.40～240.00m ・花崗斑岩である。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
125	—	—	・割れ目の発達程度を記載。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
126	—	—	・割れ目の発達程度を記載。 ・割れ目について記載(マンガン汚染)。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・マンガンについては、補足的なものであるため追記せず。	—
127	—	—	・変質鉱物や斑晶の量を記載。	・鉱物の晶出や斑晶の量については、補足的なものであるため追記せず。	—
128	—	—	・割れ目の発達程度を記載。 ・割れ目について記載(細粒化)。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・割れ目沿いに一部細粒化しているが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—
129	変更なし	変更なし	・花崗斑岩区間の深度区間、境界の状況を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・境界の明瞭さについては、補足的なものであるため追記せず。	変更なし
130	—	—	・割れ目の発達程度を記載。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
131	—	—	・割れ目の発達程度を記載。 ・色調を記載。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・色調については、補足的なものであるため追記せず。	—

H24-B8-21

設置許可申請書案

記事

134 167.22~168.86m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

134 167.22~168.86m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

134 167.22~168.86m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

委託報告書
(平成30年)

標 尺 (m)
標 高 (m)
深 度 (m)
柱 状 区 分 図
岩 種
色 調
硬 軟
割 れ 目 の 状 況
風 化 度
記 事
コア採取率
(%)
最大コア長
cm
R Q D
「%」
132 163.92~164.35m 褐色色を帯び、
緑褐色の変質鉱物が斑状に分布す
る。
133 165.14~165.46m 緑褐色の割れ目
が発達する。角礫な割れ目を
伴う。
134 167.22~168.86m 変質作用による
岩質劣化部である。一部で割れ目
沿いに細片化し、細粒化が顕著で
ある。
135 168.18~168.86m 褐色し灰白色化
している。傾斜60°程度の割れ目が
発達する。
136 168.12~168.42m 変質作用に伴い
緑色を帯びる。岩質は劣化し軟質
である。
137 170.51~170.60m 割れ目及びその
周辺が暗褐色に変質している。

審査資料
(平成30年11月30日)

記事

134 167.22~168.86m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記事

134 167.22~168.86m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
132	—	—	・色調や変質鉱物を記載。	・色調や鉱物の晶出については、補足的なものであるため追記せず。	—
133	—	—	・割れ目の発達程度を記載。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
134	変更なし	変更なし	・劣化部を記載。 ・割れ目について記載(割れ目沿いの細片化、細粒化)。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・一部で細片化、細粒化しているが、連続性に乏しいことから追記せず。 ・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。	変更なし
135	—	—	・色調を記載。 ・割れ目の発達程度を記載。	・色調については、補足的なものであるため追記せず。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
136	—	—	・色調を記載。 ・硬軟を記載。	・色調については、補足的なものであるため追記せず。 ・硬軟については、岩級区分で示しているため追記せず。	—
137	—	—	・割れ目について記載(割れ目沿いの変色)。	・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため追記せず。	—

H24-B8-21

設置許可申請書案

事 記

設置許可申請書
(平成27年11月)

事記

審査資料
(平成29年12月22日)

事記

委託報告書
(平成30年)

標 本 深 柱 岩 色 硬 コ 割 風	記	コア採取率 (%)
尺 高 度 状 種 区 分 顔 軟 状 態 化 質		最大コア長 (m)
(m) (m) (m) 図 分 顔 軟 状 態 化 質		R G D (%)
100	138	0
139	140	0
141	142	0
143	144	0
145	146	0

審査資料
(平成30年11月30日)

事記

審査資料
(令和2年2月7日)

事記

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
138	—	—	・硬軟や割れ目の発達度を記載。 ・割れ目について記載(細片化)。	・硬軟や割れ目の発達度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・一部で割れ目沿いに細片化しているが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—
139	—	—	・割れ目について記載(鉱物の晶出)。	・割れ目沿いの鉱物晶出については、補足的なものであるため追記せず。	—
140	—	—	・割れ目の発達度を記載。	・割れ目の発達度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
141	—	—	・脱色した割れ目について記載(不明瞭)。	・割れ目については、補足的なものであるため追記せず。	—
142	—	—	・粘土の挟在を記載。	・粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—
143	—	—	・変質を伴う軟質化を記載。	・軟質化しているが、連続性に乏しく、周囲の割れ目と差異が認められないため追記せず。	—
144	—	—	・割れ目の発達度を記載。	・割れ目の発達度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
145	—	—	・礫混じり砂状の区間を記載。	・礫混じり砂状を呈するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—

H24-B8-21

設置許可申請書案

記事

147 183.04~183.56m
・割れ目は少なく、柱状を呈する。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

147 183.04~183.56m
・割れ目は少なく、柱状を呈する。

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

147 183.04~183.56m
・割れ目は少なく、柱状を呈する。

委託報告書
(平成30年)

標尺 標高 深 柱状 岩 色 硬軟 割れ目の形状 風化 記 事

147 183.04~183.56m
・割れ目は少なく、柱状を呈する。

148 183.56m 礫状45°の割れ目に暗緑色の変質鉱物が付着する。幅10.5mmの方解石脈が穿う。

149 184.46~185.42m 密な割れ目が発達する。下地の礫状45°の割れ目に暗緑色変質鉱物が付着する。

147 183.04~183.56m
・割れ目は少なく、柱状を呈する。

147 183.04~183.56m
・割れ目は少なく、柱状を呈する。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
146	—	—	・礫混じり砂状の区間を記載。	・礫混じり砂状を呈するが、挟在物が幅狭く、直線性に乏しいことから追記せず。	—
147	変更なし	変更なし	・硬軟や割れ目の発達程度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・硬軟や割れ目の発達については、岩級区分で示しているため追記せず。 ・“コア形状”欄に基づき柱状と記載。	変更なし
148	—	—	・割れ目について記載(変質鉱物の付着、方解石脈)。	・割れ目沿いの鉱物の晶出や鉱物脈については、補足的なものであるため追記せず。	—
149	—	—	・割れ目の発達程度を記載。 ・割れ目について記載(変質鉱物の付着)。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため追記せず。	—

設置許可申請書案

記事

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

委託報告書
(平成30年)

標尺	標高	深	柱状	岩種	色	硬軟	割れ目の状況	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]
		(m)	(m)	図	分	調	状	化	質	事	
										150 78~103 19m 緑色割れ目の 割れ目が発達する。黄褐色割れ目 を伴う。	0 50 100
										151 31~102 95m 黄褐色割れ目が 本割れ目に分布する。暗褐色の変質 脈を伴う。	
										152 30~102 40m 粘土混じりシル ト状の変質脈が分布。暗褐色で分 布する。	
										153 80~102 50m 割れ目沿いに 解石脈が本割れ目に分布する。	
										154 60m 緑色割れ目の割れ目増縁が 変質で暗褐色化している。幅20cm の黄褐色を伴う。	
										155 00~102 80m 本割れ目沿に方解石 脈、黄褐色の変質脈が分布す る。	

記事

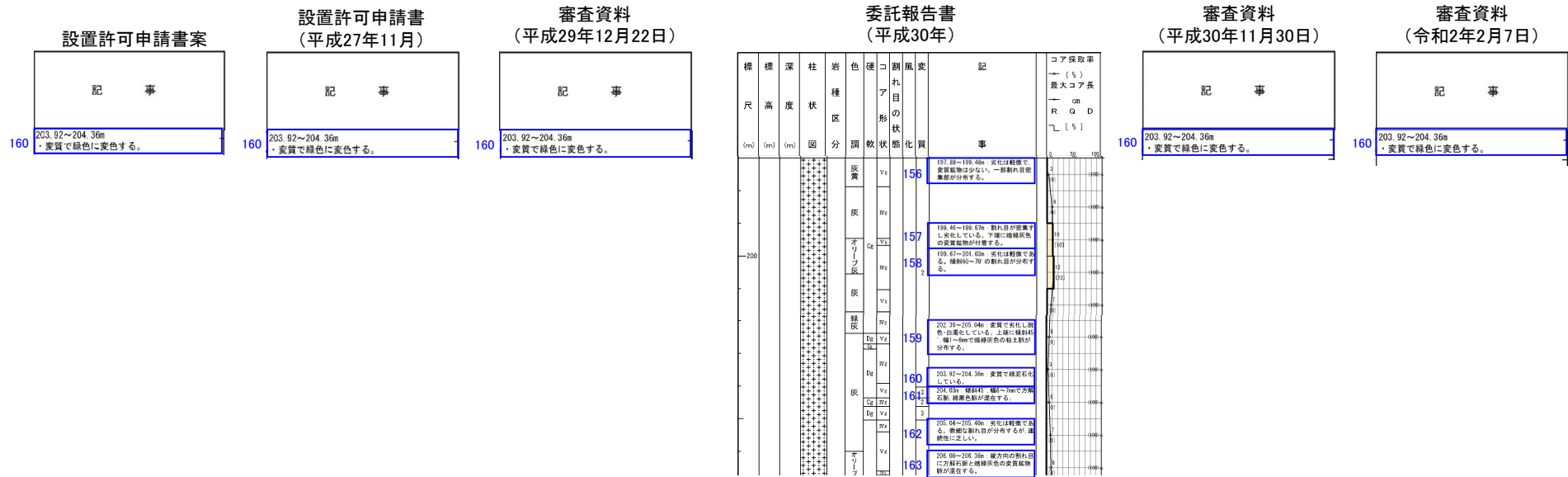
審査資料
(平成30年11月30日)

記事

審査資料
(令和2年2月7日)

記事

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
150	—	—	・割れ目の発達の程度を記載。	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩 級区分で示しているため追記せず。	—
151	—	—	・割れ目の発達の程度を記載。 ・割れ目について記載(変質鉱物の付着)。	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩 級区分で示しているため追記せず。 ・割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なもので あるため追記せず。	—
152	—	—	・粘土混じりシルト状の変質脈を記載。	・粘土混じりシルト状の変質脈が分布するが、周囲の岩盤 に劣化が認められないことから追記せず。	—
153	—	—	・方解石脈を記載。	・方解石脈については、補足的なものであるため追記せず。	—
154	—	—	・割れ目について記載(割れ目沿いの変色、鉱物の晶出)。	・割れ目沿いの変色や鉱物の晶出については、補足的な ものであるため追記せず。	—
155	—	—	・方解石脈、変質鉱物脈を記載。	・鉱物脈については、補足的なものであるため追記せず。	—



記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
156, 157	—	—	・割れ目の発達程度を記載。 ・変質鉱物を記載。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・鉱物の晶出については、補足的なものであるため追記せず。	—
158	—	—	・割れ目の発達程度を記載。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
159	—	—	・変質を伴う劣化を記載。 ・粘土脈を記載。	・劣化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・一部で粘土を挟み込むが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—
160	変更なし	変更なし	・緑泥石化を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・表現の見直し(緑泥石化→緑色に変色)。	変更なし
161	—	—	・方解石脈、変質鉱物脈を記載。	・鉱物脈については、補足的なものであるため追記せず。	—
162	—	—	・割れ目の発達程度を記載。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
163	—	—	・方解石脈、変質鉱物脈を記載。	・鉱物脈については、補足的なものであるため追記せず。	—

H24-B8-21

設置許可申請書案

207. 92~208. 42m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

207. 92~208. 42m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

207. 92~208. 42m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

委託報告書
(平成30年)

[illegible]

審査資料
(平成30年11月30日)

207. 92～208. 42m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

207. 92~208. 42m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
164	変更なし	変更なし	・割れ目の発達を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・細片化、細粒化については、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。 ・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。	変更なし
165	—	—	・割れ目の発達を記載。	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
166	—	—	・砂混じりシルトの挟在を記載。 ・石英脈の挟在を記載。	・砂混じりシルトを挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。 ・鉱物脈については、補足的なものであるため追記せず。	—
167	—	—	・色調を記載。	・色調については、補足的なものであるため追記せず。	—
168	—	—	・割れ目の発達を記載。 ・割れ目について記載(細片化)。	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・細片化しているが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—

設置許可申請書案

記事

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

委託報告書
(平成30年)

標	標	深	柱	岩	色	硬	コ	割	風	記	コア採取率 (%)
尺	高	度	状	種	区	軟	状	目	化	事	最大コア長 cm
(m)	(m)	(m)	図	分	調	状	質	の			R Q D
								事			[%]
										216.06~217.00m 微細な割れ目が発達する。上下端に幅0.5~4mmで線粒状色の変質脈が挟む。	169
										216.24m 幅1.5mm 線粒45°の線粒状色の変質脈を挟む。	170
										216.17~216.50m 幅方向の割れ目と低角度の微細な割れ目が斜交する。一部で細片化、細粒化している。	171
										221.11~221.19m 網目状に砂が挟む。	172
										221.19~222.71m 上部は線粒45°、下部は線粒60~75°の割れ目。微細な割れ目が発達する。割れ目沿いに細片~細粒化している。部分的に粗色し軟質である。	173

審査資料
(平成30年11月30日)

記事

審査資料
(令和2年2月7日)

記事

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
169	—	—	・割れ目の発達程度を記載。 ・変質脈の挟在を記載。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・変質脈については、補足的なものであるため追記せず。	—
170	—	—	・変質脈の挟在を記載。	・変質脈については、補足的なものであるため追記せず。	—
171	—	—	・割れ目の発達程度を記載。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・一部で細片化、細粒化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—
172	—	—	・網目状の砂の挟在を記載。	・砂を挟在するが、連続性に乏しいことから追記せず。	—
173	—	—	・割れ目の発達程度を記載。 ・部分的な軟質化を記載。	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。 ・一部で細片~細粒化を伴い軟質化しているが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—

設置許可申請書案		設置許可申請書 (平成27年11月)		審査資料 (平成29年12月22日)		委託報告書 (平成30年)		審査資料 (平成30年11月30日)		審査資料 (令和2年2月7日)																																																																																																																																	
記 事		記 事		記 事		<table><tr><th>標 尺</th><th>標 高</th><th>深 度</th><th>柱 状</th><th>岩 種</th><th>色 調</th><th>硬 軟</th><th>割 目</th><th>風 化</th><th>記 事</th><th>コア採取率 (%)</th><th>最大コア長 cm</th><th>R</th><th>Q</th><th>D</th><th>〔%〕</th></tr><tr><td>(m)</td><td>(m)</td><td>(m)</td><td>図</td><td>分</td><td>調</td><td>状</td><td>状</td><td>化</td><td>事</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>223.40~224.85m ハンマー打撃で全層貫通する。</td><td>0</td><td>10</td><td>100</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>225.60~229.05m 緑輝65°の割れ目が1~3cm間隔で平均的に分布する。</td><td>0</td><td>10</td><td>100</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>225.80m 緑輝65°の割れ目に黄鉄鉱が晶出している。</td><td>0</td><td>10</td><td>100</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>221.50~231.63m 上層緑輝60°・下層緑輝30°の割れ目に応じて径1~2cmに細片化している。</td><td>0</td><td>10</td><td>100</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>222.45m 222.50m 222.70m 緑輝65~70°の低角度割れ目が65°割れ目に切られる。</td><td>0</td><td>10</td><td>100</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>223.86~234.23m 磨滅な割れ目が1~3cm間隔で分布。細片化している。</td><td>0</td><td>10</td><td>100</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		標 尺	標 高	深 度	柱 状	岩 種	色 調	硬 軟	割 目	風 化	記 事	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	R	Q	D	〔%〕	(m)	(m)	(m)	図	分	調	状	状	化	事																223.40~224.85m ハンマー打撃で全層貫通する。	0	10	100													225.60~229.05m 緑輝65°の割れ目が1~3cm間隔で平均的に分布する。	0	10	100													225.80m 緑輝65°の割れ目に黄鉄鉱が晶出している。	0	10	100													221.50~231.63m 上層緑輝60°・下層緑輝30°の割れ目に応じて径1~2cmに細片化している。	0	10	100													222.45m 222.50m 222.70m 緑輝65~70°の低角度割れ目が65°割れ目に切られる。	0	10	100													223.86~234.23m 磨滅な割れ目が1~3cm間隔で分布。細片化している。	0	10	100				記 事		記 事	
標 尺	標 高	深 度	柱 状	岩 種	色 調	硬 軟	割 目	風 化	記 事	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	R	Q	D	〔%〕																																																																																																																												
(m)	(m)	(m)	図	分	調	状	状	化	事																																																																																																																																		
									223.40~224.85m ハンマー打撃で全層貫通する。	0	10	100																																																																																																																															
									225.60~229.05m 緑輝65°の割れ目が1~3cm間隔で平均的に分布する。	0	10	100																																																																																																																															
									225.80m 緑輝65°の割れ目に黄鉄鉱が晶出している。	0	10	100																																																																																																																															
									221.50~231.63m 上層緑輝60°・下層緑輝30°の割れ目に応じて径1~2cmに細片化している。	0	10	100																																																																																																																															
									222.45m 222.50m 222.70m 緑輝65~70°の低角度割れ目が65°割れ目に切られる。	0	10	100																																																																																																																															
									223.86~234.23m 磨滅な割れ目が1~3cm間隔で分布。細片化している。	0	10	100																																																																																																																															
179	233.86~234.23m ・割れ目が少なく、柱状を呈する。	179	233.86~234.23m ・割れ目が少なく、柱状を呈する。	179	233.86~234.23m ・割れ目が少なく、柱状を呈する。	179	233.86~234.23m ・割れ目が少なく、柱状を呈する。	179	233.86~234.23m ・割れ目が少なく、柱状を呈する。	179	233.86~234.23m ・割れ目が少なく、柱状を呈する。																																																																																																																																
記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)																																																																																																																																						
174	—	—	・硬軟を記載。	・硬軟については、岩級区分で示しているため追記せず。	—																																																																																																																																						
175	—	—	・割れ目の発達を記載。	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—																																																																																																																																						
176	—	—	・割れ目について記載(黄鉄鉱の晶出)。	・鉱物の晶出については、補足的なものであるため追記せず。	—																																																																																																																																						
177	—	—	・割れ目について記載(割れ目沿いの細片化)。	・細片化しているが、掘削時の機械割れと判断し追記せず。	—																																																																																																																																						
178	—	—	・割れ目について記載(低角度割れ目が65°割れ目に切られる)。	・低角度割れ目を切る65°の割れ目が見られるが、低角度割れ目の変位がないため追記せず。	—																																																																																																																																						
179	変更なし	変更なし	・割れ目の発達を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	変更なし																																																																																																																																						

H24-B8-21

設置許可申請書案					
設置許可申請書					
設置許可申請書 (平成27年11月)					
審査資料 (平成29年12月22日)					
委託報告書 (平成30年)					
審査資料 (平成30年11月30日)					
審査資料 (令和2年2月7日)					
記事					
180	●234. 23～234. 38m ・破砕部である。 ・緑灰色の粘土状～灰白～緑灰色の角礫状を呈する。 ・緑灰色粘土：累計厚4mm ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上盤境界の傾斜は65°、下盤境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。	●234. 23～234. 38m ・破砕部である。 ・緑灰色の粘土状～灰白～緑灰色の角礫状を呈する。 ・緑灰色粘土：累計厚4mm ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上盤境界の傾斜は65°、下盤境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。	●234. 23～234. 38m(D-37破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・暗緑色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。 ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。	●234. 23～234. 38m(D-37破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に褐灰色の固結礫状部からなる。 ・暗緑色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。	●234. 23～234. 38m(D-37破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に褐灰色の固結礫状部からなる。 ・暗緑色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
181	●234. 23～234. 38m(D-37破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・暗緑色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。 ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。	●234. 23～234. 38m(D-37破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・暗緑色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。 ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。	●234. 23～234. 38m(D-37破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・暗緑色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。 ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。	●234. 23～234. 38m(D-37破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に褐灰色の固結礫状部からなる。 ・暗緑色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。	●234. 23～234. 38m(D-37破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に褐灰色の固結礫状部からなる。 ・暗緑色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
182	●234. 23～234. 38m(D-37破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・暗緑色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。 ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。	●234. 23～234. 38m(D-37破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・暗緑色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。 ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。	●234. 23～234. 38m(D-37破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・暗緑色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。 ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。	●234. 23～234. 38m(D-37破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に褐灰色の固結礫状部からなる。 ・暗緑色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。	●234. 23～234. 38m(D-37破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に褐灰色の固結礫状部からなる。 ・暗緑色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
183	●234. 23～234. 38m(D-37破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・暗緑色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。 ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。	●234. 23～234. 38m(D-37破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・暗緑色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。 ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。	●234. 23～234. 38m(D-37破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・暗緑色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。 ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。	●234. 23～234. 38m(D-37破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に褐灰色の固結礫状部からなる。 ・暗緑色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。	●234. 23～234. 38m(D-37破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に褐灰色の固結礫状部からなる。 ・暗緑色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
184	●234. 23～234. 38m(D-37破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・暗緑色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。 ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。	●234. 23～234. 38m(D-37破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・暗緑色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。 ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。	●234. 23～234. 38m(D-37破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・暗緑色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。 ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。	●234. 23～234. 38m(D-37破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に褐灰色の固結礫状部からなる。 ・暗緑色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。	●234. 23～234. 38m(D-37破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に褐灰色の固結礫状部からなる。 ・暗緑色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN3° W84° Eである。 ・上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は65°である。 236. 90～239. 00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。

記事	申請書⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
180～182	変更なし	・破砕帯名を記載。 ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。	・破砕帯を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。	・誤記修正(“主に褐灰色の固結礫状部からなる。”と記載)。 ・割れ目の密集部については、固結礫状部に含めているため追記せず。 ・“花崗斑岩細礫や石英粒が混じる”との記載については、補足的なものであるため追記せず。	変更なし
183	変更なし	変更なし	・割れ目の発達を程度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・割れ目の発達を程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。	変更なし
184	—	—	・割れ目の発達を程度を記載。	・割れ目の発達を程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—

H27-D5-1

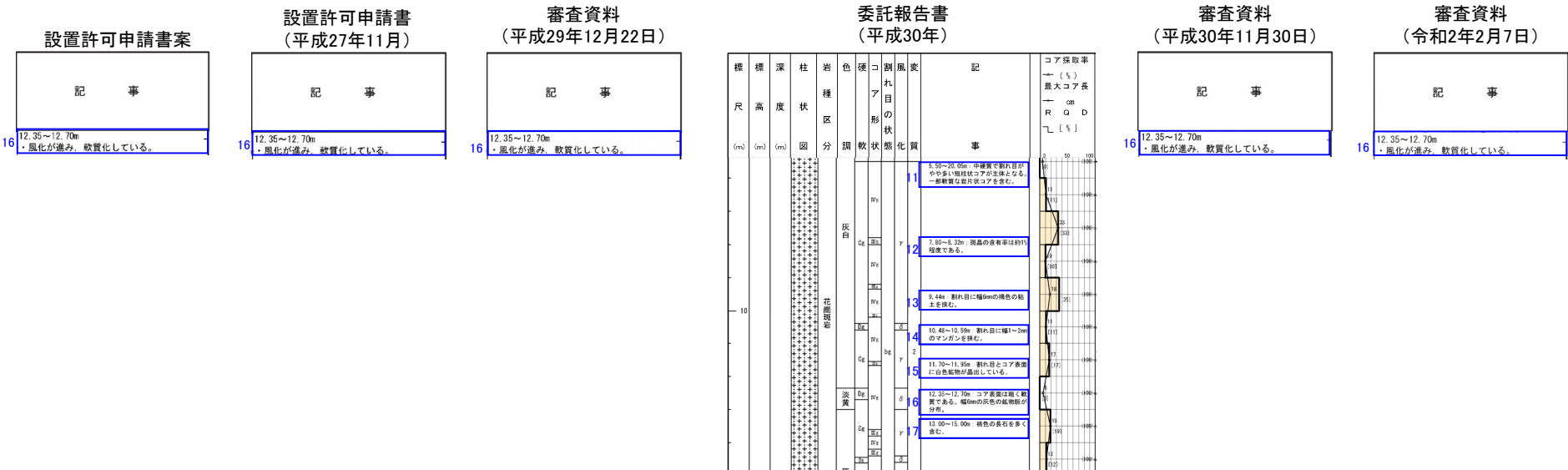
余白

H27-D5-1

設置許可申請書案		設置許可申請書 (平成27年11月)		審査資料 (平成29年12月22日)		委託報告書 (平成30年)		審査資料 (平成30年11月30日)		審査資料 (令和2年2月7日)	
記 事		記 事		記 事				記 事		記 事	
1	0.00～1.02m ・ 礫土である。	1	0.00～1.02m ・ 礫土である。	1	0.00～1.02m ・ 礫土である。	1	0.00～1.02m ・ 礫土である。	1	0.00～1.02m ・ 礫土である。	1	0.00～1.02m ・ 礫土である。
3	1.02～1.11m ・ 礫混じり砂である。	3	1.02～1.11m ・ 礫混じり砂である。	3	1.02～1.11m ・ 礫混じり砂である。	3	1.02～1.11m ・ 礫混じり砂である。	3	1.02～1.11m ・ 礫混じり砂である。	3	1.02～1.11m ・ 礫混じり砂である。
4	1.11～1.30m ・ シルト混じり砂である。	4	1.11～1.30m ・ シルト混じり砂である。	4	1.11～1.30m ・ シルト混じり砂である。	4	1.11～1.30m ・ シルト混じり砂である。	4	1.11～1.30m ・ シルト混じり砂である。	4	1.11～1.30m ・ シルト混じり砂である。
5	1.30～1.41m ・ 砂質シルトである。	5	1.30～1.41m ・ 砂質シルトである。	5	1.30～1.41m ・ 砂質シルトである。	5	1.30～1.41m ・ 砂質シルトである。	5	1.30～1.41m ・ 砂質シルトである。	5	1.30～1.41m ・ 砂質シルトである。
6	1.41～2.40m ・ 礫混じり砂である。	6	1.41～2.40m ・ 礫混じり砂である。	6	1.41～2.40m ・ 礫混じり砂である。	6	1.41～2.40m ・ 礫混じり砂である。	6	1.41～2.40m ・ 礫混じり砂である。	6	1.41～2.40m ・ 礫混じり砂である。
7	2.40～2.60m ・ シルト混じり砂である。	7	2.40～2.60m ・ シルト混じり砂である。	7	2.40～2.60m ・ シルト混じり砂である。	7	2.40～2.60m ・ シルト混じり砂である。	7	2.40～2.60m ・ シルト混じり砂である。	7	2.40～2.60m ・ シルト混じり砂である。
8	2.60～2.84m ・ 砂礫である。	8	2.60～2.84m ・ 砂礫である。	8	2.60～2.84m ・ 砂礫である。	8	2.60～2.84m ・ 砂礫である。	8	2.60～2.84m ・ 砂礫である。	8	2.60～2.84m ・ 砂礫である。
9	2.84～48.00m ・ 花崗斑岩である。	9	2.84～48.00m ・ 花崗斑岩である。	9	2.84～48.00m ・ 花崗斑岩である。	9	2.84～48.00m ・ 花崗斑岩である。	9	2.84～48.00m ・ 花崗斑岩である。	9	2.84～48.00m ・ 花崗斑岩である。
A	4.80～5.50m ・ 風化が進み、軟質化している。	A	4.80～5.50m ・ 風化が進み、軟質化している。	A	4.80～5.50m ・ 風化が進み、軟質化している。	A	4.80～5.50m ・ 風化が進み、軟質化している。	A	4.80～5.50m ・ 風化が進み、軟質化している。	A	4.80～5.50m ・ 風化が進み、軟質化している。
B	5.05～5.50m ・ 割れ目が多く、岩片状を呈する。	B	5.05～5.50m ・ 割れ目が多く、岩片状を呈する。	B	5.05～5.50m ・ 割れ目が多く、岩片状を呈する。	B	5.05～5.50m ・ 割れ目が多く、岩片状を呈する。	B	5.05～5.50m ・ 割れ目が多く、岩片状を呈する。	B	5.05～5.50m ・ 割れ目が多く、岩片状を呈する。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
1	変更なし	変更なし	・表土の区間深度を記載。 ・古い観察結果を転記し、誤って“0.00～0.25m”と記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・誤った深度のため反映せず。	変更なし
2	—	—	・堆積物区間について土質構成や年代をまとめ書き。	・堆積物区間については、柱状図に対応した層相毎に記載することとしており、土質構成や年代に関するまとめ書きは追記せず。	—
3	変更なし	変更なし	・礫混じり砂の区間深度を記載。 ・古い観察結果を転記し、誤って“0.25～1.11m”と記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・誤った深度のため反映せず。	変更なし
4	変更なし	変更なし	・シルト混じり砂の区間深度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・報告書と差異なし。	変更なし
5	変更なし	変更なし	・砂質シルトの区間深度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・報告書と差異なし。	変更なし
6	変更なし	変更なし	・礫混じり砂の区間深度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・報告書と差異なし。	変更なし
7	変更なし	変更なし	・シルト混じり砂の区間深度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・報告書と差異なし。	変更なし
8	変更なし	変更なし	・砂礫の区間深度を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・報告書と差異なし。	変更なし
9	変更なし	変更なし	・花崗斑岩区間の斑晶を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・余掘り分を含めて、48mまで記載。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため追記せず。	変更なし
A	変更なし	変更なし	—	審査資料(H29.12.22)と同様	変更なし
B	変更なし	変更なし	—	審査資料(H29.12.22)と同様	変更なし
10	—	—	・硬軟の分布状況及び割れ目の発達度を記載。	・硬軟の分布状況や割れ目の発達度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—

H27-D5-1



記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
11	—	—	・硬軟や割れ目の発達を記載。	・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
12	—	—	・花崗斑岩中の斑晶を記載。	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため追記せず。	—
13	—	—	・割れ目について記載(粘土の挟在)。	・粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—
14	—	—	・割れ目について記載(マンガンの挟在)。	・マンガンについては、補足的なものであるため追記せず。	—
15	—	—	・鉱物の晶出を記載。	・鉱物の晶出については、補足的なものであるため追記せず。	—
16	変更なし	変更なし	・軟質な区間を記載。 ・鉱物脈を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・“風化”欄に基づき“風化が進み”と記載。 ・鉱物脈については、補足的なものであるため追記せず。	変更なし
17	—	—	・花崗斑岩中の斑晶を記載。	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため追記せず。	—

H27-D5-1

設置許可申請書案

記事

C14.30~14.65m
・風化が進み軟質化している。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

C14.30~14.65m
・風化が進み軟質化している。

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

C14.30~14.65m
・風化が進み、軟質化している。

委託報告書
(平成30年)

標	標	深	柱	岩	色	割	風	変	記	コア採取率
尺	高	度	状	種	硬	れ	化		事	→(%)
(m)	(m)	(m)	図	分	軟	目	質			最大コア長
					状	の				→cm
					化	状				R Q D
										「%」

14.30~14.95m 連続割れ目50cmの割れ目が多い。幅1~2cm石英脈を挟む。
15.22~15.29m 割れ目に幅20cm以下のマンガンを挟む。
15.95m 割れ目に泥黄色のシルトを挟む。

審査資料
(平成30年11月30日)

記事

C14.30~14.65m
・風化が進み、軟質化している。

審査資料
(令和2年2月7日)

記事

C14.30~14.65m
・風化が進み、軟質化している。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
C	変更なし	変更なし	—	審査資料(H29.12.22)と同様	変更なし
18	—	—	・割れ目の発達を記載。 ・割れ目について記載(石英脈)。	・割れ目の発達については、周囲の割れ目と差異が見られないため追記せず。 ・鉱物脈については、補足的なものであるため追記せず。	—
19	—	—	・割れ目について記載(マンガンの挟在)。	・マンガンについては、補足的なものであるため追記せず。	—
20	—	—	・割れ目について記載(シルトの挟在)。	・シルトを挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから追記せず。	—

H27-D5-1

設置許可申請書案

記 事
21 17.47～17.91m ・割れ目に沿って、灰白色シルトを挟む。
22 17.70～18.00m ・風化が進み、軟質化している。
D 19.15～19.55m ・風化が進み軟質化している。
E 20.80～22.35m ・硬質で割れ目が少なく、柱状～長柱状を呈する。
25 ●22.91～23.23m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・灰オリーブ色の粘土状～淡黄色の粘土混じり礫状を呈する。
30 灰オリーブ色粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜はN35° E74° Wである。 ・上盤境界の傾斜は28°、下盤境界の傾斜は35°である。
F 24.65～25.00m ・縦方向の割れ目が連続する。

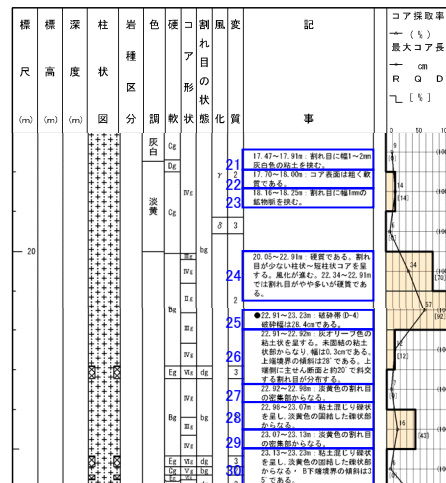
設置許可申請書 (平成27年11月)

記 事
21 17.47～17.91m ・割れ目に沿って、灰白色シルトを挟む。
22 17.70～18.00m ・風化が進み、軟質化している。
D 19.15～19.55m ・風化が進み軟質化している。
E 20.80～22.35m ・硬質で割れ目が少なく、柱状～長柱状を呈する。
25 ●22.91～23.23m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・灰オリーブ色の粘土状～淡黄色の粘土混じり礫状を呈する。
30 灰オリーブ色粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜はN35° E74° Wである。 ・上盤境界の傾斜は28°、下盤境界の傾斜は35°である。
F 24.65～25.00m ・縦方向の割れ目が連続する。

審査資料 (平成29年12月22日)

記 事
21 17.47～17.91m ・割れ目に沿って、灰白色シルトを挟む。
22 17.70～18.00m ・風化が進み、軟質化している。
D 19.15～19.55m ・風化が進み、軟質化している。
E 20.80～22.35m ・硬質で割れ目が少なく、柱状～長柱状を呈する。
25 ●22.91～23.23m(D-4破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に淡黄色の固結礫状部からなる。
30 灰オリーブ色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN35° E74° Wである。 ・上盤境界の傾斜は28°、下盤境界の傾斜は35°である。
F 24.65～25.00m ・縦方向の割れ目が連続する。

委託報告書 (平成30年)



審査資料 (平成30年11月30日)

記 事
21 17.47～17.91m ・割れ目に沿って、灰白色シルトを挟む。
22 17.70～18.00m ・風化が進み、軟質化している。
D 19.15～19.55m ・風化が進み、軟質化している。
E 20.80～22.35m ・硬質で割れ目が少なく、柱状～長柱状を呈する。
25 ●22.91～23.23m(D-4破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に淡黄色の固結礫状部からなる。
30 灰オリーブ色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN35° E74° Wである。 ・上盤境界の傾斜は28°、下盤境界の傾斜は35°である。
F 24.65～25.00m ・縦方向の割れ目が連続する。

審査資料 (令和2年2月7日)

記 事
21 17.47～17.91m ・割れ目に沿って、灰白色シルトを挟む。
22 17.70～18.00m ・風化が進み、軟質化している。
D 19.15～19.55m ・風化が進み、軟質化している。
E 20.80～22.35m ・硬質で割れ目が少なく、柱状～長柱状を呈する。
25 ●22.91～23.23m(D-4破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に淡黄色の固結礫状部からなる。
30 灰オリーブ色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN35° E74° Wである。 ・上盤境界の傾斜は28°、下盤境界の傾斜は35°である。
F 24.65～25.00m ・縦方向の割れ目が連続する。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
21	変更なし	変更なし	・割れ目について記載(粘土の挟在)。 ・シルトと書くべきところを誤って粘土と記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・シルトの幅については、ばらつきがあることから追記せず。	変更なし
22	変更なし	変更なし	・軟質な区間を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・“風化”欄に基づき“風化が進み”と記載。	変更なし
23	—	—	・割れ目について記載(鉱物脈)。	・鉱物脈については、補足的なものであるため追記せず。	—
D	変更なし	変更なし	—	審査資料(H29.12.22)と同様	変更なし
24	—	—	・硬軟や割れ目の発達程度を記載。	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—
E	変更なし	変更なし	—	審査資料(H29.12.22)と同様	変更なし
25～30	変更なし	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。 肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・割れ目の密集部については、固結礫状部に含めているため追記せず。 ・“斜交する割れ目が分布する”との記載については、補足的なものであるため削除。 ・“主せん断面”との記載については、最新活動面を示したものであり、性状一覧表に上記再観察による最新活動面位置を示し、柱状図には記載しないこととしているため削除。	変更なし
F	変更なし	変更なし	—	審査資料(H29.12.22)と同様	変更なし

H27-D5-1

設置許可申請書案		設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)	委託報告書 (平成30年)	審査資料 (平成30年11月30日)	審査資料 (令和2年2月7日)
<div>記事</div> <div>●25.17～25.44m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・灰白～淡黄色の凝滞じり粘土状～にぶい橙色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰白～淡黄色の凝滞じり粘土；累計厚10mm ・走向・傾斜はN° 31E81° Wである。 ・上盤境界の傾斜は48°、下盤境界の傾斜は36°である。 ●25.65～25.77m(0-5破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・灰黄褐色の粘土状～明褐灰色の硬質粘土～粘土混じり礫を呈する。 ・灰黄褐色粘土；累計厚12mm ・走向・傾斜はN21° E87° Wである。 ・上盤境界の傾斜は30°～60°で湾曲している。 25.77～26.12m ・粘土化しており、軟質である。 34.96～35.41m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。</div>		<div>記事</div> <div>●25.17～25.44m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・灰白～淡黄色の凝滞じり粘土状～にぶい橙色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰白～淡黄色の凝滞じり粘土；累計厚10mm ・走向・傾斜はN° 31E81° Wである。 ・上盤境界の傾斜は48°、下盤境界の傾斜は36°である。 ●25.65～25.77m(0-5破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・灰黄褐色の粘土状～明褐灰色の硬質粘土～粘土混じり礫を呈する。 ・灰黄褐色粘土；累計厚12mm ・走向・傾斜はN21° E87° Wである。 ・上盤境界の傾斜は30°～60°で湾曲している。 25.77～26.12m ・粘土化しており、軟質である。 34.96～35.41m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。</div>	<div>記事</div> <div>●25.17～25.44m(0-45破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・淡黄色の未固結粘土状部；累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN31° E81° Wである。 ・上端境界の傾斜は48°、下端境界の傾斜は36°である。 ●25.65～25.77m(0-5破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に灰黄褐色の固結粘土状部からなる。 ・灰黄褐色の未固結粘土状部；累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN21° E87° Wである。 ・上端境界の傾斜は30°～60°で湾曲している。 25.77～26.12m ・粘土化しており、軟質である。 34.96～35.41m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。</div>	<div>標高 尺 度 (m)</div> <div>深 度 (m)</div> <div>柱 状 (m)</div> <div>岩 種 分 類</div> <div>色 調 区 分</div> <div>硬 軟 調 度</div> <div>割 目 の 状 態</div> <div>風 化 変 質</div> <div>記 事</div> <div>コア採取率 一 (%) 最大コア長 一 cm R Q D 一 [%]</div>	<div>記事</div> <div>●25.17～25.44m(0-45破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・淡黄色の未固結粘土状部；累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN31° E81° Wである。 ・上端境界の傾斜は48°、下端境界の傾斜は36°である。 ●25.65～25.77m(0-5破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に明褐灰色の固結礫状部及び灰黄褐色の固結粘土状部からなる。 ・灰黄褐色の未固結粘土状部；累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN21° E87° Wである。 ・上端境界の傾斜は30°～60°で湾曲している。 25.77～26.12m ・粘土化しており、軟質である。 34.96～35.41m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。</div>	<div>記事</div> <div>●25.17～25.44m(0-45破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・淡黄色の未固結粘土状部；累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN31° E81° Wである。 ・上端境界の傾斜は48°、下端境界の傾斜は36°である。 ●25.65～25.77m(0-5破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に明褐灰色の固結礫状部及び灰黄褐色の固結粘土状部からなる。 ・灰黄褐色の未固結粘土状部；累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN21° E87° Wである。 ・上端境界の傾斜は30°～60°で湾曲している。 25.77～26.12m ・粘土化しており、軟質である。 34.96～35.41m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。</div>
31～33	変更なし	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・記載の適正化(N° 31E81° W→N31° E81° W)。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H29.12.22)と同様 ・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため追記せず。	変更なし
34～37	変更なし	・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。その後、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に薄片観察による断層岩区分を行ったが、肉眼観察による判断結果から変更は無い。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。	報告書⇒ 審査資料(H29.12.22)と同様 ・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・割れ目の密集部については、固結礫状部に含めているため追記せず。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため追記せず。 ・誤記修正(“主に灰黄褐色の固結粘土状部からなる”→“主に明褐灰色の固結礫状部及び灰黄褐色の固結粘土状部からなる”)。	・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。 ・割れ目の密集部については、固結礫状部に含めているため追記せず。	変更なし
38	変更なし	変更なし	・軟質な粘土化区間を記載。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・報告書と差異なし。	審査資料(H29.12.22)と同様	変更なし
G	変更なし	変更なし	—	審査資料(H29.12.22)と同様	審査資料(H29.12.22)と同様	変更なし
39	—	—	・硬軟や割れ目の発達を程度を記載。	・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	・硬軟については、岩級区分で示しているため追記せず。	—
40	—	—	・硬軟を記載。	・硬軟については、岩級区分で示しているため追記せず。	・硬軟については、岩級区分で示しているため追記せず。	—

H27-D5-1

設置許可申請書案			設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)	委託報告書 (平成30年)	審査資料 (平成30年11月30日)	審査資料 (令和2年2月7日)
記 事			記 事	記 事	記 事	記 事	記 事
●35.41～35.55m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・明褐灰色の凝渾じり粘土状～にぶい橙色の粘土混じり礫状を呈する。 ・明褐灰色粘土：累計厚10mm。 ・走向・傾斜はN2° W73° Wである。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は47°である。			●35.41～35.55m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・明褐灰色の凝渾じり粘土状～にぶい橙色の粘土混じり礫状を呈する。 ・明褐灰色粘土：累計厚10mm。 ・走向・傾斜はN2° W73° Wである。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は47°である。	●35.41～35.55m(f-d5-1-4破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・明褐灰色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN2° W73° Wである。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は47°である。	●35.41～35.55m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・明褐灰色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN2° W73° Wである。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は47°である。	●35.41～35.55m(f-d5-1-4破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・明褐灰色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN2° W73° Wである。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は47°である。	●35.41～35.55m(f-d5-1-4破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・明褐灰色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN2° W73° Wである。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は47°である。
35.55～36.05m ・粘土化しており、軟質である。			35.55～36.05m ・粘土化しており、軟質である。	35.55～36.05m ・粘土化しており、軟質である。	35.55～36.05m ・破砕帯(f-d5-1-4)破砕幅は1cmである。	35.55～36.05m ・粘土化しており、軟質である。	35.55～36.05m ・粘土化しており、軟質である。
36.05～45.00m ・硬質で、主として短柱～柱状を呈する。			36.05～45.00m ・硬質で、主として短柱～柱状を呈する。	36.05～45.00m ・硬質で、主として短柱状～柱状を呈する。	36.41～36.50m 粘土混じり礫状を呈し、にぶい橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は45°である。	36.05～45.00m ・硬質で、主として短柱状～柱状を呈する。	36.05～45.00m ・硬質で、主として短柱状～柱状を呈する。
41.45～41.60m ・風化が進み、砂状を呈する。			41.45～41.60m ・風化が進み、砂状を呈する。	41.45～41.60m ・風化が進み、砂状を呈する。	36.51～36.59m 明褐灰色の凝渾じり粘土状を呈する。未固結の粘土が凝渾じり、傾斜は32°である。下盤境界の傾斜は47°である。割れ目沿いに灰白色の粘土を不規則に挟む。	41.45～41.60m ・風化が進み、砂状を呈する。	41.45～41.60m ・風化が進み、砂状を呈する。
42～45			42～45	42～45	42～45	42～45	42～45
46			46	46	46	46	46
47			47	47	47	47	47
48			48	48	48	48	48
H			H	H	H	H	H
49			49	49	49	49	49
49			49	49	49	49	49

H27-D5-1

設置許可申請書案

記事

●45.12～45.37m
・破砕部である。
・正断層センスである。
・灰褐色の粘土状～褐灰～灰オリーブ色の硬質粘土～淡黄褐色～褐灰色の粘土混じり礫状を呈する。
・灰褐色粘土：累計厚10mm
・走向・傾斜はN38° E72° Wである。
・上盤境界の傾斜は35°、下盤境界の傾斜は40°である。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

●45.12～45.37m
・破砕部である。
・正断層センスである。
・灰褐色の粘土状～褐灰～灰オリーブ色の硬質粘土～淡黄褐色～褐灰色の粘土混じり礫状を呈する。
・灰褐色粘土：累計厚10mm
・走向・傾斜はN38° E72° Wである。
・上盤境界の傾斜は35°、下盤境界の傾斜は40°である。

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

●45.12～45.37m(D-46破砕帯)
・破砕部である。
・正断層センスである。
・主に淡黄褐色の固結礫状部からなる。
・灰褐色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm
・走向・傾斜はN38° E72° Wである。
・上端境界の傾斜は35°、下端境界の傾斜は40°である。

委託報告書
(平成30年)

記事

標尺	標高	深	柱状	岩	色	硬	コ	割	風	記	コア採取率
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	目	化	事	(%)
8.70	46.00										

審査資料
(平成30年11月30日)

記事

●45.12～45.37m(D-46破砕帯)
・破砕部である。
・正断層センスである。
・主に淡黄褐色の固結礫状部からなる。
・灰褐色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm
・走向・傾斜はN38° E72° Wである。
・上端境界の傾斜は35°、下端境界の傾斜は40°である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記事

●45.12～45.37m(D-46破砕帯)
・破砕部である。
・正断層センスである。
・主に淡黄褐色の固結礫状部からなる。
・灰褐色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm
・走向・傾斜はN38° E72° Wである。
・上端境界の傾斜は35°、下端境界の傾斜は40°である。

記事	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 報告書	報告書⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
50～52	変更なし	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。 肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。	・破砕幅を記載。 ・破砕部区間を性状毎に深度を分けて記載。 ・性状については、観察結果と審査資料での断層岩区分(固結・未固結と礫状・砂状・粘土状の組合せ)を併記。	審査資料(H29.12.22)と同様 ・破砕幅については、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため追記せず。	変更なし
53	—	—	・硬軟や割れ目の発達程度を記載。	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため追記せず。	—

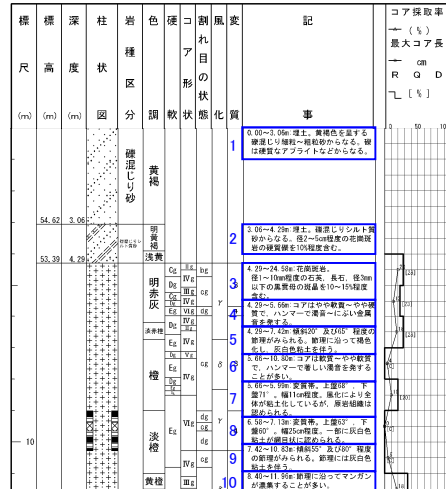
余白

H20-①-10

余白

H20-①-10

委託報告書 (平成20年)



設置許可申請書案

記事	記事
1	0.00～3.06m ・礫混じり砂である(埋土)。
2	3.06～4.29m ・礫混じりシルト質砂である(埋土)。
3	4.29～24.58m ・花崗斑岩である。
6	5.66～10.80m ・軟質化している。
7	5.66～5.99m ・変質し粘土化している。 ・上端境界の傾斜は68°、下端境界の傾斜は71°である。
8	6.58～7.13m ・変質している。 ・一部灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は63°、下端境界の傾斜は60°である。

設置許可申請書 (平成27年11月)

記事	記事
1	0.00～3.06m ・礫混じり砂である(埋土)。
2	3.06～4.29m ・礫混じりシルト質砂である(埋土)。
3	4.29～24.58m ・花崗斑岩である。
6	5.66～10.80m ・軟質化している。
7	5.66～5.99m ・変質し粘土化している。 ・上端境界の傾斜は68°、下端境界の傾斜は71°である。
8	6.58～7.13m ・変質している。 ・一部灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は63°、下端境界の傾斜は60°である。

審査資料 (平成29年12月22日)

記事	記事
1	0.00～3.06m ・礫混じり砂である(埋土)。
2	3.06～4.29m ・礫混じりシルト質砂である(埋土)。
3	4.29～24.58m ・花崗斑岩である。
6	5.66～10.80m ・軟質化している。
7	5.66～5.99m ・変質し粘土化している。
8	6.58～7.13m ・変質している。 ・一部灰白色粘土が網目状に分布する。

審査資料 (平成30年11月30日)

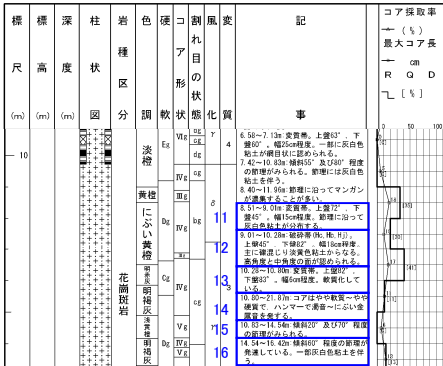
記事	記事
1	0.00～3.06m ・礫混じり砂である(埋土)。
2	3.06～4.29m ・礫混じりシルト質砂である(埋土)。
3	4.29～24.58m ・花崗斑岩である。
6	5.66～10.80m ・軟質化している。
7	5.66～5.99m ・変質し粘土化している。
8	6.58～7.13m ・変質している。 ・一部灰白色粘土が網目状に分布する。

審査資料 (令和2年2月7日)

記事	記事
1	0.00～3.06m ・礫混じり砂である(埋土)。
2	3.06～4.29m ・礫混じりシルト質砂である(埋土)。
3	4.29～24.58m ・花崗斑岩である。
6	5.66～10.80m ・軟質化している。
7	5.66～5.99m ・変質し粘土化している。
8	6.58～7.13m ・変質している。 ・一部灰白色粘土が網目状に分布する。

記事	報告書⇒申請書案	申請書案⇒申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒審査資料(R2.2.7)
1	・柱状図に合わせて礫混じり砂と記載。 ・埋土区間については、元々の地質の状態を示すものではないため、構成粒子に関する記載は削除。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
2	・埋土区間については、元々の地質の状態を示すものではないため、構成粒子に関する記載は削除。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
3	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
4	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—	—
5	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部で粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・褐色化については、補足的なものであるため削除。	—	—	—	—
6	・“硬軟”欄に基づき軟質化と記載。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
7	・幅の記載については、区間長を記載しているため削除。 ・風化程度については、岩級区分で示しているため削除。 ・原岩組織の残留程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
8	・幅の記載については、区間長を記載しているため削除。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
9	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部で粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—	—	—
10	・マンガンについては、補足的なものであるため削除。	—	—	—	—

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書案

記事
8.51~9.01m ・変質している。 ・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は45°である。
9.01~10.28m ・破砕部である。 ・淡黄色の粘土～礫混じり粘土状～淡褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN1° W81° Wである。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は82°である。
10.28~10.80m ・変質し軟質化している。 ・上端境界の傾斜は82°、下端境界の傾斜は62°である。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事
8.51~9.01m ・変質している。 ・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は45°である。
9.01~10.28m ・破砕部である。 ・淡黄色の粘土～礫混じり粘土状～淡褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN1° W81° Wである。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は82°である。
10.28~10.80m ・変質し軟質化している。 ・上端境界の傾斜は82°、下端境界の傾斜は62°である。

審査資料
(平成29年12月22日)

記事
8.51~9.01m ・変質している。 ・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。 ・●9.01~10.28m(0-4破砕帯) ・破砕部である。 ・主に淡黄色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・淡黄色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN1° W81° Wである。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は85°である。
10.28~10.80m ・変質し軟質化している。

審査資料
(平成30年11月30日)

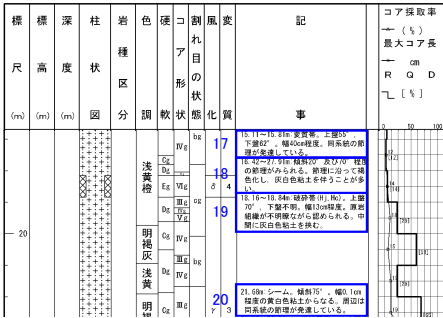
記事
8.51~9.01m ・変質している。 ・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。 ・●9.01~10.28m(0-4破砕帯) ・破砕部である。 ・主に淡黄色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・淡黄色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN1° W81° Wである。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は85°である。
10.28~10.80m ・変質し軟質化している。

審査資料
(令和2年2月7日)

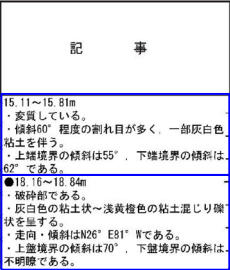
記事
8.51~9.01m ・変質している。 ・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。 ・●9.01~10.28m(0-4破砕帯) ・破砕部である。 ・主に淡黄色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・淡黄色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN1° W81° Wである。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は85°である。
10.28~10.80m ・変質し軟質化している。

記事	報告書⇒申請書案	申請書案⇒申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒審査資料(R2.2.7)
11	・幅の記載については、区間長を記載しているため削除。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
12	・性状について、報告書では破砕区分の記号で示していたが、観察による粒度を示すこととし、粘土状～礫混じり粘土状～粘土混じり礫状と記載。 ・粘土混じり礫状の色調については、“色調”欄に基づき、淡橙色と記載。 ・幅の記載については、区間長を記載しているため削除。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・“高角度と中角度の面が認められる”との記載については、補足的なものであるため削除。	変更なし	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレサイトを性状に応じ、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・上記再観察による下端境界の見かけの傾斜の見直しを反映。	変更なし	変更なし
13	・幅の記載については、区間長を記載しているため削除。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
14	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—	—
15	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—	—
16	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部で粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—	—	—

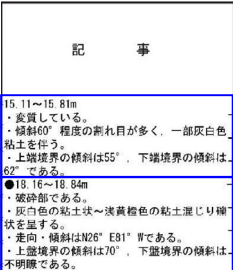
委託報告書
(平成20年)



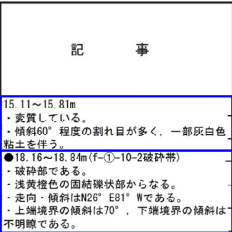
設置許可申請書案



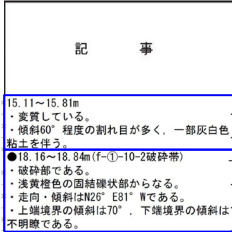
設置許可申請書
(平成27年11月)



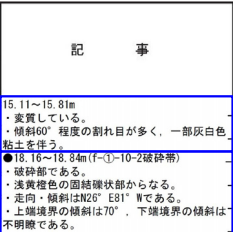
審査資料
(平成29年12月22日)



審査資料
(平成30年11月30日)

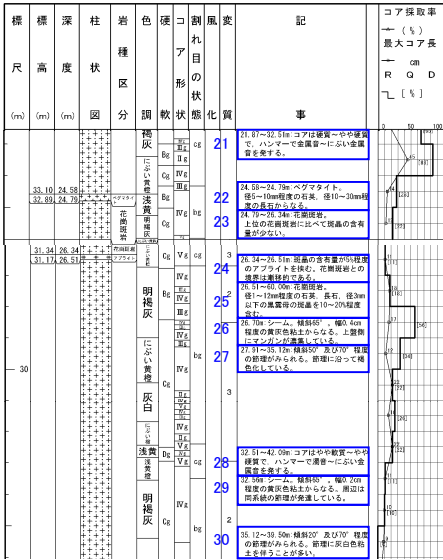


審査資料
(令和2年2月7日)



記事	報告書⇒申請書案	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
17	・幅の記載については、区間長を記載しているため削除。 ・系統的な割れ目の配列が比較的明瞭であることから、割れ目の傾斜、割れ目沿いの粘土の挟在について追記。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
18	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・挟在物については、個別に記載するためまとめ書きは削除。	—	—	—	—
19	・性状について、報告書では破砕区分の記号で示していたが、観察による粒度を示すこととし、粘土状～粘土混じり礫状と記載。 ・粘土混じり礫状の色調については、“色調”欄に基づき浅黄橙色と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・幅の記載については、区間長を記載しているため削除。 ・原岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。	変更なし	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。	変更なし	変更なし
20	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(資補足説明資料3 補足3-198頁)。	—	—	—	—

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書案

記事
22 24.58～24.79m ・ペグマタイトである。
23 24.79～26.34m ・花崗斑岩である。
24 26.34～26.51m ・アブライトである。
25 26.51～60.00m ・花崗斑岩である。
27 27.91～35.12m ・傾斜50°、70° 程度の割れ目が分布する。
30 35.12～39.50m ・傾斜20°、70° 程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事
22 24.58～24.79m ・ペグマタイトである。
23 24.79～26.34m ・花崗斑岩である。
24 26.34～26.51m ・アブライトである。
25 26.51～60.00m ・花崗斑岩である。
27 27.91～35.12m ・傾斜50°、70° 程度の割れ目が分布する。
30 35.12～39.50m ・傾斜20°、70° 程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。

審査資料
(平成29年12月22日)

記事
22 24.58～24.79m ・ペグマタイトである。
23 24.79～26.34m ・花崗斑岩である。
24 26.34～26.51m ・アブライトである。
25 26.51～60.00m ・花崗斑岩である。
27 27.91～35.12m ・傾斜50°、70° 程度の割れ目が分布する。
30 35.12～39.50m ・傾斜20°、70° 程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。

審査資料
(平成30年11月30日)

記事
22 24.58～24.79m ・ペグマタイトである。
23 24.79～26.34m ・花崗斑岩である。
24 26.34～26.51m ・アブライトである。
25 26.51～60.00m ・花崗斑岩である。
27 27.91～35.12m ・傾斜50°、70° 程度の割れ目が分布する。
30 35.12～39.50m ・傾斜20°、70° 程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記事
22 24.58～24.79m ・ペグマタイトである。
23 24.79～26.34m ・花崗斑岩である。
24 26.34～26.51m ・アブライトである。
25 26.51～60.00m ・花崗斑岩である。
27 27.91～35.12m ・傾斜50°、70° 程度の割れ目が分布する。
30 35.12～39.50m ・傾斜20°、70° 程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。

記事	報告書⇒申請書案	申請書案⇒申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒審査資料(R2.2.7)
21	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。	－	－	－	－
22	・ペグマタイトの一般的な特徴を有しており、鉱物組成、粒径については削除。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
23	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
24	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
25	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
26	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-199頁)。	－	－	－	－
27	・褐色化については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
28	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。	－	－	－	－
29	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-200頁)。	－	－	－	－
30	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき岩片状と記載。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)

標	標	深	柱	岩	色	硬	割	風	変	記	コア採取結果 (%)
尺	高	度	状	種	区	調	軟	化	質	事	最大コア長 m R Q D 〔 〕
(m)	(m)	(m)	図								
						橙	Ⅲ	Ⅲ	31	31. 0.6m シン、難削Ⅲ、難削Ⅲ 粗粒の黄褐色の砂が主である。	5 10 15 20 25 30 35 40 45 50 55 60 65 70 75 80 85 90 95 100
						Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	32	32. 17m-20m 灰黄砂、上部は 一部に砂が粗粒、一部に灰白 色の砂が主成分に分かる。	3
						Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	33	33. 20m-22m 灰黄砂、上部は 粗粒の砂が主成分に分かる。砂層に沿って南 に傾斜し、砂層の粗粒が主成分に分かる。	3
						Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	34	34. 22m-24m 灰黄砂、上部は 粗粒の砂が主成分に分かる。砂層に沿って南 に傾斜し、砂層の粗粒が主成分に分かる。	3
						Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	35	35. 24m-26m 灰黄砂、上部は 粗粒の砂が主成分に分かる。砂層に沿って南 に傾斜し、砂層の粗粒が主成分に分かる。	3
						Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	36	36. 26m-28m 灰黄砂、上部は 粗粒の砂が主成分に分かる。砂層に沿って南 に傾斜し、砂層の粗粒が主成分に分かる。	3
						Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	37	37. 28m-30m コアは難削、ハヤ で破断する。	3

設置許可申請書案

記 事

39. 17~39. 29m
・変質している。
・一部灰白色粘土が礫目状に分布する。
・土壌境界の傾斜は41°、下地境界の傾斜は12°である。

39. 32~39. 38
・変質している。
・灰白色粘土が礫目状に分布する。
・土壌境界の傾斜は73°、下地境界の傾斜は64°である。

40. 65~41. 00m
・変質している。
・灰白色粘土が礫目状に分布する。

40. 69~40. 20m
・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

59. 17°~30. 23m
・変質している。
・一部灰色白色粘土が層目状に分布する。
・上端境界の傾斜は41°、下端境界の傾斜は12°である。
59. 32~39. 88
・変質している。
・黄灰色粘土が層目状に分布する。
・上端境界の傾斜は73°、下端境界の傾斜は64°である。
60. 65~41. 00m
・変質している。
・黄灰色粘土が層目状に分布する。
62. 09~48. 20m
・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。

審査資料
(平成29年12月22日)

	記 事
32	39. 17～39. 2mm ・変質している。 ・一部灰白色粘土が網目状に分布する。
34	39. 82～39. 88m ・変質している。 ・黄灰色粘土が網目状に分布する。
36	40. 65～41. 00m ・変質している。 ・黄灰色粘土が網目状に分布する。
37	42. 09～46. 20m ・硬度で割れ目が少なく、柱状を呈する。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事	
32	39.17~39.29m ・変質している。 ・一部灰色粘土が網目状に分布する。
34	39.82~39.88m ・変質している。 ・黄灰色粘土が網目状に分布する。
36	40.65~41.00m ・変質している。 ・黄灰色粘土が網目状に分布する。
37	42.09~46.20m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

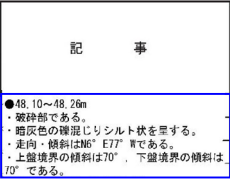
	記 事
32	39. 17~39. 29m ・変質している。 ・一部灰白色粘土が網目状に分布する。
34	39. 32~39. 85m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
36	40. 65~41. 00m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
37	42. 09~46. 20m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。

記事	報告書⇒申請書案	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
31	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-201頁)。	－	－	－	－
32	・幅の記載については、区間長を記載しているため削除。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
33	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・挟在物については、個別に記載するためまとめ書きは削除。 ・褐色化については、補足的なものであるため削除。	－	－	－	－
34	・幅の記載については、区間長を記載しているため削除。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
35	・マンガンについては、補足的なものであるため削除。	－	－	－	－
36	・幅の記載については、区間長を記載しているため削除。 ・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
37	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき柱状と記載。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし

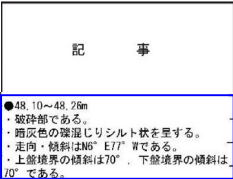
委託報告書
(平成20年)



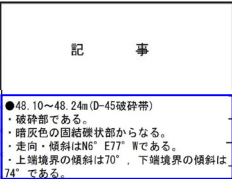
設置許可申請書案



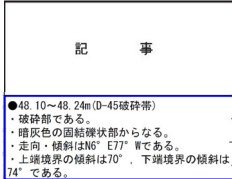
設置許可申請書
(平成27年11月)



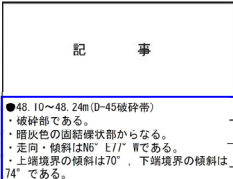
審査資料
(平成29年12月22日)



審査資料
(平成30年11月30日)



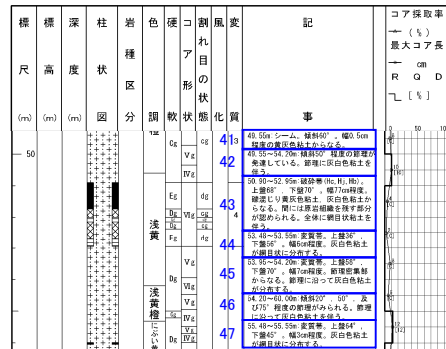
審査資料
(令和2年2月7日)



記事	報告書⇒申請書案	申請書案⇒ 申請書(H27.11)	申請書(H27.11)⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
38	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・挟在物については、個別に記載するためまとめ書きは削除。	—	—	—	—
39	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—	—
40	・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・幅の記載については、区間長を記載しているため削除。 ・マンガンの濃集については、補足的なものであるため削除。	変更なし	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・誤記修正(報告書から申請書提出までの間に行った再観察により下端深度を見直した。申請書案には未反映であった。再観察では、破砕部の下端について、深度の読み取りのずれを修正した。) ・上記再観察による下端境界の見かけの傾斜の見直しを反映。	変更なし	変更なし

H20-①-10

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書案

記 事

● 50.90~52.95m (0-5破砕帯)
 ・ 破砕帯である。
 ・ 黄灰~灰白色の粘土土層に層状に粘土状~塊状の粘土質土層を呈する。
 ・ 傾斜はNS71° Nである。
 ・ 上盤境界の傾斜は68°、下盤境界の傾斜は70°である。

43 ● 53.48~53.85m
 ・ 変質している。
 ・ 灰白色粘土が網目状に分布する。
 ・ 上盤境界の傾斜は36°、下盤境界の傾斜は36°である。

44 ● 53.95~54.20m
 ・ 変質している。
 ・ 灰白色粘土が網目状に分布する。
 ・ 上盤境界の傾斜は56°、下盤境界の傾斜は70°である。

45 ● 54.48~55.55m
 ・ 変質している。
 ・ 灰白色粘土が網目状に分布する。
 ・ 上盤境界の傾斜は64°、下盤境界の傾斜は45°である。

47 ● 55.55~56.55m
 ・ 変質している。
 ・ 灰白色粘土が網目状に分布する。
 ・ 上盤境界の傾斜は64°、下盤境界の傾斜は45°である。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

● 50. 90→52. 95m (D-6磁砕帯)
・破砕部である。
・黄灰→灰白色の粘土→礫混じり粘土状→沙の順に色・質が変化する。
・走向・傾斜は4871°である。
・上境界線の傾斜は68°、下境界線の傾斜は70°である。
53. 48→53. 55m
・変質している。
・灰白色の礫目状に分布する。
・上境界線の傾斜は38°、下境界線の傾斜は66°である。
55. 48→54. 20m
・変質している。
・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。
・上境界線の傾斜は58°、下境界線の傾斜は70°である。
55. 48→55. 55m
・変質している。
・灰白色粘土が礫目状に分布する。
・上境界線の傾斜は64°、下境界線の傾斜は70°である。

審査資料
(平成29年12月22日)

● 50. 90～52. 95m (D-5破砕帯)
・破砕帯である。
・主に浅黄の固結礫状部からなる。
・灰白色の未固結粘土状部・累計幅0. 5cm
・走向・傾斜はN57° Wである。
・主境界の傾斜は69°、下境界の傾斜は
70°である。

53. 48～53. 55m
・変質している。
・灰白色粘土が網目状に分布する。

53. 95～54. 20m
・変質している。
・灰白色粘土と灰白色粘土が分布する。

54. 48～55. 55m
・変質している。
・灰白色粘土が網目状に分布する。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事

● 50. 90 ~ 92. 95m (D-5破砕帯)

- 1 破砕帯である。
- 2 正断層セクションである。
- 3 主に浅部の固結砂状部からなる。
- 4 50. 6の末固結砂状部、累計傾斜 95 cm 走向、傾斜はN57° Wである。
- 5 上端境界の傾斜は69°、下端境界の傾斜は70°である。
- 6 53. 40~63. 50m
 - 1 変質している。
 - 2 灰白色粘土土層目状に分布する。
 - 3 95. 95 ~ 96. 20m
 - 1 変質している。
 - 2 傾斜に沿って灰白色粘土土層目状に分布する。
 - 3 96. 40 ~ 99. 50m
 - 1 変質している。
 - 2 灰白色粘土土層目状に分布する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事

- 50. 90~52. 95m (0-5破砕帯)
- ・ 破砕帯である。
- ・ 正断層シースである。
- ・ 主に灰黄色の粗粒砂状部からなる。
- ・ 灰白色の未固結粘土部。 累計幅0. 5cm
- ・ 走向、傾斜はN57°1°Wである。
- ・ 上堆積層の傾斜は69°。 下堆積層の傾斜は70°である。

43

44

45

47

- 53. 48~53. 55m
- ・ 変質して見える。
- ・ 灰白色粘土が網目状に分布する。
- 53. 95~54. 20m
- ・ 変質して見える。
- ・ 割目目に沿って灰白色粘土が分布する。
- 55. 48~46. 55m
- ・ 変質して見える。
- ・ 灰白色粘土が網目状に分布する。

記事	報告書⇒申請書案	申請書案⇒ 申請書 (H27.11)	申請書 (H27.11)⇒ 審査資料 (H29.12.22)	審査資料 (H29.12.22)⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
41	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-202頁)。	—	—	—	—
42	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・挟在物については、個別に記載するためまとめ書きは削除。	—	—	—	—
43	・破砕帯名を記載。 ・粘土混じり礫状の色調については、“色調”欄に基づき、浅黄色と記載。 ・性状について、報告書では破砕区分の記号で示していたが、観察による粒度を示すこととし、粘土状～礫混じり粘土状～粘土混じり礫状と記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・幅の記載については、区間長を記載しているため削除。 ・原岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・“網目状粘土を伴う”と記載されているが、粘土が系統的でなく、連続性や直線性に乏しいことから削除。	変更なし	・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・上記再観察による上端境界の見かけの傾斜の見直しを反映。	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 (※ただし、断層岩区分は薄片観察結果に基づく)	変更なし
44	・幅の記載については、区間長を記載しているため削除。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
45	・幅の記載については、区間長を記載しているため削除。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
46	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・挟在物については、個別に記載するためまとめ書きは削除。	—	—	—	—
47	・幅の記載については、区間長を記載しているため削除。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

H20-①-10

委託報告書
(平成20年)

標	標	深	柱	岩	色	硬	割	風	記	
尺	高	度	状	種	区	調	軟	化	質	事
(m)	(m)	(m)	図	分			形	性		
						明	Da	48	55-59=56.0%硬砂岩(細)、上層77 下層77、幅1.3cm程度、黄白色粘	コア採取車 コ ス 最大コア 上 R Q D L (%)
						明	Da	49	56-58=56.7%実質砂岩、上層77 下層77、幅0.6cm程度、断面に沿っ て黄白色粘り50%程度	
						明	Da	50	57.92=58.8%実質砂岩、上層55 下層77、幅0.7cm程度、断面に沿っ て黄白色粘り50%程度	
						明	Da	51	58.35=59.5%実質砂岩、上層55 下層77、幅0.7cm程度、断面に沿っ て黄白色粘り50%程度	
-2.32	60.00					明	Da			

設置許可申請書案

記 事

● 55. 99~56. 05m
 ・破砕部である。
 ・黄白色の粘土状を呈する。
 48 黄白色粘土・累計厚13mm
 走向・傾斜はN34° E83° Wである。
 ・上盤境界の傾斜は77°。下盤境界の傾斜は77°である。

50 56. 05~56. 17m
 ・変質している。
 49 ・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。
 ・上盤境界の傾斜は77°。下盤境界の傾斜は77°である。

50 57. 95~58. 05m
 ・変質している。
 ・割れ目が密集しており、割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。
 51 ・上盤境界の傾斜は85°。下盤境界の傾斜は85°である。

59. 35~59. 56m
 ・変質している。
 ・灰白色粘土を伴う。
 51 ・上盤境界の傾斜は85°。下盤境界の傾斜は85°である。

不明な境界の傾斜は

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

- 55. 99~56. 05m
 - ・破砕面である。
 - ・黄白色の粘土状を呈する。
 - ・走向・傾斜土：量計厚13cmである。
 - ・走向・傾斜(E83° E83° Wである。
 - ・上盤境界の傾斜は77°、下盤境界の傾斜は77°である。
- 56. 05~56. 77m
 - ・変質している。
 - ・割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。
 - ・上盤境界の傾斜は77°、下盤境界の傾斜は53°である。
- 57. 39~58. 02cm
 - ・変質している。
 - ・割れ目が密集しており、割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。
 - ・上盤境界の傾斜は58°、下盤境界の傾斜は77°である。
- 59. 38~59. 56m
 - ・変質している。
 - ・一部灰白色粘土を伴う。
 - ・上盤境界の傾斜は85°、下盤境界の傾斜は77°である。

不明な部分

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

●55.99~56.05m (D-46 破砕帯)
・破砕帯である。
・黄白色の未固結粘土状部からなる。この計測は11.37mである。
・走向・傾斜はN34° E33° Wである。
・上境界面の傾斜は77°、下境界面の傾斜は77°である。
56.05~56.7m
・変質しない。
57.95~58.85m
・変質しない。
・割れ目により密集しており、割れ目によって黄白色粘土が分布する。
59.35~59.56m
・変質しない。
・一般灰白色粘土を伴う。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事

- 55.99 - 56.05m (D-46緩砂岩)
- ・緩砂岩である。
- ・変質はほとんどである。
- ・黄白色の未固結粘土状部になる。この層は1.3mである。
- ・走向・傾斜はN34° E83° Wである。
- ・上境界面の傾斜は77°、下境界面の傾斜は77°である。
- 56.05 - 56.77m
- ・変質しない。
- ・黄白色の面に黄白色粘土点が分布する。
- 57.99 - 58.89m
- ・変質しない。
- ・傾斜目で密着しており、割れ目に沿って白色粘土が分布する。
- 59.39 - 59.56m
- ・変質しない。
- ・一部灰白色粘土を伴う。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事

●55.99~56.05m (D-46破砕帯)
破砕帯である。
* ずれが生ずる。
* 黄白色の未固結粘土状部からなる。この層計は1.3cmである。
* 走向・傾斜はN34° E83° である。
* 上境界面の傾斜は77°、下境界面の傾斜は77°である。
56.05~56.77m
* 変質している。
77.95~88.95m
* 変質している。
* 割れ目が密着しており、割れ目に沿って灰白色粘土が分布する。
59.35~59.56m
* 変質している。
* 一部灰白色粘土を伴う。

記事	報告書⇒申請書案	申請書案⇒ 申請書 (H27.11)	申請書 (H27.11)⇒ 審査資料 (H29.12.22)	審査資料 (H29.12.22)⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
48	・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。	変更なし	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22) までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩 (断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト) を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 (※ただし、断層岩区分は薄片観察結果に基づく)	変更なし
49	・幅の記載については、区間長を記載しているため削除。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
50	・幅の記載については、区間長を記載しているため削除。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
51	・幅の記載については、区間長を記載しているため削除。	変更なし	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

H19-No.16

余白

委託報告書
(平成19年)

標 尺	標 高 度	柱 状	岩 種	色	硬 軟	割 れ 目 の 状 況	風 化 度	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D ↓ [%]
(m)	(m)	(m)	固 分	調 軟	状 況	風 化 度			
			花 崗 斑 岩	浅 黄				1 深度0.40～2.00m 盛土、径0.5～2.0 mmの砂石、砂。	
			盛 土					2 深度2.00～9.63m 盛土、シルト混じ り砂礫。	
			花 崗 斑 岩					3 深度9.63～9.81m コンクリート片。	
			花 崗 斑 岩					4 深度9.81～12.73m 花崗斑岩、 径0.5～1mmの石英、黒雲母の結晶、 2mmの石英の結晶を0～40%程度含み 石脈は径0.5～1mm程度である。 全粒に風化が著しく、粒まで暗色を帯 び結晶。 硬軟4～10度の軟弱が散在するが不 均、細粒化が顕著し、腐食する。	

設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事
a 0.00～9.81m ・盛土である。
1 0.40～2.00m ・径5～30mmの砂石、砂からなる。
2 2.00～9.63m ・シルト混じり砂礫からなる。
3 9.63～9.81m ・コンクリート片を含む。
4 9.81～12.73m ・花崗斑岩である。 ・強風化し、軟質化している。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
a 0.00～9.81m ・盛土である。
1 0.40～2.00m ・径5～30mmの砂石、砂からなる。
2 2.00～9.63m ・シルト混じり砂礫からなる。
3 9.63～9.81m ・コンクリート片を含む。
4 9.81～12.73m ・花崗斑岩である。 ・強風化し、軟質化している。

審査資料
(平成30年11月30日)

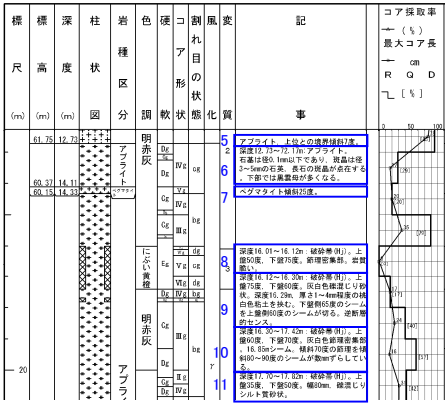
記 事
a 0.00～9.81m ・盛土である。
1 0.40～2.00m ・径5～30mmの砂石、砂からなる。
2 2.00～9.63m ・シルト混じり砂礫からなる。
3 9.63～9.81m ・コンクリート片を含む。
4 9.81～12.73m ・花崗斑岩である。 ・強風化し、軟質化している。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
a 0.00～9.81m ・盛土である。
1 0.40～2.00m ・径5～30mmの砂石、砂からなる。
2 2.00～9.63m ・シルト混じり砂礫からなる。
3 9.63～9.81m ・コンクリート片を含む。
4 9.81～12.73m ・花崗斑岩である。 ・強風化し、軟質化している。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
a	・柱状図に合わせて盛土とその深度区間を記載。	変更なし	変更なし	変更なし
1	・表現の見直し(cm⇒mm)。	変更なし	変更なし	変更なし
2	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
3	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
4	・一般的なる岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・“硬軟”欄に基づき軟質化していると記載。 ・色調については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事
6 12.73～41.21m ・アブライトである。
7 14.11～14.33m ・ペグマタイトを挟む。
8 ●16.01～17.82m ・破砕部である。 ・にぶい黄橙色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・上端境界の傾斜は50°、下端境界の傾斜は50°である。
11

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
6 12.73～41.21m ・アブライトである。
7 14.11～14.33m ・ペグマタイトを挟む。
8 ●16.01～17.82m ・破砕部である。 ・にぶい黄橙色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・上端境界の傾斜は50°、下端境界の傾斜は50°である。
11

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事
6 12.73～41.21m ・アブライトである。
7 14.11～14.33m ・ペグマタイトを挟む。
8 ●16.01～17.82m ・破砕部である。 ・にぶい黄橙色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は50°、下端境界の傾斜は50°である。
11

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
6 12.73～41.21m ・アブライトである。
7 14.11～14.33m ・ペグマタイトを挟む。
8 ●16.01～17.82m ・破砕部である。 ・にぶい黄橙色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は50°、下端境界の傾斜は50°である。
11

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
5.6	・柱状図に合わせてアブライトの深度区間を記載。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
7	・柱状図に合わせてペグマタイトの深度区間を記載。 ・岩種境界の見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
8～11	・報告書から申請書提出までの間に行った破砕部の再観察により破砕部の区間を統合。再観察では、破砕部に挟まれた区間について、破砕部の下端面と同系統の割れ目が分布していることから、一連の破砕部であると判断した。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・破砕部の各性状間の見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・“粘土を挟む”と記載されているが、粘土が不明瞭で、連続性に乏しいことから削除。 ・シームについては、連続性や直線性に乏しく、固結礫状部に含めているため削除。 ・“節理密集部”との記載については、上記再観察により固結礫状部としたため削除。 ・“逆断層のセンス”との記載については、破砕部の変位センスを薄片観察に基づき認定することとしているため削除。	変更なし	・カタクレーサイト中に挟在するフィルム状の細粒物質のうち、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟在するもの(断層ガウジ)として扱い、フィルム状の粘土を追記。	変更なし

H19-No.16

委託報告書
(平成19年)

[illegible]設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審查資料案

記 事

17. 82~20. 00m
・密着した割れ目が、数+mm間隔で分布する。

21. 28~24. 43m
・割れ目が、10~20cm間隔で分布する。

27. 00~27. 09m
・高角度の割れ目が多く、岩片状~短柱状を呈する。

●28. 29~29. 04m (f-6) 3~2破砕帯
・破砕部である。
・明暗灰色の圓粒礫状部からなる。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

17. 82～20. 00m
・密着した割れ目が、数十mm間隔で分布する。

21. 28～24. 43m
・割れ目が、10～20cm間隔で分布する。

27. 00～27. 09m
・高角度の割れ目が多く、岩片状～短柱状を呈する。

●28. 92～29. 04m (f-6) 3-2破砕帯
・破砕部である。
・明礬灰色の固結礫状部からなる。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事

17. 82~20. 00m
・密着した割れ目が、数十mm間隔で分布する。

21. 28~24. 43m
・割れ目が、10~20cm間隔で分布する。

27. 00~27. 09m
・高角度の割れ目が多く、岩片状~柱状に分布する。

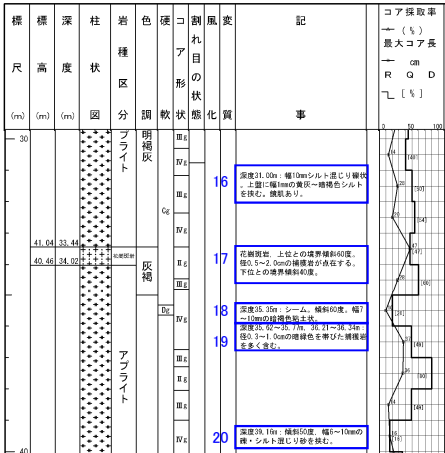
28. 92~29. 04m(f-6-3-2破砕帯)
・破砕帯である。
・明褐灰色の固結礫状部からなる。

審査資料
(令和2年2月7日)

	記 事
12	17. 82~20. 00m ・密着した割れ目が、数十mm間隔で分布する。
13	21. 28~24. 43m ・割れ目が、10~20cm間隔で分布する。
14	27. 00~27. 09m ・高角度の割れ目が多く、薄片状~短柱状を呈する。
15	●28. 92~29. 04m (f-6~3-2破砕帯) ・破砕部である。 ・明暗灰色の間縞縞状部からなる。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
12	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。 ・表現の見直し(数cm→数十mm)。	変更なし	変更なし	変更なし
13	・割れ目の傾斜、色調については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
14	・“コア形状”欄に基づき岩片状～短柱状と記載。	変更なし	変更なし	変更なし
15	・節理密集部と記載されているが、報告書から申請書提出までの間に行った再観察により破砕部と認定されているため、その結果を反映。破砕部への見直しの詳細については別途説明(補足説明資料4 補足4-32頁)。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事

17 33.44～34.02m
・花崗斑岩を挟む。

18 ●35.33～35.35m (f-17-2破砕帯)
・破砕部である。
・暗褐色の固結礫状部からなる。

19 35.62～35.77m, 36.21～36.34m
・径3～10mmの暗緑色の捕獲岩を多く含む。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

17 33.44～34.02m
・花崗斑岩を挟む。

18 ●35.33～35.35m (f-17-2破砕帯)
・破砕部である。
・暗褐色の固結礫状部からなる。

19 35.62～35.77m, 36.21～36.34m
・径3～10mmの暗緑色の捕獲岩を多く含む。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事

17 33.44～34.02m
・花崗斑岩を挟む。

18 ●35.33～35.35m (f-17-2破砕帯)
・破砕部である。
・フィルム状の粘土を挟在する。

19 35.62～35.77m, 36.21～36.34m
・径3～10mmの暗緑色の捕獲岩を多く含む。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事

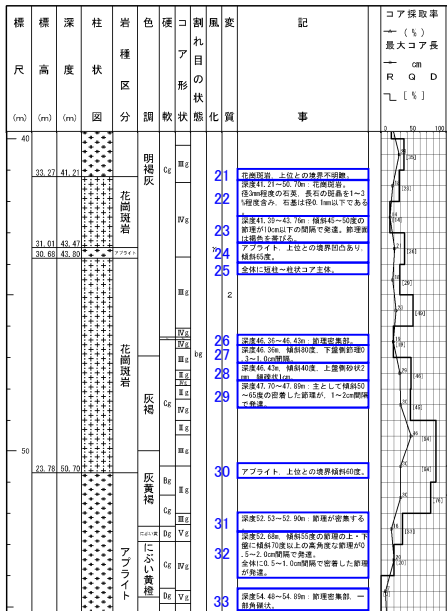
17 33.44～34.02m
・花崗斑岩を挟む。

18 ●35.33～35.35m (f-17-2破砕帯)
・破砕部である。
・暗褐色の固結礫状部からなる。

19 35.62～35.77m, 36.21～36.34m
・径3～10mmの暗緑色の捕獲岩を多く含む。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H29.12.22)	審査資料 (H29.12.22) ⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30) ⇒ 審査資料 (R2.2.7)
16	・鏡肌を伴いシルト混じり礫状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—	—
17	・柱状図に合わせて花崗斑岩の深度区間を記載。 ・捕獲岩については、補足的なものであるため削除。 ・岩種境界の見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
18	・シームという用語については削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-101頁)。 ・シームと記載されているが、報告書から申請書提出までの間に行った再観察により破砕部と認定されているため、その結果を反映。破砕部への見直しの詳細については別途説明(補足説明資料4 補足4-33頁)。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22) までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。	変更なし	・カタクレーサイト中に挟在するフィルム状の細粒物質のうち、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟在するもの(断層ガウジ)として扱い、フィルム状の粘土を追記。	変更なし
19	・表現の見直し(cm⇒mm)。	変更なし	変更なし	変更なし
20	・礫・シルト混じり砂を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。	—	—	—

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事
22 41.21～50.70m ・花崗閃岩である。
23 41.39～43.76m ・割れ目が、10cm以下の間隔で分布する。
24 43.47～43.80m ・アブライトを挟む。
26 46.36～46.43m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。
29 47.70～47.89m ・密着した割れ目が、1～2cm間隔で分布する。
30 50.70～57.17m ・アブライトである。
31 52.53～52.90m、54.48～54.89m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。
33

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
22 41.21～50.70m ・花崗閃岩である。
23 41.39～43.76m ・割れ目が、10cm以下の間隔で分布する。
24 43.47～43.80m ・アブライトを挟む。
26 46.36～46.43m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。
29 47.70～47.89m ・密着した割れ目が、1～2cm間隔で分布する。
30 50.70～57.17m ・アブライトである。
31 52.53～52.90m、54.48～54.89m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。
33

審査資料
(平成30年11月30日)

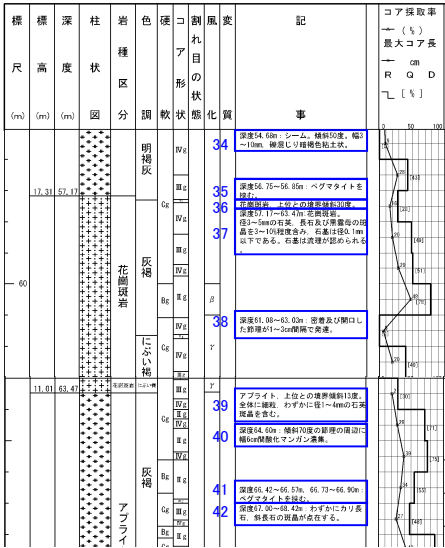
記 事
22 41.21～50.70m ・花崗閃岩である。
23 41.39～43.76m ・割れ目が、10cm以下の間隔で分布する。
24 43.47～43.80m ・アブライトを挟む。
26 46.36～46.43m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。
29 47.70～47.89m ・密着した割れ目が、1～2cm間隔で分布する。
30 50.70～57.17m ・アブライトである。
31 52.53～52.90m、54.48～54.89m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。
33

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
22 41.21～50.70m ・花崗閃岩である。
23 41.39～43.76m ・割れ目が、10cm以下の間隔で分布する。
24 43.47～43.80m ・アブライトを挟む。
26 46.36～46.43m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。
29 47.70～47.89m ・密着した割れ目が、1～2cm間隔で分布する。
30 50.70～57.17m ・アブライトである。
31 52.53～52.90m、54.48～54.89m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。
33

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
21.22	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
23	・割れ目の傾斜及び色調については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
24	・柱状図に合わせてアブライトの深度区間を記載。 ・岩種境界の明瞭さや見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
25	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—
26～28	・“コア形状”欄に基づき岩片状と記載。 ・割れ目の傾斜及び間隔については、補足的なものであるため削除。 ・砂状や細礫状については、掘削時の機械割れと判断し削除。	変更なし	変更なし	変更なし
29	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
30	・柱状図に合わせてアブライトの深度区間を記載。 ・岩種境界の見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
31～33	・割れ目の発達状況について一括記載。 ・割れ目の発達程度については、“コア形状欄”に基づき岩片状と記載。	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事
35 56.75～56.85m ・ペグマタイトを挟む。
37 57.17～63.47m ・花崗斑岩である。
38 61.08～63.03m ・割れ目が多く、岩片状～短柱状を呈する。
39 63.47～72.17m ・アブライトである。
41 66.42～66.57m、66.73～66.90m ・ペグマタイトを挟む。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
35 56.75～56.85m ・ペグマタイトを挟む。
37 57.17～63.47m ・花崗斑岩である。
38 61.08～63.03m ・割れ目が多く、岩片状～短柱状を呈する。
39 63.47～72.17m ・アブライトである。
41 66.42～66.57m、66.73～66.90m ・ペグマタイトを挟む。

審査資料
(平成30年11月30日)

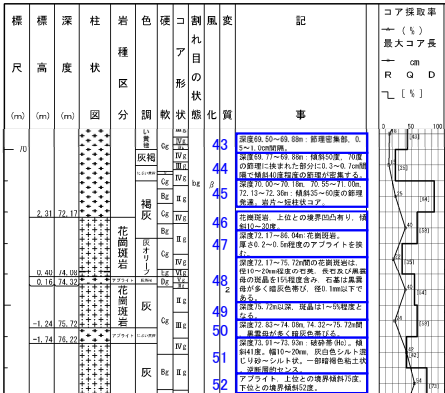
記 事
35 56.75～56.85m ・ペグマタイトを挟む。
37 57.17～63.47m ・花崗斑岩である。
38 61.08～63.03m ・割れ目が多く、岩片状～短柱状を呈する。
39 63.47～72.17m ・アブライトである。
41 66.42～66.57m、66.73～66.90m ・ペグマタイトを挟む。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
35 56.75～56.85m ・ペグマタイトを挟む。
37 57.17～63.47m ・花崗斑岩である。
38 61.08～63.03m ・割れ目が多く、岩片状～短柱状を呈する。
39 63.47～72.17m ・アブライトである。
41 66.42～66.57m、66.73～66.90m ・ペグマタイトを挟む。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
34	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-102頁)。	—	—	—
35	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
36,37	・柱状図に合わせて花崗斑岩の深度区間を記載。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の見かけの傾斜、流理については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
38	・“コア形状”欄に基づき岩片状～短柱状と記載。	変更なし	変更なし	変更なし
39	・柱状図に合わせてアブライトの深度区間を記載。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
40	・割れ目沿いの酸化マンガンのについては、補足的なものであるため削除。	—	—	—
41	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
42	・斑晶については、補足的なものであるため削除。	—	—	—

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事
43 45 47 51 b
69.50～69.88m, 70.00～70.18m, 70.55～71.00m, 72.13～72.36m ・割れ目が多く、岩片状～短柱状を量する。
72.17～86.04m ・花崗斑岩である。 ・幅20～50cm程度のアブライトを挟む。 ●73.91～73.93m(D-11破砕帯) ・破砕部である。 ・暗褐色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.0cmである。 74.08～74.32m, 75.72～76.22m ・アブライトである。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
43 45 47 51 b
69.50～69.88m, 70.00～70.18m, 70.55～71.00m, 72.13～72.36m ・割れ目が多く、岩片状～短柱状を量する。
72.17～86.04m ・花崗斑岩である。 ・幅20～50cm程度のアブライトを挟む。 ●73.91～73.93m(D-11破砕帯) ・破砕部である。 ・暗褐色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.0cmである。 74.08～74.32m, 75.72～76.22m ・アブライトである。

審査資料
(平成30年11月30日)

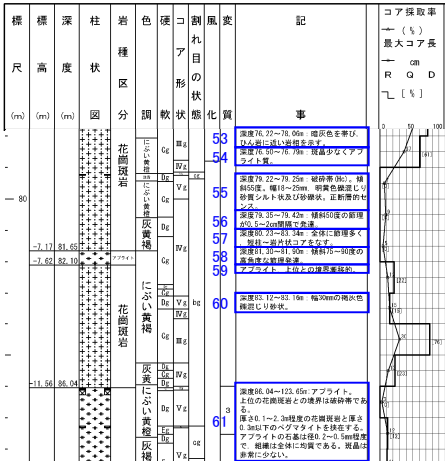
記 事
43 45 47 51 b
69.50～69.88m, 70.00～70.18m, 70.55～71.00m, 72.13～72.36m ・割れ目が多く、岩片状～短柱状を量する。
72.17～86.04m ・花崗斑岩である。 ・幅20～50cm程度のアブライトを挟む。 ●73.91～73.93m(D-11破砕帯) ・破砕部である。 ・暗褐色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.0cmである。 74.08～74.32m, 75.72～76.22m ・アブライトである。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
43 45 47 51 b
69.50～69.88m, 70.00～70.18m, 70.55～71.00m, 72.13～72.36m ・割れ目が多く、岩片状～短柱状を量する。
72.17～86.04m ・花崗斑岩である。 ・幅20～50cm程度のアブライトを挟む。 ●73.91～73.93m(D-11破砕帯) ・破砕部である。 ・暗褐色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.0cmである。 74.08～74.32m, 75.72～76.22m ・アブライトである。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
43～45	・割れ目の発達状況について一括記載。 ・“コア形状”欄に基づき岩片状～短柱状と記載。	変更なし	変更なし	変更なし
46～48.50	・“岩種区分”欄に基づき花崗斑岩について一括記載。 ・岩種境界の明瞭さや見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
51	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩（断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト）を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・“傾斜が41°である”との記載については、見かけの傾斜を取得した不連続面が不明瞭であるため削除。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・“逆断層センスである”との記載については、肉眼観察に基づくものであり、審査資料では薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載することとしているため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
49.52.b	・柱状図に合わせてアブライトとその深度区間を一括記載。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事
●79.22～79.25m(D-12破砕帯) ・破砕部である。 ・明黄色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.5cmである。
79.35～79.42m ・割れ目が5～20mm間隔で分布する。
80.23～83.34m ・割れ目が多く、岩片状～短柱状を呈する。
81.30～81.90m ・高角度の割れ目が分布する。
81.65～82.10m ・アブライトを挟む。
86.04～123.65m ・アブライトである。 ・幅10～230cm程度の花崗斑岩と幅30cm以下のベグマタイトを挟む。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
●79.22～79.25m(D-12破砕帯) ・破砕部である。 ・明黄色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.5cmである。
79.35～79.42m ・割れ目が5～20mm間隔で分布する。
80.23～83.34m ・割れ目が多く、岩片状～短柱状を呈する。
81.30～81.90m ・高角度の割れ目が分布する。
81.65～82.10m ・アブライトを挟む。
86.04～123.65m ・アブライトである。 ・幅10～230cm程度の花崗斑岩と幅30cm以下のベグマタイトを挟む。

審査資料
(平成30年11月30日)

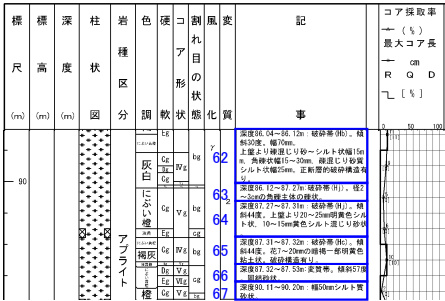
記 事
●79.22～79.25m(D-12破砕帯) ・破砕部である。 ・明黄色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.5cmである。
79.35～79.42m ・割れ目が5～20mm間隔で分布する。
80.23～83.34m ・割れ目が多く、岩片状～短柱状を呈する。
81.30～81.90m ・高角度の割れ目が分布する。
81.65～82.10m ・アブライトを挟む。
86.04～123.65m ・アブライトである。 ・幅10～230cm程度の花崗斑岩と幅30cm以下のベグマタイトを挟む。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
●79.22～79.25m(D-12破砕帯) ・破砕部である。 ・明黄色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.5cmである。
79.35～79.42m ・割れ目が5～20mm間隔で分布する。
80.23～83.34m ・割れ目が多く、岩片状～短柱状を呈する。
81.30～81.90m ・高角度の割れ目が分布する。
81.65～82.10m ・アブライトを挟む。
86.04～123.65m ・アブライトである。 ・幅10～230cm程度の花崗斑岩と幅30cm以下のベグマタイトを挟む。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
53	・色調及び岩相については、補足的なものであるため削除。	—	—	—
54	・岩相については、補足的なものであるため削除。	—	—	—
55	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩（断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト）を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・“傾斜が55°である”との記載については、見かけの傾斜を取得した不連続面が不明瞭であるため削除。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・“正断層のセンスである”との記載については、肉眼観察に基づくものであり、審査資料では薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載することとしているため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
56	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
57	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
58	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
59	・柱状図に合わせてアブライトとその深度区間を記載。 ・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
60	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—
61	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の破砕帯については、別途記載しているため削除。	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事

●86.04～87.32m (D-14破砕帯)
・破砕部である。
・主に黄色の固結礫状部からなる。
・灰白色の未固結礫状部：累計幅2.0cm
・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅1.4cm
・下端境界の傾斜は44°である。
87.32～87.53m
・変質している。
・にぶい黄緑色の固結した砂状を呈する。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

●86.04～87.32m (D-14破砕帯)
・破砕部である。
・主に黄色の固結礫状部からなる。
・灰白色の未固結礫状部：累計幅2.0cm
・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅1.4cm
・下端境界の傾斜は44°である。
87.32～87.53m
・変質している。
・にぶい黄緑色の固結した砂状を呈する。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事

●86.04～87.32m (D-14破砕帯)
・破砕部である。
・主に黄～暗褐灰色の固結礫状部からなる。
・灰白色の未固結礫状部：累計幅2.0cm
・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅1.4cm
・下端境界の傾斜は44°である。
87.32～87.53m
・変質している。
・にぶい黄緑色の固結した砂状を呈する。

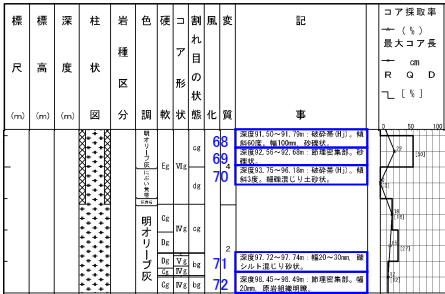
審査資料
(令和2年2月7日)

記 事

●86.04～87.32m (D-14破砕帯)
・破砕部である。
・主に黄～暗褐灰色の固結礫状部からなる。
・灰白色の未固結礫状部：累計幅2.0cm
・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅1.4cm
・下端境界の傾斜は44°である。
87.32～87.53m
・変質している。
・にぶい黄緑色の固結した砂状を呈する。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H29.12.22)	審査資料 (H29.12.22)⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
62～65	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩（断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト）を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・上記再観察で未固結礫状部とした箇所の累計幅を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。 ・正断層的との記載については、破砕部の変位センスを薄片観察に基づき認定することとしているため削除。 ・固結礫状部の色調について、黄～暗褐灰色と書くべきところを誤って黄色と記載。	変更なし	・誤記修正（黄色→黄～暗褐灰色）。	変更なし
66	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・“色調”欄に基づきにぶい黄緑色と記載。	変更なし	変更なし	変更なし
67	・シルト質砂状を呈するが、原岩組織の残留が認められることから削除。	—	—	—

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事
●91.50～91.79m ・破砕部である。 ・淡黄色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は60°である。
92.56～93.68m ・割れ目が多く、土砂状～岩片状を呈する。
●93.75～96.18m(D-47破砕帯) ・破砕部である。 ・明オリープ灰～にぶい黄橙色の固結礫状部からなる。
97.72～98.49m ・割れ目が多く、土砂状～岩片状を呈する。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
●91.50～91.79m ・破砕部である。 ・淡黄色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は60°である。
92.56～93.68m ・割れ目が多く、土砂状～岩片状を呈する。
●93.75～96.18m(D-47破砕帯) ・破砕部である。 ・明オリープ灰～にぶい黄橙色の固結礫状部からなる。
97.72～98.49m ・割れ目が多く、土砂状～岩片状を呈する。

審査資料
(平成30年11月30日)

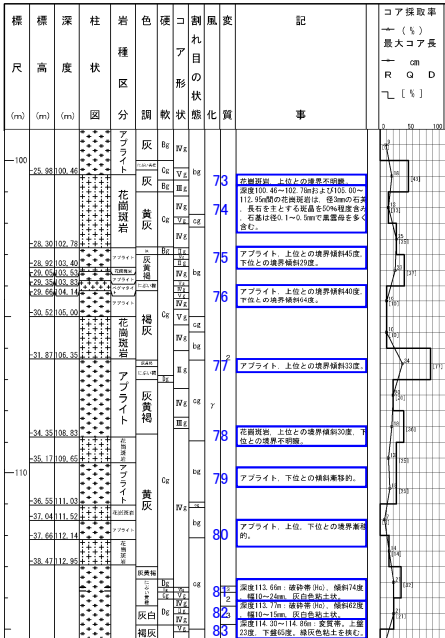
記 事
●91.50～91.79m ・破砕部である。 ・淡黄色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は60°である。
92.56～93.68m ・割れ目が多く、土砂状～岩片状を呈する。
●93.75～96.18m(D-47破砕帯) ・破砕部である。 ・明オリープ灰～にぶい黄橙色の固結礫状部からなる。 ・フィルム状の粘土を挟む。
97.72～98.49m ・割れ目が多く、土砂状～岩片状を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
●91.50～91.79m ・破砕部である。 ・淡黄色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は60°である。
92.56～93.68m ・割れ目が多く、土砂状～岩片状を呈する。
●93.75～96.18m(D-47破砕帯) ・破砕部である。 ・明オリープ灰～にぶい黄橙色の固結礫状部からなる。 ・フィルム状の粘土を挟む。
97.72～98.49m ・割れ目が多く、土砂状～岩片状を呈する。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
68	・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・上記再観察による上端及び下端境界の見かけの傾斜の見直しを反映(上端境界に変更はなく、下端境界は不明瞭であるため記載せず)。	変更なし	変更なし	変更なし
69	・“コア形状”欄に基づき土砂状～岩片状と記載。 ・誤記修正(92.56～92.68m→92.56～93.68m)。	変更なし	変更なし	変更なし
70	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・“傾斜が3°である”との記載については、見かけの傾斜を取得した不連続面が不明瞭であるため削除。	変更なし	・カタクレーサイト中に挟在するフィルム状の細粒物質のうち、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟在するもの(断層ガウジ)として扱い、フィルム状の粘土を追記。	変更なし
71,72	・割れ目の発達状況を一括記載。 ・“コア形状”欄に基づき土砂状～岩片状と記載。 ・礫シルト混じり砂状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審査資料案

記事
74 100.46～102.78m ・花崗斑岩である。
c 102.78～123.65m ・アブライトである。 ・花崗斑岩、ペグマタイトを挟む。
d 103.40～103.53m ・花崗斑岩を挟む。
e 103.83～104.14m ・ペグマタイトを挟む。
f 105.00～106.35m, 108.83～109.65m, 111.03～111.52m, 112.14～112.95m ・花崗斑岩を挟む。
81, 82 ●113.66～113.77m ・破砕部である。 ・主に、黄褐色の固結礫状部及び灰白色の固結砂状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部；累計幅1.5cm ・上端境界の傾斜は74°である。
83 114.30～114.86m ・変質し、緑灰色の粘土を挟む。

審査資料
(平成29年12月22日)

記事
74 100.46～102.78m ・花崗斑岩である。
c 102.78～123.65m ・アブライトである。 ・花崗斑岩、ペグマタイトを挟む。
d 103.40～103.53m ・花崗斑岩を挟む。
e 103.83～104.14m ・ペグマタイトを挟む。
f 105.00～106.35m, 108.83～109.65m, 111.03～111.52m, 112.14～112.95m ・花崗斑岩を挟む。
81, 82 ●113.66～113.77m ・破砕部である。 ・主に、黄褐色の固結礫状部及び灰白色の固結砂状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部；累計幅1.5cm ・上端境界の傾斜は74°である。
83 114.30～114.86m ・変質し、緑灰色の粘土を挟む。

審査資料
(平成30年11月30日)

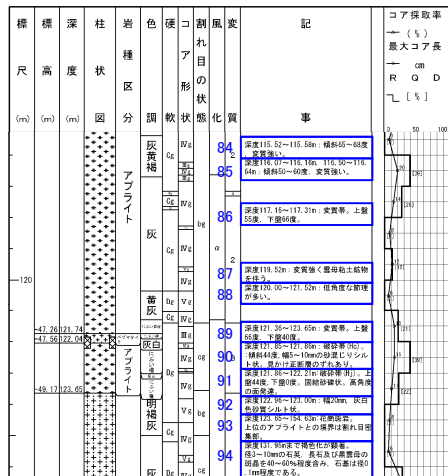
記事
74 100.46～102.78m ・花崗斑岩である。
c 102.78～123.65m ・アブライトである。 ・花崗斑岩、ペグマタイトを挟む。
d 103.40～103.53m ・花崗斑岩を挟む。
e 103.83～104.14m ・ペグマタイトを挟む。
f 105.00～106.35m, 108.83～109.65m, 111.03～111.52m, 112.14～112.95m ・花崗斑岩を挟む。
81, 82 ●113.66～113.77m ・破砕部である。 ・主に、黄褐色の固結礫状部及び灰白色の固結砂状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部；累計幅1.5cm ・上端境界の傾斜は74°である。
83 114.30～114.86m ・変質し、緑灰色の粘土を挟む。

審査資料
(令和2年2月7日)

記事
74 100.46～102.78m ・花崗斑岩である。
c 102.78～123.65m ・アブライトである。 ・花崗斑岩、ペグマタイトを挟む。
d 103.40～103.53m ・花崗斑岩を挟む。
e 103.83～104.14m ・ペグマタイトを挟む。
f 105.00～106.35m, 108.83～109.65m, 111.03～111.52m, 112.14～112.95m ・花崗斑岩を挟む。
81, 82 ●113.66～113.77m ・破砕部である。 ・主に、黄褐色の固結礫状部及び灰白色の固結砂状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部；累計幅1.5cm ・上端境界の傾斜は74°である。
83 114.30～114.86m ・変質し、緑灰色の粘土を挟む。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H29.12.22)	審査資料 (H29.12.22) ⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30) ⇒ 審査資料 (R2.2.7)
73,74	・柱状図に合わせて花崗斑岩の深度区間を記載。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
75～77, 79,80,c	・アブライトについて、柱状図の区間を統合し一括記載。 ・柱状図に基づき花崗斑岩とペグマタイトの挟在を記載。 ・岩種境界の明瞭さや見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
d	・柱状図に合わせて花崗斑岩とその深度区間を記載。	変更なし	変更なし	変更なし
e	・柱状図に合わせてペグマタイトとその深度区間を記載。	変更なし	変更なし	変更なし
78,f	・柱状図に合わせて花崗斑岩とその深度区間を記載。 ・岩種境界の明瞭さや見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
81,82	・報告書から申請書提出までの間に行った破砕部の再観察により破砕部の区間を統合。再観察では、近接して分布する同系統の破砕部を一連の破砕部であると判断した。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・下端境界の見かけの傾斜については、掘削時の機械割れによりコアが乱れているため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
83	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事
86 117.16～117.31m ・変質して、軟質化している。
88 120.00～121.52m ・低角度の割れ目が多く、岩片状～短柱状を呈する。
89 121.36～123.65m ・変質し、軟質化している。
g 121.74～122.04m ・ペグマタイトを挟む。
90 121.85～122.21m ・破碎部である。
91 主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・上端境界の傾斜は44°である。
93 123.65～154.63m ・花崗斑岩である。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
86 117.16～117.31m ・変質して、軟質化している。
88 120.00～121.52m ・低角度の割れ目が多く、岩片状～短柱状を呈する。
89 121.36～123.65m ・変質し、軟質化している。
g 121.74～122.04m ・ペグマタイトを挟む。
90 121.85～122.21m ・破碎部である。
91 主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・上端境界の傾斜は44°である。
93 123.65～154.63m ・花崗斑岩である。

審査資料
(平成30年11月30日)

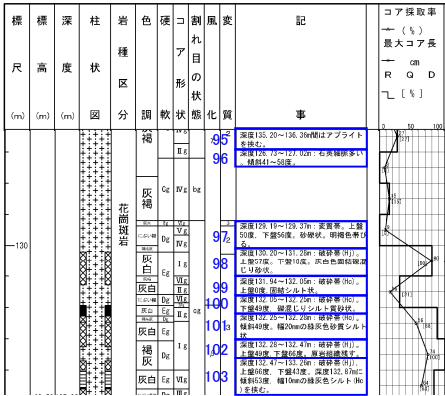
記 事
86 117.16～117.31m ・変質して、軟質化している。
88 120.00～121.52m ・低角度の割れ目が多く、岩片状～短柱状を呈する。
89 121.36～123.65m ・変質し、軟質化している。
g 121.74～122.04m ・ペグマタイトを挟む。
90 121.85～122.21m ・破碎部である。
91 主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・上端境界の傾斜は44°である。
93 123.65～154.63m ・花崗斑岩である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
86 117.16～117.31m ・変質して、軟質化している。
88 120.00～121.52m ・低角度の割れ目が多く、岩片状～短柱状を呈する。
89 121.36～123.65m ・変質し、軟質化している。
g 121.74～122.04m ・ペグマタイトを挟む。
90 121.85～122.21m ・破碎部である。
91 主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・上端境界の傾斜は44°である。
93 123.65～154.63m ・花崗斑岩である。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
84	・変質しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—	—
85	・変質しているが、連続性に乏しいことから削除。	—	—	—
86	・“硬軟”欄に基づき軟質と記載。 ・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
87	・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。	—	—	—
88	・“コア形状”欄に基づき岩片状～短柱状と記載。	変更なし	変更なし	変更なし
89	・“硬軟”欄に基づき軟質と記載。 ・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
g	・柱状図に合わせてペグマタイトとその深度区間を記載。	変更なし	変更なし	変更なし
90,91	・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所累計幅を記載。 ・“下盤0度である”との記載については、掘削時の機械割れによりコアが乱れているため削除。 ・“見かけ正断層のずれあり”との記載については、肉眼観察に基づくものであり、審査資料では薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載することとしているため削除。 ・“高角度の面発達”との記載については、複合面構造を示したものであるが、上記再観察による最新活動面近傍の明瞭なせん断構造・変形構造の有無について、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
92	・砂質シルト状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—	—
93,94	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事
96 126.73~127.02m ・石英脈を多く挟む。
97 129.19~129.37m ・変質し、明褐色の砂礫状を呈する。
98 130.20~131.28m ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は57°、下端境界の傾斜は18°である。
99 131.94~133.07m(D-15破砕帯) ・破砕部である。 ・主に明褐色の固結礫状部からなる。
103 緑灰色の未固結粘土状部：累計幅2.0cm

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
96 126.73~127.02m ・石英脈を多く挟む。
97 129.19~129.37m ・変質し、明褐色の砂礫状を呈する。
98 130.20~131.28m ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は57°、下端境界の傾斜は18°である。
99 131.94~133.07m(D-15破砕帯) ・破砕部である。 ・主に明褐色の固結礫状部からなる。
103 緑灰色の未固結粘土状部：累計幅2.0cm

審査資料
(平成30年11月30日)

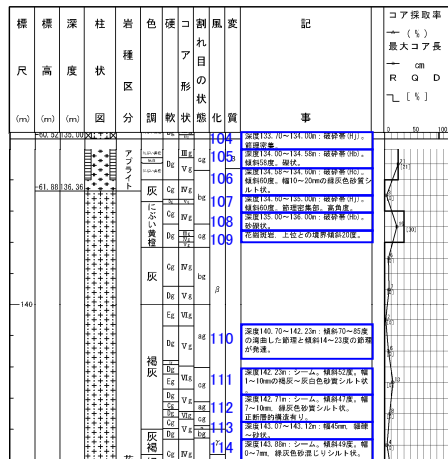
記 事
96 126.73~127.02m ・石英脈を多く挟む。
97 129.19~129.37m ・変質し、明褐色の砂礫状を呈する。
98 130.20~131.28m ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は57°、下端境界の傾斜は18°である。
99 131.94~133.07m(D-15破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。
103 明褐色の固結礫状部からなる。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
96 126.73~127.02m ・石英脈を多く挟む。
97 129.19~129.37m ・変質し、明褐色の砂礫状を呈する。
98 130.20~131.28m ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は57°、下端境界の傾斜は18°である。
99 131.94~133.07m(D-15破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。
103 明褐色の固結礫状部からなる。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
95	・アブライトの区間深度について、135.00～136.36mと書くべきところを誤って135.20～136.36mと記載。 ※審査資料案以降の記事は本資料次頁に記載。	—	—	—
96	・石英脈の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
97	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
98	・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。	変更なし	変更なし	変更なし
99～103	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・報告書から申請書提出までの間に行った再観察により下端深度を見直し。再観察では、割れ目は多いが硬質で、せん断構造や変形構造が認められない133.07～133.26mを破砕部ではないと判断した。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・“原岩組織残す”との記載については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。	変更なし	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・薄片観察の結果に基づき断層岩区分を見直したことに伴い、未固結粘土状部の表記を固結粘土状部に見直し。	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事
●133.70～136.00m ・破砕部である。 ・にふい黄褐色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm 135.00～136.63m ・アブライトを挟む。 136.00～149.00m ・割れ目が多く、土砂～岩片状を呈する。 136.36～154.63m ・花崗斑岩である。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
●133.70～136.00m ・破砕部である。 ・にふい黄褐色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm 135.00～136.63m ・アブライトを挟む。 136.00～149.00m ・割れ目が多く、土砂～岩片状を呈する。 136.36～154.63m ・花崗斑岩である。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事
●133.70～136.00m ・破砕部である。 ・にふい黄褐色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm 135.00～136.63m ・アブライトを挟む。 136.00～149.00m ・割れ目が多く、土砂～岩片状を呈する。 136.36～154.63m ・花崗斑岩である。

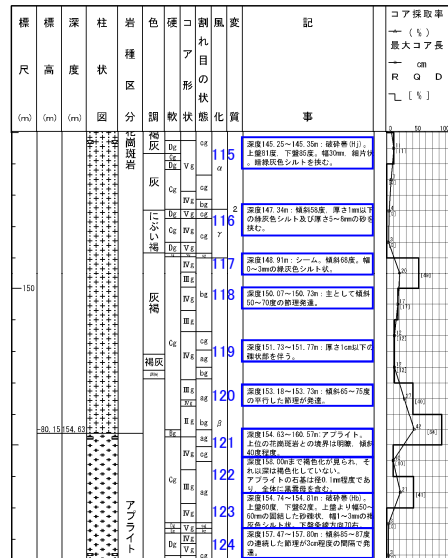
審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
●133.70～136.00m ・破砕部である。 ・にふい黄褐色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm 135.00～136.63m ・アブライトを挟む。 136.00～149.00m ・割れ目が多く、土砂～岩片状を呈する。 136.36～154.63m ・花崗斑岩である。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
104～108	・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・“節理密集部”との記載については、上記再観察により固結礫状部としたため削除。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。	変更なし	変更なし	変更なし
95	(誤記)アブライトの区間深度について、135.00～136.36mと書くべきところを誤って135.20～136.63mと記載。 ※報告書の記事は本資料前頁に記載。	変更なし	変更なし	変更なし
h	・RQDの低下が顕著であることから、割れ目の多い区間を記載。 ・“コア形状”欄に基づき土砂～岩片状と記載。	変更なし	変更なし	変更なし
109	・柱状図に合わせて花崗斑岩の深度区間を記載。 ・岩種境界の見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
110	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—
111	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-103頁)。	—	—	—
112	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-104頁)。	—	—	—
113	・細礫～砂状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—	—
114	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-105頁)。	—	—	—

H19-No.16

委託報告書 (平成19年)



設置許可申請書 (平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事
115
120
121
122
123
124

審査資料 (平成29年12月22日)

記 事
115
120
121
122
123
124

審査資料 (平成30年11月30日)

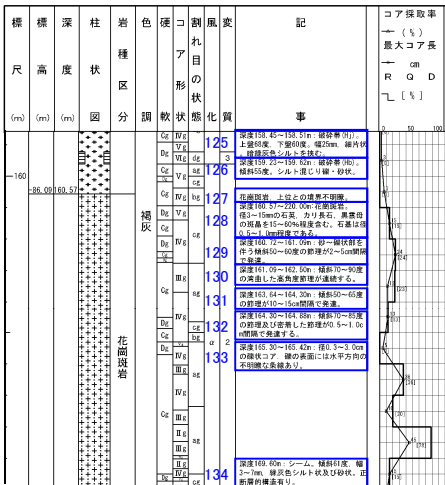
記 事
115
120
121
122
123
124

審査資料 (令和2年2月7日)

記 事
115
120
121
122
123
124

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
115	・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩（断層ガウジ、断層角礫、カクレーサイト）を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破碎幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
116	・シルト及び砂を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—	—
117	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-106頁)。	—	—	—
118	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	—	—	—
119	・礫状を呈するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—	—
120	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
121,122	・アブライトについて一括記載。 ・岩種境界の明瞭さや見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
123	・破碎帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩（断層ガウジ、断層角礫、カクレーサイト）を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 （誤記）上端境界の見かけの傾斜として、60°と書くべきところを誤って30°と記載。 ・“条線方向70右”と記載されているが、掘削時の機械割れによりコアが乱れてことから削除。	変更なし	変更なし	変更なし
124	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事
●158.45～158.51m(D-17破砕帯) ・破砕部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は68°、下端境界の傾斜は60°である。
●159.23～159.62m(D-18破砕帯) ・破砕部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は55°である。
160.57～220.00m ・花崗斑岩である。
160.72～161.09m ・割れ目が2～5cm間隔で発達する。 ・割れ目に沿って、砂～礫状を呈する。
161.09～162.50m ・高角度の割れ目が連続する。
163.64～164.30m ・割れ目が10～15cm間隔で分布する。
164.30～164.88m ・割れ目・密着した割れ目が、5～10mm間隔で分布する。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
●158.45～158.51m(D-17破砕帯) ・破砕部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は68°、下端境界の傾斜は60°である。
●159.23～159.62m(D-18破砕帯) ・破砕部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は55°である。
160.57～220.00m ・花崗斑岩である。
160.72～161.09m ・割れ目が2～5cm間隔で発達する。 ・割れ目に沿って、砂～礫状を呈する。
161.09～162.50m ・高角度の割れ目が連続する。
163.64～164.30m ・割れ目が10～15cm間隔で分布する。
164.30～164.88m ・割れ目・密着した割れ目が、5～10mm間隔で分布する。

審査資料
(平成30年11月30日)

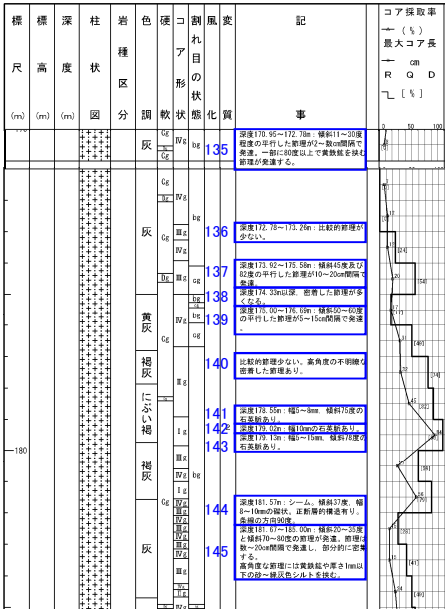
記 事
●158.45～158.51m(D-17破砕帯) ・破砕部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は68°、下端境界の傾斜は60°である。
●159.23～159.62m(D-18破砕帯) ・破砕部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は55°である。
160.57～220.00m ・花崗斑岩である。
160.72～161.09m ・割れ目が2～5cm間隔で発達する。 ・割れ目に沿って、砂～礫状を呈する。
161.09～162.50m ・高角度の割れ目が連続する。
163.64～164.30m ・割れ目が10～15cm間隔で分布する。
164.30～164.88m ・割れ目・密着した割れ目が、5～10mm間隔で分布する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
●158.45～158.51m(D-17破砕帯) ・破砕部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は68°、下端境界の傾斜は60°である。
●159.23～159.62m(D-18破砕帯) ・破砕部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は55°である。
160.57～220.00m ・花崗斑岩である。
160.72～161.09m ・割れ目が2～5cm間隔で発達する。 ・割れ目に沿って、砂～礫状を呈する。
161.09～162.50m ・高角度の割れ目が連続する。
163.64～164.30m ・割れ目が10～15cm間隔で分布する。
164.30～164.88m ・割れ目・密着した割れ目が、5～10mm間隔で分布する。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
125	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩（断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト）を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
126	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩（断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト）を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察による上端及び下端境界の見かけの傾斜の見直しを反映（上端境界に変更はなく、下端境界は不明瞭であるため記載せず）。	変更なし	変更なし	変更なし
127,128	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
129	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
130	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
131	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
132	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・表現の見直し（cm⇒mm）。	変更なし	変更なし	変更なし
133	・礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。	—	—	—
134	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明（補足説明資料3 補足3-107頁）。	—	—	—

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事	
135 139	170.95～176.69m ・50～200mm間隔の平行した割れ目が多く分布する。
141 143	178.55m, 179.02m, 179.13m ・幅5～15mmの石英脈を挟む。
145	181.67～185.00m ・割れ目が、20cm以下の間隔で分布する。 ・高角度の割れ目には、黄鉄鉱や幅1mm以下の砂～緑灰色シルトを挟む。

審査資料
(平成29年12月22日)

	記 事
135 139	170.95～176.69m ・50～200mm間隔の平行した割れ目が多く分布する。
141 143	178.55m, 179.02m, 179.13m ・幅5～15mmの石英脈を挟む。
145	181.67～185.00m ・割れ目が、20cm以下の間隔で分布する。 ・高角度の割れ目には、黄鉄鉱や幅1mm以下の砂～緑灰色シルトを挟む。

審査資料
(平成30年11月30日)

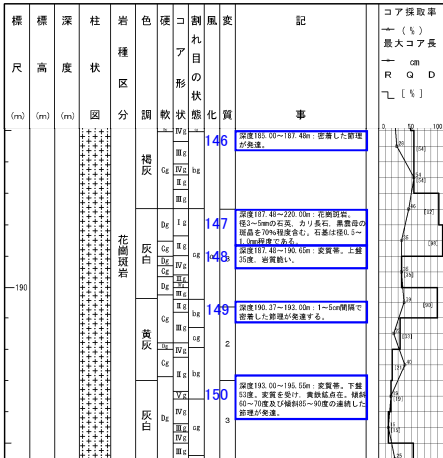
記 事	
135 139	170.95～176.69m ・50～200mm間隔の平行した割れ目が多く分布する。
141 143	178.55m, 179.02m, 179.13m ・幅5～15mmの石英脈を挟む。
145	181.67～185.00m ・割れ目が、20cm以下の間隔で分布する。 ・高角度の割れ目には、黄鉄鉱や幅1mm以下の砂～緑灰色シルトを挟む。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事	
35 39	170.95～176.69m ・50～200mm間隔の平行した割れ目が多く分布する。
41 43	178.55m, 179.02m, 179.13m ・幅5～15mmの石英脈を挟む。
45	181.67～185.00m ・割れ目が、20cm以下の間隔で分布する。 ・高角度の割れ目には、黄鉄鉱や幅1mm以下の砂～緑灰色シルトを挟む。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
135～139	・割れ目の発達状況について、区間を統合し一括記載。 ・割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
140	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—
141～143	・石英脈について一括記載。 ・石英脈の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
144	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-108頁)。	—	—	—
145	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審査資料案

記事
146 185.00～187.48m ・密着した割れ目が分布する。
147 187.48～220.00m ・花崗斑岩である。
148 187.48～190.65m ・変質により、軟質化している。
149 190.37～193.00m ・密着した割れ目が、1～5cm間隔で分布する。
150 193.00～195.55m ・変質により、軟質化しており、黄鉄鉱が点在する。 ・連続した割れ目が分布する。

審査資料
(平成29年12月22日)

記事
146 185.00～187.48m ・密着した割れ目が分布する。
147 187.48～220.00m ・花崗斑岩である。
148 187.48～190.65m ・変質により、軟質化している。
149 190.37～193.00m ・密着した割れ目が、1～5cm間隔で分布する。
150 193.00～195.55m ・変質により、軟質化しており、黄鉄鉱が点在する。 ・連続した割れ目が分布する。

審査資料
(平成30年11月30日)

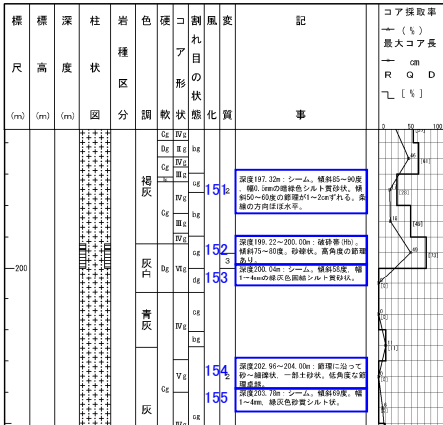
記事
146 185.00～187.48m ・密着した割れ目が分布する。
147 187.48～220.00m ・花崗斑岩である。
148 187.48～190.65m ・変質により、軟質化している。
149 190.37～193.00m ・密着した割れ目が、1～5cm間隔で分布する。
150 193.00～195.55m ・変質により、軟質化しており、黄鉄鉱が点在する。 ・連続した割れ目が分布する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記事
146 185.00～187.48m ・密着した割れ目が分布する。
147 187.48～220.00m ・花崗斑岩である。
148 187.48～190.65m ・変質により、軟質化している。
149 190.37～193.00m ・密着した割れ目が、1～5cm間隔で分布する。
150 193.00～195.55m ・変質により、軟質化しており、黄鉄鉱が点在する。 ・連続した割れ目が分布する。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
146	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
147	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
148	・“硬軟”欄に基づき軟質と記載。 ・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
149	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
150	・“硬軟”欄に基づき軟質と記載。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事
●199.22～200.00m ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は75°～80°である。
202.96～204.00m ・低角度の割れ目が多く、割れ目に沿って砂～細礫状、一部土砂状を呈する。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
●199.22～200.00m ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は75°～80°である。
202.96～204.00m ・低角度の割れ目が多く、割れ目に沿って砂～細礫状、一部土砂状を呈する。

審査資料
(平成30年11月30日)

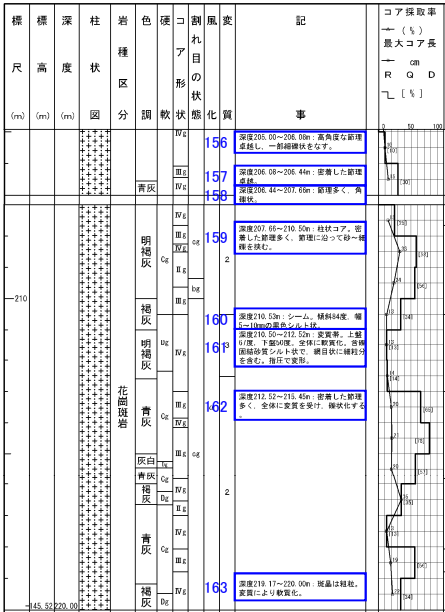
記 事
●199.22～200.00m ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は75°～80°である。
202.96～204.00m ・低角度の割れ目が多く、割れ目に沿って砂～細礫状、一部土砂状を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
●199.22～200.00m ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は75°～80°である。
202.96～204.00m ・低角度の割れ目が多く、割れ目に沿って砂～細礫状、一部土砂状を呈する。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
151	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-109頁)。	—	—	—
152	・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察による上端及び下端境界の見かけの傾斜の見直しを反映(上端境界に変更はなく、下端境界は不明瞭であるため記載せず)。 ・“高角度の節理あり”との記載については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
153	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-110頁)。	—	—	—
154	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
155	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-111頁)。	—	—	—

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事
156 205.00～206.08m ・高角度の割れ目が多く、一部細礫状を呈する。
157 206.08～206.44m ・密着した割れ目が多い。
158 206.44～207.66m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
159 207.66～210.50m ・柱状を呈する。 ・密着した割れ目が多く、割れ目に沿って砂～細礫を挟む。
160 ●210.53m ・破砕部である。 ・黒色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。
162 212.52～215.45m ・密着した割れ目が多い。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
156 205.00～206.08m ・高角度の割れ目が多く、一部細礫状を呈する。
157 206.08～206.44m ・密着した割れ目が多い。
158 206.44～207.66m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
159 207.66～210.50m ・柱状を呈する。 ・密着した割れ目が多く、割れ目に沿って砂～細礫を挟む。
160 ●210.53m ・破砕部である。 ・黒色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。
162 212.52～215.45m ・密着した割れ目が多い。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事
156 205.00～206.08m ・高角度の割れ目が多く、一部細礫状を呈する。
157 206.08～206.44m ・密着した割れ目が多い。
158 206.44～207.66m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
159 207.66～210.50m ・柱状を呈する。 ・密着した割れ目が多く、割れ目に沿って砂～細礫を挟む。
160 ●210.70～210.71m ・破砕部である。 ・黒色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。
162 212.52～215.45m ・密着した割れ目が多い。

審査資料
(令和2年2月7日)

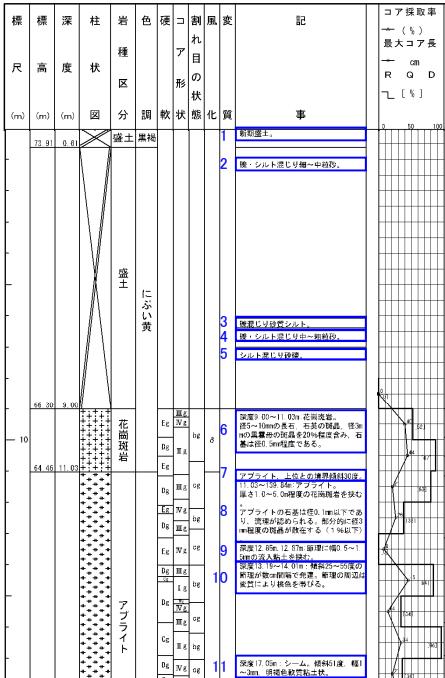
記 事
156 205.00～206.08m ・高角度の割れ目が多く、一部細礫状を呈する。
157 206.08～206.44m ・密着した割れ目が多い。
158 206.44～207.66m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
159 207.66～210.50m ・柱状を呈する。 ・密着した割れ目が多く、割れ目に沿って砂～細礫を挟む。
160 ●210.70～210.71m ・破砕部である。 ・黒色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。
162 212.52～215.45m ・密着した割れ目が多い。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
156	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
157	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
158	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
159	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
160	・シームという用語については削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-112頁)。 ・再観察により破砕部と認定。破砕部への見直しの詳細については別途説明(補足説明資料4 補足4-34頁)。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所を累計幅を記載。	変更なし	・誤記修正(210.53m→210.70～210.71m)。	変更なし
161	・砂質シルト状を呈し細粒分を含むが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—	—
162	・礫状化を伴う割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・変質の程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
163	・斑晶については、補足的なものであるため削除。 ・変質及び硬軟については、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—

H19-No.17

余白

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料
(平成30年11月30日)

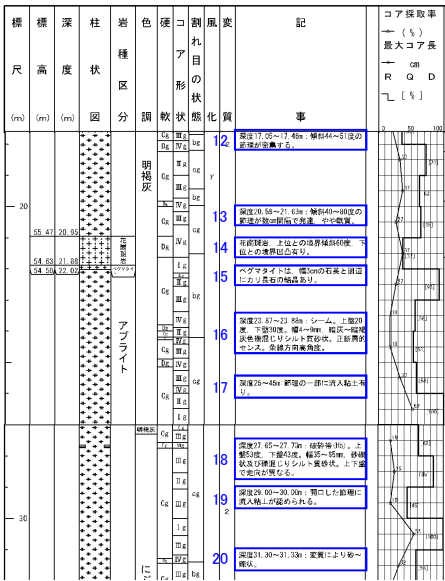
記 事

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
1～5	・柱状図に合わせて盛土とその深度区間を記載。 ・構成粒子について一括記載。	変更なし	変更なし	変更なし
6	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
7,8	・柱状図に合わせてアブライトの深度区間を記載。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・花崗斑岩の挟在については、柱状図に合わせて別途記載しているため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
9	・流入粘土を挟在するが、細粒分が割れ目を充填したものであり、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—	—
10	・割れ目の傾斜や割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。 ・表現の見直し(cm→mm)。	変更なし	変更なし	変更なし
11	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-113頁)。	—	—	—

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事

12 17.05~17.46m
・割れ目が密集する。

14 20.95~21.88m
・花崗斑岩である。

13 20.59~21.63m
・割れ目が数十mm間隔で分布する。

15 21.88~22.02m
・ペグマタイトである。

18 27.65~27.73m(f-⑥-3-2破砕帯)
・破砕帯である。
・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN34° E57° Wである。
・上端境界の傾斜は53°、下端境界の傾斜は43°である。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

12 17.05~17.46m
・割れ目が密集する。

14 20.95~21.88m
・花崗斑岩である。

13 20.59~21.63m
・割れ目が数十mm間隔で分布する。

15 21.88~22.02m
・ペグマタイトである。

18 27.65~27.73m(f-⑥-3-2破砕帯)
・破砕帯である。
・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN34° E57° Wである。
・上端境界の傾斜は53°、下端境界の傾斜は43°である。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事

12 17.05~17.46m
・割れ目が密集する。

14 20.95~21.88m
・花崗斑岩である。

13 20.59~21.63m
・割れ目が数十mm間隔で分布する。

15 21.88~22.02m
・ペグマタイトである。

18 27.65~27.73m(f-⑥-3-2破砕帯)
・破砕帯である。
・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN34° E57° Wである。
・上端境界の傾斜は53°、下端境界の傾斜は43°である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事

12 17.05~17.46m
・割れ目が密集する。

14 20.95~21.88m
・花崗斑岩である。

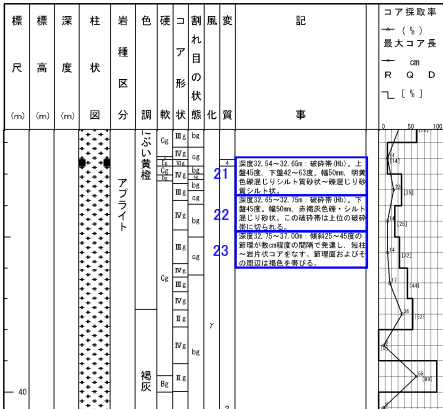
13 20.59~21.63m
・割れ目が数十mm間隔で分布する。

15 21.88~22.02m
・ペグマタイトである。

18 27.65~27.73m(f-⑥-3-2破砕帯)
・破砕帯である。
・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN34° E57° Wである。
・上端境界の傾斜は53°、下端境界の傾斜は43°である。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
12	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
13	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
14	・柱状図に合わせて花崗斑岩の深度区間を記載。 ・岩種境界の明瞭さや見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
15	・柱状図に合わせてペグマタイトの深度区間を記載。 ・ペグマタイトの一般的な特徴を有しており、構成鉱物については削除。	変更なし	変更なし	変更なし
16	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-114頁)。	—	—	—
17	・流入粘土が認められるが、細粒分が割れ目を充填したものであり、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—	—
18	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・“上下盤で走向が異なる”との記載については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
19	・流入粘土が認められるが、細粒分が割れ目を充填したものであり、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—	—
20	・砂～礫状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—	—

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事

●32.54～32.75m (f-17-2破砕帯)
・破砕部である。
・赤褐色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN35° E51° Wである。
・上端傾斜の境界は45°、下端境界の傾斜は45°である。
32.75～37.00m
・割れ目が数十mm程度の間隔で分布し、岩片状～短柱状を呈する。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

●32.54～32.75m (f-17-2破砕帯)
・破砕部である。
・赤褐色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN35° E51° Wである。
・上端傾斜の境界は45°、下端境界の傾斜は45°である。
32.75～37.00m
・割れ目が数十mm程度の間隔で分布し、岩片状～短柱状を呈する。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事

●32.54～32.75m (f-17-2破砕帯)
・破砕部である。
・赤褐色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN35° E51° Wである。
・上端傾斜の境界は45°、下端境界の傾斜は45°である。
32.75～37.00m
・割れ目が数十mm程度の間隔で分布し、岩片状～短柱状を呈する。

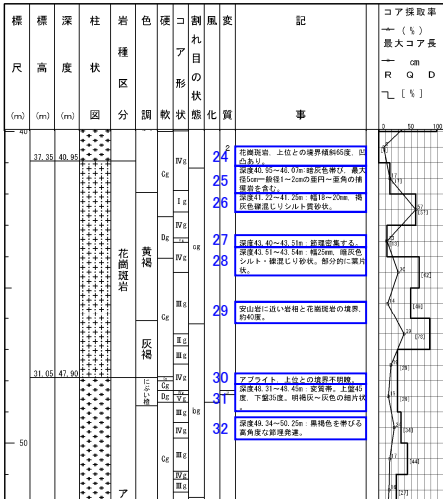
審査資料
(令和2年2月7日)

記 事

●32.54～32.75m (f-17-2破砕帯)
・破砕部である。
・赤褐色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN35° E51° Wである。
・上端傾斜の境界は45°、下端境界の傾斜は45°である。
32.75～37.00m
・割れ目が数十mm程度の間隔で分布し、岩片状～短柱状を呈する。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H29.12.22)	審査資料 (H29.12.22) ⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30) ⇒ 審査資料 (R2.2.7)
21.22	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩 (断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・“上位の破砕帯に切られる。”との記載については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
23	・割れ目の傾斜や割れ目の意の変色については、補足的なものであるため削除。 ・表現の見直し (cm→mm)。	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審査資料案

記事
24 40.95～47.90m ・花崗斑岩である。
25 40.95～46.07m ・径10～50mmの暗灰色の捕獲岩を含む。
30 47.90～56.72m ・アブライトである。
31 48.31～48.45m ・変質している。
32 49.34～50.25m ・高角度の割れ目が分布する。

審査資料
(平成29年12月22日)

記事
24 40.95～47.90m ・花崗斑岩である。
25 40.95～46.07m ・径10～50mmの暗灰色の捕獲岩を含む。
30 47.90～56.72m ・アブライトである。
31 48.31～48.45m ・変質している。
32 49.34～50.25m ・高角度の割れ目が分布する。

審査資料
(平成30年11月30日)

記事
24 40.95～47.90m ・花崗斑岩である。
25 40.95～46.07m ・径10～50mmの暗灰色の捕獲岩を含む。
30 47.90～56.72m ・アブライトである。
31 48.31～48.45m ・変質している。
32 49.34～50.25m ・高角度の割れ目が分布する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記事
24 40.95～47.90m ・花崗斑岩である。
25 40.95～46.07m ・径10～50mmの暗灰色の捕獲岩を含む。
30 47.90～56.72m ・アブライトである。
31 48.31～48.45m ・変質している。
32 49.34～50.25m ・高角度の割れ目が分布する。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
24	・岩種境界の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
25	・捕獲岩の円磨度については、補足的なものであるため削除。 ・表現の見直し(cm⇒mm)。	変更なし	変更なし	変更なし
26	・礫混じりシルト質砂状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。	—	—	—
27	・礫混じりシルト質砂状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—	—
28	・シルト・礫混じり砂状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—	—
29	・花崗斑岩中の岩相については、補足的なものであるため削除。	—	—	—
30	・柱状図に合わせてアブライトの深度区間を記載。 ・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
31	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
32	・色調については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし

H19-No.17

委託報告書
(平成19年)

[illegible]設置許可申請書
(平成27年11月)

事 記

審查資料案

● 55.45～55.46m
・破砕部である。
・黄褐色の固結砂状部になる。
・走向・傾斜はN39° E52° Wである。
・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は46°である。
56.72～59.95m
・花崗斑岩である。

審査資料
(平成29年12月22日)

● 55.45～55.46m
・破砕部である。
・黄褐色の固結砂状部からなる。
・走向・傾斜はN39° E52° Wである。
・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は46°である。

審査資料
(平成30年11月30日)

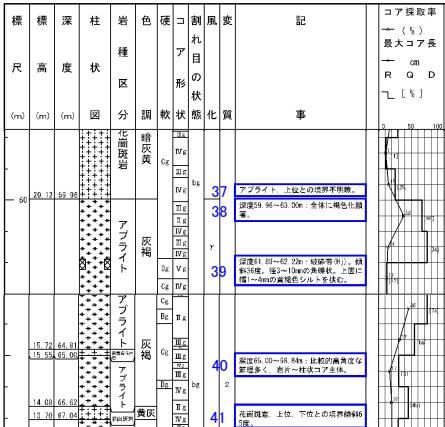
●55.45～55.46m
・破砕部である。
・黄褐色の固粒砂状部からなる。
・走向・傾斜はN39° E52° Wである。
・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は46°である。
56.72～59.96m
・花崗斑岩である。

審査資料
(令和2年2月7日)

●55.45~55.46m
・破砕部である。
・黄褐色の固結砂状部からなる。
・走向・傾斜はN39° E52° Wである。
・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は46°である。
56.72~59.96m
・花崗岩である。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
33	・砂礫状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—	—
34	・割れ目が発達するが、直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—	—
35	<p>・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩（断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト）を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。</p> <p>・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</p> <p>・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。</p>	変更なし	変更なし	変更なし
36	<p>・柱状図に合わせて花崗斑岩の深度区間を記載。</p> <p>・岩種境界の明瞭さや見かけ傾斜、岩相の記載について、補足的なものであるため削除。</p>	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事
37 59.96~122.98m ・アブライトである。
39 61.89~62.22m ・破砕部である。 ・灰褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN28° E50° Wである。 ・上端境界の傾斜は36° である。
a 64.81~65.00m ・黒雲母花崗岩を挟む。
40 65.00~68.84m ・割れ目が多く、岩片状~柱状を呈する。
41 66.72~67.04m ・花崗斑岩である。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
37 59.96~122.98m ・アブライトである。
39 61.89~62.22m ・破砕部である。 ・灰褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN28° E50° Wである。 ・上端境界の傾斜は36° である。
a 64.81~65.00m ・黒雲母花崗岩を挟む。
40 65.00~68.84m ・割れ目が多く、岩片状~柱状を呈する。
41 66.72~67.04m ・花崗斑岩である。

審査資料
(平成30年11月30日)

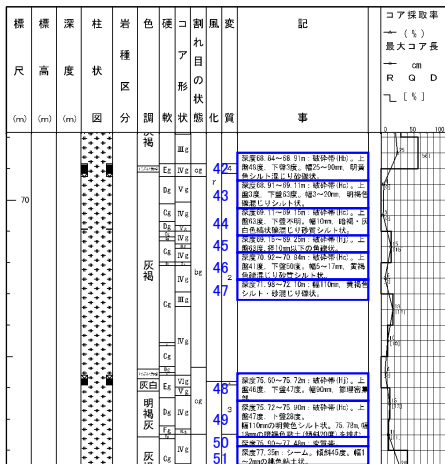
記 事
37 59.96~122.98m ・アブライトである。
39 61.89~62.22m ・破砕部である。 ・灰褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN28° E50° Wである。 ・上端境界の傾斜は36° である。
a 64.81~65.00m ・黒雲母花崗岩を挟む。
40 65.00~68.84m ・割れ目が多く、岩片状~柱状を呈する。
41 66.72~67.04m ・花崗斑岩である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
37 59.96~122.98m ・アブライトである。
39 61.89~62.22m ・破砕部である。 ・灰褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN28° E50° Wである。 ・上端境界の傾斜は36° である。
a 64.81~65.00m ・黒雲母花崗岩を挟む。
40 65.00~68.84m ・割れ目が多く、岩片状~柱状を呈する。
41 66.72~67.04m ・花崗斑岩である。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
37	・柱状図に合わせてアブライトの深度区間を記載。 ・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
38	・色調については、補足的なものであるため削除。	—	—	—
39	・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・上記再観察による上端及び下端境界の見かけの傾斜の見直しを反映(上端境界に変更はなく、下端境界は不明瞭であるため記載せず)。	変更なし	変更なし	変更なし
a	・柱状図に合わせて黒雲母花崗岩とその深度区間を記載。	変更なし	変更なし	変更なし
40	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
41	・柱状図に合わせて花崗斑岩の深度区間を記載。 ・岩種境界の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。 (誤記)66.62mと書くべきところを誤って66.72mと記載。	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事
●68. 84～69. 25m (D-11破砕帯) ・破砕部である。 ・主に明黄色の固結礫状部からなる。 ・明褐色の未固結粘土状部：累計幅2. 2cm ・走向・傾斜はN10° E62° Wである。 ・上端境界の傾斜は48° である。
●70. 92～70. 94m (D-12破砕帯) ・破砕部である。 ・黄褐色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1. 7cmである。 ・走向・傾斜はN18° E53° Wである。 ・上端境界の傾斜は41° ，下端境界の傾斜は50° である。
●75. 60～75. 90m (D-14破砕帯) ・破砕部である。 ・主ににぶい黄褐色の固結礫状部及び灰白色の固結粘土状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅1. 8cm ・走向・傾斜はN14° E77° Wである。 ・上端境界の傾斜は46° ，下端境界の傾斜は28° である。
75. 90～77. 48m ・変質している。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
●68. 84～69. 25m (D-11破砕帯) ・破砕部である。 ・主に明黄色の固結礫状部からなる。 ・明褐色の未固結粘土状部：累計幅2. 2cm ・走向・傾斜はN10° E62° Wである。 ・上端境界の傾斜は48° である。
●70. 92～70. 94m (D-12破砕帯) ・破砕部である。 ・黄褐色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1. 7cmである。 ・走向・傾斜はN18° E53° Wである。 ・上端境界の傾斜は41° ，下端境界の傾斜は50° である。
●75. 60～75. 90m (D-14破砕帯) ・破砕部である。 ・主ににぶい黄褐色の固結礫状部及び灰白色の固結粘土状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅1. 8cm ・走向・傾斜はN14° E77° Wである。 ・上端境界の傾斜は46° ，下端境界の傾斜は28° である。
75. 90～77. 48m ・変質している。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事
●68. 84～69. 25m (D-11破砕帯) ・破砕部である。 ・主に明黄色の固結礫状部からなる。 ・明褐色の未固結粘土状部：累計幅2. 2cm ・走向・傾斜はN10° E62° Wである。 ・上端境界の傾斜は48° である。
●70. 92～70. 94m (D-12破砕帯) ・破砕部である。 ・黄褐色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1. 7cmである。 ・走向・傾斜はN18° E53° Wである。 ・上端境界の傾斜は41° ，下端境界の傾斜は50° である。
●75. 60～75. 90m (D-14破砕帯) ・破砕部である。 ・主ににぶい黄褐色の固結礫状部及び灰白色の固結粘土状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅1. 8cm ・走向・傾斜はN14° E77° Wである。 ・上端境界の傾斜は46° ，下端境界の傾斜は28° である。
75. 90～77. 48m ・変質している。

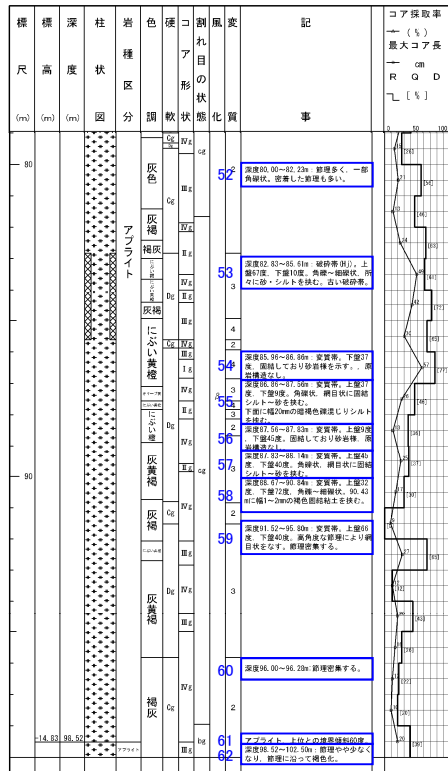
審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
●68. 84～69. 25m (D-11破砕帯) ・破砕部である。 ・主に明黄色の固結礫状部からなる。 ・明褐色の未固結粘土状部：累計幅2. 2cm ・走向・傾斜はN10° E62° Wである。 ・上端境界の傾斜は48° である。
●70. 92～70. 94m (D-12破砕帯) ・破砕部である。 ・黄褐色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1. 7cmである。 ・走向・傾斜はN18° E53° Wである。 ・上端境界の傾斜は41° ，下端境界の傾斜は50° である。
●75. 60～75. 90m (D-14破砕帯) ・破砕部である。 ・主ににぶい黄褐色の固結礫状部及び灰白色の固結粘土状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅1. 8cm ・走向・傾斜はN14° E77° Wである。 ・上端境界の傾斜は46° ，下端境界の傾斜は28° である。
75. 90～77. 48m ・変質している。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H29.12.22)	審査資料 (H29.12.22)⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
42～45	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩（断層ガウジ、断層角礫、カクレーサイト）を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。	変更なし	変更なし	変更なし
46	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩（断層ガウジ、断層角礫、カクレーサイト）を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
47	・シルト・砂混じり礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。	—	—	—
48,49	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩（断層ガウジ、断層角礫、カクレーサイト）を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・“節理密集部”との記載については、上記再観察により固結礫状部としたため削除。	変更なし	・誤記修正（にぶい黄褐色の固結礫状部→にぶい黄橙～暗褐灰色の固結礫状部）。	変更なし
50	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
51	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明（補足説明資料3 補足3～115頁）。	—	—	—

H19-No.17

委託報告書 (平成19年)



設置許可申請書 (平成27年11月)

記事

審査資料案

記事
52 80.00～82.23m ・割れ目が多く、一部角礫状を呈する。 ●82.83～85.61m(D-47破砕帯) ・破砕部である。 ・褐灰～にぶい褐～にぶい黄橙～灰褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN19° W36° Wである。 ・上端境界の傾斜は67°、下端境界の傾斜は10°である。
53 85.96～88.14m ・変質している。 ・にぶい黄橙～オリーブ黄色の固結した砂岩様、網目状に固結シルト～砂を挟む角礫状を呈する。
54 88.67～90.84m ・変質している。 ・上端境界の傾斜は32°、下端境界の傾斜は72°である。 ・にぶい橙～灰褐色の角礫状～細礫状を呈する。
55 91.52～95.80m ・変質している。 ・高角度の割れ目が密集し網目状に分布する。

審査資料 (平成29年12月22日)

記事
52 80.00～82.23m ・割れ目が多く、一部角礫状を呈する。 ●82.83～85.61m(D-47破砕帯) ・破砕部である。 ・褐灰～にぶい褐～にぶい黄橙～灰褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN19° W36° Wである。 ・上端境界の傾斜は67°、下端境界の傾斜は10°である。
53 85.96～88.14m ・変質している。 ・にぶい黄橙～オリーブ黄色の固結した砂岩様、網目状に固結シルト～砂を挟む角礫状を呈する。
54 88.67～90.84m ・変質している。 ・上端境界の傾斜は32°、下端境界の傾斜は72°である。 ・にぶい橙～灰褐色の角礫状～細礫状を呈する。
55 91.52～95.80m ・変質している。 ・高角度の割れ目が密集し網目状に分布する。

審査資料 (平成30年11月30日)

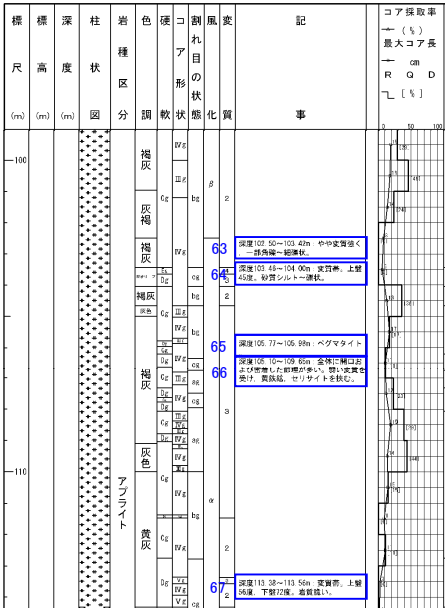
記事
52 80.00～82.23m ・割れ目が多く、一部角礫状を呈する。 ●82.83～85.61m(D-47破砕帯) ・破砕部である。 ・褐灰～にぶい褐～にぶい黄橙～灰褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN19° W36° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟む。 ・上端境界の傾斜は67°、下端境界の傾斜は10°である。
53 85.96～88.14m ・変質している。 ・にぶい黄橙～オリーブ黄色の固結した砂岩様、網目状に固結シルト～砂を挟む角礫状を呈する。
54 88.67～90.84m ・変質している。 ・上端境界の傾斜は32°、下端境界の傾斜は72°である。 ・にぶい橙～灰褐色の角礫状～細礫状を呈する。
55 91.52～95.80m ・変質している。 ・高角度の割れ目が密集し網目状に分布する。

審査資料 (令和2年2月7日)

記事
52 80.00～82.23m ・割れ目が多く、一部角礫状を呈する。 ●82.83～85.61m(D-47破砕帯) ・破砕部である。 ・褐灰～にぶい褐～にぶい黄橙～灰褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN19° W36° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟む。 ・上端境界の傾斜は67°、下端境界の傾斜は10°である。
53 85.96～88.14m ・変質している。 ・にぶい黄橙～オリーブ黄色の固結した砂岩様、網目状に固結シルト～砂を挟む角礫状を呈する。
54 88.67～90.84m ・変質している。 ・上端境界の傾斜は32°、下端境界の傾斜は72°である。 ・にぶい橙～灰褐色の角礫状～細礫状を呈する。
55 91.52～95.80m ・変質している。 ・高角度の割れ目が密集し網目状に分布する。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
52	・割れ目の密着状況については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
53	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断、断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・“古い破砕帯”との記載については、破砕部の生成時期が不明であるため削除。	変更なし	・カタクレーサイト中に挟在するフィルム状の細粒物質のうち、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟在するもの(断層ガウジ)として扱い、フィルム状の粘土を追記。	変更なし
54～57	・変質している区間を統合して一括記載。 ・“色調”欄に基づきにぶい黄橙～オリーブ黄と記載。	変更なし	変更なし	変更なし
58	・“色調”欄に基づきにぶい橙～灰褐と記載。 ・粘土を挟在しているが、連続性に乏しいことから削除。	変更なし	変更なし	変更なし
59	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
60	・割れ目の発達程度については、周囲の割れ目と差異が認められないため削除。	—	—	—
61	・アブライト区間中に、アブライトについて、重複して記載されたものであるため削除。	—	—	—
62	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。	—	—	—

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事
103.46～104.00m ・変質している。 ・灰オリーブ色の砂質シルト状～礫状を呈する。
105.77～105.98m ・ペグマタイトを挟む。
113.38～113.56m ・変質している。 ・岩質は脆い。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
103.46～104.00m ・変質している。 ・灰オリーブ色の砂質シルト状～礫状を呈する。
105.77～105.98m ・ペグマタイトを挟む。
113.38～113.56m ・変質している。 ・岩質は脆い。

審査資料
(平成30年11月30日)

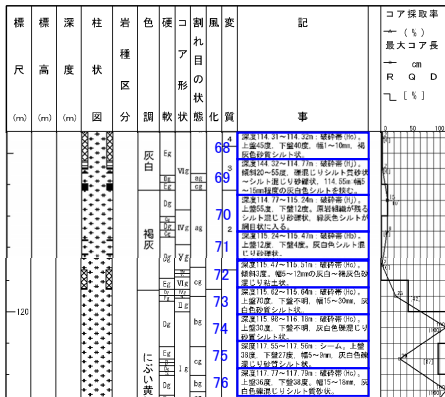
記 事
103.46～104.00m ・変質している。 ・灰オリーブ色の砂質シルト状～礫状を呈する。
105.77～105.98m ・ペグマタイトを挟む。
113.38～113.56m ・変質している。 ・岩質は脆い。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
103.46～104.00m ・変質している。 ・灰オリーブ色の砂質シルト状～礫状を呈する。
105.77～105.98m ・ペグマタイトを挟む。
113.38～113.56m ・変質している。 ・岩質は脆い。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
63	・一部角礫～細礫状化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。	—	—	—
64	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・“色調”欄に基づき灰オリーブ色と記載。	変更なし	変更なし	変更なし
65	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
66	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の開口・密着状況、割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。	—	—	—
67	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事
●114.31～115.63m(D-15破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に緑灰色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・褶灰色の未固結粘土状部：累計幅3.3cm ・走向・傾斜はN8° W67° Wである。 ・上端境界の傾斜は51° である。 ●117.77～117.79m(D-16破砕帯) ・破砕部である。 ・灰白色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.8cmである。 ・走向・傾斜はN11° W57° Wである。 ・上端境界の傾斜は36°、下端境界の傾斜は38° である。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
●114.31～115.63m(D-15破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に緑灰色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・褶灰色の未固結粘土状部：累計幅3.3cm ・走向・傾斜はN8° W67° Wである。 ・上端境界の傾斜は51° である。 ●117.77～117.79m(D-16破砕帯) ・破砕部である。 ・灰白色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.8cmである。 ・走向・傾斜はN11° W57° Wである。 ・上端境界の傾斜は36°、下端境界の傾斜は38° である。

審査資料
(平成30年11月30日)

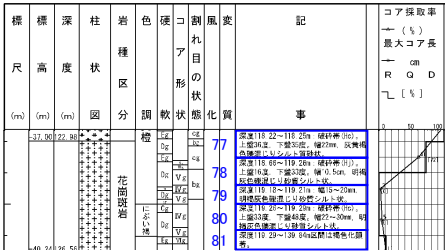
記 事
●114.31～115.63m(D-15破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に緑灰色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・褶灰色の未固結粘土状部：累計幅3.3cm ・走向・傾斜はN8° W67° Wである。 ・上端境界の傾斜は51° である。 ●117.77～117.79m(D-16破砕帯) ・破砕部である。 ・灰白色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.8cmである。 ・走向・傾斜はN11° W57° Wである。 ・上端境界の傾斜は36°、下端境界の傾斜は38° である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
●114.31～115.63m(D-15破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に緑灰色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・褶灰色の未固結粘土状部：累計幅3.3cm ・走向・傾斜はN8° W67° Wである。 ・上端境界の傾斜は51° である。 ●117.77～117.79m(D-16破砕帯) ・破砕部である。 ・灰白色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.8cmである。 ・走向・傾斜はN11° W57° Wである。 ・上端境界の傾斜は36°、下端境界の傾斜は38° である。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H29.12.22)	審査資料 (H29.12.22) ⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30) ⇒ 審査資料 (R2.2.7)
68～73	・破砕帯名を記載。 ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22) までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩 (断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト) を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・報告書から申請書提出までの間に行った破砕部の再観察により破砕部の区間を統合し、下端深度を見直し。再観察では、破砕部に挟まれた区間について、岩盤が劣化し礫の定向配列が認められることから、一連の破砕部であると判断した。また、破砕部の下端について、機械割れ部分を破砕部ではないと判断した。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・上記再観察による上端境界の見かけの傾斜の見直しを反映。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
74	・再観察により変質部と認定。変質部への見直しの詳細については別途説明(補足説明資料4 補足4-5頁)。	—	—	—
75	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-116頁)。	—	—	—
76	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22) までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩 (断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト) を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。	変更なし	変更なし	変更なし

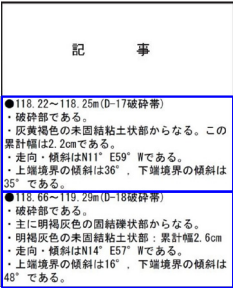
委託報告書
(平成19年)



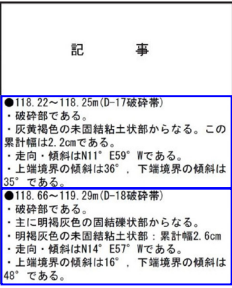
設置許可申請書
(平成27年11月)



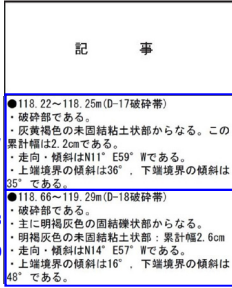
審査資料案



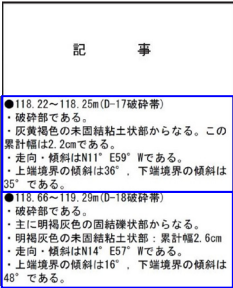
審査資料
(平成29年12月22日)



審査資料
(平成30年11月30日)

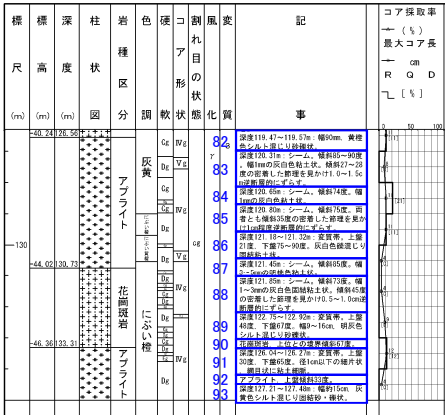


審査資料
(令和2年2月7日)



記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H29.12.22)	審査資料 (H29.12.22)⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
77	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩（断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト）を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。	変更なし	変更なし	変更なし
78～80	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩（断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト）を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。	変更なし	変更なし	変更なし
81	・色調については、補足的なものであるため削除。	—	—	—

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事
121.18～121.32m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり固結粘土状を呈する。
122.75～122.92m ・変質している。 ・明灰色のシルト混じり砂礫状を呈する。
122.98～126.56m ・花崗斑岩である。
126.04～126.27m ・変質している。 ・灰黄色の細片状を呈し、粘土細脈が網目状に分布する。
126.56～130.73m ・アブライトである。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
121.18～121.32m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり固結粘土状を呈する。
122.75～122.92m ・変質している。 ・明灰色のシルト混じり砂礫状を呈する。
122.98～126.56m ・花崗斑岩である。
126.04～126.27m ・変質している。 ・灰黄色の細片状を呈し、粘土細脈が網目状に分布する。
126.56～130.73m ・アブライトである。

審査資料
(平成30年11月30日)

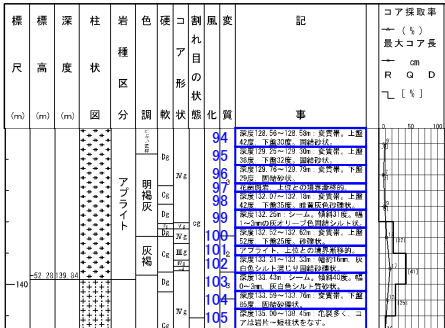
記 事
121.18～121.32m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり固結粘土状を呈する。
122.75～122.92m ・変質している。 ・明灰色のシルト混じり砂礫状を呈する。
122.98～126.56m ・花崗斑岩である。
126.04～126.27m ・変質している。 ・灰黄色の細片状を呈し、粘土細脈が網目状に分布する。
126.56～130.73m ・アブライトである。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
121.18～121.32m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり固結粘土状を呈する。
122.75～122.92m ・変質している。 ・明灰色のシルト混じり砂礫状を呈する。
122.98～126.56m ・花崗斑岩である。
126.04～126.27m ・変質している。 ・灰黄色の細片状を呈し、粘土細脈が網目状に分布する。
126.56～130.73m ・アブライトである。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
82	・シルト混じり砂礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。	—	—	—
83	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-117頁)。	—	—	—
84	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-118頁)。	—	—	—
85	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-119頁)。	—	—	—
86	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
87	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-120頁)。	—	—	—
88	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-121頁)。	—	—	—
89	・変質している区間の幅や境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
90	・柱状図に合わせて花崗斑岩の深度区間を記載。 ・岩種境界の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
91	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・“色調”欄に基づき灰黄色と記載。	変更なし	変更なし	変更なし
92	・柱状図に合わせてアブライトとその深度区間を記載。 ・岩種境界の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
93	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審査資料案

記事
97 130.73～133.31m ・花崗斑岩である。
101 133.31～139.84m ・アプライトである。
104 133.59～133.76m ・変質している。 ・固結した砂礫状を呈する。

審査資料
(平成29年12月22日)

記事
97 130.73～133.31m ・花崗斑岩である。
101 133.31～139.84m ・アプライトである。
104 133.59～133.76m ・変質している。 ・固結した砂礫状を呈する。

審査資料
(平成30年11月30日)

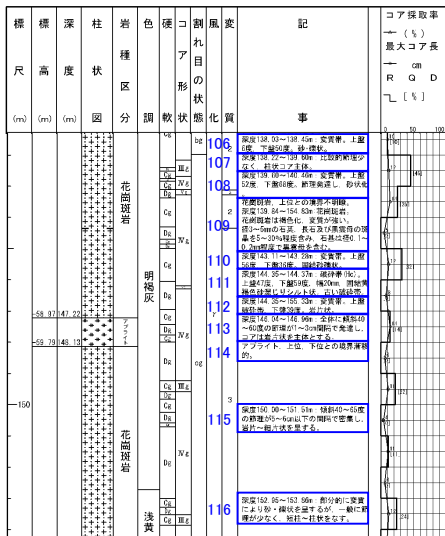
記事
97 130.73～133.31m ・花崗斑岩である。
101 133.31～139.84m ・アプライトである。
104 133.59～133.76m ・変質している。 ・固結した砂礫状を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記事
97 130.73～133.31m ・花崗斑岩である。
101 133.31～139.84m ・アプライトである。
104 133.59～133.76m ・変質している。 ・固結した砂礫状を呈する。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
94	・固結砂状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—	—
95	・固結砂状を呈するが、連続性に乏しいことから削除。	—	—	—
96	・固結砂状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—	—
97	・柱状図に合わせて花崗斑岩の深度区間を記載。 ・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
98	・砂礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。	—	—	—
99	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-122頁)。	—	—	—
100	・砂礫状を呈するが、挟在物の系統的な配列が認められないことから削除。	—	—	—
101	・柱状図に合わせてアプライトの深度区間を記載。 ・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
102	・シルト混じり砂礫状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—	—
103	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-123頁)。	—	—	—
104	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
105	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事
106 138.03～138.45m ・変質している。 ・砂・礫状を呈する。
108 139.60～140.45m ・変質している。 ・割れ目が多く、割れ目沿いに砂状を呈する。
109 139.84～147.22m ・花崗斑岩である。
110 143.11～143.23m ・変質している。 ・固結した砂礫状を呈する。
111 144.35～144.37m ・破砕部である。 ・緑灰色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.0cmである。 ・走向・傾斜はN10° E65° Wである。 ・上端境界の傾斜は47°、下端境界の傾斜は59°である。
112 144.35～155.33m ・変質している。 ・岩片状を呈する。
114 147.22～148.13m ・アブライトである。
148.13～154.83m ・花崗斑岩である。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
106 138.03～138.45m ・変質している。 ・砂・礫状を呈する。
108 139.60～140.45m ・変質している。 ・割れ目が多く、割れ目沿いに砂状を呈する。
109 139.84～147.22m ・花崗斑岩である。
110 143.11～143.23m ・変質している。 ・固結した砂礫状を呈する。
111 144.35～144.37m ・破砕部である。 ・緑灰色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.0cmである。 ・走向・傾斜はN10° E65° Wである。 ・上端境界の傾斜は47°、下端境界の傾斜は59°である。
112 144.35～155.33m ・変質している。 ・岩片状を呈する。
114 147.22～148.13m ・アブライトである。
148.13～154.83m ・花崗斑岩である。

審査資料
(平成30年11月30日)

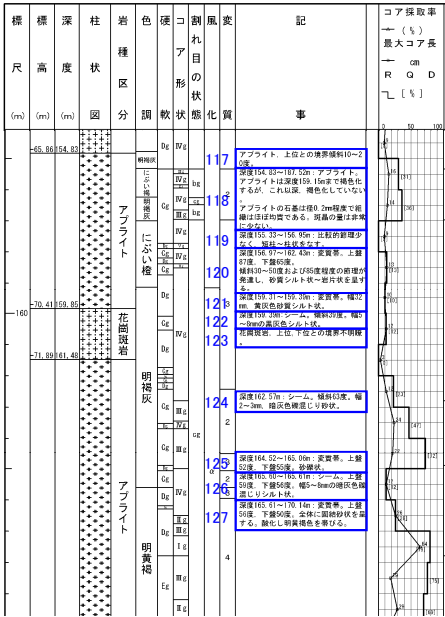
記 事
106 138.03～138.45m ・変質している。 ・砂・礫状を呈する。
108 139.60～140.45m ・変質している。 ・割れ目が多く、割れ目沿いに砂状を呈する。
109 139.84～147.22m ・花崗斑岩である。
110 143.11～143.23m ・変質している。 ・固結した砂礫状を呈する。
111 144.35～144.37m ・破砕部である。 ・緑灰色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.0cmである。 ・走向・傾斜はN10° E65° Wである。 ・上端境界の傾斜は47°、下端境界の傾斜は59°である。
112 144.35～155.33m ・変質している。 ・岩片状を呈する。
114 147.22～148.13m ・アブライトである。
148.13～154.83m ・花崗斑岩である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
106 138.03～138.45m ・変質している。 ・砂・礫状を呈する。
108 139.60～140.45m ・変質している。 ・割れ目が多く、割れ目沿いに砂状を呈する。
109 139.84～147.22m ・花崗斑岩である。
110 143.11～143.23m ・変質している。 ・固結した砂礫状を呈する。
111 144.35～144.37m ・破砕部である。 ・緑灰色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.0cmである。 ・走向・傾斜はN10° E65° Wである。 ・上端境界の傾斜は47°、下端境界の傾斜は59°である。
112 144.35～155.33m ・変質している。 ・岩片状を呈する。
114 147.22～148.13m ・アブライトである。
148.13～154.83m ・花崗斑岩である。

記事	報告書→ 審査資料案	審査資料案→ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)→ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)→ 審査資料(R2.2.7)
106	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
107	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—
108	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
109	・アブライトを挟むことから、柱状図に合わせて花崗斑岩の深度区間を記載。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
110	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
111	・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩（断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト）を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・“古い破砕帯”との記載については、破砕部の生成時期が不明であるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
112	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
113	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—
114	・柱状図に合わせてアブライトとその深度区間を記載。 ・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
b	・柱状図に合わせて花崗斑岩の深度区間を記載。	変更なし	変更なし	変更なし
115	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—
116	・一部で砂・礫状を呈するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。	—	—	—

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事
118 154.83～159.85m ・アブライトである。
120 156.97～162.43m ・変質している。 ・割れ目が多く、砂質シルト状～岩片状を呈する。
123 159.85～161.48m ・花崗斑岩である。
c 161.48～187.52m ・アブライトである。
125 164.52～165.06m ・変質している。 ・砂礫状を呈する。
127 165.61～170.14m ・変質している。 ・固結した砂状を呈する。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
118 154.83～159.85m ・アブライトである。
120 156.97～162.43m ・変質している。 ・割れ目が多く、砂質シルト状～岩片状を呈する。
123 159.85～161.48m ・花崗斑岩である。
c 161.48～187.52m ・アブライトである。
125 164.52～165.06m ・変質している。 ・砂礫状を呈する。
127 165.61～170.14m ・変質している。 ・固結した砂状を呈する。

審査資料
(平成30年11月30日)

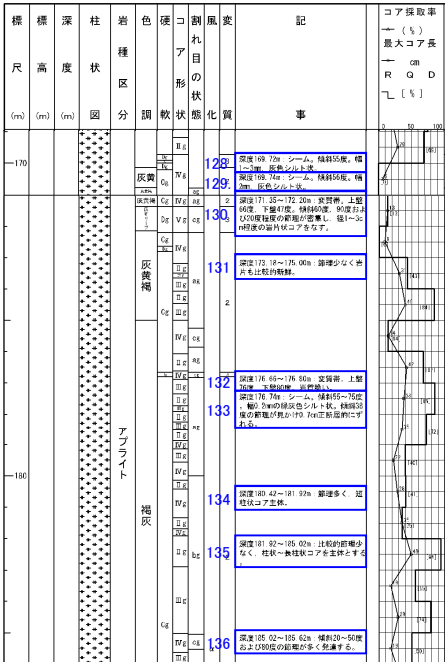
記 事
118 154.83～159.85m ・アブライトである。
120 156.97～162.43m ・変質している。 ・割れ目が多く、砂質シルト状～岩片状を呈する。
123 159.85～161.48m ・花崗斑岩である。
c 161.48～187.52m ・アブライトである。
125 164.52～165.06m ・変質している。 ・砂礫状を呈する。
127 165.61～170.14m ・変質している。 ・固結した砂状を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
118 154.83～159.85m ・アブライトである。
120 156.97～162.43m ・変質している。 ・割れ目が多く、砂質シルト状～岩片状を呈する。
123 159.85～161.48m ・花崗斑岩である。
c 161.48～187.52m ・アブライトである。
125 164.52～165.06m ・変質している。 ・砂礫状を呈する。
127 165.61～170.14m ・変質している。 ・固結した砂状を呈する。

記事	報告書→ 審査資料案	審査資料案→ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)→ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)→ 審査資料(R2.2.7)
117,118	・花崗斑岩を挟むことから、柱状図に合わせてアブライトの深度区間を記載。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の見かけ傾斜、色調については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
119	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—
120	・変質している区間の境界傾斜、割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
121	・砂質シルト状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—	—
122	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-124頁)。	—	—	—
123	・柱状図に合わせて花崗斑岩の深度区間を記載。 ・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
c	・柱状図に合わせてアブライトとその深度区間を記載。	変更なし	変更なし	変更なし
124	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-125頁)。	—	—	—
125	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
126	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-126頁)。	—	—	—
127	・変質している区間の境界傾斜、色調については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事

130 171.35～172.20m
・変質している。
・割れ目が密集し、岩片状を呈する。

132 176.66～176.80m
・変質している。
・岩質は脆い。

135 181.92～185.02m
・割れ目が少なく、柱状～長柱状を呈する。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

130 171.35～172.20m
・変質している。
・割れ目が密集し、岩片状を呈する。

132 176.66～176.80m
・変質している。
・岩質は脆い。

135 181.92～185.02m
・割れ目が少なく、柱状～長柱状を呈する。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事

130 171.35～172.20m
・変質している。
・割れ目が密集し、岩片状を呈する。

132 176.66～176.80m
・変質している。
・岩質は脆い。

135 181.92～185.02m
・割れ目が少なく、柱状～長柱状を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事

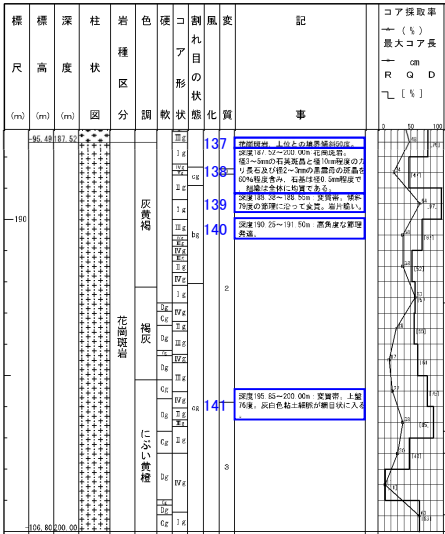
130 171.35～172.20m
・変質している。
・割れ目が密集し、岩片状を呈する。

132 176.66～176.80m
・変質している。
・岩質は脆い。

135 181.92～185.02m
・割れ目が少なく、柱状～長柱状を呈する。

記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
128	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-127頁)。	—	—	—
129	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-128頁)。	—	—	—
130	・変質している区間の境界傾斜、割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
131	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—
132	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
133	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-129頁)。	—	—	—
134	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—
135	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
136	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料案

記 事
138 187.52～200.00m ・花崗斑岩である。
139 188.38～188.55m ・変質している。 ・割れ目に沿って変質しており、岩片は脆い。
141 195.85～200.00m ・変質している。 ・灰白色の粘土細脈が網目状に分布する。

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事
138 187.52～200.00m ・花崗斑岩である。
139 188.38～188.55m ・変質している。 ・割れ目に沿って変質しており、岩片は脆い。
141 195.85～200.00m ・変質している。 ・灰白色の粘土細脈が網目状に分布する。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事
138 187.52～200.00m ・花崗斑岩である。
139 188.38～188.55m ・変質している。 ・割れ目に沿って変質しており、岩片は脆い。
141 195.85～200.00m ・変質している。 ・灰白色の粘土細脈が網目状に分布する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
138 187.52～200.00m ・花崗斑岩である。
139 188.38～188.55m ・変質している。 ・割れ目に沿って変質しており、岩片は脆い。
141 195.85～200.00m ・変質している。 ・灰白色の粘土細脈が網目状に分布する。

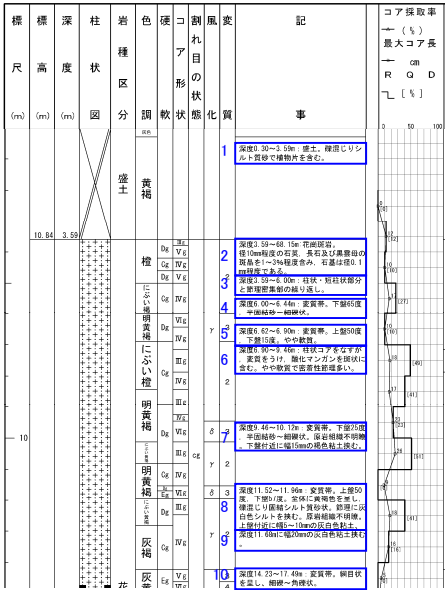
記事	報告書⇒ 審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H29.12.22)	審査資料(H29.12.22)⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
137,138	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
139	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし
140	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—	—
141	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし	変更なし

余白

H19-No.19

余白

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
1 0.00～3.59m ・盛土である。
2 3.59～43.49m ・花崗斑岩である。
7 9.46～10.12m ・変質している。 ・半固結砂～細礫状を呈する。
8 11.52～11.96m ・変質している。 ・黄褐色を呈し、礫混じり固結シルト質砂状を呈する。
10 14.23～17.49m ・変質している。 ・細礫～角礫状を呈する。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事
1 0.00～3.59m ・盛土である。
2 3.59～43.49m ・花崗斑岩である。
7 9.46～10.12m ・変質している。 ・半固結砂～細礫状を呈する。
8 11.52～11.96m ・変質している。 ・黄褐色を呈し、礫混じり固結シルト質砂状を呈する。
10 14.23～17.49m ・変質している。 ・細礫～角礫状を呈する。

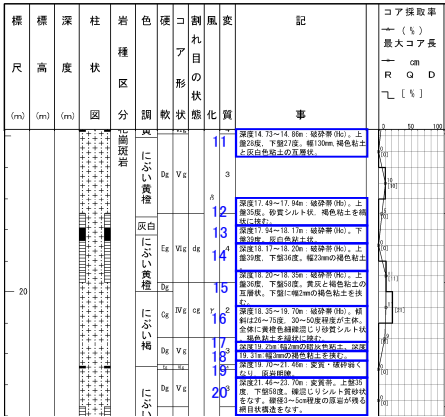
審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
1 0.00～3.59m ・盛土である。
2 3.59～43.49m ・花崗斑岩である。
7 9.46～10.12m ・変質している。 ・半固結砂～細礫状を呈する。
8 11.52～11.96m ・変質している。 ・黄褐色を呈し、礫混じり固結シルト質砂状を呈する。
10 14.23～17.49m ・変質している。 ・細礫～角礫状を呈する。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
1	・盛土区間については、元々の地質の状態を示すものではないため、構成粒子に関する記載は削除。	変更なし	変更なし
2	・柱状図に合わせて花崗斑岩とその深度区間を記載。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし
3	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—
4	・半固結砂～細礫状を呈するが、直線性に乏しいことから削除。	—	—
5	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。	—	—
6	・硬軟や割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・酸化マンガンについては、補足的なものであるため削除。	—	—
7	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・原岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・粘土を挟むが、上端下端の境界面が不明瞭であることから削除。	変更なし	変更なし
8,9	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・原岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・一部に粘土を挟むが、連続性に乏しいことから削除。	変更なし	変更なし
10	・網目状については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

H19-No.19

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
●14.73~14.86m (f-19-1破砕帯) ・破砕部である。 ・褐色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は13.0cmである。 ・走向・傾斜はN42° W63° Eである。 ・上端境界の傾斜は28°, 下端境界の傾斜は27°である。
●17.49~19.70m (D-26破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主ににふい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・褐色の未固結粘土状部：累計幅2.3cm ・走向・傾斜はN36° W65° Eである。
21.46~23.70m ・変質している。 ・礫混じりシルト質砂状を呈する。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事
●14.73~14.86m (f-19-1破砕帯) ・破砕部である。 ・褐色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は13.0cmである。 ・走向・傾斜はN42° W63° Eである。 ・上端境界の傾斜は28°, 下端境界の傾斜は27°である。
●17.49~19.70m (D-26破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主ににふい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・褐色の未固結粘土状部：累計幅2.3cm ・走向・傾斜はN36° W65° Eである。
21.46~23.70m ・変質している。 ・礫混じりシルト質砂状を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
●14.73~14.86m (f-19-1破砕帯) ・破砕部である。 ・褐色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は13.0cmである。 ・走向・傾斜はN42° W63° Eである。 ・上端境界の傾斜は28°, 下端境界の傾斜は27°である。
●17.49~19.70m (D-26破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主ににふい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・褐色の未固結粘土状部：累計幅2.3cm ・走向・傾斜はN36° W65° Eである。
21.46~23.70m ・変質している。 ・礫混じりシルト質砂状を呈する。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
11	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。	変更なし	変更なし
12~18	・破砕帯名を記載。 ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
19	・変質や破砕を伴う岩盤の劣化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・原岩組織の明瞭さについては、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。	—	—
20	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・網目状構造については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

H19-No.19

委託報告書
(平成19年)

[illegible]

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

審查資料案

記 事

- 22. 44~22. 46m
・ 硬砂層である。
・ 灰色の未面結粘土状部がある。この累計幅は、0.2mである。
・ 走向・傾斜はN34° W72° Eである。
・ 上境界面の傾斜は46°、下境界面の傾斜に49°である。
- 23. 70~23. 14m(浦底層)
・ 主に砂層で構成される。
・ わずかな断層面を呈する。
・ 主に褐色の面結硬砂部及び褐色結粘土状部がある。
・ 褐色の未面結粘土部：累計幅1.8cm
・ 走向・傾斜はN41° N67° NEである。
- 35. 14~38. 85m
・ 変質している。
・ 変質色は黒褐色を帯びた半面結シルト状部、褐色の砂部、灰白色シルト+粘土状、角閃+絹斑状を呈する。

審査資料
(平成30年11月30日)

●22. 44～22. 46m
破砕帯である。
■灰色の糸状結晶粘土状部がある。この糸状結晶は0.2cmである。
・走向・傾斜はN34° W72°である。
・上境界面の傾斜は46°、下境界面の傾斜は49°である。
●22. 47～35. 14m(清底層)
破砕帯である。
・主には逆断層の固結塊状部及び固結粘土状部がある。
・褐色の糸状結晶粘土部：累計幅1.8cm
・走向・傾斜はN41° W67°である。
●35. 14～38. 85m
・変質している。
・灰色又は黒灰色を帯びた半面結晶シルト状。崩れやすい。灰色白色シルト→粘土状、角閃→細粒状である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事

- 22.44～22.46m
 - ・ 破砕部である。
 - ・ 黄灰色の未固結粘土状部かなる。この累計幅は22.00mである。
 - ・ 走向・傾斜はN34° W7° Eである。
 - ・ 上境界面の傾斜は46°、下境界面の傾斜は49°である。
- 23.70～23.85. 14m(滑面断層)
 - ・ 断層である。
 - ・ 左ずれ逆断層センスである。
 - ・ 主には褐色の固結礫状部及び固結粘土状部かなる。
 - ・ 褐色の未固結粘土状部：累計幅1.8cm
 - ・ 走向・傾斜はN41° W87° NEである。
- 35.14～38.85m
 - ・ 黄灰色と黄褐色を帯びた半固結シルト状。
 - ・ 網目状の褐色、灰白色シルト→粘土状、角礫→細粒状を呈する。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
21	<ul style="list-style-type: none"> ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩（断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト）を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 	変更なし	変更なし
22～35	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書から申請書提出までの間に行った破砕部の再観察により破砕部の区間を統合。再観察では、破砕部に挟まれた区間について、破砕部と同系統の割れ目が分布することから、一連の破砕部であると判断した。 ・破砕帯名を記載。 ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩（断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト）を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・“原岩不明確”、“石英粒子が多く残る”との記載については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・“網目状に褐色シルトを挟む”との記載については、シルトの連続性や直線性に乏しく、固結礫状部に含めているため削除。 	変更なし	変更なし
36～41	<ul style="list-style-type: none"> ・変質している区間を一括記載。 ・シームという用語については削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明（補足説明資料3 補足3-147～149頁）。 ・シームの傾斜や幅については、補足的なものであるため削除。 	変更なし	変更なし

H19-No.19

委託報告書
(平成19年)

標	標	深	柱	色	硬	割	変	記	コア採取事 業 最大コア長 m R Q [m]
尺	高	度	状	種 区 分	固	軟	化	質	
(m)	(m)	(m)	図	固	軟	化	質	事	
				灰 岩 層	Qt	Ve		42 灰岩部 50~60 (m) 黄褐色を呈する 灰岩の塊、片状構造。全断面粉砂状を 呈する。	0 10
					Qt	Ve		43 灰岩部 62~63 (m) 全断面粉砂状を 呈する。一部黄褐色を呈する。	
	78.66	43.40			Qt	Ve		44 アフラト、上位との境界不明確。 灰岩の発達したアフラト (c)、角閃-地 麻岩主体に角閃化し、一部黄褐色を 呈する。	
				に い い 黄 緑	Qt	Ve		45 灰岩部 64~65 (m) ベグマタイト多 量。角閃岩主体。	
					Qt	Ve		46 灰岩部 65~66 (m) 高角閃岩を呈す る。角閃岩主体。	
				ア フ ラ イ ト	Qt	Ve		47 灰岩部 66~67 (m) 全断面に黄、黄 褐色を呈する。	
					Qt	Ve		48 灰岩部 66~67 (m) 高角閃岩を呈す る。断面に赤く、幅約150m露呈する。	
	31.39	48.50			Qt	Ve		49 灰岩部 71~72 (m) 全断面に黄褐色を 呈し、断面に白く、幅約150m露呈す る。一部粉砂状構造を呈する。	
				花 崗 岩 層	Qt	Ve		50 花崗岩部、上位との境界不明確。上部 との境界線付70度。	

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

審查資料案

	記 事
44	43. 49～61. 41m ・アブライトである。 ・割れ目が多く、角礫～細礫状を呈する。
45	43. 60～43. 75m ・ペグマタイトを挟む。
50	48. 53～49. 67m ・花崗斑岩である。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事	
43. 49～61. 41m	・ アブライトである。 ・ 割れ目が多く、角礫～細礫状を呈する。
43. 60～43. 75m	・ ペグマタイトを挟む。
48. 53～49. 67m	・ 花崗斑岩である。

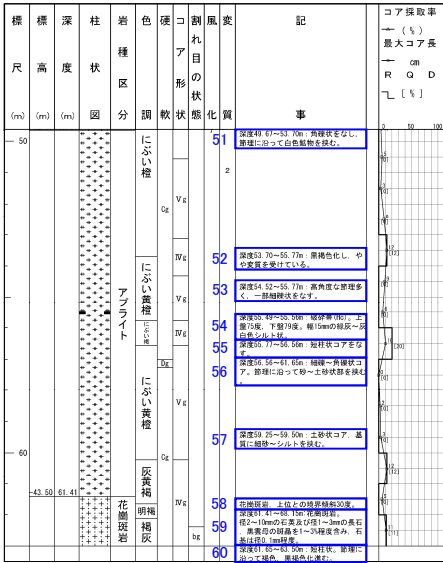
審査資料
(令和2年2月7日)

	記 事
44	43. 49~61, 41m ・アブライトである。 ・割れ目が多く、角縁～細破状を呈する。
45	43. 60~43, 75m ・ベグマタイトを挟む。
50	48. 53~49, 67m ・花崗斑岩である。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
42	・含礫固結砂状を呈するが、礫に定向配列が認められないことから削除。	—	—
43	・細礫～角礫状化を伴う割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部砂状を呈するが、系統的でないことから削除。 ・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。	—	—
44	・柱状図に合わせてアブライトとその深度区間を記載。 ・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・色調については、補足的なものであるため削除。 ・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
45	変更なし	変更なし	変更なし
46	・割れ目の傾斜、割れ目沿いの鉱物の挟在については、補足的なものであるため削除。	—	—
47	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。	—	—
48	・割れ目沿いの変質については、補足的なものであるため削除。	—	—
49	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。 ・一部砂～細礫状を呈するが、砂の連続性や直線性に乏しいことから削除。	—	—
50	・柱状図に合わせて花崗斑岩とその深度区間を記載。 ・岩種境界の明瞭さや見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

H19-No.19

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
●55. 49～55. 56m (f-19-5破砕帯) ・破砕部である。 ・緑灰色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1. 5cmである。 ・走向・傾斜はN20° W82° Wである。 ・上端境界の傾斜は75°、下端境界の傾斜は79°である。
54
61. 41～68. 15m ・花崗斑岩である。
59

審査資料
(平成30年11月30日)

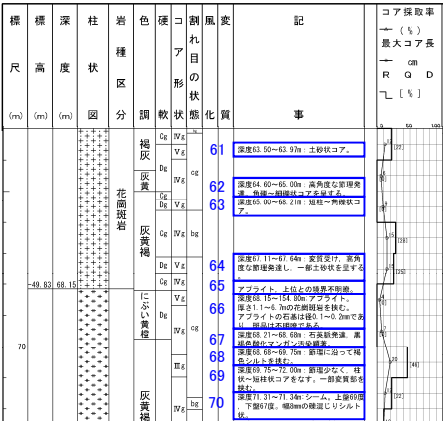
記 事
●55. 49～55. 56m (f-19-5破砕帯) ・破砕部である。 ・緑灰色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1. 5cmである。 ・走向・傾斜はN20° W82° Wである。 ・上端境界の傾斜は75°、下端境界の傾斜は79°である。
54
61. 41～68. 15m ・花崗斑岩である。
59

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
●55. 49～55. 56m (f-19-5破砕帯) ・破砕部である。 ・緑灰色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1. 5cmである。 ・走向・傾斜はN20° W82° Wである。 ・上端境界の傾斜は75°、下端境界の傾斜は79°である。
54
61. 41～68. 15m ・花崗斑岩である。
59

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
51	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの鉱物の挟在については、補足的なものであるため削除。	—	—
52	・変色については、補足的なものであるため削除。 ・変質の程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。	—	—
53	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部で細礫状を呈するが、連続性に乏しいことから削除。	—	—
54	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22) までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩 (断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト) を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。	変更なし	変更なし
55	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—
56	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いに砂～土砂状部を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。	—	—
57	・土砂状を呈し、細砂～シルトを挟在するが、掘削時の機械割れと判断し削除。	—	—
58, 59	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
60	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。	—	—

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
64 67.11～67.64m ・割れ目が多く、一部土砂状を呈する。
66 68.15～137.60m ・アブライトである。
67 68.21～68.68m ・石英脈が発達し、黒褐色酸化マンガン汚染が顕著である。

審査資料
(平成30年11月30日)

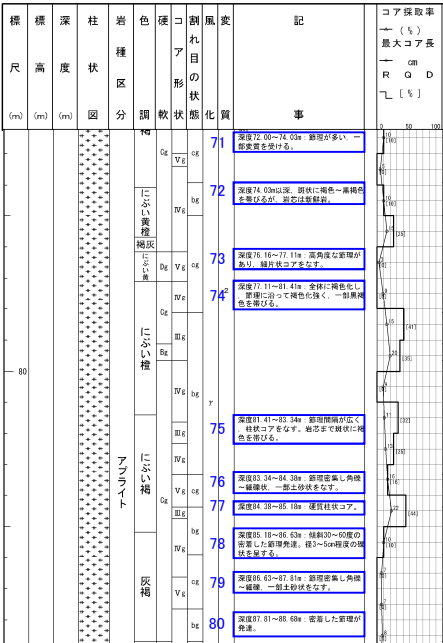
記 事
64 67.11～67.64m ・割れ目が多く、一部土砂状を呈する。
66 68.15～137.60m ・アブライトである。
67 68.21～68.68m ・石英脈が発達し、黒褐色酸化マンガン汚染が顕著である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
64 67.11～67.64m ・割れ目が多く、一部土砂状を呈する。
66 68.15～137.60m ・アブライトである。
67 68.21～68.68m ・石英脈が発達し、黒褐色酸化マンガン汚染が顕著である。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
61	・土砂状を呈するが、当該区間の上部については連続性に乏しく、下部については掘削時の機械割れと判断し削除。	—	—
62	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—
63	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・変質の程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。	—	—
64	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
65,66	・柱状図に合わせてアブライトとその深度区間を記載。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
67	変更なし	変更なし	変更なし
68	・シルトを挟在するが、連続性に乏しいことから削除。	—	—
69	・コア形状及び割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部で変質部を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。	—	—
70	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-150頁)。	—	—

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
71 72.00～74.03m ・割れ目が多く、一部変質している。
73 76.16～77.11m ・高角度な割れ目があり、細片状を呈する。
76 83.34～84.38m ・割れ目が多く、角礫～細礫状を呈する。

審査資料
(平成30年11月30日)

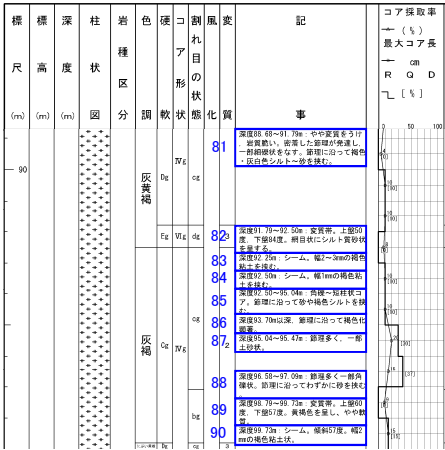
記 事
71 72.00～74.03m ・割れ目が多く、一部変質している。
73 76.16～77.11m ・高角度な割れ目があり、細片状を呈する。
76 83.34～84.38m ・割れ目が多く、角礫～細礫状を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
71 72.00～74.03m ・割れ目が多く、一部変質している。
73 76.16～77.11m ・高角度な割れ目があり、細片状を呈する。
76 83.34～84.38m ・割れ目が多く、角礫～細礫状を呈する。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
71	変更なし	変更なし	変更なし
72	・色調については、補足的なものであるため削除。	—	—
73	変更なし	変更なし	変更なし
74	・色調、割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。	—	—
75	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・色調については、補足的なものであるため削除。	—	—
76	・角礫～細礫状の区間であり、一部土砂状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。	変更なし	変更なし
77	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—
78	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—
79	・角礫～細礫状の区間であり、一部土砂状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。	—	—
80	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
87. 95.04~95.47m, 96.58~97.09m 88. ・割れ目が多く、角礫状を呈する。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事
87. 95.04~95.47m, 96.58~97.09m 88. ・割れ目が多く、角礫状を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
87. 95.04~95.47m, 96.58~97.09m 88. ・割れ目が多く、角礫状を呈する。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
81	・脆弱化や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いにシルト～砂を挟在するが、いずれも連続性に乏しいことから削除。	—	—
82～84	・網目状にシルト質砂状を呈するが、系統的でなく、連続性に乏しいことから削除。 ・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-151,152頁)。	—	—
85	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いに砂やシルトを挟在するが、いずれも連続性に乏しいことから削除。	—	—
86	・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。	—	—
87,88	・割れ目の多い区間を一括記載し、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。 ・一部土砂状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・割れ目沿いに砂を挟在するが、いずれも連続性に乏しいことから削除。	変更なし	変更なし
89	・変質を伴う硬軟については、岩級区分で示しているため削除。	—	—
90	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-153頁)。	—	—

委託報告書
(平成19年)

標 尺	標 高 度	深 状	柱 種 類	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 形 状	風 化 程 度	記 事	コア採取事 → (%) 最大コア長 → cm R Q D ↓ [%]
(m)	(m)	(m)	図	分	調	状	化	事	
100									
-92.20	102.70		花崗斑岩	灰褐色	硬	割れ目	3	91 深度99.73～100.76m 節理多く、一部変質により致腐化する。	
-92.24	103.70		花崗斑岩	灰褐色	硬	割れ目	92	92 深度100.76～102.15m 変質をうける層に当たって褐色、灰白色シルトを挟む。	
-94.32	104.85		花崗斑岩	灰褐色	硬	割れ目	93	93 花崗斑岩、上位との境界傾斜41度。	
-97.20	108.00		花崗斑岩	灰褐色	硬	割れ目	94	94 深度102.70～103.70m 花崗斑岩、節理2～10mmの石英、長石、黒雲母の結晶を1～10μm程度を挟む、石英は細粒、節理状を呈する。	
			花崗斑岩	灰褐色	硬	割れ目	95	95 深度103.94～104.03m 変質をうける層に当たって褐色、灰白色シルトを挟む。	
			花崗斑岩	灰褐色	硬	割れ目	96	96 花崗斑岩、上位との境界傾斜41度。	
			花崗斑岩	灰褐色	硬	割れ目	97	97 深度106.15m シーム、傾斜70度、時1～2mmの粒を挟む。	
			花崗斑岩	灰褐色	硬	割れ目	98	98 深度106.15～108.00m 変質をうける層に当たって褐色、灰白色シルトを挟む。	
			花崗斑岩	灰褐色	硬	割れ目	99	99 深度108.00～110.00m 変質をうける層に当たって褐色、灰白色シルトを挟む。	

設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
91 99.73～100.76m ・割れ目が多く、短柱状を呈する。
92 100.76～102.15m ・変質している。
94 102.70～103.70m、104.85～108.00m ・花崗斑岩を挟む。
95 103.94～104.03m ・変質している。 ・細粒状を呈する。

審査資料
(平成30年11月30日)

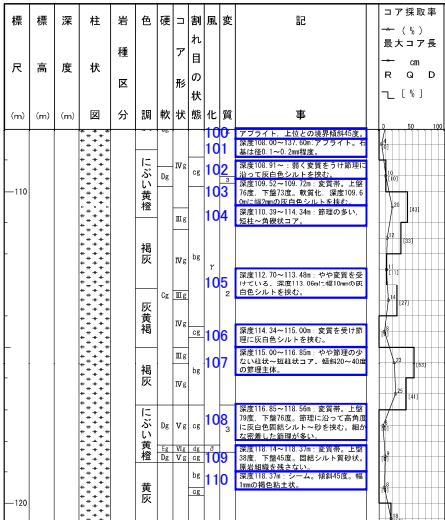
記 事
91 99.73～100.76m ・割れ目が多く、短柱状を呈する。
92 100.76～102.15m ・変質している。
94 102.70～103.70m、104.85～108.00m ・花崗斑岩を挟む。
95 103.94～104.03m ・変質している。 ・細粒状を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
91 99.73～100.76m ・割れ目が多く、短柱状を呈する。
92 100.76～102.15m ・変質している。
94 102.70～103.70m、104.85～108.00m ・花崗斑岩を挟む。
95 103.94～104.03m ・変質している。 ・細粒状を呈する。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
91	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき短柱状と記載。 ・変質の程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。	変更なし	変更なし
92	・脆弱化や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いにシルトを挟むが、系統的でなく、連続性や直線性に乏しいことから削除。	変更なし	変更なし
93,94,96	・柱状図に合わせて花崗斑岩とその深度区間を記載。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の明瞭さや見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
95	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。	変更なし	変更なし
97,98,99	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-154頁)。 ・変質し、一部で礫混じり砂質シルト状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

審査資料案

記事
109. 52～109. 72m ・変質している。 ・灰白色シルト状を呈する。
108. 85～118. 56m ・変質している。 ・灰白色固結シルト～砂状を呈する。
118. 14～118. 37m ・変質している。 ・固結シルト質砂状である。

審査資料
(平成30年11月30日)

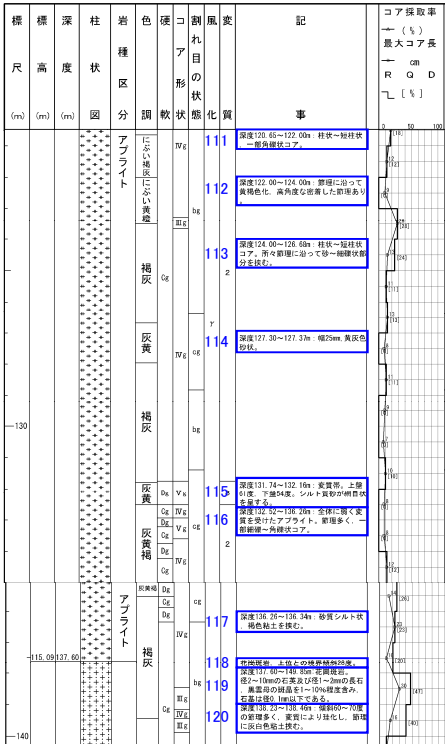
記事
109. 52～109. 72m ・変質している。 ・灰白色シルト状を呈する。
108. 85～118. 56m ・変質している。 ・灰白色固結シルト～砂状を呈する。
118. 14～118. 37m ・変質している。 ・固結シルト質砂状である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記事
109. 52～109. 72m ・変質している。 ・灰白色シルト状を呈する。
108. 85～118. 56m ・変質している。 ・灰白色固結シルト～砂状を呈する。
118. 14～118. 37m ・変質している。 ・固結シルト質砂状である。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
100,101	・アブライトの深度区間については、記事No.66で記載しているため削除。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	—	—
102	・割れ目沿いにシルトを挟在するが、連続性に乏しいことから削除。	—	—
103	・変質している区間の境界傾斜、シルトを挟在する深度の記載については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。	変更なし	変更なし
104	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—
105	・変質の程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。 ・一部でシルトを挟在するが、連続性に乏しいことから削除。	—	—
106	・変質の程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないことから削除。 ・一部割れ目沿いにシルトを挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—
107	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—
108	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	変更なし	変更なし
109	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・原岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
110	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-155頁)。	—	—

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

119 137.60～149.85m
・花崗斑岩である。

審査資料
(平成30年11月30日)

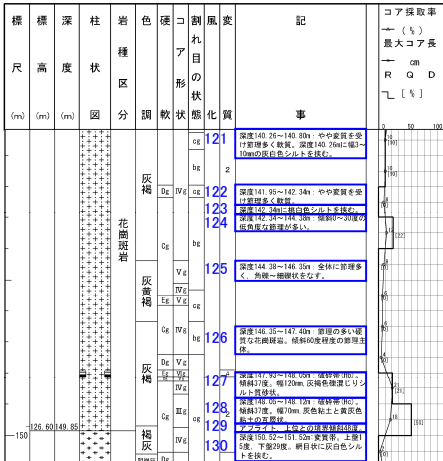
119 137.60～149.85m
・花崗斑岩である。

審査資料
(令和2年2月7日)

119 137.60～149.85m
・花崗斑岩である。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
111	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—
112	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの変色、割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	—	—
113	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部の割れ目沿いに砂～細礫を挟在するが、周囲の割れ目と差異が認められないことから削除。	—	—
114	・砂状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—
115	・一部でシルト質砂を含むが、系統的でなく、連続性や直線性に乏しいことから削除。	—	—
116	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部で細～角礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。	—	—
117	・砂質シルト状を呈し、粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—
118,119	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
120	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・珪化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 ・割れ目沿いに粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

	記 事
124 ? 126	142.34～147.40m ・割れ目が多く、角礫状～短柱状を呈する。
127 128 129 130	●147.93～148.12m (f-19-6破砕帯) ・破砕部である。 ・主に灰褐色の固結礫状部からなる。 ・黄灰色の未固結粘土状部：累計幅7.0cm ・走向・傾斜はN13° E68° Eである。 149.85～154.80m ・アブライトである。 150.52～151.52m ・変質している。 ・網目状に灰白色シルトを挟む。

審査資料
(平成30年11月30日)

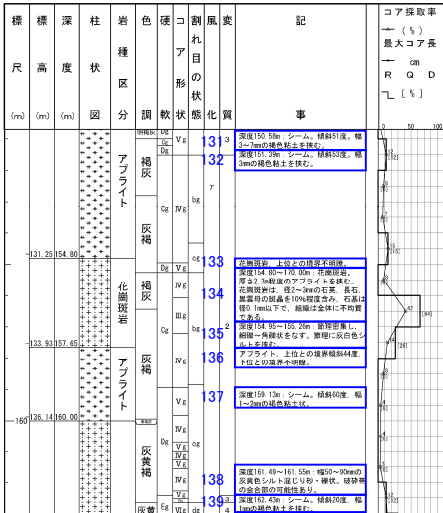
	記 事
124 126	142.34～147.40m ・割れ目が多く、角礫状～短柱状を呈する。
127 128 129 130	●147.93～148.12m (f-19-6破砕帯) ・破砕部である。 ・主に灰褐色の固結礫状部からなる。 ・黄灰色の未固結粘土状部：累計幅7.0cm ・走向・傾斜はN13° E68° Eである。 149.85～154.80m ・アブライトである。 150.52～151.52m ・変質している。 ・顔目状に灰白色シルトを挟む。

審査資料
(令和2年2月7日)

	記 事
124 126	142.34～147.40m ・割れ目が多く、角礫状～短柱状を呈する。
127 128 129 130	●147.93～148.12m (f-19-6破砕帯) ・破砕部である。 ・主に灰褐色の固結礫状部からなる。 ・黄灰色の未固結粘土状部：累計幅7.0cm ・走向・傾斜はN12° E68° Eである。 149.85～154.80m ・アブライトである。 150.52～151.52m ・変質している。 ・縞目状に灰白色シルトを挟む。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
121	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部にシルトを挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—
122,123	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・軟質化し、一部にシルトを挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—
124～126	・割れ目の発達状況について、区間を統合して一括記載。 ・“コア形状”欄に基づき、角礫状～短柱状と記載。	変更なし	変更なし
127,128	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22) までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩 (断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト) を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・幅の記載については、性状一覽表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
129	・柱状図に合わせてアブライトとその深度区間を記載。 ・岩種境界の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
130	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
134 154.80～170.00m ・花崗斑岩である。
135 154.95～155.26m ・割れ目が密集し、細礫～角礫状を呈する。
136 157.65～160.00m ・アブライトである。

審査資料
(平成30年11月30日)

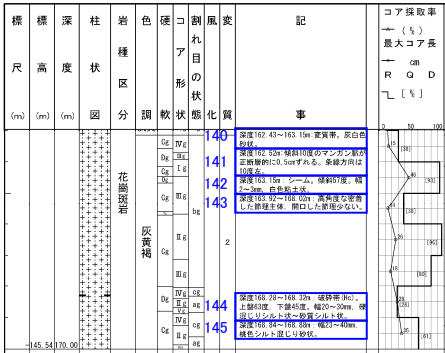
記 事
134 154.80～170.00m ・花崗斑岩である。
135 154.95～155.26m ・割れ目が密集し、細礫～角礫状を呈する。
136 157.65～160.00m ・アブライトである。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
134 154.80～170.00m ・花崗斑岩である。
135 154.95～155.26m ・割れ目が密集し、細礫～角礫状を呈する。
136 157.65～160.00m ・アブライトである。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
131	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-156頁)。	—	—
132	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-157頁)。	—	—
133,134	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。 ・当該区間に挟在するアブライトについては、個別に記載するため削除。	変更なし	変更なし
135	・コア形状及び割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部の割れ目沿いにシルトを挟在するが、連続性に乏しいことから削除。	変更なし	変更なし
136	・柱状図に合わせてアブライトとその深度区間を記載。 ・岩種境界の明瞭さや見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
137	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-158頁)。	—	—
138	・シルト混じり砂・礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。	—	—
139	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-159頁)。	—	—

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
140 162.43~163.15m ・変質している。 ・灰白色砂状を呈する。
144 ●168.28~168.32m ・破砕部である。 ・主に明青灰色の固結粘土状部からなる。 ・明青灰色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・上端境界の傾斜は63°、下端境界の傾斜は45°である。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事
140 162.43~163.15m ・変質している。 ・灰白色砂状を呈する。
144 ●168.28~168.32m ・破砕部である。 ・主に明青灰色の固結粘土状部からなる。 ・明青灰色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・上端境界の傾斜は63°、下端境界の傾斜は45°である。

審査資料
(令和2年2月7日)

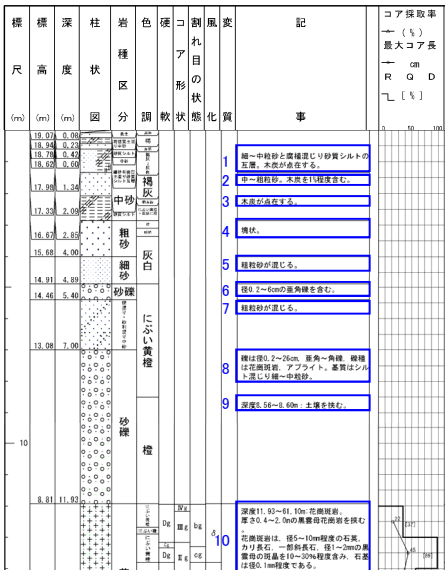
記 事
140 162.43~163.15m ・変質している。 ・灰白色砂状を呈する。
144 ●168.28~168.32m ・破砕部である。 ・主に明青灰色の固結粘土状部からなる。 ・明青灰色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・上端境界の傾斜は63°、下端境界の傾斜は45°である。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
140～142	・マンガン脈が見かけ正断層的にずれる旨と条線について記載されているが、マンガン脈をずらしている割れ目の連続性に乏しいことから削除。 ・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-160頁)。	変更なし	変更なし
143	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—
144	・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22) までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。	変更なし	変更なし
145	・シルト混じり砂状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。	—	—

H19-No.8

余白

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
1 0.00～0.42m ・細～中粒砂と有機質土混じり砂、砂質シルトの互層である。 ・炭化木が点在する。
2 0.42～2.09m ・中～粗粒砂である。 ・炭化木を含む。
3 2.09～2.85m ・砂質シルトである。 ・炭化木が点在する。
5 2.85～4.89m ・細～粗粒砂である。 ・砂礫である。
6 4.89～5.40m ・砂礫である。 ・径0.2～6mmの垂直礫を含む。
7 5.40～7.00m ・礫混じり砂である。
8 7.00～11.93m ・砂礫である。 ・礫は径0.2～26cm、垂直～角礫、礫種は花崗斑岩、アブライトである。
9 8.56～8.60m ・土壌を挟む。
10 11.93～29.32m ・花崗斑岩である。

審査資料
(平成30年11月30日)

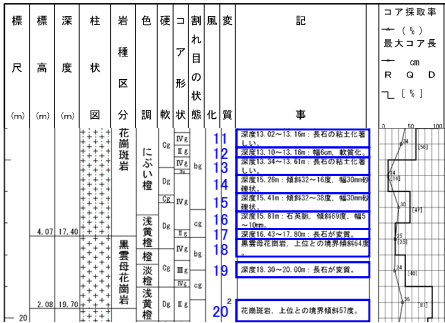
記 事
1 0.00～0.42m ・細～中粒砂と有機質土混じり砂、砂質シルトの互層である。 ・炭化木が点在する。
2 0.42～2.09m ・中～粗粒砂である。 ・炭化木を含む。
3 2.09～2.85m ・砂質シルトである。 ・炭化木が点在する。
5 2.85～4.89m ・細～粗粒砂である。 ・砂礫である。
6 4.89～5.40m ・砂礫である。 ・径0.2～6mmの垂直礫を含む。
7 5.40～7.00m ・礫混じり砂である。
8 7.00～11.93m ・砂礫である。 ・礫は径0.2～26cm、垂直～角礫、礫種は花崗斑岩、アブライトである。
9 8.56～8.60m ・土壌を挟む。
10 11.93～29.32m ・花崗斑岩である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
1 0.00～0.42m ・細～中粒砂と有機質土混じり砂、砂質シルトの互層である。 ・炭化木が点在する。
2 0.42～2.09m ・中～粗粒砂である。 ・炭化木を含む。
3 2.09～2.85m ・砂質シルトである。 ・炭化木が点在する。
5 2.85～4.89m ・細～粗粒砂である。 ・砂礫である。
6 4.89～5.40m ・砂礫である。 ・径0.2～6mmの垂直礫を含む。
7 5.40～7.00m ・礫混じり砂である。
8 7.00～11.93m ・砂礫である。 ・礫は径0.2～26cm、垂直～角礫、礫種は花崗斑岩、アブライトである。
9 8.56～8.60m ・土壌を挟む。
10 11.93～29.32m ・花崗斑岩である。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
1	・表現の見直し(腐植混じり→有機質土混じり)。 ・表現の見直し(木炭→炭化木)。 ・柱状図に合わせて区間深度を記載。 (誤記)0.00～1.34mと書くべきところを誤って0.00～0.42mと記載。	変更なし	変更なし
2	・表現の見直し(木炭→炭化木)。 ・柱状図に合わせて区間深度を記載。 (誤記)1.34～2.09mと書くべきところを誤って0.42～2.09mと記載。	変更なし	変更なし
3	・柱状図に合わせて砂質シルトと記載。 ・表現の見直し(木炭→炭化木)。	変更なし	変更なし
4.5	・砂について、区間を統合して一括記載し、柱状図に合わせて細～粗粒砂と記載。 ・柱状図に対応した層相名を記載することとしているため、塊状については削除。	変更なし	変更なし
6	・柱状図に合わせて砂礫と記載。 ・柱状図に対応した層相名を記載することとしているため、粗粒砂については削除。	変更なし	変更なし
7	・柱状図に合わせて礫混じり砂と記載。	変更なし	変更なし
8	・柱状図に合わせて砂礫と記載。 ・柱状図に対応した層相名を記載することとしているため、基質については削除。	変更なし	変更なし
9	変更なし	変更なし	変更なし
10	・柱状図に合わせて花崗斑岩とその深度区間を記載。 ・黒雲母花崗岩の挟在については、柱状図に合わせて個別に説明することとしているため削除。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
11, 13 13.02~13.16m, 13.34~13.61m ・長石の粘土化が著しい。
16 15.81m ・幅5~10mmの石英脈を挟む。
18 17.40~19.70m ・黒雲母花崗岩である。
20 19.70~27.62m ・花崗斑岩である。

審査資料
(平成30年11月30日)

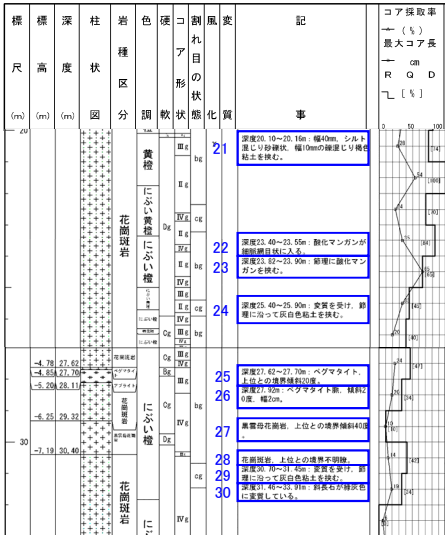
記 事
11, 13 13.02~13.16m, 13.34~13.61m ・長石の粘土化が著しい。
16 15.81m ・幅5~10mmの石英脈を挟む。
18 17.40~19.70m ・黒雲母花崗岩である。
20 19.70~27.62m ・花崗斑岩である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
11, 13 13.02~13.16m, 13.34~13.61m ・長石の粘土化が著しい。
16 15.81m ・幅5~10mmの石英脈を挟む。
18 17.40~19.70m ・黒雲母花崗岩である。
20 19.70~27.62m ・花崗斑岩である。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
11,13	・長石の粘土化が著しい区間を一括記載。	変更なし	変更なし
12	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。	—	—
14,15	・砂礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。	—	—
16	・鉱物脈の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
17	・長石の変質については、補足的なものであるため削除。	—	—
18	・柱状図に合わせて黒雲母花崗岩の深度区間を記載。 ・岩種境界の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
19	・長石の変質については、補足的なものであるため削除。	—	—
20	・柱状図に合わせて花崗斑岩の深度区間を記載。 ・岩種境界の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
21 20. 10～20. 16m ・幅40mmのシルト混じり砂礫状、幅10mmの礫混じり褐色粘土を挟む。
22 23. 40～23. 55m ・酸化マンガンが細脈網目状に入る。
23 23. 82～23. 90m ・割れ目に酸化マンガンを挟む。
25 27. 62～27. 70m ・ペグマタイトである。
a 27. 70～28. 11m ・アブライトである。
26 27. 92m ・幅2cmのペグマタイト脈を挟む。
27 29. 32～30. 40m ・黒雲母花崗岩である。
29 30. 40～33. 45m ・花崗斑岩である。
30 割れ目に沿って灰白色粘土を挟む。 ・斜長石が緑灰色に変質している。

審査資料
(平成30年11月30日)

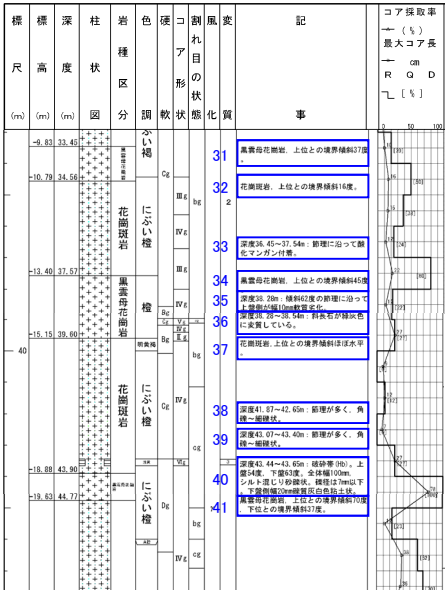
記 事
21 20. 10～20. 16m ・幅40mmのシルト混じり砂礫状、幅10mmの礫混じり褐色粘土を挟む。
22 23. 40～23. 55m ・酸化マンガンが細脈網目状に入る。
23 23. 82～23. 90m ・割れ目に酸化マンガンを挟む。
25 27. 62～27. 70m ・ペグマタイトである。
a 27. 70～28. 11m ・アブライトである。
26 27. 92m ・幅2cmのペグマタイト脈を挟む。
27 29. 32～30. 40m ・黒雲母花崗岩である。
29 30. 40～33. 45m ・花崗斑岩である。
30 割れ目に沿って灰白色粘土を挟む。 ・斜長石が緑灰色に変質している。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
21 20. 10～20. 16m ・幅40mmのシルト混じり砂礫状、幅10mmの礫混じり褐色粘土を挟む。
22 23. 40～23. 55m ・酸化マンガンが細脈網目状に入る。
23 23. 82～23. 90m ・割れ目に酸化マンガンを挟む。
25 27. 62～27. 70m ・ペグマタイトである。
a 27. 70～28. 11m ・アブライトである。
26 27. 92m ・幅2cmのペグマタイト脈を挟む。
27 29. 32～30. 40m ・黒雲母花崗岩である。
29 30. 40～33. 45m ・花崗斑岩である。
30 割れ目に沿って灰白色粘土を挟む。 ・斜長石が緑灰色に変質している。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
21	変更なし	変更なし	変更なし
22	変更なし	変更なし	変更なし
23	変更なし	変更なし	変更なし
24	・変質を伴い粘土を挟用するが、いずれも連続性に乏しいことから削除。	—	—
25	・岩種境界の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
a	・柱状図に合わせてアブライトとその深度区間を記載。	変更なし	変更なし
26	・鉱物脈の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
27	・柱状図に合わせて黒雲母花崗岩とその深度区間を記載。 ・岩種境界の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
28～30	・柱状図に合わせて花崗斑岩の深度区間とその区間内における変質について一括記載。 ・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
31 33.45~34.56m ・黒雲母花崗岩である。
32 34.56~37.57m ・花崗斑岩である。
33 36.45~37.54m ・割れ目に沿って酸化マンガン付着。
34 37.57~39.60m ・黒雲母花崗岩である。
37 39.60~43.90m ・花崗斑岩である。
38 41.87~42.65m 43.07~43.40m ・割れ目が多く、角礫～細礫状を呈する。
39 43.44~43.65m (f-8-1破砕帯) ・破砕部である。 ・浅黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN16° W82° Eである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は54°、下端境界の傾斜は63°である。
40 43.90~44.47m ・黒雲母花崗岩である。

審査資料
(平成30年11月30日)

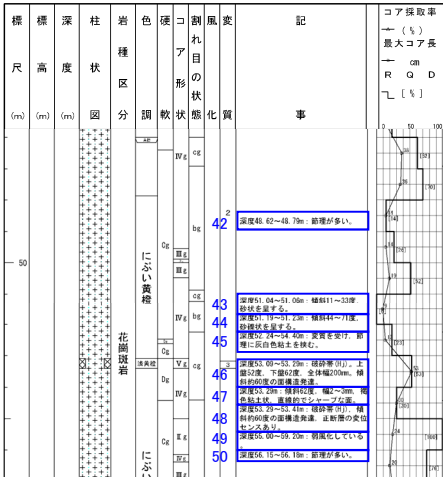
記 事
31 33.45~34.56m ・黒雲母花崗岩である。
32 34.56~37.57m ・花崗斑岩である。
33 36.45~37.54m ・割れ目に沿って酸化マンガン付着。
34 37.57~39.60m ・黒雲母花崗岩である。
37 39.60~43.90m ・花崗斑岩である。
38 41.87~42.65m 43.07~43.40m ・割れ目が多く、角礫～細礫状を呈する。
39 43.44~43.65m (f-8-1破砕帯) ・破砕部である。 ・浅黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN16° W82° Eである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は54°、下端境界の傾斜は63°である。
41 43.90~44.47m ・黒雲母花崗岩である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
31 33.45~34.56m ・黒雲母花崗岩である。
32 34.56~37.57m ・花崗斑岩である。
33 36.45~37.54m ・割れ目に沿って酸化マンガン付着。
34 37.57~39.60m ・黒雲母花崗岩である。
37 39.60~43.90m ・花崗斑岩である。
38 41.87~42.65m 43.07~43.40m ・割れ目が多く、角礫～細礫状を呈する。
39 43.44~43.65m (f-8-1破砕帯) ・破砕部である。 ・浅黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN16° W82° Eである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は54°、下端境界の傾斜は63°である。
41 43.90~44.47m ・黒雲母花崗岩である。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
31	・柱状図に合わせて黒雲母花崗岩の深度区間を記載。 ・岩種境界の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
32	・柱状図に合わせて花崗斑岩の深度区間を記載。 ・岩種境界の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
33	変更なし	変更なし	変更なし
34	・柱状図に合わせて黒雲母花崗斑岩の深度区間を記載。 ・岩種境界の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
35	・割れ目沿いに軟質劣化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—
36	・斜長石の変質については、補足的なものであるため削除。	—	—
37	・柱状図に合わせて花崗斑岩の深度区間を記載。 ・岩種境界の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
38,39	・角礫～細礫状の区間を一括記載。	変更なし	変更なし
40	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・カタクレーサイト中に挟在するフィルム状の細粒物質のうち、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟在するもの(断層ガウジ)として扱い、フィルム状の粘土を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。	変更なし	変更なし
41	・柱状図に合わせて黒雲母花崗岩の深度区間を記載。 ・岩種境界の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
b 44.77~61.10m ・花崗斑岩である。
45 52.24~54.40m ・変質を受け、割れ目に灰白色粘土を挟む。
46 53.09~53.41m(f-8-2破砕帯) ・破砕部である。 ・浅黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN9° W86° Eである。 ・フィルム状の粘土を挟む。 ・上端境界の傾斜は52° である。
48

審査資料
(平成30年11月30日)

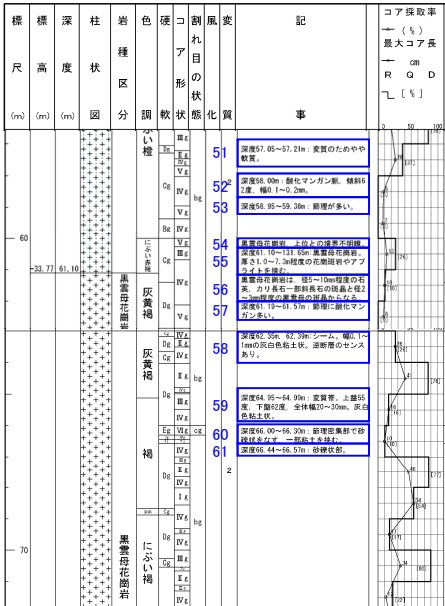
記 事
b 44.77~61.10m ・花崗斑岩である。
45 52.24~54.40m ・変質を受け、割れ目に灰白色粘土を挟む。
46 53.09~53.41m(f-8-2破砕帯) ・破砕部である。 ・浅黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN9° W86° Eである。 ・フィルム状の粘土を挟む。 ・上端境界の傾斜は52° である。
48

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
b 44.77~61.10m ・花崗斑岩である。
45 52.24~54.40m ・変質を受け、割れ目に灰白色粘土を挟む。
46 53.09~53.41m(f-8-2破砕帯) ・破砕部である。 ・浅黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN9° W86° Eである。 ・フィルム状の粘土を挟む。 ・上端境界の傾斜は52° である。
48

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
b	・柱状図に合わせて花崗斑岩とその深度区間を記載。	変更なし	変更なし
42	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—
43	・砂状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。	—	—
44	・砂礫状を呈するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—
45	変更なし	変更なし	変更なし
46～48	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩（断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト）を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・カタクレーサイト中に挟むフィルム状の細粒物質のうち、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟むもの（断層ガウジ）として扱い、フィルム状の粘土を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。 ・“面構造発達”との記載については、複合面構造を示したものであるが、上記再観察による最新活動面近傍の明瞭なせん断構造・変形構造の有無について、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・“直線的でシャープな面”との記載については、再観察による最新活動面の平滑さについて、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・“正断層の変位センスあり”との記載については、肉眼観察に基づくものであり、審査資料では薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載することとしているため削除。	変更なし	変更なし
49	・風化の程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。	—	—
50	・割れ目が多いが、周囲の岩盤の劣化が認められないことから削除。	—	—

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
61. 10～131. 65m ・黒雲母花崗岩である。 ・幅1.0～7.3m程度の花崗斑岩やアブライトを挟む。
55 61. 19～61. 57m ・割れ目に酸化マンガン多い。
57 62. 35m, 62. 39m ・変質している。 ・幅0.1～1mmの灰白色粘土状を呈する。
58 64. 95～64. 99m ・変質している。 ・灰白色粘土状を呈する。
59 66. 00～66. 30m, 66. 44～66. 57m ・割れ目密集部で砂礫状を呈する。 ・一部、粘土を挟む。
60, 61

審査資料
(平成30年11月30日)

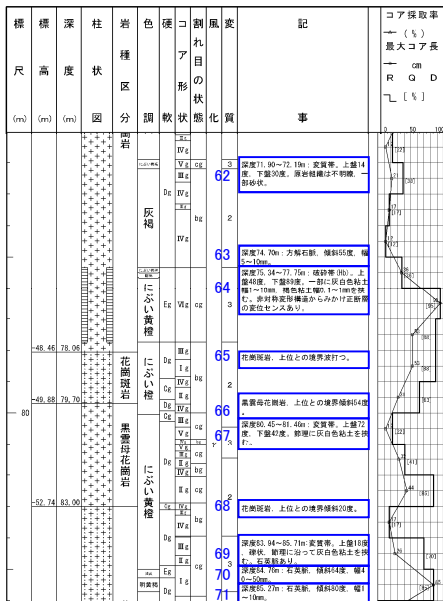
記 事
61. 10～131. 65m ・黒雲母花崗岩である。 ・幅1.0～7.3m程度の花崗斑岩やアブライトを挟む。
55 61. 19～61. 57m ・割れ目に酸化マンガン多い。
57 62. 35m, 62. 39m ・変質している。 ・幅0.1～1mmの灰白色粘土状を呈する。
58 64. 95～64. 99m ・変質している。 ・灰白色粘土状を呈する。
59 66. 00～66. 30m, 66. 44～66. 57m ・割れ目密集部で砂礫状を呈する。 ・一部、粘土を挟む。
60, 61

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
61. 10～131. 65m ・黒雲母花崗岩である。 ・幅1.0～7.3m程度の花崗斑岩やアブライトを挟む。
55 61. 19～61. 57m ・割れ目に酸化マンガン多い。
57 62. 35m, 62. 39m ・変質している。 ・幅0.1～1mmの灰白色粘土状を呈する。
58 64. 95～64. 99m ・変質している。 ・灰白色粘土状を呈する。
59 66. 00～66. 30m, 66. 44～66. 57m ・割れ目密集部で砂礫状を呈する。 ・一部、粘土を挟む。
60, 61

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
51	・変質し、やや軟質となるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—
52	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。	—	—
53	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—
54～56	・岩種境界の明瞭さ傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし
57	変更なし	変更なし	変更なし
58	・シームという用語については削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-48頁)。 ・“変質”欄に基づき変質していると記載。 ・シームの幅については、補足的なものであるため削除。 ・“逆断層のセンスあり”との記載については、不明瞭であるため削除。	変更なし	変更なし
59	・変質している区間の境界傾斜、幅については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
60,61	砂礫状の区間を一括記載。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
62 71.90～72.19m ・変質している。
63 74.70m ・幅5～10mmの方解石脈を挟む。 ●75.34～77.75m(D-25破砕帯) ・破砕部である。 ・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN4° W8° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟み存在する。
64 78.06～79.70m ・花崗斑岩である。
65 79.70～83.00m ・黒雲母花崗岩である。 80.45～81.46m ・変質している。 ・割れ目に灰白色粘土を挟む。
66 83.00～90.35m ・花崗斑岩である。
67 83.94～85.71m ・変質している。 ・礫状、割れ目に沿って灰白色粘土を挟む。
68 84.76m ・幅40～50mmの石英脈を挟む。
69 85.27m ・幅1～10mmの石英脈を挟む。

審査資料
(平成30年11月30日)

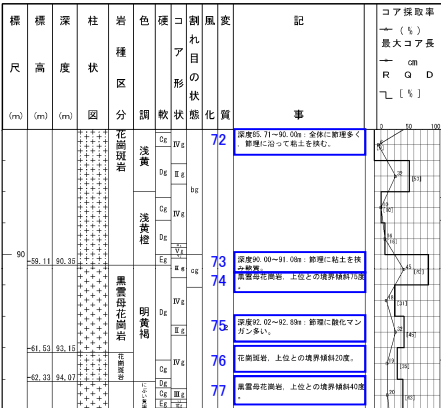
記 事
62 71.90～72.19m ・変質している。
63 74.70m ・幅5～10mmの方解石脈を挟む。 ●75.34～77.75m(D-25破砕帯) ・破砕部である。 ・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN4° W8° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟み存在する。
64 78.06～79.70m ・花崗斑岩である。
65 79.70～83.00m ・黒雲母花崗岩である。 80.45～81.46m ・変質している。 ・割れ目に灰白色粘土を挟む。
66 83.00～90.35m ・花崗斑岩である。
67 83.94～85.71m ・変質している。 ・礫状、割れ目に沿って灰白色粘土を挟む。
68 84.76m ・幅40～50mmの石英脈を挟む。
69 85.27m ・幅1～10mmの石英脈を挟む。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
62 71.90～72.19m ・変質している。
63 74.70m ・幅5～10mmの方解石脈を挟む。 ●75.34～77.75m(D-25破砕帯) ・破砕部である。 ・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN4° W8° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟み存在する。
64 78.06～79.70m ・花崗斑岩である。
65 79.70～83.00m ・黒雲母花崗岩である。 80.45～81.46m ・変質している。 ・割れ目に灰白色粘土を挟む。
66 83.00～90.35m ・花崗斑岩である。
67 83.94～85.71m ・変質している。 ・礫状、割れ目に沿って灰白色粘土を挟む。
68 84.76m ・幅40～50mmの石英脈を挟む。
69 85.27m ・幅1～10mmの石英脈を挟む。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
62	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・原岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・一部砂状を呈するが、連続性に乏しいことから削除。	変更なし	変更なし
63	・鉱物脈の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
64	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・カタクレーサイト中に挟み込むフィルム状の細粒物質のうち、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟み込むもの(断層ガウジ)として扱い、フィルム状の粘土を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・“みかけ正断層の変位センスあり”との記載については、肉眼観察に基づくものであり、審査資料では薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載することとしているため削除。	変更なし	変更なし
65	・柱状図に合わせて花崗斑岩の深度区間を記載。 ・岩種境界の形態については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
66	・柱状図に合わせて黒雲母花崗岩の深度区間を記載。 ・岩種境界の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
67	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
68	・柱状図に合わせて花崗斑岩の深度区間を記載。 ・岩種境界については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
69	・変質している区間の見かけ傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・鉱物脈については、別途、個別に説明しているため削除。	変更なし	変更なし
70	・鉱物脈の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
71	・鉱物脈の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
72 85.71～90.00m ・全体に割れ目が多く、割れ目に沿って粘土を挟む。
74 90.35～93.15m ・黒雲母花崗岩である。
75 92.02～92.89m ・割れ目に酸化マンガン多い。
76 93.15～94.07m ・花崗斑岩である。
77 94.07～100.15m ・黒雲母花崗岩である。

審査資料
(平成30年11月30日)

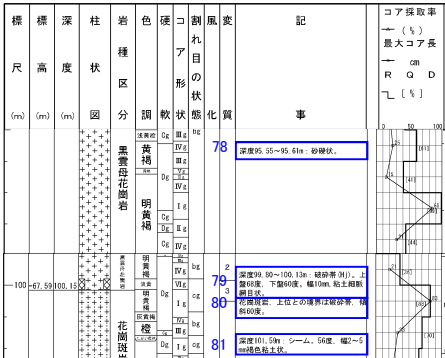
記 事
72 85.71～90.00m ・全体に割れ目が多く、割れ目に沿って粘土を挟む。
74 90.35～93.15m ・黒雲母花崗岩である。
75 92.02～92.89m ・割れ目に酸化マンガン多い。
76 93.15～94.07m ・花崗斑岩である。
77 94.07～100.15m ・黒雲母花崗岩である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
72 85.71～90.00m ・全体に割れ目が多く、割れ目に沿って粘土を挟む。
74 90.35～93.15m ・黒雲母花崗岩である。
75 92.02～92.89m ・割れ目に酸化マンガン多い。
76 93.15～94.07m ・花崗斑岩である。
77 94.07～100.15m ・黒雲母花崗岩である。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
72	変更なし	変更なし	変更なし
73	・粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。	—	—
74	・柱状図に合わせて黒雲母花崗岩の深度区間を記載。 ・岩種境界の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
75	変更なし	変更なし	変更なし
76	・柱状図に合わせて花崗斑岩の深度区間を記載。 ・岩種境界の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
77	・柱状図に合わせて黒雲母花崗岩の深度区間を記載。 ・岩種境界の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
●99.80～100.13m ・破砕部である。 ・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN42° W58° Eである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は68°、下端境界の傾斜は60°である。 100.15～103.45m ・花崗斑岩である。 101.59m ・変質している。 ・褐色粘土状を呈する。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事
●99.80～100.13m ・破砕部である。 ・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN42° W58° Eである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は68°、下端境界の傾斜は60°である。 100.15～103.45m ・花崗斑岩である。 101.59m ・変質している。 ・褐色粘土状を呈する。

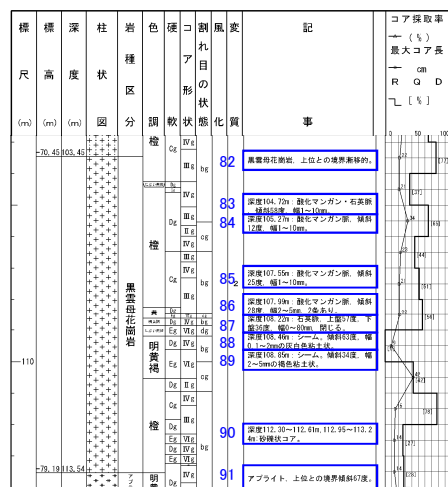
審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
●99.80～100.13m ・破砕部である。 ・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN42° W58° Eである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は68°、下端境界の傾斜は60°である。 100.15～103.45m ・花崗斑岩である。 101.59m ・変質している。 ・褐色粘土状を呈する。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
78	・砂礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。	—	—
79	・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・カタクレーサイト中に挟在するフィルム状の細粒物質のうち、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟在するもの(断層ガウジ)として扱い、フィルム状の粘土を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破碎幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。	変更なし	変更なし
80,c	・柱状図に合わせて花崗斑岩の深度区間を記載。 ・岩種境界の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・岩種境界の破碎帯の記載については、記事No.79で説明しているため削除。	変更なし	変更なし
81	・シームという用語については削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-49頁)。 ・“変質”欄に基づき変質していると記載。 ・シームの傾斜や幅については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

H19-No.8

委託報告書
(平成19年)

設置許可申請書
(平成27年11月)

事 記

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審查資料案

	記 事
82	103.45~113.54m ・黒雲母花崗岩である。
90	112.30~112.61m 112.95~113.24m ・砂礫状を呈する。
91	113.54~114.47m ・アブライトである。

審査資料
(平成30年11月30日)

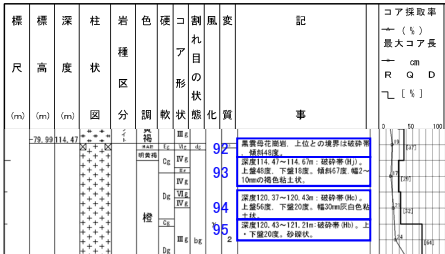
	記 事
82	103.45~113.54m ・黒雲母花崗岩である。
90	112.30~112.61m, 112.95~113.24m ・砂礫状を呈する。
91	113.54~114.47m ・アブライトである。

審査資料
(令和2年2月7日)

	記 事
82	103.45~113.54m ・黒雲母花崗岩である。
90	112.30~112.61m 112.95~113.24m ・砂礫状を呈する。
91	113.54~114.47m ・アブライトである。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
82	・柱状図に合わせて黒雲母花崗岩の深度区間を記載。 ・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
83～87	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。	—	—
88,89	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-50,51頁)。	—	—
90	変更なし	変更なし	変更なし
91	・柱状図に合わせてアブライトの深度区間を記載。 ・岩種境界の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
92 114.47~131.65m ・黒雲母花崗岩である。 ●114.47~114.67m ・破砕部である。 93 浅黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN56° W85° Eである。 ・上端境界の傾斜は48°、下端境界の傾斜は18°である。
94 120.37~121.21m ・破砕部である。 95 主ににぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・灰黄色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN7° E72° Eである。 ・上端境界の傾斜は56°、下端境界の傾斜は20°である。

審査資料
(平成30年11月30日)

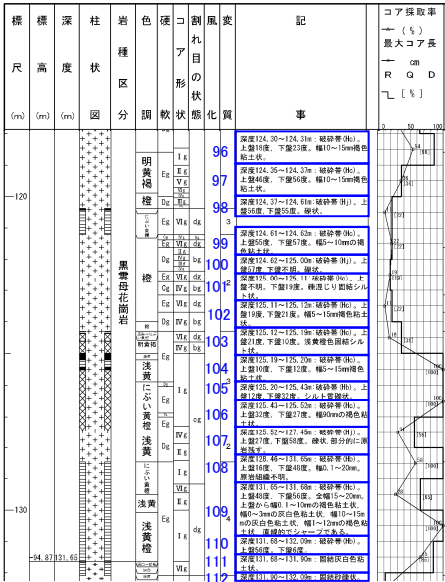
記 事
92 114.47~131.65m ・黒雲母花崗岩である。 ●114.47~114.67m ・破砕部である。 93 浅黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN56° W85° Eである。 ・上端境界の傾斜は48°、下端境界の傾斜は18°である。
94 120.37~121.21m ・破砕部である。 95 主ににぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・灰黄色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN7° E72° Eである。 ・上端境界の傾斜は56°、下端境界の傾斜は20°である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
92 114.47~131.65m ・黒雲母花崗岩である。 ●114.47~114.67m ・破砕部である。 93 浅黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN56° W85° Eである。 ・上端境界の傾斜は48°、下端境界の傾斜は18°である。
94 120.37~121.21m ・破砕部である。 95 主ににぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・灰黄色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN7° E72° Eである。 ・上端境界の傾斜は56°、下端境界の傾斜は20°である。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
92	・柱状図に合わせて黒雲母花崗岩の深度区間を記載。 ・岩種境界については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
93	・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・“傾斜67°である”との記載については、最新活動面の見かけの傾斜を示したものであり、最新活動面の走向・傾斜を別途示しているため削除。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。	変更なし	変更なし
94,95	・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

●124. 30～132. 09m(涌底断層)
・破砕部である。
・左ずれセンスである。
・主に褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。
・褐色の未固結粘土状部：累計幅0. 5cm
・走向・傾斜はN15° W86° Eである。

審査資料
(平成30年11月30日)

●124. 30～132. 09m(涌底断層)
・破砕部である。
・左ずれセンスである。
・主に褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。
・褐色の未固結粘土状部：累計幅0. 5cm
・走向・傾斜はN15° W86° Eである。

審査資料
(令和2年2月7日)

●124. 30～132. 09m(涌底断層)
・破砕部である。
・左ずれセンスである。
・主に褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。
・褐色の未固結粘土状部：累計幅0. 5cm
・走向・傾斜はN15° W86° Eである。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
96～112	<p>・報告書から申請書提出までの間に行った破砕部の再観察により破砕部の区間を統合。再観察では、破砕部に挟まれた区間について、破砕部と同系統の割れ目が分布することから、一連の破砕部であると判断した。</p> <p>・破砕帯名を記載。</p> <p>・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。</p> <p>・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22) までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩 (断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト) を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。</p> <p>・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。</p> <p>・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。</p> <p>・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。</p> <p>・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。</p> <p>・“部分的に原岩残す”、“原岩組織不明”との記載については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。</p> <p>・“直線的でシャープである”との記載については、再観察による最新活動面の平滑さについて、性状一覧表に示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。</p>	変更なし	変更なし

H19-No.8

委託報告書
(平成19年)

標	標	深	柱	岩	色	硬	割	変	記	コア採取事
尺	高	度	状	種	調	軟	れ	質		大
(m)	(m)	(m)	図	区	調	軟	れ	質		小
							目			長
							状			Q
							態			R
							化			D
							質			〔 〕
				ア ブ ラ イ ト	灰 黄 緑 色	硬	割 れ 目	変 質	113	コア採取事 大 小 長 Q R D 〔 〕
				ア ブ ラ イ ト	灰 黄 緑 色	硬	割 れ 目	変 質	114	
				ア ブ ラ イ ト	灰 黄 緑 色	硬	割 れ 目	変 質	115	
				ア ブ ラ イ ト	灰 黄 緑 色	硬	割 れ 目	変 質	116	
				ア ブ ラ イ ト	灰 黄 緑 色	硬	割 れ 目	変 質	117	
				ア ブ ラ イ ト	灰 黄 緑 色	硬	割 れ 目	変 質	118	
				ア ブ ラ イ ト	灰 黄 緑 色	硬	割 れ 目	変 質	119	

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

審查資料案

	記 事
131	65~136: 53m
111	・安山岩である。 ・全体に裏質し、暗オリーブ灰〜オリーブ色を帯びる。 ・赤土に破砕石脈を挟む。
133	89~133: 92m
112	・裏質している。 ・緑灰色シルト質細砂岩を呈する。
133	134 09~134 11m
113	・裏質している。 ・緑灰色シルト混じり細砂岩を呈する。 ・堆積し面がある。
134	25~134: 28m
114	・裏質している。 ・緑灰色輝緑じりシルト質砂岩で軟質である。
136	08~136: 53m
117	・裏質している。 ・シルト質角礫〜砂状で軟質である。
136	53~200: 00m
118	・花崗岩である。 ・上部に60~70mのアブライトを挟む。 ・●137 95~137 98m (f-8-8破砕帯) ・破砕帯である。 ・黄灰色の固結砂岩からなる。 ・走向・傾斜はN33° W60° である。 ・上・下境界の断層を挟み込む。 ・上境界断層の断層は28° 下境界断層の傾斜は12° である。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事

131 65～136. 53m
・安山岩である。
・全体に変質し、暗オリーブ灰～灰おり。
・色が黒い。
・全体に内巻石脈を挟む。

132 89～133. 92m
・変質している。
・緑灰色シルト質細粒体を呈する。
134 09～134. 11m
・変質している。
・緑灰色シルト混じり細粒体を呈する。
・境界に内巻あり

134 25～134. 28m
・変質している。
・緑灰色微細じりシルト質砂状で軟質である。

136 08～136. 63m
・変質している。
・シルト質角礫～砂状で軟質である。

137 53～200. 00m
・花崗閃輝岩である。
・上部に0.6m、7mのアブライトを挟む。
●137. 95～137. 98m (f-8-6碎礫岩)
・破砕岩である。
・黄灰色の固結礫岩からなる。
・走向・傾斜はN33° W60°である。
・フィッシャー断層を挟む存在。
・上端境界の傾斜は28°、下端境界の傾斜は12°である。

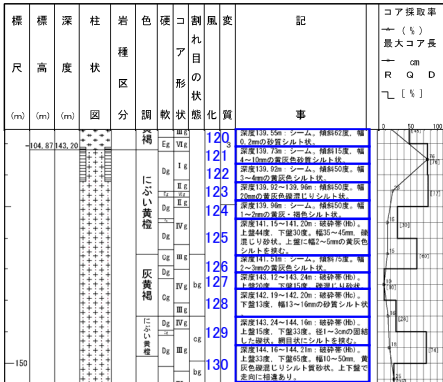
審査資料
(令和2年2月7日)

記 事

- 131. 65~136. 53m
・安山岩である。
- 111 131. 65~136. 53m
・全体に変質し、暗オリーブ灰~灰オリーブ色を帯びる。
・全体に方解石脈を挟む。
- 132 133. 89~133. 92m
・変質している。
・緑灰色シルト質細粒状を呈する。
- 113 134. 09~134. 11m
・変質している。
・緑灰色シルト混じり細粒状を呈する。
・境界に凹凸あり。
- 114 134. 25~134. 28m
・変質している。
・緑灰色輝石混じりシルト質砂状で軟質である。
- 117 136. 08~136. 53m
・変質している。
・シルト質角閃岩~砂状で軟質である。
- 118 136. 53~200. 00m
・花崗岩である。
・上面に幅約 7m のアブライトを挟む。
● 137. 95~137. 98m (f-8-8 破砕帯)
・破砕帯である。
・黄灰色の固結輝石帯からなる。
・走向：傾斜 33° NW である。
・アブライトの枚数を数える。
・上境界面の傾斜は 23°、下境界面の傾斜は 12°である。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30) ⇒ 審査資料 (R2.2.7)
111	(誤記)アブライトと書くべきところを誤って安山岩と記載。 ・斑晶については、補足的なものであるため削除。 ・劣化部については、個別に記載することとしており、全体に破砕状であるとのまとめ書きの記載は削除。	変更なし	変更なし
112	・変質している区間の境界傾斜や幅、鉱物脈については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
113	・変質している区間の境界傾斜や幅、鉱物脈については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
114	・変質している区間の境界傾斜や幅については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
115,116	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-52.53頁)。	－	－
117	・変質している区間の境界傾斜や幅、鉱物脈については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
118	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし
119	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・カタクレーサイト中に挟在するフィルム状の細粒物質のうち、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟在するもの(断層ガウジ)として扱い、フィルム状の粘土を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
●141. 15～141. 20m ・破砕部である。 ・暗灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN76° E26° Sである。 ・上端境界の傾斜は44°、下端境界の傾斜は30°である。
●143. 12～144. 21m(D-34破砕帯) ・破砕部である。 ・主ににふい黄橙色の固結礫状部からなる。 ・黄灰色の未固結粘土状部、累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN39° W64° Eである。 ・下端境界の傾斜は13°である。

審査資料
(平成30年11月30日)

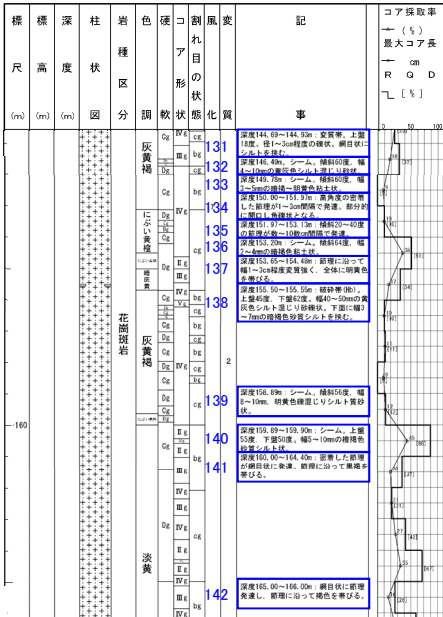
記 事
●141. 15～141. 20m ・破砕部である。 ・暗灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN76° E26° Sである。 ・上端境界の傾斜は44°、下端境界の傾斜は30°である。
●143. 12～144. 21m(D-34破砕帯) ・破砕部である。 ・主ににふい黄橙色の固結礫状部からなる。 ・黄灰色の未固結粘土状部、累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN39° W64° Eである。 ・下端境界の傾斜は13°である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
●141. 15～141. 20m ・破砕部である。 ・暗灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN76° E26° Sである。 ・上端境界の傾斜は44°、下端境界の傾斜は30°である。
●143. 12～144. 21m(D-34破砕帯) ・破砕部である。 ・主ににふい黄橙色の固結礫状部からなる。 ・黄灰色の未固結粘土状部、累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN39° W64° Eである。 ・下端境界の傾斜は13°である。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
120～122,124	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-54～57頁)。	—	—
123	・一部で黄灰色礫混じりシルト状を呈するが、シルトの連続性に乏しいことから削除。	—	—
125	・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。	変更なし	変更なし
126	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-58頁)。	—	—
127～130	・誤記修正 (143.19～143.20m→142.19～142.20m)。 ・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・上記再観察による上端境界及び下端境界の見かけの傾斜の見直しを反映(上端境界については不明瞭であるため削除)。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・“網目状にシルトを挟む”との記載については、シルトの連続性や直線性に乏しく、固結礫状部に含めているため削除。 ・“上下盤で走向に相違あり”との記載については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
131 144.69~144.93m ・変質している。 ・上端境界の傾斜は18°である。 ・径1~3cm程度の礫状を呈する。 ・網目状にシルトを挟む。
134 150.00~151.97m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
138 155.50~155.55m (f-8-11破砕帯) ・破砕部である。 ・黄灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN12° W6° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は62°である。
141, 142 160.00~166.00m ・密着した割れ目が網目状に発達する。 ・割れ目に沿って褐色を帯びる。

審査資料
(平成30年11月30日)

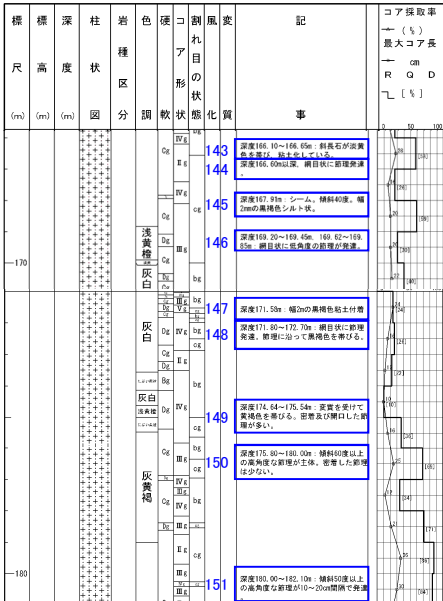
記 事
131 144.69~144.93m ・変質している。 ・上端境界の傾斜は18°である。 ・径1~3cm程度の礫状を呈する。 ・網目状にシルトを挟む。
134 150.00~151.97m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
138 155.50~155.55m (f-8-11破砕帯) ・破砕部である。 ・黄灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN12° W6° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は62°である。
141, 142 160.00~166.00m ・密着した割れ目が網目状に発達する。 ・割れ目に沿って褐色を帯びる。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
131 144.69~144.93m ・変質している。 ・上端境界の傾斜は18°である。 ・径1~3cm程度の礫状を呈する。 ・網目状にシルトを挟む。
134 150.00~151.97m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
138 155.50~155.55m (f-8-11破砕帯) ・破砕部である。 ・黄灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN12° W6° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は62°である。
141, 142 160.00~166.00m ・密着した割れ目が網目状に発達する。 ・割れ目に沿って褐色を帯びる。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
131	変更なし	変更なし	変更なし
132,133	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-59,60頁)。	—	—
134	・割れ目間隔については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	変更なし	変更なし
135	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—
136	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-61頁)。	—	—
137	・変質を伴う割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。	—	—
138	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・カタクレーサイトに挟在するフィルム状の細粒物質のうち、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟在するもの(断層ガウジ)として扱い、フィルム状の粘土を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。	変更なし	変更なし
139,140	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-62,63頁)。	—	—
141,142	・網目状の割れ目の発達について、区間を統合して一括記載。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
143 166.10～166.65m ・斜長石が淡黄色を帯び、粘土化している。
146 169.20～169.45m、169.62～169.85m ・網目状に低角度の割れ目が発達する。
148 171.80～172.70m ・網目状に割れ目が発達する。 ・割れ目に沿って黒褐色を帯びる。
149 174.64～175.54m ・変質を受けて黄褐色を帯びており、密着及び開口した割れ目が多い。
151 180.00～182.10m ・高角度の割れ目が10～20cm間隔で発達する。

審査資料
(平成30年11月30日)

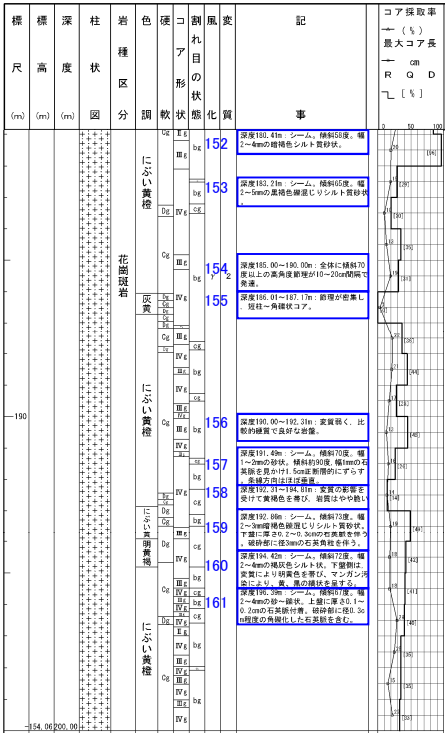
記 事
143 166.10～166.65m ・斜長石が淡黄色を帯び、粘土化している。
146 169.20～169.45m、169.62～169.85m ・網目状に低角度の割れ目が発達する。
148 171.80～172.70m ・網目状に割れ目が発達する。 ・割れ目に沿って黒褐色を帯びる。
149 174.64～175.54m ・変質を受けて黄褐色を帯びており、密着及び開口した割れ目が多い。
151 180.00～182.10m ・高角度の割れ目が10～20cm間隔で発達する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
143 166.10～166.65m ・斜長石が淡黄色を帯び、粘土化している。
146 169.20～169.45m、169.62～169.85m ・網目状に低角度の割れ目が発達する。
148 171.80～172.70m ・網目状に割れ目が発達する。 ・割れ目に沿って黒褐色を帯びる。
149 174.64～175.54m ・変質を受けて黄褐色を帯びており、密着及び開口した割れ目が多い。
151 180.00～182.10m ・高角度の割れ目が10～20cm間隔で発達する。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
143	変更なし	変更なし	変更なし
144	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—
145	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-64頁)。	—	—
146	変更なし	変更なし	変更なし
147	・粘土が付着するが、連続性に乏しいため削除。	—	—
148	変更なし	変更なし	変更なし
149	変更なし	変更なし	変更なし
150	・割れ目の傾斜、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。	—	—
151	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

154 185.00～190.00m
・全体に高角度の割れ目が10～20cm間隔で発達する。

158 192.31～194.81m
・変質の影響を受けて黄褐色を帯び、岩質はやや脆い。

161 196.39m
・幅1～2mmの石英脈に沿って、砂～礫状を呈する。

審査資料
(平成30年11月30日)

154 185.00～190.00m
・全体に高角度の割れ目が10～20cm間隔で発達する。

158 192.31～194.81m
・変質の影響を受けて黄褐色を帯び、岩質はやや脆い。

161 196.39m
・幅1～2mmの石英脈に沿って、砂～礫状を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

154 185.00～190.00m
・全体に高角度の割れ目が10～20cm間隔で発達する。

158 192.31～194.81m
・変質の影響を受けて黄褐色を帯び、岩質はやや脆い。

161 196.39m
・幅1～2mmの石英脈に沿って、砂～礫状を呈する。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
152,153	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-65,66頁)。	—	—
154	変更なし	変更なし	変更なし
155	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—
156	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・変質の程度については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。	—	—
157	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-67頁)。	—	—
158	変更なし	変更なし	変更なし
159,160	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-68,69頁)。	—	—
161	・シームという用語については削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-70頁)。 ・砂～礫状部の傾斜や幅や粒径については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

余白

H20-①-2

余白

委託報告書
(平成20年)

標	深	柱	岩	硬	割	変	記	コア探査車 一(コア)番 最大コア長 一 R Q D L 〔m〕
尺	高	度	状	種	目	形	事	
(m)	(m)	(m)	図	固	軟	化	質	
66.00	0.00		断面図				1	0.00~0.01m 硬質砂岩(10%) 主体は砂質粘土層を占む。
66.00	0.30						2	0.01~0.02m 硬質砂岩(10%) 主体は砂質粘土層を占む。
							3	0.02~0.03m 硬質砂岩(10%) 主体は砂質粘土層を占む。
							4	0.03~0.04m 硬質砂岩(10%) 主体は砂質粘土層を占む。
62.96	3.95		シト				5	0.04~0.05m 硬質砂岩(10%) 主体は砂質粘土層を占む。
62.56	4.42		シト				6	0.05~0.06m 硬質砂岩(10%) 主体は砂質粘土層を占む。
62.13	4.98		シト				7	0.06~0.07m 硬質砂岩(10%) 主体は砂質粘土層を占む。
61.62	5.50		シト				8	0.07~0.08m 硬質砂岩(10%) 主体は砂質粘土層を占む。
							9	0.08~0.09m 硬質砂岩(10%) 主体は砂質粘土層を占む。
59.87	7.70		シト				10	0.09~0.10m 硬質砂岩(10%) 主体は砂質粘土層を占む。
59.21	8.36		シト				11	0.10~0.11m 硬質砂岩(10%) 主体は砂質粘土層を占む。
59.09	8.73		シト				12	0.11~0.12m 硬質砂岩(10%) 主体は砂質粘土層を占む。
58.56	9.37		シト				13	0.12~0.13m 硬質砂岩(10%) 主体は砂質粘土層を占む。
58.21	9.70		シト				14	0.13~0.14m 硬質砂岩(10%) 主体は砂質粘土層を占む。
57.89	10.26		シト				15	0.14~0.15m 硬質砂岩(10%) 主体は砂質粘土層を占む。
57.48	10.70		シト				16	0.15~0.16m 硬質砂岩(10%) 主体は砂質粘土層を占む。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

審查資料案

記 事

1. 0.00~0.08m
・有機質土である。
2. 0.00~0.36m
・有機質泥状土で砂である。
・全土に腐敗根をまき。
3. 0.36~3.93m
・シルト混じり砂である。
・上部に黄褐色を呈する。
・所に花崗斑岩やアブライトの岩片を含む。
4. 3.93~5.59m
・花崗斑岩である。
5. 4.42~4.96m
・アブライトである。
6. 4.96~5.59m
・油風土部である。
・シルト質砂状土を厚さマザからなる。
7. 5.59~7.75m
・アブライトである。
・風化・変質し層状構造が不明瞭である。
8. 5.59~34.91m
・風化・変質により軟弱で、ハンマーで著しい音を発する。
9. 7.75~10.70m
・アブライトと花崗斑岩が互層状に分布する。
10. 37.9~58m
・マザガハ川溜集し、暗灰色を呈する。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事

- 1 0.00~0.08m
・有磷質土である。
- 2 0.00~0.35m
・有煤質混じり砂である。
・全体に植物根を含む。
- 3 0.36~3.93m
・シルト混じり砂である。
・ふいば層→黄褐色を呈する。
・所々に花崗斑岩やアブライトの岩片を含む。
- 4 3.93~5.59m
・花崗斑岩である。
- 5 4.42~4.96m
・アブライトである。
- 6 4.96~5.59m
・堆積化部である。
・シルト砂状を呈すマサナかなる。
- 7 5.59~7.75m
・アブライトである。
・風化、変質し原岩組織が不明瞭である。
- 8 5.59~34.91m
・風化し、変質により軟微で、ハンマーで著しい変質を呈する。
- 9 7.75~10.70m
・花崗斑岩と花崗斑岩が互層状に分布す。
- 9 9.37~9.58m
・マンガカが堆積し、暗灰色を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事

1. 0.00~0.06m
・有機質土である。
2. 0.00~0.36m
・有機質混じり砂である。
・全体に植物根を含む。
3. 0.36~3.93m
・シルト混じり砂である。
・所々に黄褐色を呈する。
・ふたけ・花崗岩屑やアラサイトの岩片を含む。
4. 3.93~5.59m
・花崗岩屑である。
5. 4.42~4.96m
・アラサイトである。
6. 4.96~5.53m
・強風化部である。
・シルト質砂状を呈すマサカなる。
7. 5.59~7.75m
・アラサイトである。
・風化、変質し層岩組織が不明瞭である。
8. 5.59~34.91m
・風化、変質により軟質で、
・浸食による稜角。
・7.75~10.70m
・アラサイトと花崗岩屑が互層状に分布する。
9. 37.7~39.58m
・マンガンが濃集し、暗灰色を呈する。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
1	・表現の見直し(植物根混じり腐植土→有機質土)。	変更なし	変更なし
2	・表現の見直し(腐植混じり砂→有機質混じり砂)。 (誤記)上端深度について、0.08mと書くべきところを誤って0.00mと記載。	変更なし	変更なし
3	変更なし	変更なし	変更なし
4	・柱状図に合わせて花崗斑岩とその深度区間を記載。 (誤記)下端深度について、4.42mと書くべきところを誤って5.59mと記載。	変更なし	変更なし
5	・“ブロック化した岩盤”との記載については、風化を伴う岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
6	・当該区間は、風化した岩盤に挟まれることから、風化によりシルト混じり砂状を呈するものと判断し、“強風化部である”と記載。 ・原岩は花崗岩的であることから、“マサ土からなる”と記載。	変更なし	変更なし
7	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし
8	変更なし	変更なし	変更なし
9	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
10	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)

標	標	深	柱	色	硬	調	風	記
尺	高	度	状	種	コ	ア	目	
(m)	(m)	(m)	分	区	軟	状	化	事
			花崗斑岩	花崗斑岩				11 10.70～12.11m 花崗斑岩。長径 径3mm 径3～12mm程度の石英。長径 径3mm 以下の黒雲母の残骸を10～15結晶 含む。全体に風化、変質し原岩組織 が不明瞭である。
55.40	13.27		赤橙	赤橙				12 12.70～13.61m 花崗斑岩。長径 径3mm 径3～12mm程度の石英。長径 径3mm 以下の黒雲母の残骸を10～15結晶 含む。全体に風化、変質し原岩組織 が不明瞭である。
55.13	13.61		赤橙	赤橙				13 13.61～14.81m 花崗斑岩。長径 径3mm 径3～12mm程度の石英。長径 径3mm 以下の黒雲母の残骸を10～15結晶 含む。全体に風化、変質し原岩組織 が不明瞭である。
51.46	18.15		赤橙	赤橙				14 14.81～15.54m 花崗斑岩。長径 径3mm 径3～12mm程度の石英。長径 径3mm 以下の黒雲母の残骸を10～15結晶 含む。全体に風化、変質し原岩組織 が不明瞭である。
51.14	18.54		赤橙	赤橙				15 18.15～18.54m 花崗斑岩。長径 径3mm 径3～12mm程度の石英。長径 径3mm 以下の黒雲母の残骸を10～15結晶 含む。全体に風化、変質し原岩組織 が不明瞭である。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記	事
---	---

審査資料
(平成29年12月22日)

記	事
---	---

審査資料案

記	事
11	10.70～12.11m ・花崗斑岩である。 ・全体に風化、変質し原岩組織が不明瞭である。
12	●11.73～11.91m ・破砕部である。 ・主に灰白色の固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅7.0cm ・上端境界の傾斜は67°、下端境界の傾斜は25°である。
13	13.27～13.61m ・アブライトである。
14	13.52～14.81m ・赤橙色化する。
15	18.15～18.54m ・アブライトである。

審査資料
(平成30年11月30日)

記	事
11	10.70～12.11m ・花崗斑岩である。 ・全体に風化、変質し原岩組織が不明瞭である。
12	●11.73～11.91m ・破砕部である。 ・主に灰白色の固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅7.0cm ・上端境界の傾斜は67°、下端境界の傾斜は25°である。
13	13.27～13.61m ・アブライトである。
14	13.52～14.81m ・赤橙色化する。
15	18.15～18.54m ・アブライトである。

審査資料
(令和2年2月7日)

記	事
11	10.70～12.11m ・花崗斑岩である。 ・全体に風化、変質し原岩組織が不明瞭である。
12	●11.73～11.91m ・破砕部である。 ・主に灰白色の固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅7.0cm ・上端境界の傾斜は67°、下端境界の傾斜は25°である。
13	13.27～13.61m ・アブライトである。
14	13.52～14.81m ・赤橙色化する。
15	18.15～18.54m ・アブライトである。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
11	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし
12	・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩（断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト）を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破碎幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・“縞状構造がみられる”との記載については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
13	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし
14	変更なし	変更なし	変更なし
15	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)

標 尺	標 高 度	柱 状	岩 種	色 調	硬 度	割 れ 目 の 状 態	風 化 状 況	記 事	コア採取事 → (ㄱ) 最大コア長 → cm R Q D ㄱ [ㄱ]
(m)	(m)	(m)	固	分	調	軟	化	事	
20			花崗斑岩	黄褐色					
47.81	22.06			に い 橙				16	22.63～22.66m(フ-①-2-2破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・灰白色の未固結礫状部及び暗褐色の未固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結礫状部；累計幅1.0cm ・暗褐色の未固結粘土状部；累計幅2.0cm ・走向・傾斜はN62° E33° Nである。 ・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は56°である。
47.83	22.46							17	22.66～22.83m(フ-①-2-2破砕帯) ・アブライトである。 ・アブライトである。 ・変質している。 ・灰白色粘土からなる。 ・膨縮が著しい。 ・上端境界の傾斜は77°、下端境界の傾斜は62°である。
47.29	23.30							18	22.91～23.08m ・変質している。 ・灰白色粘土からなる。 ・膨縮が著しい。 ・上端境界の傾斜は77°、下端境界の傾斜は62°である。
48.81	23.89		花崗斑岩	灰白				19	24.74～24.80m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
			花崗斑	灰白				20	25.64～25.73m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。

設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事	
	<p>●22.63～22.66m(フ-①-2-2破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・灰白色の未固結礫状部及び暗褐色の未固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結礫状部：累計幅1.0cm ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅2.0cm ・走向・傾斜はN62° E33° Nである。 ・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は56°である。</p>
16	22.66～22.83m、23.30～23.89m ・アブライトである。 ・アブライトである。 ・変質している。 ・灰白色粘土からなる。 ・膨縮が著しい。 ・上端境界の傾斜は77°、下端境界の傾斜は62°である。
17	22.91～23.08m ・変質している。 ・灰白色粘土からなる。 ・膨縮が著しい。 ・上端境界の傾斜は77°、下端境界の傾斜は62°である。
18	24.74～24.80m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
19	25.64～25.73m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
20	

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事	
	<p>●22.63～22.66m (f-①-2-2破砕帯)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・灰白色の未固結礫状部及び暗褐色の未固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結礫状部：累計幅1.0cm ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅2.0cm ・走向・傾斜はN62° E33° Nである。 ・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は56°である。
16	
17	<p>22.66～22.83m、23.30～23.89m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アブライトである。
18	<p>22.91～23.08m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変質している。 ・灰白色粘土からなる。 ・膨縮が著しい。 ・上端境界の傾斜は77°、下端境界の傾斜は62°である。
19	<p>24.74～24.80m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
20	<p>25.64～25.73m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記事

- 22.63～22.66m (フ-①-2-2破砕帯)
 - ・破砕部である。
 - ・右ずれ正断層センスである。
 - ・灰白色の未固結礫状部及び暗褐色の未固結粘土状部からなる。
 - ・灰白色の未固結礫状部：累計幅1.0cm
 - ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅2.0cm
 - ・走向・傾斜はN62° E33° Nである。
 - ・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は56°である。
- 22.66～22.83m、23.30～23.89m
 - ・アブライトである。
- 22.91～23.08m
 - ・変質している。
 - ・灰白色粘土からなる。
 - ・膨縮が著しい。
 - ・上端境界の傾斜は77°、下端境界の傾斜は62°である。
- 24.74～24.80m
 - ・変質している。
- 25.64～25.73m
 - ・変質している。
 - ・灰白色粘土が網目状に分布する。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
16	・破砕帯名を記載。 ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。その後、審査会合(H29.12.22)から審査会合(H30.11.30)までの間に薄片観察による断層岩区分を行ったが、肉眼観察による判断結果から変更は無い。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結礫状部とした箇所の累計幅を記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。	変更なし	変更なし
17	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし
18	・幅については、区間長を記載していることから削除。	変更なし	変更なし
19	・幅については、区間長を記載していることから削除。 ・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
20	・幅については、区間長を記載していることから削除。 ・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)

[illegible]設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

審查資料案

記 事	
	26. 80～26. 90m
21	・ 割れ目沿いにマンガンが網目状に分布す。
	27. 31～27. 39m
22	・ 変質している。 ・ 灰白色粘土が網目状に分布する。
23	27. 32～27. 62m
	・ アプライトである。
	27. 37～28. 21m
	・ 変質している。 ・ 灰白色粘土が網目状に分布する。
25	30. 21～30. 36m
	・ アプライトである。
	30. 66～30. 11m
a	・ 花崗斑岩である。
	32. 11～34. 91m
26	・ アプライトである。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事	
	26. 80~26. 90m
21	・ 割れ目沿いにマンガンが網目状に分布す
22	27. 31~27. 35m
	・ 変質している
23	・ 灰白色粘土が網目状に分布する。
24	27. 32~27. 62m
	・ アブラムシである。
27	27. 97~28. 21m
	・ 変質している
	・ 灰白色粘土が網目状に分布する。
28	30. 21~30. 66m
	・ アブラムシである。
29	30. 66~30. 11m
a	・ 花崗岩である。
30	31. 17~34. 91m
36	・ アブラムシである。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事	
21	26. 80~26. 90cm ・割れ目沿いにマンガンが綱目状に分布す
22	27. 31~27. 39m ・変質している。 ・灰白色粘土が綱目状に分布する。
23	27. 32~27. 62m ・アブライトである。
24	27. 91~28. 21m ・変質している。 ・灰白色粘土が綱目状に分布する。
25	30. 21~30. 66m ・アブライトである。
a	30. 66~30. 11m ・花崗閃岩である。
26	32. 11~34. 91m ・アブライトである。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
21	変更なし	変更なし	変更なし
22	・幅については、区間長を記載していることから削除。 ・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
23	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし
24	・幅については、区間長を記載していることから削除。 ・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
25	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし
a	・柱状図に合わせて花崗斑岩とその深度区間を記載。 (誤記)32.11mと書くべきところを誤って30.11mと記載。	変更なし	変更なし
26	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし

H20-①-2

委託報告書
(平成20年)

標	標	深	柱	岩	色	硬	割	風	記	コア採取率 一 (%)
尺	高	度	状	種	区	ア	れ	変		最大コア長
						バ	目			cm
						形	の			R Q D
						状	状			┐ [%]
						調	化	質	事	
(m)	(m)	(m)	分	調	分	灰	比			
			ブ			白	27.6			
			ラ							
			イ							
			ト							
			ク							
			ケ							
			コ							
			サ							
			シ							
			ス							
			セ							
			ソ							
			タ							
			チ							
			リ							
			ル							
			レ							
			ヘ							
			ニ							
			ノ							
			ハ							
			ヒ							
			フ							
			ベ							
			カ							
			キ							
			ク							
			ケ							
			コ							
			サ							
			シ							
			ス							
			セ							
			ソ							
			タ							
			チ							
			リ							
			ル							
			レ							
			ヘ							
			ニ							
			ノ							
			ハ							
			ヒ							
			フ							
			ベ							
			カ							
			キ							
			ク							
			ケ							
			コ							
			サ							
			シ							
			ス							
			セ							
			ソ							
			タ							
			チ							
			リ							
			ル							
			レ							
			ヘ							
			ニ							
			ノ							
			ハ							
			ヒ							
			フ							
			ベ							
			カ							
			キ							
			ク							
			ケ							
			コ							
			サ							
			シ							
			ス							
			セ							
			ソ							
			タ							
			チ							
			リ							
			ル							
			レ							
			ヘ							
			ニ							
			ノ							
			ハ							
			ヒ							
			フ							
			ベ							
			カ							
			キ							
			ク							
			ケ							
			コ							
			サ							
			シ							
			ス							
			セ							
			ソ							
			タ							
			チ							
			リ							
			ル							
			レ							
			ヘ							
			ニ							
			ノ							
			ハ							
			ヒ							
			フ							
			ベ							
			カ							
			キ							
			ク							
			ケ							
			コ							
			サ							
			シ							
			ス							
			セ							
			ソ							
			タ							
			チ							
			リ							
			ル							
			レ							
			ヘ							
			ニ							
			ノ							
			ハ							
			ヒ							
			フ							
			ベ							
			カ							
			キ							
			ク							
			ケ							
			コ							
			サ							
			シ							
			ス							
			セ							
			ソ							
			タ							
			チ							
			リ							
			ル							
			レ							
			ヘ							
			ニ							
			ノ							
			ハ							
			ヒ							
			フ							
			ベ							
			カ							
			キ							
			ク							
			ケ							
			コ							
			サ							
			シ							
			ス							
			セ							
			ソ							
			タ							
			チ							
			リ							
			ル							
			レ							
			ヘ							
			ニ							
			ノ							
			ハ							
			ヒ							
			フ							
			ベ							
			カ							
			キ							
			ク							
			ケ							
			コ							
			サ							
			シ							
			ス							
			セ							
			ソ							
			タ							
			チ							
			リ							
			ル							
			レ							
			ヘ							
			ニ							
			ノ							
			ハ							
			ヒ							
			フ							
			ベ							
			カ							
			キ							
			ク							
			ケ							
			コ							
			サ							
			シ							
			ス							
			セ							
			ソ							
			タ							
			チ							
			リ							
			ル							
			レ							
			ヘ							
			ニ							
			ノ							
			ハ							
			ヒ							
			フ							
			ベ							
			カ							
			キ							
			ク							
			ケ							
			コ							
			サ							
			シ							

設置許可申請書
(平成27年11月)

事 記

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

審查資料案

記 事

- 32. 90~34. 91m (D-6砕砂帯)
- ・ 破砂部である。
- ・ 主に灰白色の圓結核状及び圓結粒状からなる。
- ・ 灰白色の未圓結粒状部：累計厚2. 0cm
- ・ 走向・傾斜はN18° W73° である。
- ・ 上・下境界の傾斜は66°、下・下境界の傾斜は63°である。
- 34. 91~115. 00m
- ・ 花崗岩である。
- ・ 全体に斑晶が小さい。
- 34. 91~45. 65m
- ・ やや軟質で、ハンマーで潰音を発すること。
- 35. 00~35. 20m
- ・ 割れ目沿いにマンガンが網目状に分布す。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事

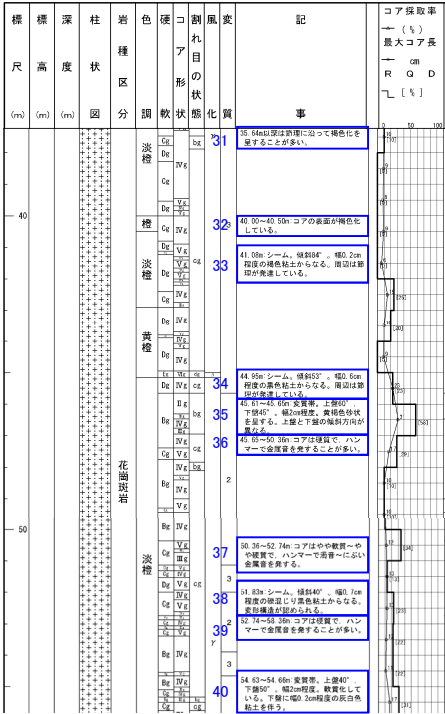
- 32. 90 ~ 34. 91m (D-6破砕帯)
- ・破砕帯である。
- ・主に灰色の面結粒輝状部及び面結粒土状部からなる。
- ・灰色の未面結粒土状部：累計計2.0cm
- ・走向・傾斜はN18° W73° Wである。
- ・上境界面の傾斜は66°、下境界面の傾斜は63°である。
- 34. 91 ~ 115. 00m
- ・下地層である。
- ・全体に風化が小さい。
- 34. 91 ~ 45. 65m
- ・やや軟微で、ハンマーで濁音を発することが多い。
- 35. 00 ~ 35. 20m
- ・割れ目沿いにマンガンが網目状に分布す

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 32.90～34.91m (0-6破砕帯) ・ 破砕部である。 ・ 主に灰白色の固結礫状部及び固結粘土状からなる。 ・ 灰白色の未固結粘土状部：累計幅2.0cm ・ 走向、傾斜はN18° W73° Wである。 ・ 上壊境面の傾斜は66°、下壊境面の傾斜は63°である。
27	34.91～15.00m
28	<ul style="list-style-type: none"> ・ 花崗閃岩である。 ・ 全体に斑晶が小さい。
29	34.91～45.65m
	<ul style="list-style-type: none"> ・ やや軟微で、ハンマーで濁音を発することが多い。
30	35.00～35.20m
	・ 割れ目沿いにマンガンが網目状に分布す

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
27	<ul style="list-style-type: none"> ・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩（断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト）を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所累計幅を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・“一部に原岩組織が残る”との記載については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 	変更なし	変更なし
28	<ul style="list-style-type: none"> ・柱状図に合わせて花崗斑岩とその深度区間を記載。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 	変更なし	変更なし
29	変更なし	変更なし	変更なし
30	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
31 35.64m以深 ・割れ目沿いに褐色化することが多い。
32 40.00～40.50m ・コアの表面が褐色化している。
33 41.08m ・幅0.2cmの褐色粘土である。
34 44.95m ・幅0.6cmの黒色粘土である。
45.61～45.65m ・変質している。
35 46.61～46.65m ・黄褐色の砂状を呈する。 ・上端境界の傾斜は50°、下端境界の傾斜は45°である。
36 45.65～50.36m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。
37 50.36～52.74m ・やや軟質～やや硬質で、ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
38 51.83m ・幅0.7cmの硬混じり黒色粘土である。
39 52.74～58.36m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。
40 54.63～54.66m ・変質している。 ・軟質化している。 ・下端に幅約2cmの灰白色粘土を伴う。

審査資料
(平成30年11月30日)

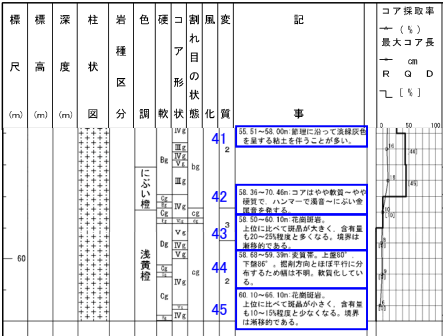
記 事
31 35.64m以深 ・割れ目沿いに褐色化することが多い。
32 40.00～40.50m ・コアの表面が褐色化している。
33 41.08m ・幅0.2cmの褐色粘土である。
34 44.95m ・幅0.6cmの黒色粘土である。
45.61～45.65m ・変質している。
35 46.61～46.65m ・黄褐色の砂状を呈する。 ・上端境界の傾斜は50°、下端境界の傾斜は45°である。
36 45.65～50.36m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。
37 50.36～52.74m ・やや軟質～やや硬質で、ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
38 51.83m ・幅0.7cmの硬混じり黒色粘土である。
39 52.74～58.36m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。
40 54.63～54.66m ・変質している。 ・軟質化している。 ・下端に幅約2cmの灰白色粘土を伴う。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
31 35.64m以深 ・割れ目沿いに褐色化することが多い。
32 40.00～40.50m ・コアの表面が褐色化している。
33 41.08m ・幅0.2cmの褐色粘土である。
34 44.95m ・幅0.6cmの黒色粘土である。
45.61～45.65m ・変質している。
35 46.61～46.65m ・黄褐色の砂状を呈する。 ・上端境界の傾斜は50°、下端境界の傾斜は45°である。
36 45.65～50.36m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。
37 50.36～52.74m ・やや軟質～やや硬質で、ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
38 51.83m ・幅0.7cmの硬混じり黒色粘土である。
39 52.74～58.36m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。
40 54.63～54.66m ・変質している。 ・軟質化している。 ・下端に幅約2cmの灰白色粘土を伴う。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
31	変更なし	変更なし	変更なし
32	変更なし	変更なし	変更なし
33	・シームという用語については削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-166頁)。 ・シームの傾斜や当該区間の周囲における割れ目の傾向については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
34	・シームという用語については削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-167頁)。 ・シームの傾斜や当該区間の周囲における割れ目の傾向については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
35	・幅については、区間長を記載していることから削除。 ・“上盤と下盤の傾斜方向が異なる”との記載については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
36	変更なし	変更なし	変更なし
37	変更なし	変更なし	変更なし
38	・シームという用語については削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-168頁)。 ・シームの傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・“変形構造が認められる”との記載については、変形構造が不明瞭であるため削除。	変更なし	変更なし
39	変更なし	変更なし	変更なし
40	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・幅については、区間長を記載していることから削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

審査資料案

記事
55. 51～58. 00m ・割れ目沿いに淡緑灰色の粘土を伴うことが多い。
41
58. 36～70. 46m ・やや軟質～やや硬質で、ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
42
58. 68～59. 39m ・変質している。 ・軟質化している。
44

審査資料
(平成30年11月30日)

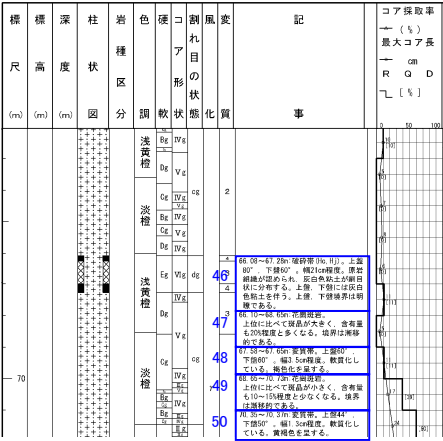
記事
55. 51～58. 00m ・割れ目沿いに淡緑灰色の粘土を伴うことが多い。
41
58. 36～70. 46m ・やや軟質～やや硬質で、ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
42
58. 68～59. 39m ・変質している。 ・軟質化している。
44

審査資料
(令和2年2月7日)

記事
55. 51～58. 00m ・割れ目沿いに淡緑灰色の粘土を伴うことが多い。
41
58. 36～70. 46m ・やや軟質～やや硬質で、ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
42
58. 68～59. 39m ・変質している。 ・軟質化している。
44

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
41	変更なし	変更なし	変更なし
42	変更なし	変更なし	変更なし
43	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	—	—
44	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
45	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	—	—

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
●66.08～67.28m(f-①-2-4破砕帯) ・破砕部である。 ・浅黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN44°E80°Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は30°、下端境界の傾斜は60°である。 67.58～67.65m ・変質している。 ・褐色を呈し軟質化している。 70.35～70.37m ・変質している。 ・黄褐色を呈し、軟質化している。

審査資料
(平成30年11月30日)

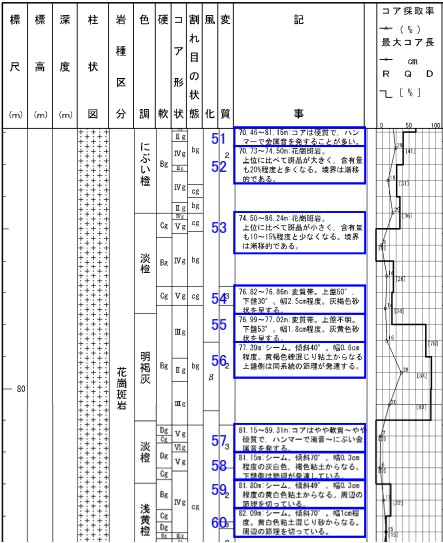
記 事
●66.08～67.28m(f-①-2-4破砕帯) ・破砕部である。 ・浅黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN44°E80°Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は30°、下端境界の傾斜は60°である。 67.58～67.65m ・変質している。 ・褐色を呈し軟質化している。 70.35～70.37m ・変質している。 ・黄褐色を呈し、軟質化している。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
●66.08～67.28m(f-①-2-4破砕帯) ・破砕部である。 ・浅黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN44°E80°Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は30°、下端境界の傾斜は60°である。 67.58～67.65m ・変質している。 ・褐色を呈し軟質化している。 70.35～70.37m ・変質している。 ・黄褐色を呈し、軟質化している。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
46	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・カタクレーサイト中に挟在するフィルム状の細粒物質のうち、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟在するもの(断層ガウジ)として扱い、フィルム状の粘土を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・“原岩組織が認められ”との記載については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・“灰白色粘土が網目状に分布する”との記載については、粘土の連続性や直線性に乏しく、固結礫状部に含めているため削除。 ・“上盤、下盤には灰白色粘土を伴う”との記載については、上記再観察により、連続性に乏しい上盤側の粘土を固結礫状部に含めたこと、及び下盤側の粘土をフィルム状の粘土と認定したことから削除。 ・“上盤、下盤境界は明瞭である”との記載については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
47	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	—	—
48	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・幅については、区間長を記載していることから削除。	変更なし	変更なし
49	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	—	—
50	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・幅については、区間長を記載していることから削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
51 70.46～81.15m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。
54 76.82～76.86m ・変質している。 ・灰褐色の砂状を呈する。
55 76.99～77.02m ・変質している。 ・灰黄色の砂状を呈する。
56 77.39m ・幅0.6cmの黄褐色礫混じり粘土からなる。
57 81.15～89.31m ・やや軟質～やや硬質で、ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
58 81.15m ・幅0.3cmの灰白色、褐色粘土を挟む。
59 81.80m ・幅0.3cmの黄白色粘土を挟む。
60 82.09m ・幅1cmの黄白色粘土混じり砂を挟む。

審査資料
(平成30年11月30日)

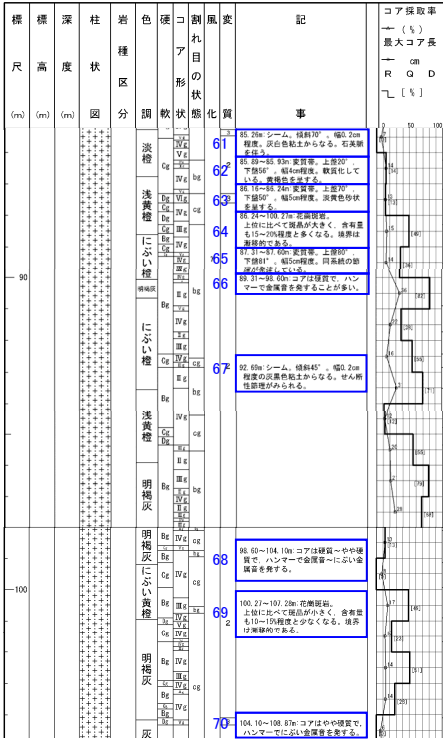
記 事
51 70.46～81.15m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。
54 76.82～76.86m ・変質している。 ・灰褐色の砂状を呈する。
55 76.99～77.02m ・変質している。 ・灰黄色の砂状を呈する。
56 77.39m ・幅0.6cmの黄褐色礫混じり粘土からなる。
57 81.15～89.31m ・やや軟質～やや硬質で、ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
58 81.15m ・幅0.3cmの灰白色、褐色粘土を挟む。
59 81.80m ・幅0.3cmの黄白色粘土を挟む。
60 82.09m ・幅1cmの黄白色粘土混じり砂を挟む。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
51 70.46～81.15m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。
54 76.82～76.86m ・変質している。 ・灰褐色の砂状を呈する。
55 76.99～77.02m ・変質している。 ・灰黄色の砂状を呈する。
56 77.39m ・幅0.6cmの黄褐色礫混じり粘土からなる。
57 81.15～89.31m ・やや軟質～やや硬質で、ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
58 81.15m ・幅0.3cmの灰白色、褐色粘土を挟む。
59 81.80m ・幅0.3cmの黄白色粘土を挟む。
60 82.09m ・幅1cmの黄白色粘土混じり砂を挟む。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
51	変更なし	変更なし	変更なし
52,53	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	—	—
54	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・幅については、区間長を記載していることから削除。	変更なし	変更なし
55	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・幅については、区間長を記載していることから削除。	変更なし	変更なし
56	・シームという用語については削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-169頁)。 ・シームの傾斜や当該区間の周囲における割れ目の傾向については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
57	変更なし	変更なし	変更なし
58	・シームという用語については削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-170頁)。 ・シームの傾斜や当該区間の周囲における割れ目の傾向については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
59	・シームという用語については削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-171頁)。 ・シームの傾斜や当該区間の周囲における割れ目の傾向については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
60	・シームという用語については削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-172頁)。 ・シームの傾斜や当該区間の周囲における割れ目の傾向については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
61 85.26m ・幅0.2cmの灰白色粘土を挟み、石英脈を伴う。
62 85.89～85.93m ・変質している。 ・黄褐色を呈し軟質化している。
63 86.16～86.24m ・変質している。 ・変質色の砂状を呈する。
65 87.31～87.60m ・変質している。 ・同系統の割れ目が発達している。
66 89.31～98.60m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。
67 92.69m ・幅0.2cmの灰黒色粘土からなる。
68 98.60～104.10m ・硬質～やや硬質で、ハンマーで金属音～にぶい金属音を発する。
70 104.10～108.87m ・やや硬質で、ハンマーでにぶい金属音を発する。

審査資料
(平成30年11月30日)

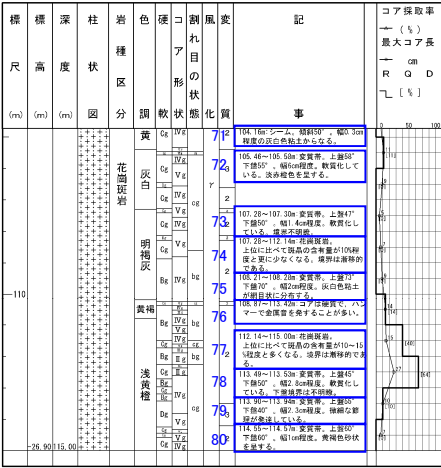
記 事
61 85.26m ・幅0.2cmの灰白色粘土を挟み、石英脈を伴う。
62 85.89～85.93m ・変質している。 ・黄褐色を呈し軟質化している。
63 86.16～86.24m ・変質している。 ・変質色の砂状を呈する。
65 87.31～87.60m ・変質している。 ・同系統の割れ目が発達している。
66 89.31～98.60m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。
67 92.69m ・幅0.2cmの灰黒色粘土からなる。
68 98.60～104.10m ・硬質～やや硬質で、ハンマーで金属音～にぶい金属音を発する。
70 104.10～108.87m ・やや硬質で、ハンマーでにぶい金属音を発する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
61 85.26m ・幅0.2cmの灰白色粘土を挟み、石英脈を伴う。
62 85.89～85.93m ・変質している。 ・黄褐色を呈し軟質化している。
63 86.16～86.24m ・変質している。 ・変質色の砂状を呈する。
65 87.31～87.60m ・変質している。 ・同系統の割れ目が発達している。
66 89.31～98.60m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。
67 92.69m ・幅0.2cmの灰黒色粘土からなる。
68 98.60～104.10m ・硬質～やや硬質で、ハンマーで金属音～にぶい金属音を発する。
70 104.10～108.87m ・やや硬質で、ハンマーでにぶい金属音を発する。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
61	・シームという用語については削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-173頁)。 ・シームの傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
62	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・幅については、区間長を記載していることから削除。	変更なし	変更なし
63	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・幅については、区間長を記載していることから削除。	変更なし	変更なし
64	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	—	—
65	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
66	変更なし	変更なし	変更なし
67	・シームという用語については削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-174頁)。 ・シームの傾斜や当該区間の周囲における割れ目の傾向については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
68	変更なし	変更なし	変更なし
69	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	—	—
70	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
71 104.16m ・幅0.3mの灰白色粘土からなる。
72 105.46～105.58m ・変質している。 ・淡赤褐色を呈し軟質化している。
73 107.28～107.30m ・変質している。 ・軟質化している。
75 108.21～108.28m ・変質している。 ・灰白色の粘土が網目状に分布する。
76 108.87～113.42m ・コアは硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。
78 113.49～113.53m ・変質している。 ・軟質化している。
79 113.90～113.94m ・変質している。 ・微細な割れ目が発達している。
80 114.55～114.57m ・変質している。 ・黄褐色の砂状を呈する。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事
71 104.16m ・幅0.3mの灰白色粘土からなる。
72 105.46～105.58m ・変質している。 ・淡赤褐色を呈し軟質化している。
73 107.28～107.30m ・変質している。 ・軟質化している。
75 108.21～108.28m ・変質している。 ・灰白色の粘土が網目状に分布する。
76 108.87～113.42m ・コアは硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。
78 113.49～113.53m ・変質している。 ・軟質化している。
79 113.90～113.94m ・変質している。 ・微細な割れ目が発達している。
80 114.55～114.57m ・変質している。 ・黄褐色の砂状を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
71 104.16m ・幅0.3mの灰白色粘土からなる。
72 105.46～105.58m ・変質している。 ・淡赤褐色を呈し軟質化している。
73 107.28～107.30m ・変質している。 ・軟質化している。
75 108.21～108.28m ・変質している。 ・灰白色の粘土が網目状に分布する。
76 108.87～113.42m ・コアは硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。
78 113.49～113.53m ・変質している。 ・軟質化している。
79 113.90～113.94m ・変質している。 ・微細な割れ目が発達している。
80 114.55～114.57m ・変質している。 ・黄褐色の砂状を呈する。

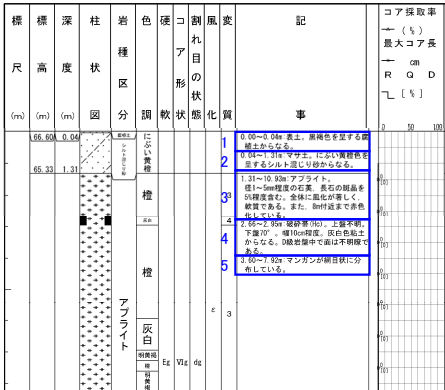
記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
71	・シームという用語については削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-175頁)。 ・シームの傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
72	・変質している区間の幅、境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
73	・変質している区間の幅、境界傾斜、境界の不明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
74	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	—	—
75	・変質している区間の幅、境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
76	変更なし	変更なし	変更なし
77	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	—	—
78	・変質している区間の幅、境界傾斜、境界の不明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
79	・変質している区間の幅、境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
80	・変質している区間の幅、境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

余白

H20-①-1

余白

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事

0.00～1.31m
・シルト混じり砂である。
0.00～0.04m
・黒褐色を呈する有機質土からなる。
1.31～10.93m
・アブライトである。
・風化が著しく軟質である。
●2.66～2.95m
・破砕部である。
・灰白色の固結粘土状部からなる。
・上端境界の傾斜は不明、下端境界の傾斜は54°である。
3.60～7.92m
・マンガンが網目状に分布する。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事

0.00～1.31m
・シルト混じり砂である。
0.00～0.04m
・黒褐色を呈する有機質土からなる。
1.31～10.93m
・アブライトである。
・風化が著しく軟質である。
●2.66～2.95m
・破砕部である。
・灰白色の固結粘土状部からなる。
・上端境界の傾斜は不明、下端境界の傾斜は54°である。
3.60～7.92m
・マンガンが網目状に分布する。

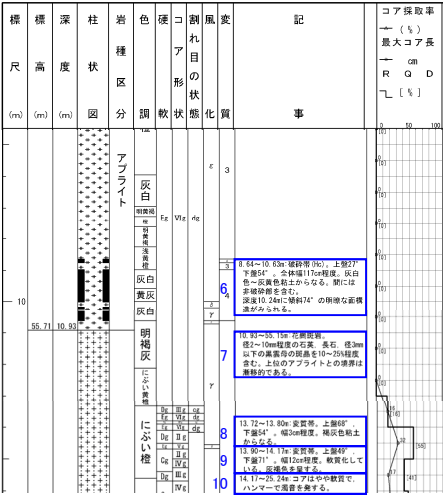
審査資料
(令和2年2月7日)

記 事

0.00～1.31m
・シルト混じり砂である。
0.00～0.04m
・黒褐色を呈する有機質土からなる。
1.31～10.93m
・アブライトである。
・風化が著しく軟質である。
●2.66～2.95m
・破砕部である。
・灰白色の固結粘土状部からなる。
・上端境界の傾斜は不明、下端境界の傾斜は54°である。
3.60～7.92m
・マンガンが網目状に分布する。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
1	・表現の見直し(腐植土→有機質土)。	変更なし	変更なし
2	・柱状図に対応した層相名を記載することとしているため、マサ土、色調については削除。 ・区間の上端深度については、表土部分を含め深度0.00mと記載。	変更なし	変更なし
3	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・色調については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
4	・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・上記再観察による下端境界の見かけの傾斜の見直しを反映。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・“面は不明瞭である”との記載については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
5	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
●8. 64～10. 63m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・主に灰黄色の固結礫状部からなる。 ・灰黄色の未固結粘土状部：累計幅2. 0cm ・上端境界の傾斜は27°、下端境界の傾斜は54°である。 10. 93～55. 15m ・花崗斑岩である。 13. 72～13. 80m ・変質している。 ・灰褐色粘土からなる。 13. 90～14. 17m ・変質している。 ・灰褐色を呈し、軟質化する。 14. 17～25. 24m ・やや軟質で、ハンマーで濁音を発する。

審査資料
(平成30年11月30日)

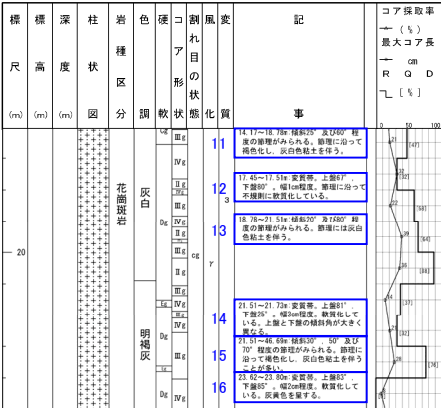
記 事
●8. 64～10. 63m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・主に灰黄色の固結礫状部からなる。 ・灰黄色の未固結粘土状部：累計幅2. 0cm ・上端境界の傾斜は27°、下端境界の傾斜は54°である。 10. 93～55. 15m ・花崗斑岩である。 13. 72～13. 80m ・変質している。 ・灰褐色粘土からなる。 13. 90～14. 17m ・変質している。 ・灰褐色を呈し、軟質化する。 14. 17～25. 24m ・やや軟質で、ハンマーで濁音を発する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
●8. 64～10. 63m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・主に灰黄色の固結礫状部からなる。 ・灰黄色の未固結粘土状部：累計幅2. 0cm ・上端境界の傾斜は27°、下端境界の傾斜は54°である。 10. 93～55. 15m ・花崗斑岩である。 13. 72～13. 80m ・変質している。 ・灰褐色粘土からなる。 13. 90～14. 17m ・変質している。 ・灰褐色を呈し、軟質化する。 14. 17～25. 24m ・やや軟質で、ハンマーで濁音を発する。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
6	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。	変更なし	変更なし
7	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
8	・幅については、区間長を記載していることから削除。 (誤記)褐灰と書くべきところを誤って灰褐と記載。	変更なし	変更なし
9	・幅については、区間長を記載していることから削除。 ・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
10	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
11 14.17~18.78m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。
12 17.45~21.51m ・変質している。 ・割れ目沿いに軟質化する。
13 18.78~21.51m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。
14 21.51~21.73m ・変質している。 ・軟質化する。
15 21.51~46.69m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴うことが多い。
16, a ●23.62~24.62m (D-19破砕帯) ・破砕部である。 ・明礬灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN25° E72° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は81°、下端境界の傾斜は25°である。

審査資料
(平成30年11月30日)

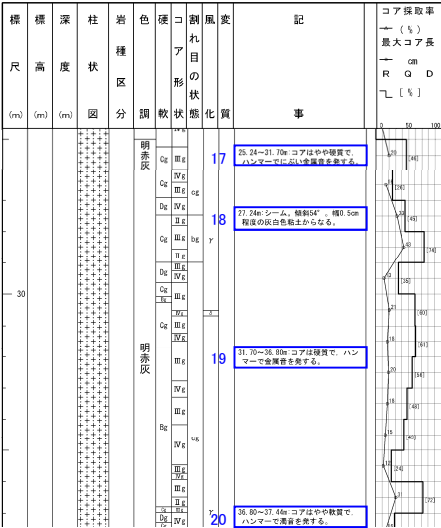
記 事
11 14.17~18.78m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。
12 17.45~21.51m ・変質している。 ・割れ目沿いに軟質化する。
13 18.78~21.51m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。
14 21.51~21.73m ・変質している。 ・軟質化する。
15 21.51~46.69m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴うことが多い。
16, a ●23.62~24.62m (D-19破砕帯) ・破砕部である。 ・明礬灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN25° E72° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は81°、下端境界の傾斜は25°である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
11 14.17~18.78m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。
12 17.45~21.51m ・変質している。 ・割れ目沿いに軟質化する。
13 18.78~21.51m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。
14 21.51~21.73m ・変質している。 ・軟質化する。
15 21.51~46.69m ・割れ目沿いに灰白色粘土を伴うことが多い。
16, a ●23.62~24.62m (D-19破砕帯) ・破砕部である。 ・明礬灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN25° E72° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は81°、下端境界の傾斜は25°である。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
11	・割れ目の傾斜及び割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
12	・幅については、区間長を記載していることから削除。 ・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
13	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
14	・幅については、区間長を記載していることから削除。 ・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
15	・割れ目の傾斜及び割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
16,a	・再観察により破砕部と認定。破砕部への見直しの詳細については別途説明(補足説明資料4 補足4-35頁)。 ・上記再観察による上端境界と下端境界の見かけの傾斜を記載。 ・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22) までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・カタクレーサイト中に挟在するフィルム状の細粒物質のうち、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟在するもの(断層ガウジ)として扱い、フィルム状の粘土を記載。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

審査資料案

記事

25.24~31.70m
・やや硬質で、ハンマーでにぶい金属音を発する。

27.24m
・幅0.5cmの灰白色粘土からなる。

31.70~36.80m
・硬質で、ハンマーで金属音を発する。

36.80~37.44m
・やや軟質で、ハンマーで濁音を発する。

審査資料
(平成30年11月30日)

記事

25.24~31.70m
・やや硬質で、ハンマーでにぶい金属音を発する。

27.24m
・幅0.5cmの灰白色粘土からなる。

31.70~36.80m
・硬質で、ハンマーで金属音を発する。

36.80~37.44m
・やや軟質で、ハンマーで濁音を発する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記事

25.24~31.70m
・やや硬質で、ハンマーでにぶい金属音を発する。

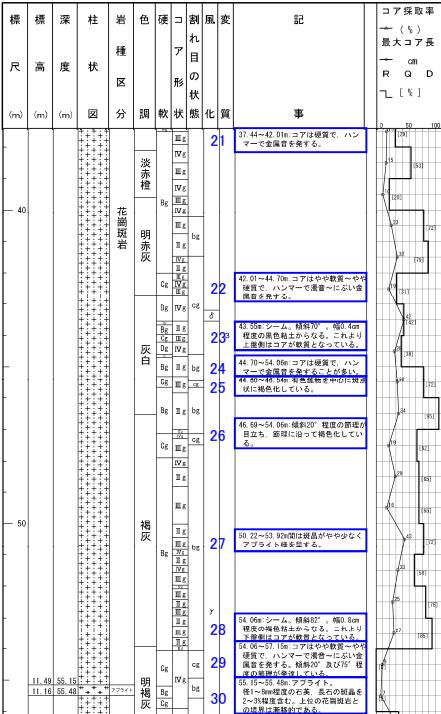
27.24m
・幅0.5cmの灰白色粘土からなる。

31.70~36.80m
・硬質で、ハンマーで金属音を発する。

36.80~37.44m
・やや軟質で、ハンマーで濁音を発する。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
17	変更なし	変更なし	変更なし
18	・シームという用語については削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-161頁)。 ・シームの傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
19	変更なし	変更なし	変更なし
20	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
21 37.44~42.01m ・硬質で、ハンマーで金属音を発する。
22 42.01~44.70m ・やや軟質～やや硬質で、ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
23 43.55m ・幅0.4cmの黒色粘土からなる。これより上端側はコアが軟質化する。
24 44.70~54.06m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。
25 44.80~46.54m ・有色鉱物を中心に斑点状に褐色化している。
26 46.69~54.06m ・割れ目沿いに褐色化している。
27 50.22~53.92m ・斑晶がやや少なく、アブライト様を呈する。
28 54.06m ・幅0.8cmの褐色粘土からなる。下端側は軟質である。
29 54.06~57.15m ・やや軟質～やや硬質で、ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
30 55.15~55.48m ・アブライトである。

審査資料
(平成30年11月30日)

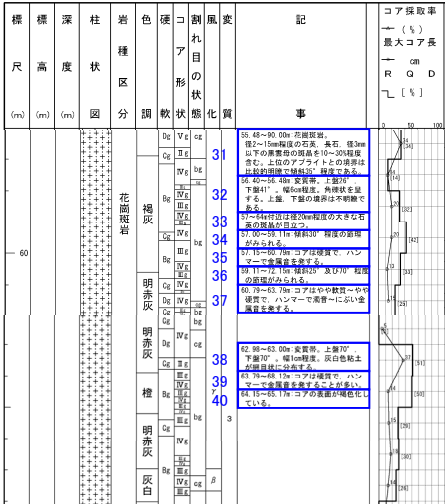
記 事
21 37.44~42.01m ・硬質で、ハンマーで金属音を発する。
22 42.01~44.70m ・やや軟質～やや硬質で、ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
23 43.55m ・幅0.4cmの黒色粘土からなる。これより上端側はコアが軟質化する。
24 44.70~54.06m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。
25 44.80~46.54m ・有色鉱物を中心に斑点状に褐色化している。
26 46.69~54.06m ・割れ目沿いに褐色化している。
27 50.22~53.92m ・斑晶がやや少なく、アブライト様を呈する。
28 54.06m ・幅0.8cmの褐色粘土からなる。下端側は軟質である。
29 54.06~57.15m ・やや軟質～やや硬質で、ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
30 55.15~55.48m ・アブライトである。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
21 37.44~42.01m ・硬質で、ハンマーで金属音を発する。
22 42.01~44.70m ・やや軟質～やや硬質で、ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
23 43.55m ・幅0.4cmの黒色粘土からなる。これより上端側はコアが軟質化する。
24 44.70~54.06m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。
25 44.80~46.54m ・有色鉱物を中心に斑点状に褐色化している。
26 46.69~54.06m ・割れ目沿いに褐色化している。
27 50.22~53.92m ・斑晶がやや少なく、アブライト様を呈する。
28 54.06m ・幅0.8cmの褐色粘土からなる。下端側は軟質である。
29 54.06~57.15m ・やや軟質～やや硬質で、ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
30 55.15~55.48m ・アブライトである。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
21	変更なし	変更なし	変更なし
22	変更なし	変更なし	変更なし
23	・シームという用語については削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-162頁)。 ・シームの傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
24	変更なし	変更なし	変更なし
25	変更なし	変更なし	変更なし
26	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
27	変更なし	変更なし	変更なし
28	・シームという用語については削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-163頁)。 ・シームの傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
29	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
30	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
31 55.48～90.00m ・花崗斑岩である。
32 56.40～56.48m ・変質している。 ・角礫状を呈し、幅6cmである。
33 57.00～64.00m付近 ・径20mm程度の大きな石英の斑晶が目立つ。
34 57.00～59.11m ・割れ目が分布する。
35 57.15～60.79m ・硬質で、ハンマーで金属音を発する。
36 59.11～72.15m ・割れ目が分布する。
37 60.79～63.79m ・やや軟質～やや硬質で、ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
38 62.98～63.00m ・変質している。 ・灰白色粘土が幅1cmの網目状に分布する。
39 63.79～68.12m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。
40 64.15～65.17m ・コアの表面が褐色化している。

審査資料
(平成30年11月30日)

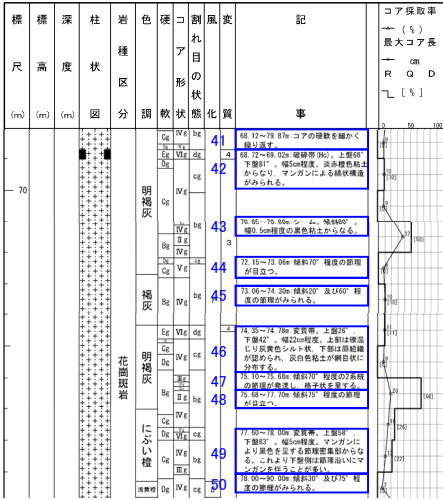
記 事
31 55.48～90.00m ・花崗斑岩である。
32 56.40～56.48m ・変質している。 ・角礫状を呈し、幅6cmである。
33 57.00～64.00m付近 ・径20mm程度の大きな石英の斑晶が目立つ。
34 57.00～59.11m ・割れ目が分布する。
35 57.15～60.79m ・硬質で、ハンマーで金属音を発する。
36 59.11～72.15m ・割れ目が分布する。
37 60.79～63.79m ・やや軟質～やや硬質で、ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
38 62.98～63.00m ・変質している。 ・灰白色粘土が幅1cmの網目状に分布する。
39 63.79～68.12m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。
40 64.15～65.17m ・コアの表面が褐色化している。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
31 55.48～90.00m ・花崗斑岩である。
32 56.40～56.48m ・変質している。 ・角礫状を呈し、幅6cmである。
33 57.00～64.00m付近 ・径20mm程度の大きな石英の斑晶が目立つ。
34 57.00～59.11m ・割れ目が分布する。
35 57.15～60.79m ・硬質で、ハンマーで金属音を発する。
36 59.11～72.15m ・割れ目が分布する。
37 60.79～63.79m ・やや軟質～やや硬質で、ハンマーで濁音～にぶい金属音を発する。
38 62.98～63.00m ・変質している。 ・灰白色粘土が幅1cmの網目状に分布する。
39 63.79～68.12m ・硬質で、ハンマーで金属音を発することが多い。
40 64.15～65.17m ・コアの表面が褐色化している。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
31	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
32	・幅については、区間長を記載していることから削除。 ・変質している区間の境界の明瞭さや境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
33	変更なし	変更なし	変更なし
34	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
35	変更なし	変更なし	変更なし
36	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
37	変更なし	変更なし	変更なし
38	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・変質している区間の境界の明瞭さや境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
39	変更なし	変更なし	変更なし
40	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
41 68.12~79.87m ・破砕を細かく繰り返し返す。 ●68.72~69.02m(F-1)-1-3破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に淡赤褐色の固結礫状部からなる。 42 淡赤褐色の未固結粘土状部：累計幅4.7cm ・走向・傾斜はN36° E66° Wである。 ・上端境界の傾斜は68°、下端境界の傾斜は81°である。 ・マンガンの縞状構造を伴う。 43 70.85~70.88m ・幅0.5cmの黒色粘土からなる。 44 72.15~73.06m ・割れ目が目立つ。 45 73.06~74.30m ・割れ目が分布する。 46 74.35~74.78m ・変質している。 ・上部は灰黄色の礫混じりシルト状、下部は灰白色粘土が縞目状に分布する。 47 75.10~75.68m ・2系統の割れ目が発達し、格子状を呈する。 48 75.68~77.70m ・割れ目が目立つ。 49 77.60~78.00m ・変質している。 ・マンガンを伴う割れ目密集部である。 50 78.00~90.00m ・割れ目が分布する。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事
41 68.12~79.87m ・破砕を細かく繰り返し返す。 ●68.72~69.02m(F-1)-1-3破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に淡赤褐色の固結礫状部からなる。 42 淡赤褐色の未固結粘土状部：累計幅4.7cm ・走向・傾斜はN36° E66° Wである。 ・上端境界の傾斜は68°、下端境界の傾斜は81°である。 ・マンガンの縞状構造を伴う。 43 70.85~70.88m ・幅0.5cmの黒色粘土からなる。 44 72.15~73.06m ・割れ目が目立つ。 45 73.06~74.30m ・割れ目が分布する。 46 74.35~74.78m ・変質している。 ・上部は灰黄色の礫混じりシルト状、下部は灰白色粘土が縞目状に分布する。 47 75.10~75.68m ・2系統の割れ目が発達し、格子状を呈する。 48 75.68~77.70m ・割れ目が目立つ。 49 77.60~78.00m ・変質している。 ・マンガンを伴う割れ目密集部である。 50 78.00~90.00m ・割れ目が分布する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
41 68.12~79.87m ・破砕を細かく繰り返し返す。 ●68.72~69.02m(F-1)-1-3破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に淡赤褐色の固結礫状部からなる。 42 淡赤褐色の未固結粘土状部：累計幅4.7cm ・走向・傾斜はN36° E66° Wである。 ・上端境界の傾斜は68°、下端境界の傾斜は81°である。 ・マンガンの縞状構造を伴う。 43 70.85~70.88m ・幅0.5cmの黒色粘土からなる。 44 72.15~73.06m ・割れ目が目立つ。 45 73.06~74.30m ・割れ目が分布する。 46 74.35~74.78m ・変質している。 ・上部は灰黄色の礫混じりシルト状、下部は灰白色粘土が縞目状に分布する。 47 75.10~75.68m ・2系統の割れ目が発達し、格子状を呈する。 48 75.68~77.70m ・割れ目が目立つ。 49 77.60~78.00m ・変質している。 ・マンガンを伴う割れ目密集部である。 50 78.00~90.00m ・割れ目が分布する。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
41	変更なし	変更なし	変更なし
42	・破砕帯名を記載。 ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22) までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。その後、審査会合 (H29.12.22) から審査会合 (H30.11.30) までの間に薄片観察による断層岩区分を行ったが、肉眼観察による判断結果から変更は無い。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。	変更なし	変更なし
43	・シームという用語については削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-164頁)。 ・シームの傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
44	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
45	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
46	・幅については、区間長を記載していることから削除。 ・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
47	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
48	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
49	・幅については、区間長を記載していることから削除。 ・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・当該区間より下盤側における割れ目沿いのマンガンについては、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
50	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

H20-①-1

委託報告書
(平成20年)

標尺	標高	深 度	柱 状	岩 種	色 調	硬 軟	割 削 状 形	割 削 状 形	変 質	記 事	コア採取率 + (%) 最大コア長 cm R Q D [%]
(m)	(m)	(m)	図 分	固 分	調 軟	状 形	化 質	化 質	化 質		
80					灰赤	固軟	割削状形	51		70. 70cm シーム、裂隙14、幅5.0cm 程度の褐色粘土からなる。これより上部は褐色の泥岩が大部分を占めている。	0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
					明礬	固軟	割削状形	52		71. 67~69cm コアは硬質で、ハートで金属音を発する。	10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
					にふい橙	固軟	割削状形	53		81. 69~101.12cm 幅2~3mm程度の褐色泥岩が大部分を占める。裂隙は70. 70cm 裂隙より若干深くなる。	10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
					揚灰	固軟	割削状形	54		86. 35~66. 66cm 厚10mm程度の不明確な石灰質の硬質層。裂隙は67. 67 硬結	10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
					明礬	固軟	割削状形	55		87. 71~89. 12cm マンガンが電着状に分布する。裂隙は87. 71	10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
					明礬	固軟	割削状形	56		87. 83cm 厚10mm程度のマンガン部が分布する。裂隙は87. 83	10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
					明礬	固軟	割削状形	57		88. 45cm 厚1~3mm程度のマンガン部が分布する。裂隙は87. 83	10 20 30 40 50 60 70 80 90 100

設置許可申請書
(平成27年11月)

事 記

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審查資料案

記 事	
79.	2mの黒色粘土からなる。
79.	79.78~90.00m
52	・ 礫層で、ハンマーで金属音を発する。
53	86.09~86.12m
53	・ 礫約2mmの石英脈が3条程度並走する。
	・ マンガンは伴う。
54	86.38~86.48m
54	・ 幅約1mmの不連続な石英脈が密集する。
55	87.72~89.12m
55	・ マンガンが斑点状に分布する。
56	87.83m
56	・ 幅約2mmの石英脈が分布する。
57	87.91~93mのマンガン脈が分布する。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事

79. 79m
・ 幅0.2cmの黒色粘土からなる。

79. 81～90. 00m
・ 硬質で、ハンマーで金属音を発する。

86. 09～86. 12m
・ 幅2～5mmの石英脈が3条程度並走する。
・ マンガンを生ず。

86. 38～86. 48m
・ 幅約1mmの不連続な石英脈が密着する。

87. 72～89. 12m
・ マンガンが脈点状に分布する。

87. 83m
・ 幅約3mmのマンガン脈が分布する。

88. 45m
・ 幅1～3mmのマンガン脈が分布する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事

- 79. 79m
- ・幅0.2cmの黒色粘土かななる。
- 79. 87~90. 00m
- ・硬質で、ハンマーで金属音を発する。
- 80. 09~08. 12m
- ・幅2~5mmの石英脈が3~4条程度並走する。
- ・マンガンを伴う。
- 86. 38~86. 48m
- ・幅約1mmの不透明な石英脈が密集する。
- 87. 72~89. 12m
- ・マンガンが斑点状に分布する。
- 87. 38m
- ・幅約3mmのマンガ脈が分布する。
- 88. 45m
- ・幅2~3mmのマンガ脈が分布する。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
51	・シームという用語については削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-165頁)。 ・シームの傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・当該区間の上盤側における割れ目の傾向については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
52	変更なし	変更なし	変更なし
53	・石英脈の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
54	・石英脈の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
55	変更なし	変更なし	変更なし
56	・マンガン脈の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
57	・マンガン脈の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

H20-①-3

余白

委託報告書
(平成20年)

標 尺	標 高 度	深 度	柱 状	岩 種	色	硬 度	割 れ 目 の 状 態	風 化	記 事	コア採取事 → (%) 最大コア長 → cm R Q D ↓ (%)
(m)	(m)	(m)	分 区	砂 層	黄 褐				1 0.00～0.05m 植物根が混じる有機質土。 2 0.00～0.05m 砂道じりシルトである。 3 0.05～0.05m 花崗斑岩とアブライトが互層状に分布する。 4 0.05～0.05m 花崗斑岩とアブライトが互層状に分布する。 5 0.05～0.05m 花崗斑岩とアブライトが互層状に分布する。	3 10 100
73.27	2.05									
72.44	2.88									
71.57	3.75									
70.90	4.42									
70.70	4.62									
69.94	5.38									
69.47	5.85									

設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
a 0.00～2.05m ・砂道じりシルトである。 1 0.00～0.05m ・植物根が混じる有機質土。 2 0.05～2.05m ・黄褐色を呈するマサ土である。 3 2.05～6.05m ・花崗斑岩とアブライトが互層状に分布する。 4 2.05～6.05m ・花崗斑岩とアブライトが互層状に分布する。 5 ●4.96～5.00m ・破碎部である。 ・主に赤褐色の固結礫状部及び灰白色の固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm ・走向・傾斜はN83° E40° Nである。 ・上端境界の傾斜は50° である。

審査資料
(平成30年11月30日)

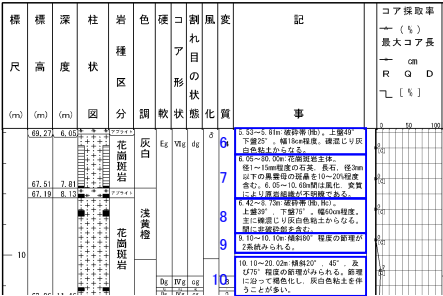
記 事
a 0.00～2.05m ・砂道じりシルトである。 1 0.00～0.05m ・植物根が混じる有機質土。 2 0.05～2.05m ・黄褐色を呈するマサ土である。 3 2.05～6.05m ・花崗斑岩とアブライトが互層状に分布する。 4 2.05～6.05m ・花崗斑岩とアブライトが互層状に分布する。 5 ●4.96～5.00m ・破碎部である。 ・主に赤褐色の固結礫状部及び灰白色の固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm ・走向・傾斜はN83° E40° Nである。 ・上端境界の傾斜は50° である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
a 0.00～2.05m ・砂道じりシルトである。 1 0.00～0.05m ・植物根が混じる有機質土。 2 0.05～2.05m ・黄褐色を呈するマサ土である。 3 2.05～6.05m ・花崗斑岩とアブライトが互層状に分布する。 4 2.05～6.05m ・花崗斑岩とアブライトが互層状に分布する。 5 ●4.96～5.00m ・破碎部である。 ・主に赤褐色の固結礫状部及び灰白色の固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm ・走向・傾斜はN83° E40° Nである。 ・上端境界の傾斜は50° である。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
a	・柱状図に合わせて砂道じりシルトと記載。	変更なし	変更なし
1	・表現の見直し(腐植土→有機質土)。	変更なし	変更なし
2	変更なし	変更なし	変更なし
3	変更なし	変更なし	変更なし
4	・割れ目の傾斜、割れ目沿いの変色、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・割れ目沿いに粘土を伴うが、破碎部の区間を除き、いずれも系統的でなく、連続性に乏しいことから削除。	—	—
5	・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破碎幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・破碎部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
●5.53~5.81m ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN11° E55° Wである。 ・上端境界の傾斜は49°、下端境界の傾斜は25°である。
6
7
●6.05~8.00m ・花崗斑岩主体である。 ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に浅黄褐色の固結礫状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部、累計幅2.0cm ・走向・傾斜はN12° E74° Wである。 ・上端境界の傾斜は39°、下端境界の傾斜は75°である。
8
b
7.81~8.13m ・アブライトである。

審査資料
(平成30年11月30日)

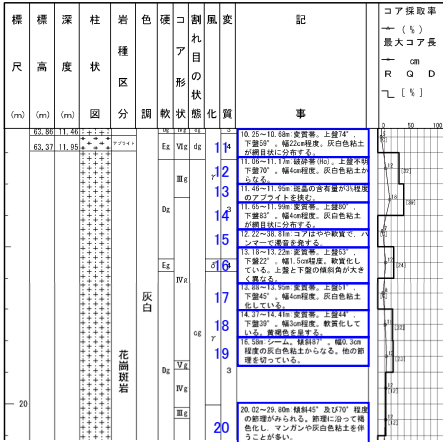
記 事
●5.53~5.81m ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN11° E55° Wである。 ・上端境界の傾斜は49°、下端境界の傾斜は25°である。
6
7
●6.05~8.00m ・花崗斑岩主体である。 ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に浅黄褐色の固結礫状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部、累計幅2.0cm ・走向・傾斜はN12° E74° Wである。 ・上端境界の傾斜は39°、下端境界の傾斜は75°である。
8
b
7.81~8.13m ・アブライトである。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
●5.53~5.81m ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN11° E55° Wである。 ・上端境界の傾斜は49°、下端境界の傾斜は25°である。
6
7
●6.05~8.00m ・花崗斑岩主体である。 ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に浅黄褐色の固結礫状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部、累計幅2.0cm ・走向・傾斜はN12° E74° Wである。 ・上端境界の傾斜は39°、下端境界の傾斜は75°である。
8
b
7.81~8.13m ・アブライトである。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
6	・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩 (断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。	変更なし	変更なし
7	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・原岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
8	・破砕帯名を記載。 ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩 (断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。その後、審査会合 (H29.12.22)から審査会合 (H30.11.30)までの間に薄片観察による断層岩区分を行ったが、肉眼観察による判断結果から変更は無い。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・「間に非破砕部を挟む」との記載については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
b	・柱状図に合わせてアブライトとその深度区間を記載。	変更なし	変更なし
9	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	—	—
10	・割れ目沿いの変色、割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・割れ目沿いに粘土を伴うが、変質部及び破砕部の区間を除き、いずれも系統的でなく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
10. 25～10. 68m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
11. 06～11. 17m(F-3)3-4破砕帯 ・破砕部である。 ・灰白色の未固結粘土状部からなる。この累 計幅は4. 0cmである。 ・走向・傾斜はN11° W85° Wである。 ・下端境界の傾斜は70° である。
12. 22～38. 81m ・やや軟質で、ハンマーで濁音を発する。
13. 18～13. 22m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
14. 37～14. 41m ・変質している。 ・黄褐色を呈し、軟質化している。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事
10. 25～10. 68m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
11. 06～11. 17m(F-3)3-4破砕帯 ・破砕部である。 ・灰白色の未固結粘土状部からなる。この累 計幅は4. 0cmである。 ・走向・傾斜はN11° W85° Wである。 ・下端境界の傾斜は70° である。
12. 22～38. 81m ・やや軟質で、ハンマーで濁音を発する。
13. 18～13. 22m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
14. 37～14. 41m ・変質している。 ・黄褐色を呈し、軟質化している。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
10. 25～10. 68m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
11. 06～11. 17m(F-3)3-4破砕帯 ・破砕部である。 ・灰白色の未固結粘土状部からなる。この累 計幅は4. 0cmである。 ・走向・傾斜はN11° W85° Wである。 ・下端境界の傾斜は70° である。
12. 22～38. 81m ・やや軟質で、ハンマーで濁音を発する。
13. 18～13. 22m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。
14. 37～14. 41m ・変質している。 ・黄褐色を呈し、軟質化している。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
11	・変質している区間の幅、境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
12	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合（H29.12.22）までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩（断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト）を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。	変更なし	変更なし
13	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし
14	・変質している区間の幅、境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
15	変更なし	変更なし	変更なし
16	・変質している区間の幅、境界傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。	変更なし	変更なし
17	・変質している区間の幅、境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
18	・変質している区間の幅、境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
19	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-176頁)。	—	—
20	・割れ目沿いの変色、割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・割れ目沿いに粘土を伴うが、変質部及び破砕部の区間を除き、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—

H20-①-3

委託報告書
(平成20年)

[illegible]設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

審查資料案

	記 事
	22 08-22 25m
22	・変質している。 ・灰白色粘土が層目状に分布する。
	●23 28-23.62m (f-1)-3-6破砕帯 ・破砕部である。 ・淡黄色の固結塊状部からなる。 ・走向・傾斜はN12° E48° である。 ・フイルム状の粘土を挟む。 ・土壌境界の傾斜は42°、下境界の傾斜は60°である。
	24 23.43-23.50m (f-1)-3-6破砕帯 ・破砕部である。 ・黄褐色の固結塊状部からなる。 ・走向・傾斜はN26° N64° である。 ・フイルム状の粘土を挟む。 ・土壌境界の傾斜は50°である。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事

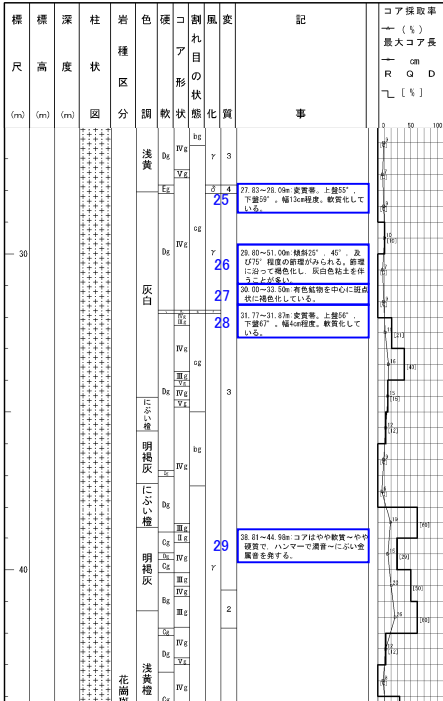
- 22.08～22.25m
 - ・ 実質上している。
 - ・ 灰白色粘土が顕目状に分布する。
- 23.28～23.62m (f-1)-3-5破砕帯
 - ・ 破砕帯である。
 - ・ 淡褐色の固結軟部状かなる。
 - ・ 走向・傾斜はN12° E48° Wである。
- 24.43～25.00m (f-1)-3-6破砕帯
 - ・ 破砕帯である。
 - ・ 黄褐色の固結軟部状かなる。
 - ・ 走向・傾斜はN26° W64° Wである。
 - ・ フィルム状の粘土を挟む存在。
 - ・ 上堆積層の傾斜は42°、下堆積層の傾斜は60°である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事	
22	<p>22. 08～22. 25m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変質している。 ・灰白色粘土が層目状に分布する。
23	<p>●23. 28～23. 62m (f-1)-3-6破砕帯)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・破砕帯である。 ・淡黄色の圓柱状部からなる。 ・走向・傾斜はN20°E である。 ・フルム根の粘土を挟む存在。 ・上端境界の傾斜は42°、下端境界の傾斜60°である。
24	<p>●24. 43～25. 00m (f-1)-3-6破砕帯)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・破砕帯である。 ・黄褐色の圓柱状部からなる。 ・走向・傾斜はN20°E である。 ・フルム根の粘土を挟む存在。 ・上端境界の傾斜は42°である。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
21	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-177頁)。	－	－
22	・変質している区間の幅、境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
23	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土土部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土土部と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・カタクレーサイト中に挟在するフィルム状の細粒物質のうち、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟在するもの(断層ガウジ)として扱い、フィルム状の粘土を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・“原岩組織が認められる”との記載については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・“間に非破砕部を含む”との記載については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
24	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土土部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土土部と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・カタクレーサイト中に挟在するフィルム状の細粒物質のうち、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟在するもの(断層ガウジ)として扱い、フィルム状の粘土を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。 ・“原岩組織が認められる”との記載については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
26 29.80~51.00m ・割れ目沿いに褐色化し、灰白色粘土を伴うことが多い。
27 30.00~33.50m ・斑点状に褐色化している。
28 31.77~31.87m ・変質している。 ・軟質化している。

審査資料
(平成30年11月30日)

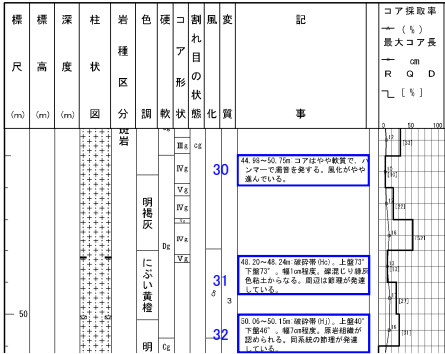
記 事
26 29.80~51.00m ・割れ目沿いに褐色化し、灰白色粘土を伴うことが多い。
27 30.00~33.50m ・斑点状に褐色化している。
28 31.77~31.87m ・変質している。 ・軟質化している。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
26 29.80~51.00m ・割れ目沿いに褐色化し、灰白色粘土を伴うことが多い。
27 30.00~33.50m ・斑点状に褐色化している。
28 31.77~31.87m ・変質している。 ・軟質化している。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
25	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。	—	—
26	・割れ目沿いの変色、割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・割れ目沿いに粘土を伴うが、変質部及び破砕部の区間を除き、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	変更なし	変更なし
27	変更なし	変更なし	変更なし
28	・変質している区間の幅や境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
29	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。	—	—

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
●48. 20～48. 24m (f-①)-3-7破砕帯) ・破砕部である。 ・主に黄褐色の固結礫状部からなる。 ・緑灰色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN35° E69° Wである。 ・上端境界の傾斜は73°、下端境界の傾斜は73°である。 ●50. 06～50. 15m (f-①)-3-8破砕帯) ・破砕部である。 ・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN38° E61° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は40°、下端境界の傾斜は46°である。

審査資料
(平成30年11月30日)

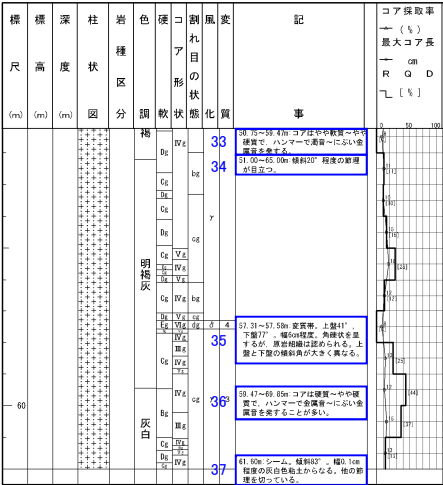
記 事
●48. 20～48. 24m (f-①)-3-7破砕帯) ・破砕部である。 ・主に黄褐色の固結礫状部からなる。 ・緑灰色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN35° E69° Wである。 ・上端境界の傾斜は73°、下端境界の傾斜は73°である。 ●50. 06～50. 15m (f-①)-3-8破砕帯) ・破砕部である。 ・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN38° E61° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は40°、下端境界の傾斜は46°である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
●48. 20～48. 24m (f-①)-3-7破砕帯) ・破砕部である。 ・主に黄褐色の固結礫状部からなる。 ・緑灰色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN35° E69° Wである。 ・上端境界の傾斜は73°、下端境界の傾斜は73°である。 ●50. 06～50. 15m (f-①)-3-8破砕帯) ・破砕部である。 ・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN38° E61° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は40°、下端境界の傾斜は46°である。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
30	・硬軟、風化については、岩級区分に含めて示しているため削除。	—	—
31	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩 (断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・カタクレーサイト中に挟在するフィルム状の細粒物質のうち、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟在するもの (断層ガウジ)として扱い、フィルム状の粘土を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・“周辺は節理が発達している”との記載については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
32	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩 (断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・カタクレーサイト中に挟在するフィルム状の細粒物質のうち、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟在するもの (断層ガウジ)として扱い、フィルム状の粘土を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・“原岩組織が認められる”との記載については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・“同系統の節理が発達している”との記載については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
51.00~65.00m ・割れ目が目立つ。 57.31~57.58m ・変質している。 35 ・角礫状を呈するが、原岩組織は残る。

審査資料
(平成30年11月30日)

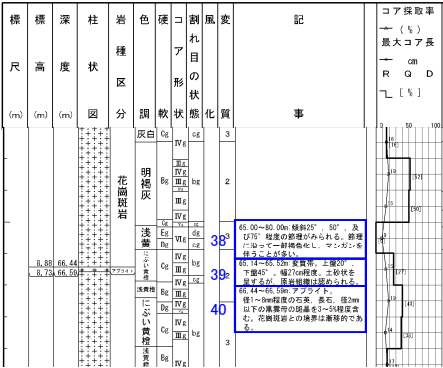
記 事
51.00~65.00m ・割れ目が目立つ。 34 57.31~57.58m ・変質している。 35 ・角礫状を呈するが、原岩組織は残る。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
51.00~65.00m ・割れ目が目立つ。 34 57.31~57.58m ・変質している。 35 ・角礫状を呈するが、原岩組織は残る。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30) ⇒ 審査資料 (R2.2.7)
33	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。	—	—
34	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
35	・変質している区間の幅、境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
36	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。	—	—
37	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-178頁)。	—	—

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
●65.14～65.89m(D-19破砕帯) ・破砕部である。 ・淡黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN49° E71° Nである。 ・幅12mmの粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は45°である。 66.44～66.59m ・アブライトである。

審査資料
(平成30年11月30日)

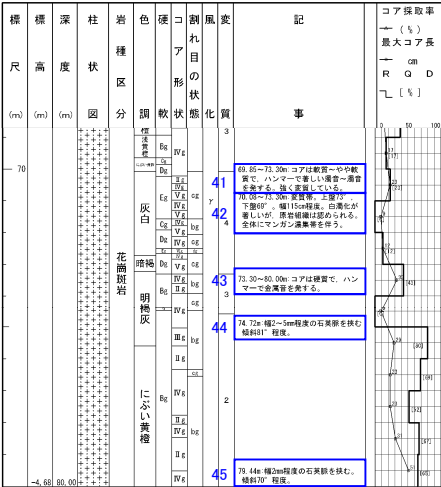
記 事
●65.14～65.89m(D-19破砕帯) ・破砕部である。 ・淡黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN49° E71° Nである。 ・幅12mmの粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は45°である。 66.44～66.59m ・アブライトである。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
●65.14～65.89m(D-19破砕帯) ・破砕部である。 ・淡黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN49° E71° Nである。 ・幅12mmの粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は45°である。 66.44～66.59m ・アブライトである。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
38	・割れ目の傾斜、割れ目沿いの褐色化、マンガンについては、補足的なものであるため削除。	—	—
39.c	・再観察により破砕部と認定。破砕部への見直しの詳細については別途説明(補足説明資料4 補足4-36頁)。 ・上記の再観察による上端境界と下端境界の見かけの傾斜を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・カタクレーサイト中に挟在する細粒物質について、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟在するもの(断層ガウジ)として扱い、幅12mmの粘土を記載。	変更なし	変更なし
40	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
●72. 50～72. 66m (f-①)-1-3破砕帯) ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN40° E72° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は73°、下端境界の傾斜は69°である。
42.d
74. 72m ・幅2～5mmの石英脈を挟む。
44
79. 44m ・幅2mmの石英脈を挟む。
45

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事
●72. 50～72. 66m (f-①)-1-3破砕帯) ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN40° E72° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は73°、下端境界の傾斜は69°である。
42.d
74. 72m ・幅2～5mmの石英脈を挟む。
44
79. 44m ・幅2mmの石英脈を挟む。
45

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
●72. 50～72. 66m (f-①)-1-3破砕帯) ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN40° E72° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は73°、下端境界の傾斜は69°である。
42.d
74. 72m ・幅2～5mmの石英脈を挟む。
44
79. 44m ・幅2mmの石英脈を挟む。
45

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30) ⇒ 審査資料 (R2.2.7)
41	・変質を伴う硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。	—	—
42.d	・再観察により破砕部と認定。破砕部への見直しの詳細については別途説明(補足説明資料4 補足4-37頁)。 ・上記の再観察による上端境界と下端境界の見かけの傾斜を記載。 ・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・カタクレーサイト中に挟在するフィルム状の細粒物質のうち、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟在するもの(断層ガウジ)として扱い、フィルム状の粘土を記載。 ・“原岩組織は認められる”との記載については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・“マンガン濃集帯”の記載については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
43	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。	—	—
44	・鉱物脈の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
45	・鉱物脈の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

余白

H20-①-4

余白

委託報告書
(平成20年)

標尺	標高	深	柱状	岩種	色	硬コ	割れ	風化	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D ↓ [%]
尺	度	度	状	区	調	軟	目	状	事	
(m)	(m)	(m)	図	分	分	化	状	質		
85.02	1.00		シルト質砂	明黄橙					1 0.00～0.04m 腐植を伴うシルト質砂である。	
				灰白					2 1.00～1.04m アブライト。原岩組織は不明瞭である。所々、マンガンが濃集する。	
				浅黄橙					3 1.00～1.04m アブライト。原岩組織は不明瞭である。所々、マンガンが濃集する。	
				に					4 1.00～1.04m アブライト。原岩組織は不明瞭である。所々、マンガンが濃集する。	
				黄					5 1.00～1.04m アブライト。原岩組織は不明瞭である。所々、マンガンが濃集する。	
				橙					6 1.00～1.04m アブライト。原岩組織は不明瞭である。所々、マンガンが濃集する。	
				に					7 1.00～1.04m アブライト。原岩組織は不明瞭である。所々、マンガンが濃集する。	
				黄					8 1.00～1.04m アブライト。原岩組織は不明瞭である。所々、マンガンが濃集する。	
				橙					9 1.00～1.04m アブライト。原岩組織は不明瞭である。所々、マンガンが濃集する。	
				に					10 1.00～1.04m アブライト。原岩組織は不明瞭である。所々、マンガンが濃集する。	
				黄					11 1.00～1.04m アブライト。原岩組織は不明瞭である。所々、マンガンが濃集する。	
				橙						
78.32	7.70		シルト質砂	明黄橙					12 4.00～4.04m シーム。傾斜60°。幅0.30m。原岩の褐色粘土からなる。	
77.02	0.10		シルト質砂	明黄橙					13 4.00～4.04m シーム。傾斜60°。幅0.30m。原岩の褐色粘土からなる。	

設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
0.00～1.00m ・シルト質砂である。
1 0.00～0.04m ・有機質土である。
2 0.04～1.00m ・中粒砂主体である。
3 1.00～1.04m ・アブライトである。 ・原岩組織は不明瞭である。 ・所々でマンガンが濃集する。
4 1.00～14.65m ・割れ目沿いに褐色化し、マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。
5 3.73～3.90m ・赤色化が著しい。
6 3.93～7.70m(D-5破砕帯) ・破砕部である。 ・主に浅黄橙色の固結礫状部及び灰白色の固結粘土状部からなる。
7 灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・上端境界の傾斜は85°、下端境界の傾斜は68°である。
8 4.73～4.96m ・赤色化が著しい。
9

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事
0.00～1.00m ・シルト質砂である。
1 0.00～0.04m ・有機質土である。
2 0.04～1.00m ・中粒砂主体である。
3 1.00～1.04m ・アブライトである。 ・原岩組織は不明瞭である。 ・所々でマンガンが濃集する。
4 1.00～14.65m ・割れ目沿いに褐色化し、マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。
5 3.73～3.90m ・赤色化が著しい。
6 3.93～7.70m(D-5破砕帯) ・破砕部である。 ・主に浅黄橙色の固結礫状部及び灰白色の固結粘土状部からなる。
7 灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・上端境界の傾斜は85°、下端境界の傾斜は68°である。
8 4.73～4.96m ・赤色化が著しい。
9

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
0.00～1.00m ・シルト質砂である。
1 0.00～0.04m ・有機質土である。
2 0.04～1.00m ・中粒砂主体である。
3 1.00～1.04m ・アブライトである。 ・原岩組織は不明瞭である。 ・所々でマンガンが濃集する。
4 1.00～14.65m ・割れ目沿いに褐色化し、マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。
5 3.73～3.90m ・赤色化が著しい。
6 3.93～7.70m(D-5破砕帯) ・破砕部である。 ・主に浅黄橙色の固結礫状部及び灰白色の固結粘土状部からなる。
7 灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・上端境界の傾斜は85°、下端境界の傾斜は68°である。
8 4.73～4.96m ・赤色化が著しい。
9

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
a	・柱状図に合わせてシルト質砂と記載。	変更なし	変更なし
1	・表現の見直し(腐植土→有機質土)。 ・色調については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
2	・マサ土、色調については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
3	・風化・変質の程度については、岩級区分に含めて示しているため削除。	変更なし	変更なし
4	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
5	・風化・変質を伴う硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・ハンマー打診による硬軟については、補足的なものであるため削除。	－	－
6	変更なし	変更なし	変更なし
7,8,10,11	・シームという用語については削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-179頁)。 ・報告書から申請書提出までの間に行った再観察により上端深度を見直し。再観察では、破砕部と同系統の高角度な割れ目が分布し、原岩組織が不明瞭となっている区間を含め、一連の破砕部であると判断した。 ・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察により上端深度を見直し。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・上記再観察による上端境界の見かけの傾斜の見直しを反映。	変更なし	変更なし
9	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)

標 尺	標 高 度	柱 状	岩 種	色 調	硬 度	割 れ 目 の 形 状	風 化 状 態	記 事	コア採取事 → (%) 最大コア長 → cm R Q D ↓ (%)
(m)	(m)	(m)	固	区	調	軟	状	事	3 10 100
72.65	8.97		花崗岩	淡				12 7.55～8.42m ・赤～緑色化が著しい。 7.70～9.83m ・花崗斑岩とアブライトが互層状に分布する。	12
73.52	8.01		花崗岩	淡				13 9.83～90.00m ・花崗斑岩が主体である。 10.73～13.00m ・赤色化が著しい。 10.73～14.66m ・割れ目沿いにマンガンが分布する。	13
73.18	8.85		花崗岩	淡				14 9.83～90.00m ・花崗斑岩が主体である。 10.73～13.00m ・赤色化が著しい。 10.73～14.66m ・割れ目沿いにマンガンが分布する。	14
73.32	12.70		花崗岩	淡				15 12.25～12.26m (F-1)-2-2破砕帯) ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・境界の傾斜は40°である。	15
72.42	13.86		花崗岩	淡				16 12.70～13.60m ・アブライトである。 12.70～15.25m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。	16
72.42	13.86		花崗岩	淡				17 12.25～12.26m (F-1)-2-2破砕帯) ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・境界の傾斜は40°である。	17
72.42	13.86		花崗岩	淡				18 12.70～13.60m ・アブライトである。 12.70～15.25m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。	18
72.42	13.86		花崗岩	淡				19 12.70～13.60m ・アブライトである。 12.70～15.25m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。	19
72.42	13.86		花崗岩	淡				20 12.70～13.60m ・アブライトである。 12.70～15.25m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。	20

設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
12 7.55～8.42m ・赤～緑色化が著しい。 7.70～9.83m ・花崗斑岩とアブライトが互層状に分布する。
13 9.83～90.00m ・花崗斑岩が主体である。 10.73～13.00m ・赤色化が著しい。 10.73～14.66m ・割れ目沿いにマンガンが分布する。
14 12.25～12.26m (F-1)-2-2破砕帯) ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・境界の傾斜は40°である。
15 12.70～13.60m ・アブライトである。 12.70～15.25m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。
16 12.70～13.60m ・アブライトである。 12.70～15.25m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。
17 12.70～13.60m ・アブライトである。 12.70～15.25m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。
18 12.70～13.60m ・アブライトである。 12.70～15.25m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。
19 12.70～13.60m ・アブライトである。 12.70～15.25m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。
20 12.70～13.60m ・アブライトである。 12.70～15.25m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。

審査資料
(平成30年11月30日)

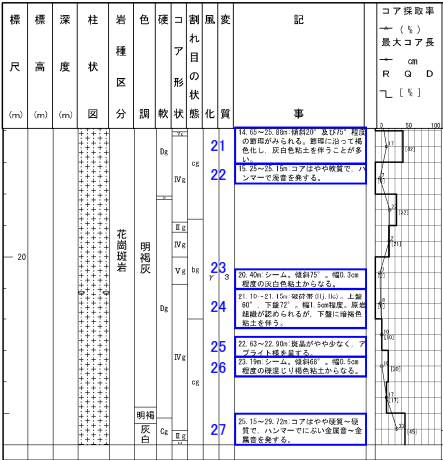
記 事
12 7.55～8.42m ・赤～緑色化が著しい。 7.70～9.83m ・花崗斑岩とアブライトが互層状に分布する。
13 9.83～90.00m ・花崗斑岩が主体である。 10.73～13.00m ・赤色化が著しい。 10.73～14.66m ・割れ目沿いにマンガンが分布する。
14 12.25～12.26m (F-1)-2-2破砕帯) ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・境界の傾斜は40°である。
15 12.70～13.60m ・アブライトである。 12.70～15.25m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。
16 12.70～13.60m ・アブライトである。 12.70～15.25m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。
17 12.70～13.60m ・アブライトである。 12.70～15.25m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。
18 12.70～13.60m ・アブライトである。 12.70～15.25m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。
19 12.70～13.60m ・アブライトである。 12.70～15.25m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。
20 12.70～13.60m ・アブライトである。 12.70～15.25m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
12 7.55～8.42m ・赤～緑色化が著しい。 7.70～9.83m ・花崗斑岩とアブライトが互層状に分布する。
13 9.83～90.00m ・花崗斑岩が主体である。 10.73～13.00m ・赤色化が著しい。 10.73～14.66m ・割れ目沿いにマンガンが分布する。
14 12.25～12.26m (F-1)-2-2破砕帯) ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・境界の傾斜は40°である。
15 12.70～13.60m ・アブライトである。 12.70～15.25m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。
16 12.70～13.60m ・アブライトである。 12.70～15.25m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。
17 12.70～13.60m ・アブライトである。 12.70～15.25m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。
18 12.70～13.60m ・アブライトである。 12.70～15.25m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。
19 12.70～13.60m ・アブライトである。 12.70～15.25m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。
20 12.70～13.60m ・アブライトである。 12.70～15.25m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明赤褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅6.8cm ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は70°である。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
12	変更なし	変更なし	変更なし
13	・風化・変質の程度については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・原岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
14	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし
15	変更なし	変更なし	変更なし
16	変更なし	変更なし	変更なし
17	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-180頁)。	—	—
18	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-181頁)。	—	—
b	・再観察により破砕部と認定。破砕部への見直しの詳細については別途説明(補足説明資料4 補足4-38頁)。 ・上記の再観察による上端境界と下端境界の見かけの傾斜を記載。 ・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・カタクレーサイト中に挟在するフィルム状の細粒物質のうち、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟在するもの(断層ガウジ)として扱い、フィルム状の粘土を記載。	変更なし	変更なし
19	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし
20	・破砕帯名を記載。 ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所を累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・“原岩組織が認められる部分が多い”との記載については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・“変形構造が顕著にみられる”との記載については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事

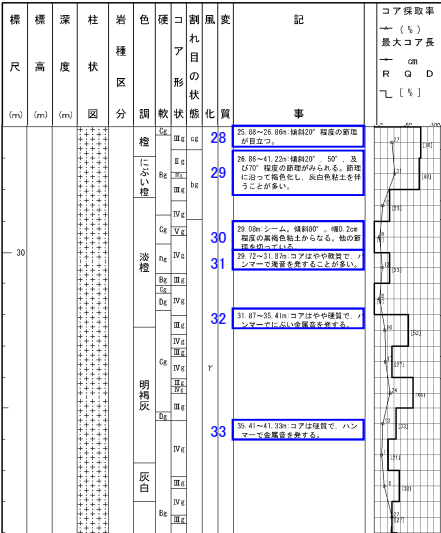
●21. 10～21. 15m (f-①)-4-3破砕帯)
・破砕部である。
・明褐灰色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN19° E74° Wである。
・フィルム状の粘土を挟在する。
・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は72°である。

●21. 10～21. 15m (f-①)-4-3破砕帯)
・破砕部である。
・明褐灰色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN19° E74° Wである。
・フィルム状の粘土を挟在する。
・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は72°である。

●21. 10～21. 15m (f-①)-4-3破砕帯)
・破砕部である。
・明褐灰色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN19° E74° Wである。
・フィルム状の粘土を挟在する。
・上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は72°である。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
21	・割れ目の傾斜、割れ目沿いの褐色化については、補足的なものであるため削除。 ・一部に粘土を伴うが、破砕部の区間を除き、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—
22	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。	—	—
23	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-182頁)。	—	—
24	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・カタクレーサイト中に挟在するフィルム状の細粒物質のうち、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟在するもの(断層ガウジ)として扱い、フィルム状の粘土を記載。 ・“原岩組織が認められる”との記載については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。	変更なし	変更なし
25	・斑晶については、補足的なものであるため削除。	—	—
26	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-183頁)。	—	—
27	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。	—	—

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

審査資料案

記事

28 25.88～26.86m
・低角度の割れ目が目立つ。

31 29.72～31.87m
・割れ目が多く、短柱状を呈する。
●31.63～31.87m(F-1)～3-5破砕帯)
・破砕部である。
・淡褐色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN6° E55° Wである。
32 31.87～41.33m
・割れ目が多く、柱状を呈する。
33

審査資料
(平成30年11月30日)

記事

28 25.88～26.86m
・低角度の割れ目が目立つ。

31 29.72～31.87m
・割れ目が多く、短柱状を呈する。
●31.63～31.87m(F-1)～3-5破砕帯)
・破砕部である。
・淡褐色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN6° E55° Wである。
32 31.87～41.33m
・割れ目が多く、柱状を呈する。
33

審査資料
(令和2年2月7日)

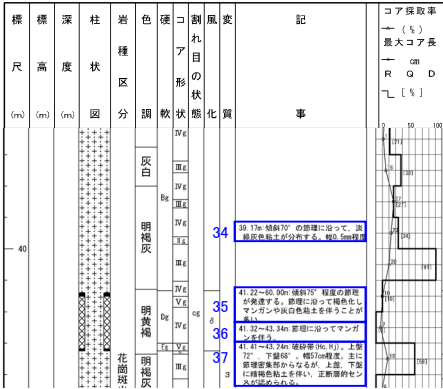
記事

28 25.88～26.86m
・低角度の割れ目が目立つ。

31 29.72～31.87m
・割れ目が多く、短柱状を呈する。
●31.63～31.87m(F-1)～3-5破砕帯)
・破砕部である。
・淡褐色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN6° E55° Wである。
32 31.87～41.33m
・割れ目が多く、柱状を呈する。
33

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
28	・表現の見直し。(傾斜20° 程度→低角度)	変更なし	変更なし
29	・割れ目の傾斜や割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで粘土を伴うが、破砕部の区間を除き、いずれも周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—
30	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-184頁)。	—	—
31	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・“コア形状”欄に基づき短柱状と記載。	変更なし	変更なし
c	・再観察により破砕部と認定。破砕部への見直しの詳細については別途説明(補足説明資料4 補足4-39頁)。 ・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。	変更なし	変更なし
32,33	・割れ目の発達と同傾向の区間を一括記載。 ・“コア形状”欄に基づき柱状と記載。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
41. 32～43. 34m ・割れ目沿いにマンガンを伴う。
36 ●41. 41～43. 24m(0-19破砕帯) ・破砕部である。 ・主に明黄褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 37 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅0. 5cm ・走向・傾斜はN36° E76° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は68°である。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事
41. 32～43. 34m ・割れ目沿いにマンガンを伴う。
36 ●41. 41～43. 24m(0-19破砕帯) ・破砕部である。 ・主に明黄褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 37 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅0. 5cm ・走向・傾斜はN36° E76° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は68°である。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
41. 32～43. 34m ・割れ目沿いにマンガンを伴う。
36 ●41. 41～43. 24m(0-19破砕帯) ・破砕部である。 ・主に明黄褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 37 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅0. 5cm ・走向・傾斜はN36° E76° Wである。 ・上端境界の傾斜は72°、下端境界の傾斜は68°である。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
34	・割れ目沿いに粘土脈が分布するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—
35	・割れ目の傾斜、割れ目沿いの褐色化、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで粘土を伴うが、変質部及び破砕部の区間を除き、いずれも系統的でなく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—
36	変更なし	変更なし	変更なし
37	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22) までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩 (断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト) を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・上記再観察で未固結粘土状部とした箇所の累計幅を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。 ・割れ目の密集部については、固結礫状部に含めているため削除。 ・“正断層的センスが認められる”との記載については、破砕部の変位センスを薄片観察に基づき認定することとしているため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)

標	標	深	柱	岩	色	硬	割	変	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D 〔 % 〕
尺	高	度	状	種	調	軟	れ	質		
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	れ	質	事	
				岩	Gray リ色	IVt	38		41.24~61.05m: 上層の硬質→中層硬質、ハンマーで濁音→にぶい音 濁音を発生する。	2
						IIIc				10
						IVt				15
						IVc	39		46.85~46.93m: 硬質砂、上層IVc 下層IVc、幅3cm程度。白濁音が著 しいが、濁音は弱に聞こえられた。 柱の位置で認められる。	20
						Dp	40		46.16~48.45m: 傾斜15°程度の浅層 が認められる。	25
						IVc				30
						IVc				35
						IVc				40
50						IVc				45

設置許可申請書
(平成27年11月)

事 記

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

審查資料案

	記 事
39	46.85~46.93m ・変質している。 ・白濁化が著しい。
40	48.16~48.45m ・流理がみられる。

審査資料
(平成30年11月30日)

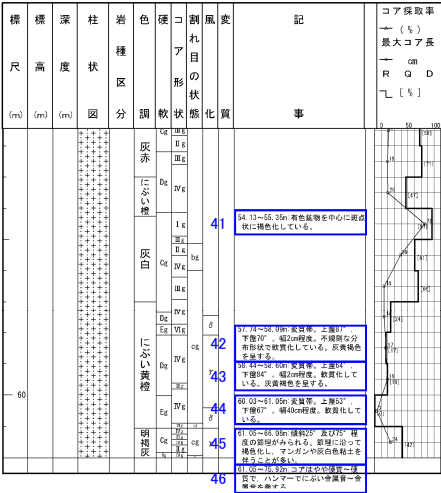
		記事
39	46.85~46.93m	・変質している。 ・白濁化が著しい。
40	48.16~48.45m	・流理がみられる。

審査資料
(令和2年2月7日)

	記	事
39	46. 85～46. 93m ・変質している。 ・白濁化が著しい。	
40	48. 16～48. 45m ・流理がみられる。	

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
38	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。	—	—
39	・変質している区間の幅、境界傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・原岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・“他の節理で切られる”との記載については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
40	・流理の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事

41 54.13～55.35m
・斑点状に褐色化している。

42 57.74～58.09m
・変質している。
・灰黄褐色を呈し軟質化している。
58.44～58.60m
・変質している。
・灰黄褐色を呈し軟質化している。
43 60.47～60.67m(F-1)-1-3破砕帯
・破砕部である。
・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。
44 幅10mmの粘土を挟在する。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事

41 54.13～55.35m
・斑点状に褐色化している。

42 57.74～58.09m
・変質している。
・灰黄褐色を呈し軟質化している。
58.44～58.60m
・変質している。
・灰黄褐色を呈し軟質化している。
43 60.47～60.67m(F-1)-1-3破砕帯
・破砕部である。
・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。
44 幅10mmの粘土を挟在する。

審査資料
(令和2年2月7日)

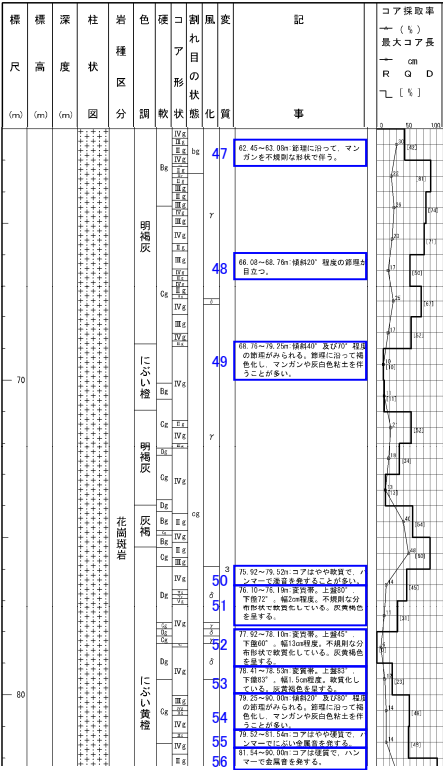
記 事

41 54.13～55.35m
・斑点状に褐色化している。

42 57.74～58.09m
・変質している。
・灰黄褐色を呈し軟質化している。
58.44～58.60m
・変質している。
・灰黄褐色を呈し軟質化している。
43 60.47～60.67m(F-1)-1-3破砕帯
・破砕部である。
・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。
44 幅10mmの粘土を挟在する。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
41	変更なし	変更なし	変更なし
42	・変質している区間の幅、境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
43	・変質している区間の幅、境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
44	・再観察により破砕部と認定。破砕部への見直しの詳細については別途説明。(補足説明資料4 補足4-40頁) ・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合(H29.12.22)までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩(断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト)を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・カタクレーサイト中に挟在する細粒物質について、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟在するもの(断層ガウジ)として扱い、幅10mmの粘土を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。	変更なし	変更なし
45	・割れ目の傾斜、割れ目沿いの褐色化、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで粘土を伴うが、周囲の岩壁に劣化が認められないことから削除。	—	—
46	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・ハンマー打診による硬軟については、補足的なものであるため削除。	—	—

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事

47 62.45～63.08m
・割れ目沿いにマンガンを不規則な形状で伴う。

48 66.08～68.76m
・低角度の割れ目が目立つ。

51 76.10～76.19m
・変質している。
・灰黄褐色を呈し、軟質化している。
52 77.92～78.10m
・変質している。
・灰黄褐色を呈し、軟質化している。
53 78.41～78.53m
・変質している。
・灰黄褐色を呈し、軟質化している。

47 62.45～63.08m
・割れ目沿いにマンガンを不規則な形状で伴う。

48 66.08～68.76m
・低角度の割れ目が目立つ。

51 76.10～76.19m
・変質している。
・灰黄褐色を呈し、軟質化している。
52 77.92～78.10m
・変質している。
・灰黄褐色を呈し、軟質化している。
53 78.41～78.53m
・変質している。
・灰黄褐色を呈し、軟質化している。

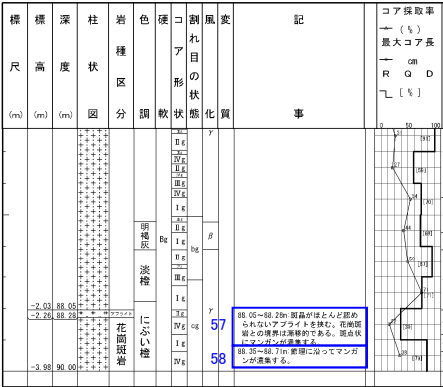
47 62.45～63.08m
・割れ目沿いにマンガンを不規則な形状で伴う。

48 66.08～68.76m
・低角度の割れ目が目立つ。

51 76.10～76.19m
・変質している。
・灰黄褐色を呈し、軟質化している。
52 77.92～78.10m
・変質している。
・灰黄褐色を呈し、軟質化している。
53 78.41～78.53m
・変質している。
・灰黄褐色を呈し、軟質化している。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
47	変更なし	変更なし	変更なし
48	・表現の見直し(傾斜20°程度→低角度)。	変更なし	変更なし
49	・割れ目の傾斜、割れ目沿いの褐色化、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで粘土を伴うが、変質している区間を除き、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—
50	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。	—	—
51	・変質している区間の幅、境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
52	・変質している区間の幅、境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
53	・変質している区間の幅、境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
54	・割れ目の傾斜、割れ目沿いの褐色化、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで粘土を伴うが、変質している区間を除き、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。	—	—
55	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。	—	—
56	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。	—	—

委託報告書
(平成20年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

審査資料案

記事

審査資料
(平成30年11月30日)

記事

審査資料
(令和2年2月7日)

記事

57 88.05~88.28m
・アブライトである。
58 88.35~88.71m
・割れ目沿いにマンガンが濃集する。

57 88.05~88.28m
・アブライトである。
58 88.35~88.71m
・割れ目沿いにマンガンが濃集する。

57 88.05~88.28m
・アブライトである。
58 88.35~88.71m
・割れ目沿いにマンガンが濃集する。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
57	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の明瞭さやマンガンの濃集については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
58	変更なし	変更なし	変更なし

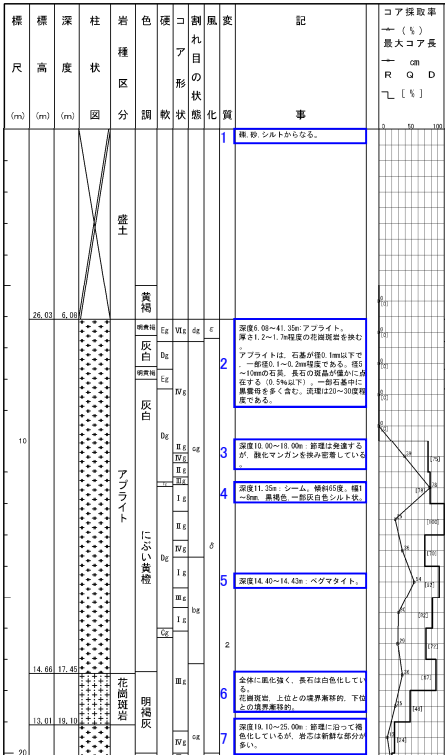
余白

H19-No.11

余白

H19-No.11

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
1 0.00～6.08m ・盛土である。
2 6.08～41.35m ・アフライトである。 ・幅1.2～1.7m程度の花崗斑岩を挟む。
3 10.00～18.00m ・酸化マンガンを挟む割れ目が発達する。
4 11.35m ・幅1～8mmの黒褐～灰白色シルト状を呈する。
5 14.40～14.43m ・ベグマタイトである。
6 17.45～19.10m ・花崗斑岩である。 ・全体に強風化し、長石は白色化している。
7 19.10～25.00m ・割れ目によって褐色化しているが、岩芯は新鮮な部分が多い。

審査資料
(平成30年11月30日)

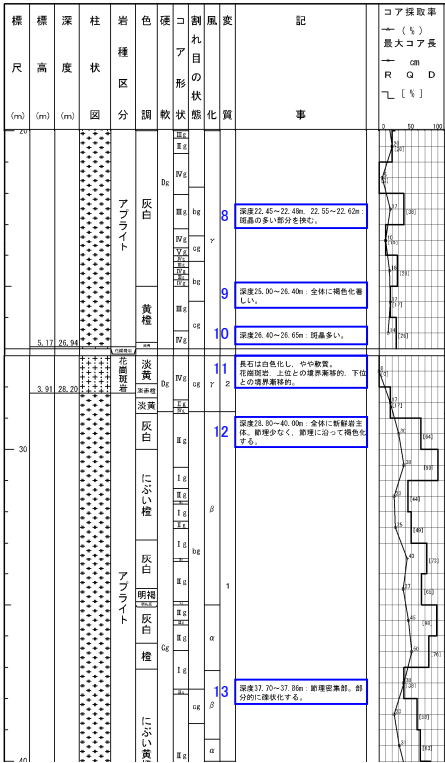
記 事
1 0.00～6.08m ・盛土である。
2 6.08～41.35m ・アフライトである。 ・幅1.2～1.7m程度の花崗斑岩を挟む。
3 10.00～18.00m ・酸化マンガンを挟む割れ目が発達する。
4 11.35m ・幅1～8mmの黒褐～灰白色シルト状を呈する。
5 14.40～14.43m ・ベグマタイトである。
6 17.45～19.10m ・花崗斑岩である。 ・全体に強風化し、長石は白色化している。
7 19.10～25.00m ・割れ目によって褐色化しているが、岩芯は新鮮な部分が多い。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
1 0.00～6.08m ・盛土である。
2 6.08～41.35m ・アフライトである。 ・幅1.2～1.7m程度の花崗斑岩を挟む。
3 10.00～18.00m ・酸化マンガンを挟む割れ目が発達する。
4 11.35m ・幅1～8mmの黒褐～灰白色シルト状を呈する。
5 14.40～14.43m ・ベグマタイトである。
6 17.45～19.10m ・花崗斑岩である。 ・全体に強風化し、長石は白色化している。
7 19.10～25.00m ・割れ目によって褐色化しているが、岩芯は新鮮な部分が多い。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
1	・盛土区間については、元々の地質の状態を示すものではないため、構成粒子に関する記載は削除。	変更なし	変更なし
2	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・流理については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
3	変更なし	変更なし	変更なし
4	・シームという用語については削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-76頁)。 ・シームの傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
5	変更なし	変更なし	変更なし
6	・柱状図に合わせて花崗斑岩とその深度区間を記載。 ・岩種境界の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
7	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
8 22.45～22.48m, 22.55～22.62m ・斑晶の多い部分を挟む。
9 25.00～26.40m ・全体に褐色化が著しい。
11 26.94～28.20m ・花崗斑岩である。
12 28.80～40.00m ・全体に新鮮である。 ・割れ目に沿って褐色化する。
13 37.70～37.86m ・割れ目の密集部であり、部分的に礫状を呈する。

審査資料
(平成30年11月30日)

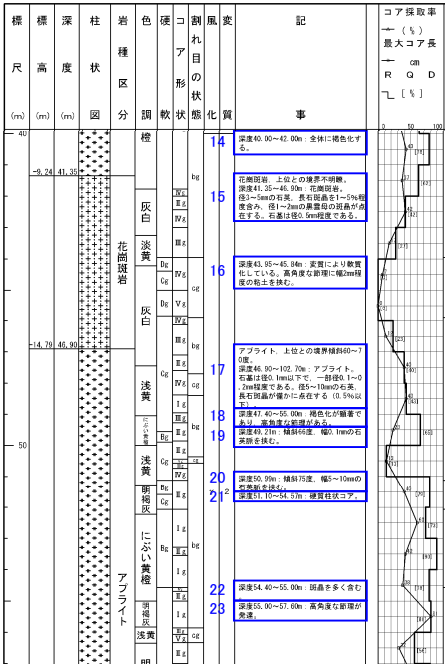
記 事
8 22.45～22.48m, 22.55～22.62m ・斑晶の多い部分を挟む。
9 25.00～26.40m ・全体に褐色化が著しい。
11 26.94～28.20m ・花崗斑岩である。
12 28.80～40.00m ・全体に新鮮である。 ・割れ目に沿って褐色化する。
13 37.70～37.86m ・割れ目の密集部であり、部分的に礫状を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
8 22.45～22.48m, 22.55～22.62m ・斑晶の多い部分を挟む。
9 25.00～26.40m ・全体に褐色化が著しい。
11 26.94～28.20m ・花崗斑岩である。
12 28.80～40.00m ・全体に新鮮である。 ・割れ目に沿って褐色化する。
13 37.70～37.86m ・割れ目の密集部であり、部分的に礫状を呈する。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
8	変更なし	変更なし	変更なし
9	変更なし	変更なし	変更なし
10	・斑晶については、補足的なものであるため削除。	—	—
11	・岩種境界の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・長石の白色化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。	変更なし	変更なし
12	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	変更なし	変更なし
13	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
14 40.00～42.00m ・全体に褐色化する。
15 41.35～46.90m ・花崗斑岩である。
16 43.95～45.84m ・変質により軟質化している。 ・高角度割れ目に幅2mm程度の粘土を挟む。
17 46.90～102.70m ・アプライトである。
18 47.40～55.00m ・褐色化が顕著である。
19 49.21m ・幅0.1mmの石英脈を挟む。
20 50.99m ・幅5～10mmの石英脈を挟む。
23 55.00～57.60m ・高角度割れ目が発達する。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事
14 40.00～42.00m ・全体に褐色化する。
15 41.35～46.90m ・花崗斑岩である。
16 43.95～45.84m ・変質により軟質化している。 ・高角度割れ目に幅2mm程度の粘土を挟む。
17 46.90～102.70m ・アプライトである。
18 47.40～55.00m ・褐色化が顕著である。
19 49.21m ・幅0.1mmの石英脈を挟む。
20 50.99m ・幅5～10mmの石英脈を挟む。
23 55.00～57.60m ・高角度割れ目が発達する。

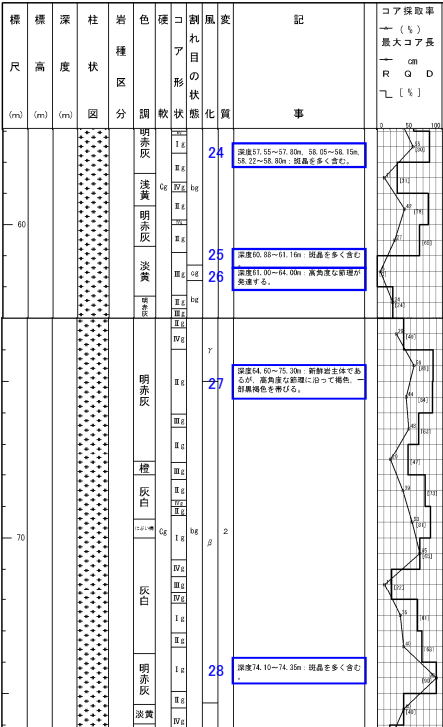
審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
14 40.00～42.00m ・全体に褐色化する。
15 41.35～46.90m ・花崗斑岩である。
16 43.95～45.84m ・変質により軟質化している。 ・高角度割れ目に幅2mm程度の粘土を挟む。
17 46.90～102.70m ・アプライトである。
18 47.40～55.00m ・褐色化が顕著である。
19 49.21m ・幅0.1mmの石英脈を挟む。
20 50.99m ・幅5～10mmの石英脈を挟む。
23 55.00～57.60m ・高角度割れ目が発達する。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
14	変更なし	変更なし	変更なし
15	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
16	変更なし	変更なし	変更なし
17	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・岩種境界の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
18	・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
19	・鉱物脈の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
20	・鉱物脈の傾斜については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
21	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。	—	—
22	・斑晶については、補足的なものであるため削除。	—	—
23	変更なし	変更なし	変更なし

H19-No.11

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記事

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

審査資料案

記事

26 61.00～64.00m
・高角度割れ目が発達する。

27 64.60～75.30m
・新鮮である。

審査資料
(平成30年11月30日)

記事

26 61.00～64.00m
・高角度割れ目が発達する。

27 64.60～75.30m
・新鮮である。

審査資料
(令和2年2月7日)

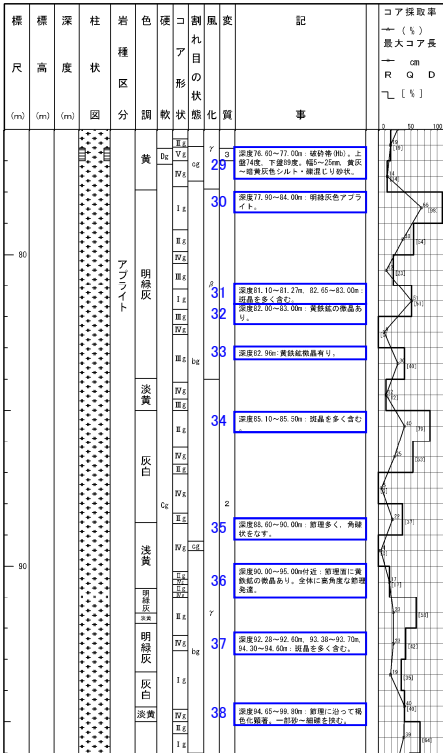
記事

26 61.00～64.00m
・高角度割れ目が発達する。

27 64.60～75.30m
・新鮮である。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30) ⇒ 審査資料 (R2.2.7)
24	・斑晶については、補足的なものであるため削除。	—	—
25	・斑晶については、補足的なものであるため削除。	—	—
26	変更なし	変更なし	変更なし
27	・割れ目の傾斜、割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
28	・斑晶については、補足的なものであるため削除。	—	—

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

●76. 60～77. 00m (D-2破砕帯)
・破砕部である。
・暗黄灰色の固結礫状部からなる。
・フィルム状の粘土を挟在する。
・上端境界の傾斜は74°、下端境界の傾斜は89°である。
77. 90～84. 00m
・明緑灰色のアブライトである。
88. 60～90. 00m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。
90. 00～95. 00m付近
・全体に高角度割れ目が発達する。
94. 65～99. 80m
・割れ目に沿って褐色化が顕著である。

審査資料
(平成30年11月30日)

●76. 60～77. 00m (D-2破砕帯)
・破砕部である。
・暗黄灰色の固結礫状部からなる。
・フィルム状の粘土を挟在する。
・上端境界の傾斜は74°、下端境界の傾斜は89°である。
77. 90～84. 00m
・明緑灰色のアブライトである。
88. 60～90. 00m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。
90. 00～95. 00m付近
・全体に高角度割れ目が発達する。
94. 65～99. 80m
・割れ目に沿って褐色化が顕著である。

審査資料
(令和2年2月7日)

●76. 60～77. 00m (D-2破砕帯)
・破砕部である。
・暗黄灰色の固結礫状部からなる。
・フィルム状の粘土を挟在する。
・上端境界の傾斜は74°、下端境界の傾斜は89°である。
77. 90～84. 00m
・明緑灰色のアブライトである。
88. 60～90. 00m
・割れ目が多く、角礫状を呈する。
90. 00～95. 00m付近
・全体に高角度割れ目が発達する。
94. 65～99. 80m
・割れ目に沿って褐色化が顕著である。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料 (H30.11.30)	審査資料 (H30.11.30)⇒ 審査資料 (R2.2.7)
29	・破砕帯名を記載。 ・性状及び色調については、申請書提出から審査会合 (H29.12.22) までの間に行った、断層岩区分を目的とした再観察の結果に基づき記載。肉眼観察で確認した原岩組織の残留の程度、連続性、硬軟に基づき、断層岩 (断層ガウジ、断層角礫、カタクレーサイト) を判断。断層ガウジを未固結粘土状部、断層角礫を未固結礫状部、カタクレーサイトを性状に応じて、固結礫状・砂状・粘土状部と記載。 ・カタクレーサイト中に挟在するフィルム状の細粒物質のうち、カタクレーサイトの特徴が明確に確認できないものについて、肉眼観察の結果に基づき、保守的に粘土を挟在するもの (断層ガウジ) として扱い、フィルム状の粘土を記載。 ・幅の記載については、性状一覧表に上記再観察による破砕幅を示しており、柱状図には記載しないこととしているため削除。	変更なし	変更なし
30	変更なし	変更なし	変更なし
31	・斑晶については、補足的なものであるため削除。	—	—
32	・黄鉄鉱の晶出については、補足的なものであるため削除。	—	—
33	・黄鉄鉱については、補足的なものであるため削除。	—	—
34	・斑晶については、補足的なものであるため削除。	—	—
35	変更なし	変更なし	変更なし
36	・割れ目治いの黄鉄鉱については、補足的なものであるため削除。	変更なし	変更なし
37	・斑晶については、補足的なものであるため削除。	—	—
38	・一部に砂～細礫を挟むが、直線性に乏しいことから削除。	変更なし	変更なし

H19-No.11

委託報告書
(平成19年)

標	標	深	柱	岩	硬	割	風	記	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]
尺	高	度	状	種	色	れ	量		
(m)	(m)	(m)	図	区	調	軟	化	事	
						IV c	30度55.50m 95.00m 距離に幅5~10mmの黒色土を挿す。		
						II c			
						III c			
						IV c			
						V c			
						VI c			
						VII c			
						VIII c			
						IX c			
						X c			
						XI c			
						XII c			
						XIII c			
						XIV c			
						XV c			
						XVI c			
						XVII c			
						XVIII c			
						XIX c			
						XX c			
						XXI c			
						XXII c			
						XXIII c			
						XXIV c			
						XXV c			
						XXVI c			
						XXVII c			
						XXVIII c			
						XXIX c			
						XXX c			
						XXXI c			
						XXXII c			
						XXXIII c			
						XXXIV c			
						XXXV c			
						XXXVI c			
						XXXVII c			
						XXXVIII c			
						XXXIX c			
						XXXX c			
						XXXXI c			
						XXXXII c			
						XXXXIII c			
						XXXXIV c			
						XXXXV c			
						XXXXVI c			
						XXXXVII c			
						XXXXVIII c			
						XXXXIX c			
						XXXXX c			
						XXXXXI c			
						XXXXXII c			
						XXXXXIII c			
						XXXXXIV c			
						XXXXXV c			
						XXXXXVI c			
						XXXXXVII c			
						XXXXXVIII c			
						XXXXXIX c			
						XXXXXX c			
						XXXXXXI c			
						XXXXXXII c			
						XXXXXXIII c			
						XXXXXXIV c			
						XXXXXXV c			
						XXXXXXVI c			
						XXXXXXVII c			
						XXXXXXVIII c			
						XXXXXXIX c			
						XXXXXXX c			
						XXXXXXXI c			
						XXXXXXXII c			
						XXXXXXXIII c			
						XXXXXXXIV c			
						XXXXXXXV c			
						XXXXXXXVI c			
						XXXXXXXVII c			
						XXXXXXXVIII c			
						XXXXXXXIX c			
						XXXXXXX c			
						XXXXXXXI c			
						XXXXXXXII c			
						XXXXXXXIII c			
						XXXXXXXIV c			
						XXXXXXXV c			
						XXXXXXXVI c			
						XXXXXXXVII c			
						XXXXXXXVIII c			
						XXXXXXXIX c			
						XXXXXXX c			
						XXXXXXXI c			
						XXXXXXXII c			
						XXXXXXXIII c			
						XXXXXXXIV c			
						XXXXXXXV c			
						XXXXXXXVI c			
						XXXXXXXVII c			
						XXXXXXXVIII c			
						XXXXXXXIX c			
						XXXXXXX c			
						XXXXXXXI c			
						XXXXXXXII c			
						XXXXXXXIII c			
						XXXXXXXIV c			
						XXXXXXXV c			
						XXXXXXXVI c			
						XXXXXXXVII c			
						XXXXXXXVIII c			
						XXXXXXXIX c			
						XXXXXXX c			
						XXXXXXXI c			
						XXXXXXXII c			
						XXXXXXXIII c			
						XXXXXXXIV c			
						XXXXXXXV c			
						XXXXXXXVI c			
						XXXXXXXVII c			
						XXXXXXXVIII c			
						XXXXXXXIX c			
						XXXXXXX c			
						XXXXXXXI c			
						XXXXXXXII c			
						XXXXXXXIII c			
						XXXXXXXIV c			
						XXXXXXXV c			
						XXXXXXXVI c			
						XXXXXXXVII c			
						XXXXXXXVIII c			
						XXXXXXXIX c			
						XXXXXXX c			
						XXXXXXXI c			
						XXXXXXXII c			
						XXXXXXXIII c			
						XXXXXXXIV c			
						XXXXXXXV c			
						XXXXXXXVI c			
						XXXXXXXVII c			
						XXXXXXXVIII c			
						XXXXXXXIX c			
						XXXXXXX c			
						XXXXXXXI c			
						XXXXXXXII c			
						XXXXXXXIII c			
						XXXXXXXIV c			
						XXXXXXXV c			
						XXXXXXXVI c			
						XXXXXXXVII c			
						XXXXXXXVIII c			
						XXXXXXXIX c			
						XXXXXXX c			
						XXXXXXXI c			
						XXXXXXXII c			
						XXXXXXXIII c			
						XXXXXXXIV c			
						XXXXXXXV c			
						XXXXXXXVI c			
						XXXXXXXVII c			
						XXXXXXXVIII c			
						XXXXXXXIX c			
						XXXXXXX c			
						XXXXXXXI c			
						XXXXXXXII c			
						XXXXXXXIII c			
						XXXXXXXIV c			
						XXXXXXXV c			
						XXXXXXXVI c			
						XXXXXXXVII c			
						XXXXXXXVIII c			
						XXXXXXXIX c			
						XXXXXXX c			
						XXXXXXXI c			
						XXXXXXXII c			
						XXXXXXXIII c			
						XXXXXXXIV c			
						XXXXXXXV c			
						XXXXXXXVI c			
						XXXXXXXVII c			
						XXXXXXXVIII c			
						XXXXXXXIX c			
						XXXXXXX c			
						XXXXXXXI c			
						XXXXXXXII c			
						XXXXXXXIII c			
						XXXXXXXIV c			
						XXXXXXXV c			
						XXXXXXXVI c			
						XXXXXXXVII c			
						XXXXXXXVIII c			
						XXXXXXXIX c			
						XXXXXXX c			
						XXXXXXXI c			
						XXXXXXXII c			
						XXXXXXXIII c			
						XXXXXXXIV c			
						XXXXXXXV c			
						XXXXXXXVI c			
						XXXXXXXVII c			
						XXXXXXXVIII c			
						XXXXXXXIX c			
						XXXXXXX c			
						XXXXXXXI c			
						XXXXXXXII c			
						XXXXXXXIII c			
						XXXXXXXIV c			
						XXXXXXXV c			
						XXXXXXXVI c			
						XXXXXXXVII c			
						XXXXXXXVIII c			
						XXXXXXXIX c			
						XXXXXXX c			
						XXXXXXXI c			
						XXXXXXXII c			
						XXXXXXXIII c			
						XXXXXXXIV c			
						XXXXXXXV c			
						XXXXXXXVI c			
						XXXXXXXVII c			
						XXXXXXXVIII c			
						XXXXXXXIX c			
						XXXXXXX c			
						XXXXXXXI c			
						XXXXXXXII c			
						XXXXXXXIII c			
						XXXXXXXIV c			
						XXXXXXXV c			
						XXXXXXXVI c			
						XXXXXXXVII c			
						XXXXXXXVIII c			
						XXXXXXXIX c			
						XXXXXXX c			
						XXXXXXXI c			
						XXXXXXXII c			
						XXXXXXXIII c			
						XXXXXXXIV c			
						XXXXXXXV c			
						XXXXXXXVI c			
						XXXXXXXVII c			
						XXXXXXXVIII c			
						XXXXXXXIX c			
						XXXXXXX c			
						XXXXXXXI c			
						XXXXXXXII c			
						XXXXXXXIII c			
						XXXXXXXIV c			
						XXXXXXXV c			
						XXXXXXXVI c			
						XXXXXXXVII c			
						XXXXXXXVIII c			
						XXXXXXXIX c			
						XXXXXXX c			

設置許可申請書
(平成27年11月)

事 記

審査資料
(平成29年12月22日)

記事

審查資料案

95.98m, 96.00m
・割れ目に幅5～10mmの黒色粘土を挟む。

審査資料
(平成30年11月30日)

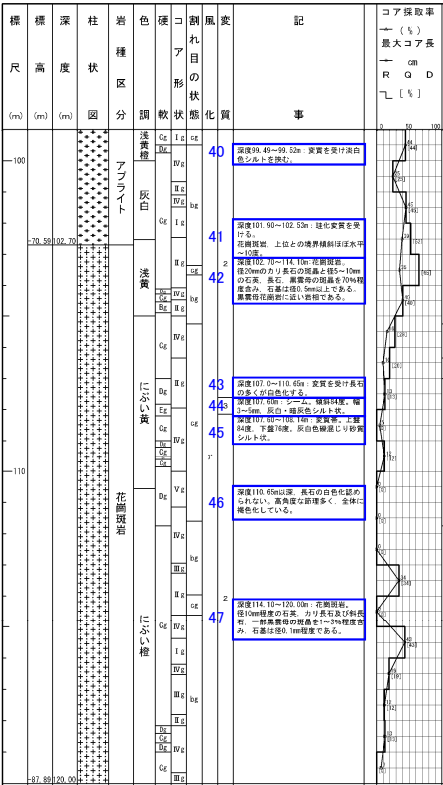
95.98m, 96.00m
 ・割れ目に幅5～10mmの黒色粘土を挟む。

審査資料
(令和2年2月7日)

95. 98m, 96. 00m
・ 割れ目に幅5～10mmの黒色粘土を挟む。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
39	変更なし	変更なし	変更なし

委託報告書
(平成19年)



設置許可申請書
(平成27年11月)

記 事

審査資料
(平成29年12月22日)

記 事

審査資料案

記 事
40 99.49~99.52m ・変質している。 ・灰白色シルト状を呈する。
41 101.90~102.53m ・連化変質を受ける。
42 102.70~120.00m ・花崗斑岩である。
45 107.60~108.14m ・変質している。 ・灰白色礫混じり砂質シルト状を呈する。

審査資料
(平成30年11月30日)

記 事
40 99.49~99.52m ・変質している。 ・灰白色シルト状を呈する。
41 101.90~102.53m ・連化変質を受ける。
42 102.70~120.00m ・花崗斑岩である。
45 107.60~108.14m ・変質している。 ・灰白色礫混じり砂質シルト状を呈する。

審査資料
(令和2年2月7日)

記 事
40 99.49~99.52m ・変質している。 ・灰白色シルト状を呈する。
41 101.90~102.53m ・連化変質を受ける。
42 102.70~120.00m ・花崗斑岩である。
45 107.60~108.14m ・変質している。 ・灰白色礫混じり砂質シルト状を呈する。

記事	報告書⇒審査資料案	審査資料案⇒ 審査資料(H30.11.30)	審査資料(H30.11.30)⇒ 審査資料(R2.2.7)
40	変更なし	変更なし	変更なし
41	変更なし	変更なし	変更なし
42,47	・柱状図に合わせて花崗斑岩の深度区間を記載。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。	変更なし	変更なし
43	・長石の白色化については、風化・変質に関する補足的なものであることから削除。	—	—
44	・シームについては削除。 ・シームの削除の詳細については別途説明(補足説明資料3 補足3-77頁)。 ・“変質”欄に基づき変質していると記載。 ・シームの傾斜や幅について、補足的なものであるため削除。	—	—
45	・変質している区間の境界傾斜については、補足的なものであるため削除。	—	—
46	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の傾斜、変色については、補足的なものであるため削除。	—	—

余白